

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## 幼児の文構造の発達：3歳～6歳児の場合

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-06-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00001297">https://doi.org/10.15084/00001297</a>

国立国語研究所報告 50

# 幼児の文構造の発達

## —3歳～6歳児の場合—

大久保 愛

国立国語研究所

1973

## 刊 行 の こ と ば

幼児がどのような文構造を使って話しているかは、学問的にはまだ十分な検討が行われていないと言ってよい。

この研究は、幼児の文構造研究の分野を開拓しようとした、幼児の話しことばを、(1)単文や複文の構造と用法、(2)連体修飾語や文末の構造と用法、(3)接続詞の用法などの面から分析したものである。

対象を、集団生活をしている、保育園・幼稚園児にとり、5・6歳児を中心にして、3歳児からの発達を見た。

この研究は、コミュニケーション研究の一つとして、幼児のコミュニケーション能力の発達を文形成の上からとらえようとしたものであり、言語効果研究室員大久保愛が、室長高橋太郎と計画・実施にあたった。その間、屋久茂子・鈴木美都代が調査・整理分析等の作業を助けた。本書の執筆は大久保愛が担当した。

この研究を進めるにあたり、東京自由保育園、赤いとり幼稚園、小川幼稚園、神谷保育園の先生がたにご協力をいただき、また、補充資料採集のため、特定幼児の父母のかたがたにご参加いただいた。記して、厚くお礼を申しあげる。

昭和48年3月

国立国語研究所長 岩淵悦太郎

## 目 次

はじめに	1
第1部	3
第1章 調査研究の概要	4
1.1 目的	4
1.2 調査担当者	4
1.3 調査のあらまし	4
1.3-1 計画準備	4
1.3-2 録音資料の採集	4
1.3-3 調査園および幼児数	5
1.3-4 「幼児のことばカード集」およびカードの作成	6
第2章 幼児の話しことばの実態	9
2.1 話題に対する幼児の反応	9
2.2 幼児の話しことばの事例	15
第2部	61
第1章 文構造の分析の方法	62
1.1 3歳までの文の発達	62
1.2 幼児の文構造分析のための方法	63
1.2-1 チョムスキーの生成文法	63
1.2-2 『話しことばの文型(2)』	66
1.2-3 この本の方法と略号	68
第2章 幼児の単文の構造と用法	71
2.1 幼児の文の種類	71
2.2 文の認定	71
2.3 幼児の単文の構造	72
2.3-1 省略構文	73
2.3-2 述語構文	73
2.3-3 主述構文	76
2.3-4 題目語をもつ構文	77
2.4 まとめ	77
第3章 幼児の複文の構造と用法	108
3.1 一つの接続助詞によって文が成立している場合	108
3.1-1 主語一つからなる構文	108
3.1-2 主語二つからなる構文	110
3.1-3 題目語をもつ構文	110
3.2 二つ以上の接続助詞によって文が成立している場合	111
3.2-1 主語一つからなる構文	111
3.2-2 主語二つからなる構文	111

3.2-3	主語三つからなる構文	111
3.2-4	主語四つからなる構文	112
3.2-5	主語五つからなる構文	112
3.2-6	題目語をもつ構文	112
3.2-7	その他の構造からなる文	112
3.2-8	不明文	113
3.3	接続助詞たり, しをもつ文	114
3.4	まとめ	114
<b>第4章 連体修飾語の構造と用法</b>		153
4.1	連体修飾語の構造	154
4.1-1	一語よりなる連体修飾語の構造	154
4.1-2	二語以上よりなる連体修飾語の構造	154
4.1-3	まとめ	157
4.2	連体修飾語の修飾, 被修飾の意味的関係	157
4.2-1	修飾語が被修飾語の所有者あるいは所属を規定する	158
4.2-2	修飾語が被修飾語の位置や時間, 順序, 数量を規定する	158
4.2-3	修飾語が被修飾語の属性を規定する	158
4.2-4	修飾語が被修飾語の成立に関与する度合の強いもの	159
4.2-5	修飾語と被修飾語が同格の関係になっているもの	159
4.2-6	まとめ	159
<b>第5章 文末の形式と用法</b>		184
5.1	平叙文の文末形式	185
5.1-1	平叙文の文末形式(1)	186
5.1-2	平叙文の文末形式(2)	188
5.2	疑問文の文末形式	189
5.3	命令文の文末形式	190
5.4	まとめ	191
<b>第6章 接続詞の用法</b>		212
6.1	接続詞の種類	212
6.2	接続詞使用の実態	216
6.2-1	それで	217
6.2-2	それから	218
6.2-3	そして	219
6.2-4	そしたら	219
6.2-5	だから	220
6.2-6	だって	220
6.2-7	だけど	220
6.2-8	でも	220
6.2-9	そうすると	220
6.2-10	その他	220

6.3 まとめ	220
おわりに	249
付録	253
付1 幼児の話す長さ	254
付2 補足文の構造の分析	257
2.1 補足文の構造	257
2.1-1 文の成分の欠けているものの追加補充	257
2.1-2 内容の追加や成分の訂正補充	258
2.1-3 くりかえしての追加	259
2.1-4 意味不明のもの	259
2.2 まとめ	259

#### [用例表索引]

幼児の單文構造の使用例	80
省略構文	80
述語構文	81
主述構文	95
題目語をもつ構文	106
幼児の複文構造の使用例	118
一つの接続助詞によって文が成立している場合	118
二つ以上の接続助詞によって文が成立している場合	131
接続助詞たり, しをもつ文	150
二語以上よりなる連体修飾語の構造使用例	161
連体修飾語の修飾, 被修飾の意味的関係一名詞と名詞のくみあわせの 場合の使用例	174
平叙文の文末形式(1)の使用例	193
平叙文の文末形式(2)の使用例	197
疑問文の文末形式使用例	202
命令文の文末形式使用例	209
幼児の接続詞の使用例	222
幼児の補足文の使用例	261

# はじめに

## ——この報告書の構成——

幼児の話しことばがどのような構造をしている文(sentense)から成り立っているかについての研究は少ない。特に幼児後期の話しことばの構造についての研究は幼児前期に比べて文が複雑になることもあって、皆無であるといつても過言ではない。

この研究は、幼稚園と保育園（各二園計四園）の協力を得て、幼児（年少児、年中児、年長児、年齢3歳3から6歳6まで）の話しことばを録音、文字化したものを資料として行なったものである。3万近くの文を分析した。

文構造の分析研究に当っては、最近までの現代語構文の研究法を参考にしながら、幼児の話しことばの文構造研究に適當と思われる方法をさぐっていくという研究法をとったが、定説の部分はともかく、学問上問題のあるところなどあって、幼児の文構造の発達を概観するにとどまった。今後この調査研究が踏み台となって、より細かく、幼児の文構造の発達の研究並びに研究法の生まれることを期待する。

この報告書は1部2章、2部6章、付録2から成っている。

第1部ではこの調査の研究概要、及び録音を文字化した幼児の話しことばの実際を紹介、解説した。

第2部では、以下のように6章にわけて、調査研究の結果をくわしく報告した。第1章 文構造の分析の方法、第2章 幼児の單文の構造と用法、第3章 幼児の複文の構造と用法、第4章 連体修飾語の構造と用法、第5章 文末の形式と用法、第6章 接続詞の用法。付録として、1 幼児の話す長さ、2 補足文の構造の分析。

なお、おわりに、この研究に関するまとめと将来の課題について付記した。

# 第1部

# 第1章 調査研究の概要

この調査研究はこれから述べる目的および計画のもとに行なわれた。

## 1.1 目的

幼児のコミュニケーション機能の発達は、言語の獲得あるいは言語活動の形式の分化の中にさまざまな形であらわれるが、これを、幼児の文表現が成立し、文形式が形成されていく過程でとらえようとする。

そのために、まず伝達機能の単位としての文をとりあげ、文を構文、陳述の両側面から文法的に分析する。

選ばれた幼児は、まず、到達点としての5～6歳児を対象にする。次に、発達的観点に立って1～6歳児の問題を扱う。ただし、ここで報告するのは前者5～6歳児のものであり、その比較のため3、4歳児も扱ってある。

## 1.2 調査担当者

この調査は室長高橋太郎（1970年9月まで）、芦沢節（1970年9月より）のもとで、主として大久保愛が担当し、研究補助員屋久茂子（1968年5月まで）、鈴木美都代（1968年6月より）が、調査および「幼児のことばカード集」の作成、構文の整理分析等の作業を助けた。その他臨時補助者中島通善、原口嘉代、設楽晴美の助力も得た。

## 1.3 調査のあらまし

この調査は、1965年からはじまり、1971年に一応完結した。以下に調査のあらましをのべる。

### 1.3-1 計画準備

第1年目は、調査の計画のための準備を行なった。

(1)対象への接近の観点の検討——このような調査についての内外の文献調査、幼稚園、保育園の園児の観察、手持ちの録音資料の分析等を行なった。

(2)調査法の検討——録音採集の方法、記録の方法などの検討。文構造をみる上での効果的調査法は何か。そのため、集団的、個人的に録音をとって検討してみた。また、記録法としては、カード方式についての検討とか、発音式か現代かなづかい式か、かな表記か音声記号表記か、などの表記法の検討も同時にを行なった。

### 1.3-2 録音資料の採集

以上の検討の結果、以下の方法で、幼児の話すことばの採集を行なった。

(1)場面——大きく(a)つくられた場面、(b)自然の場面が考えられる。(b)の自然の場面で話すことばの採集をするのができれば理想的であるが、録音機の性能とか、採集の場所などを考え、また分析の目的が文構造ということなどのため、(a)の場面で採集することにした。(a)の中でも、幼児

同士の対話をとることもできるが、場面を固定してやれる利点から、調査者のいる別室に幼児を招き、調査者と幼児である被験者との問答形式で話すことばをとることを採用した。(以下この調査を「問答式」と略称する) 結論的には、文の構造の分析には、この方法が自由の場より整った文形式がとれたのではないかという意味で有効であったと思っている。ただ、伝達機能の面の調査としては、この「問答式」では不十分である。そのためには、たとえば「役割遊び」などの場面を設定しての調査も考えられる。しかし、こんどの場合は行なわなかった。補充資料としては、自由の場での幼児の話すことばの一つとして、幼児をもつ3家庭に委託して採集してもらい、この欠を補った。(「自由の場」と略称する)

「問答式」の間に当る部分については、前もって検討した。幼児の生活を観察して、幼児の生活場面の全体がおおえるように努めた。

(2)話題について——10の問を用意した。以下のようである。

- (a)本人(幼児)の名まえと年齢
- (b)家族について(構成メンバー、だれが好きか、両親の仕事など)
- (c)新しい、あるいは印象深い経験(運動会、お祭、夏休み、旅行、休日など)
- (d)園や家庭での生活(昨日何をしたか、どういう遊びをするか、幼稚園での生活、友だちのこと、趣味、夢など)
- (e)園へ、あるいは家への道順
- (f)両親から聞いた話や自分で読んだ本
- (g)テレビで見た漫画、その他の筋や感想
- (h)社会的話題(ニュースその他)
- (i)筋のある絵を見せて話を作らせる
- (j)その他

これらを幼児に質問することによって、文構造の形態ばかりでなく、幼児の精神的傾向もあわせて見られるようにした。すなわち、経験したものの再生力や、他人に筋道をたてて話す能力や、話を作り構成する創作力、構成力などもみられたり、幼児が何に关心をもっているかの興味のありかたもわかるようになっている。これら資料は、「幼児のことばカード集」として印刷した。印刷の面では、文の分析用としても使用するため、カードに裁断できるように組んだ。のちに見本を示す。

(3)時間について——時間は制限せず、できるだけたくさんしゃべらせるようにした。それは何分間に何文字、あるいは何文節しゃべるかを調査するのを目的とせず、どのような文構造を使用するかをみるためだからである。(長くしゃべった子で30分、平均10分前後だった。)

### 1.3-3 調査園および幼児数

この調査には、次の園の先生がたにお世話になった。

東京板橋区、東京自由保育園(1965, 66, 70年各9月)

東京北区、赤羽台幼稚園(現在、「赤いとり幼稚園」と改称)(1965, 66, 70年各9月)

東京千代田区、小川幼稚園(1968年6月)

東京北区、神谷保育園(1968年5月)

園児の人数は次表のとおり。

調査園および人数 \* 年中、年長が同一幼児の人数、男 22、女 16、計 38 名

	年 長 (5:5 ~ 6:6)			年 中 (4:1 ~ 5:6)			年 少 (3:3 ~ 4:4)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
T園	30名 * 12	23名 * 8	53 * 20	14 * 12	8 * 8	22 * 20	7	5	12
A園	35 * 10	27 * 8	62 * 18	12 * 10	12 * 8	24 * 18	16	6	22
K園				17	14	31	12	8	20
O園				31	13	44	10	5	15
計	65	50	115	74	47	121	45	24	69

この中には 1965 年に年中児だったものが 1966 年に年長児になって、同じ質問に答えたものがある。\* で示した。男 22 名、女 16 名である。これで同一児の場合の発達もみられる。

これら園児の家庭の職業、兄弟関係の記録もある。おおざっぱな職業分布は、東京自由保育園は、商人、小企業の工場主などが中心で、赤羽台幼稚園はホワイトカラー、小川幼稚園は小企業、商人、公務員、神谷保育園はブルーカラーのニュアンスがある。

#### 1.3-4 「幼児のことばカード集」およびカードの作成

前にのべた話題を中心に、一人の幼児と別室で向い合って、調査者が質問するという問答形式で、幼児のことばを録音テープに採集する。そのテープを文節分かち書き、かな表記で文字化する。それをのちにのべる形式で「幼児のことばカード集」と分析用カードにしたものが、この研究の資料となっている。以後用例としてあげるときの理解のため、少しくわしく述べる。

「幼児のことばカード集」およびカードは次のようになっている。カード集の最初にあげた凡例から関係のあるところを述べる。

#### 凡 例

- 1 カード毎に園名、幼児略名、性別、年齢、幼児毎のカードナンバー、採集年を、この順で入れた。また、環境とことばの関係もみたいと思い、その一つの方法として兄弟姉妹の記入をした。「本」は被験者本人の意である。  
赤=赤羽台幼稚園 自=東京自由保育園 小=小川幼稚園 神=神谷保育園 長=年長児 中=年中児 少=年少児 a・b・c……, A・B・C……, a'・b'・c'……=幼児名のかわりに用いた記号である。(本人の名一字をとり漢字で示したカード集もある)
- 2 カードのはじまりに前のカードのあと二行を繰返し、そのカードだけでも文脈がわかるようにした。長い点線で区別した。
- 3 発話者のうち、対象になる幼児の発話をかたかな・調査者の発話を漢字まじりひらがな・外来語をかたかな・書き、横書きとした。
- 4 幼児の発話にかぎり文節分かち書きを用い、文節毎に一字あけた。(発話のとぎれた場合は文節中でも一字あけた)
- 5 表記は現代かなづかいとし、長音符号は、語をのばして発音している場合と外来語のみに使った。

「ネー」「ナーニ」「ジェッター」など。

- 6 一枚のカードに幼児のことばをなるべくたくさん入れたいため、調査者の発話は、必要最少限にとどめた。録音のとおりでない。
- 7 幼児の発音はできるだけ忠実に写すよう心がけたが、アクセント、イントネーションは記録されていらない。
- 8 以下に、使用した記号の説明をする。

○=幼児の発話のはじまりを示す

。=ふつうの文末

；=倒置あるいは補足文

，=長文での句末、文の中斷、文節中のとぎれ

?=疑問文

!=感嘆

( )=発話の不明瞭

{ }=二様にきこえるばあい

……=間（ポーズ）

#=調査者の合づち「うん」「ん」の略

然=調査者の応答「そう」「そうね」などの略

ことば  
ことば=同時発言

[ ]=ことばや状況の注釈

／／=文中に別の発話者のことばが入ってきたばあい

「 」=直接話法ほか

次頁の表は「幼児のことばカード集」の一ページを縮めたものである。これを八つに裁断すると分析用カードができる。カード集各70部カード1枚について80枚ずつをつくった。分析用カードは、次のようである。

赤中~1男 (4:8)-1	1965
いくつですか？	
○ミツツ。	
ん？	
○ミツツ。 然	
あのねおうちだれとだれいます？	
○パパト ジュンコチャント オバアサン。 然	
だれ一番好き？	
○パパ。	
として？	
○パパ ヤサシイカラ。 然	
大きな声で言ってよね。パパのお仕事知ってる？	

補充調査用として、「自由の場」での録音もとったが、この報告書では「文末の形式と用法」（第2部第5章）で使用したのみである。自由の場での発話では、これまでの経験からそう複雑な文形式が出ず、「問答形式」でのあらたまつた場での文形式に吸収されるように思われたからである。しかし、たしかなことは、今後の調査に待たなければならないが、この本では、そこまでは扱っていない。

自由の場で採集した幼児は次のようにある。

赤中-1 男 (4:8)-1 1965

いくつですか?  
○ミツ。  
ん?  
○ミツ。然  
あのねおうちだれとだれいます?  
○バイト ジュンコチャント オバアサン。然  
だれ一番好き?  
○パパ。  
として?  
○パパ ヤサシイカラ。然  
大きな声で言ってよね。パパのお仕事知ってる?

赤中-1 男 (4:8)-5 1965

として?  
○ヒコウキ イ (イ) ンダモ (ノ)。  
幼稚園は楽しいけどなにが一番楽しい?  
○ヨウチエン? # ボールナガ。  
ほくんちね幼稚園から行くにはどう行けばいいの?  
○マガッテ イケバ (イイノ)。  
テレビ見る? なに一番好き?  
○テツジン。  
どんなの? 族人のお話は。  
○モンスタートカ ロボットカ ナンデモ デンノ。  
でどういうことするの?

赤中-1 男 (4:8)-2 1965

○パパ ヤサシイカラ。然  
大きな声で言ってよね。パパのお仕事知ってる?  
○ン。  
なーに?  
○アノネ # オミヨツケ ツクタリ イン? / オシバ ツクタリ スン。然  
お母さんにしてらっしゃる?  
○オカサソ? # アノー オチャワソライ シテシノ。然  
きのうね幼稚園から帰ってなにしました?  
○ヨウチエンカラ カエッテ キカラ? # ス マナブチャソノ  
ウチ イッタノ。

赤中-1 男 (4:8)-6 1965

○モンスタートカ ロボットカ ナンデモ デンノ。  
でどういうことするの?  
○テツジン? # テツジンネー # (ヲ) レンドブ (ト) ナ  
ンカ テル: ヤツ (ツケ) ルノ。  
どんなとおもしろい?  
○ニ?  
族人のなかでねどういうところが一番おもしろい?  
○ショウタロウ。  
どうして正太郎がいいの?  
○ショウジュウキ モツテル トコロ イン? / ショウジュウキ。  
然

赤中-1 男 (4:8)-3 1965

○ヨウチエンカラ カエッテ キカラ? # ス マナブチャソノ  
ウチ イッタノ。  
でなにしたの?  
○(ヲ) イデネ # アソン ブー ナラシテモ # デテ コナ  
イカラ (ラ) モイチド ヤッテ ミタラネ # マダ デテ コナ  
イカラ # カイシャ イッタノカナート オモツテ # サ (ツ  
キ) アノ カエフチャッタ。然  
運動会おもしろかったでしょう。なにがたのしかった?  
○スズワリ。然  
お休みの日ね。あの日曜日なんかねえ。なにする?  
○ニチョウビ? # オヤスミノ トキ? # ババハ? # ババ

赤中-1 男 (4:8)-7 1965

○ショウジュウキ モツテル トコロ イン? / ショウジュウキ。  
然  
お母さんね絵本読んでくださったりお話してくださる? どんなお話  
聞いていた?  
○モモタロウサン。  
やってみて。  
○「モモタロサン」ツテ (イウノ)。  
そのお話聞かせてよ。先生に。  
○ン。 # ダカラネー # キツ (イ) ノネー # アノーネー  
アノ オバサンガ センタク シテルトネー # アノーネ カワ  
デキ センタク シテ イター オバアサンガネー アノーネ ウー

赤中-1 男 (4:8)-4 1965

お休みの日ね。あの日曜日なんかねえ。なにする?  
○ニチョウビ? # オヤスミノ トキ? # ババハ? # ババ  
(ハ) ネー # ジドウシャ ナンデモ ソクノテ クンル (ノ)。  
それからどういうことするの?  
○アノネー # エートネー # ババ? # エートネ ナンカ  
イロソナ モノ ソクノテネー # ボクニネ # クレンノ。  
然  
大きくなったらなんになりたい?  
○オオキクナタカラ? # ヒコウキ。  
として?  
○ヒコウキ イ (イ) ンダモ (ノ)。

赤中-1 男 (4:8)-8 1965

アノ オバサンガ センタク シテルトネー # アノーネ カワ  
デキ センタク シテ イター オバアサンガネー アノーネ ウー  
モモキテ ナガレテ テテネー # ビックリシテネー # ソイ  
デ オシイサンノ オミヤゲデ モツテ カエフタノ。 # ソイ  
デネー モグ アノ ソイデ オバアサント オシイサンガ コノ  
モモタ ハベヨウト オモツテ (ラ) ナカラ ボキヨント  
アカチャシガ デテ キタノ。 # ソイデ コレハ モモカラ  
ウマレタ モモカラ デテ キタカラネ, # モモタロウカッテ  
ナ ヲ ゾケタングッテ。然 ソイデ オオキク ナツネ # ハ  
タラクヨウニ ナツノ。 # ソイデネ オニガシマニ イクカラ  
オニタイシニ イツタンドヨ。 # ダカラ オニ イツテネ #

- 19 -

対象児 宮島さおり 1965年5月生 3歳児 渡辺真史 1963年4月生 5歳児  
泉奈津子 1964年6月生 4歳児

このようにして出来た「幼児のことばカード集」は7冊、そのうち「問答形式」6冊、「自由の場」1冊、カードの枚数(ことなり)問答形式5,152枚、自由の場1,530枚で、問答形式の内訳は、年少863枚、年中1,996枚、年長2,293枚となっている。

## 第2章 幼児の話しことばの実態

### 2.1 話題に対する幼児の反応

幼児の話しことばがどんなものか、われわれは常に聞いていてわかっているつもりだったが、実は一面しかわからていなかつたということを、幼児の話しことばを録音、文字化してみてはじめて理解できた。あらたまつた場面でも案外しゃべれるということも知つた。くわしいことは徐々にのべることにして、まず、前述の話題で聞いた場合の全体的な反応をのべておくことにする。

(a)名前と年齢については、名前を言わぬ幼児もいたがほとんどの幼児が答え、幼児音の残っている幼児もみられた。年少に多く、年長に少ない。年齢については、まちがえる幼児や答えない幼児もいたが大部分が答えた。「よっつ」「いつつ」が多く、中には「マン○サイ」「○サイデス」という幼児もみられた。

(b)家族についての質問では、構成メンバーを聞いたため助詞「と」で名前を並べてのべる形式が多く出た。すなわち「ノリコトネ ママト オトウサント ボク。」というように。だれが好きかでは、母親が圧倒的に多かったが、父親という幼児もいて、やさしい、おみやげを買ってきてくれるなどと理由づけていた。父親が何の仕事をしているかについては知らないという幼児が多かった。家で仕事をしている父親の仕事については、具体的にこんな仕事をしていると答えてくれた。母親はせんたく、掃除をしたり、弟妹のことをみているという発言が多かった。

(c)印象深い経験としては、この調査の時期が9月（一部5、6月の時期もある）だったので、夏休みのこと、運動会のことを聞いた。また、それとは関係なく、日曜日などの休日の生活のことを聞いたり、遠い所に行ったことの経験を話してもらった。

(d)園や家庭での生活については、幼稚園ではどういうことをするか、何をするのが好きか、家では何をするか、だれと仲良しか、昆虫採集など好きか、夢をみることがあるか、家のまわりに何があるかなど聞いた。話がはずまない場合は、今何をしていたか、きのう何をしたか、などの質問形式にした場合もある。幼児の趣味、たとえば図鑑などをみて古い時代の動物などを知っている幼児とか乗物にくわしい幼児は、話がそこにくると、生き生きと話してくれた。話がはずまないときは好きな食べものを聞いたこともある。

(e)家から園への道順、あるいは園から家への道順を聞いてみた。これについては、それぞれの幼児の家の位置をしらべ、話した事実と一致しているかどうかのたしかめが必要であるが、こんどの場合は文構造をみるのを目的にしたので、全部の幼児についてのたしかめは行なわなかった。しかし、ほとんどの子どもの表現では目的地にたどりつくことは不可能である。この年齢でこういう質問はまだ無理のようである。これは分析資料としては一部にしか用いなかった。

(f)両親から聞いた話や自分で読んだ話を、調査者に話してもらった。どの幼児もが聞いた話を話してはくれなかつた。忘れたというのが多かつた。また、親が話してくれないと、小さいときは話してくれたが今は話してくれないので話せないという幼児もいた。しかし、一方、たいへんよく覚えていて楽しく話してくれた幼児もいた。次表のような作品である。（順不同、調べられ

るものは調べたがどういう本が土台になっているかわからないものもある。表記は漢字まじりにした) その他, 母親が物語絵本とか, テレビ漫画の絵本を買ってくれて, 読んでくれたり, 自分でも読むというのがあった。

幼児が話してくれたお話

年 長	年 中	年 少
さるかに合戦	さるかに合戦	桃太郎
桃太郎	桃太郎	浦島太郎
浦島太郎	かぐや姫	赤ずきん
金太郎 (坂田の金時)	舌切雀	ちびくろサンボ
こぶとり爺さん	シンデレラ姫	三匹のこぶた
いなばの白うさぎ	赤ずきん	三匹の山羊のがらがらどん
シンデレラ姫	どろんこハリー	
赤ずきん	ちびくろサンボ	
どろんこハリー	ガリバー	
家なき子	ヘンゼルとグレーテル	
孫悟空	三匹のこぶた	
ジャックとマメの木	三匹の山羊のがらがらどん	
プレーメンの音楽隊	しなの五人のきょうだい	
親指姫	おだんごばん	
あわてどろぼう	いたずらチュウチュウ	
子鹿のバンビ	たいへんたいへん	
いばったおんどり	すべてこのゼミ	
エルマーの冒険	チムとゆうかんな船長	
はめるんのふえふき	あまんじやく	
くろうさぎとしろうさぎ	玉ねぎ玉ちゃん	
イソップえはなし	かたつむりのお話	
はなのすきなうし		
ふしぎの国のアリス		
いやいやえん		

(g) テレビで見た漫画やその他の筋や感想を聞くと, 本のときと比べて, どの子もはずんだ声でみているテレビ番組の名まえを言ったり, 出てくる登場人物の名前をあげたりした。ただ, その内容を聞くと, いっぱいみてるから, あるいは前みたのでわからない, などの理由で話してくれない幼児が多かった。概括してのべることはむずかしいし, そうかといって, どの時点での物語を話したらよいのか迷ったからでもあろう。たまたま, きのう好きな番組をみていた幼児がくわしく話してくれるというケースもあったかもしれない。

次表は幼児が見ていると言ったり, その一部を話してくれたりしたテレビ番組である。(坂元昂「幼児向け番組とその周辺 (上)」放送文化 1968.6とか, 当時の新聞縮刷の放送番組を参考にして検討しなおしたが, それらに見出せない番組名もあった) かっこ中の年数は採集した年である。

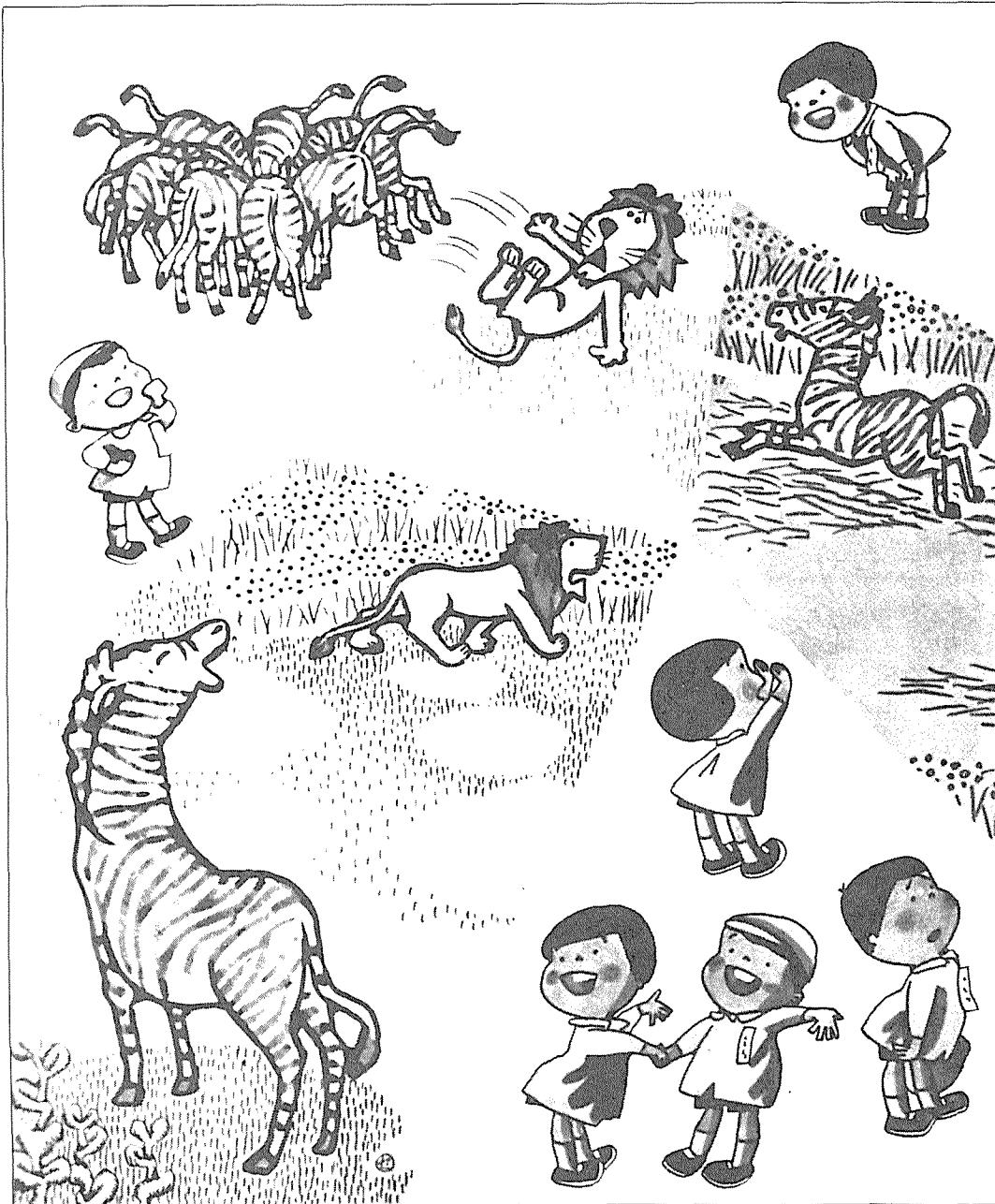
幼児がみているといったテレビ番組

年 長	年 中	年 少
いいものつくろ (1965)	宇宙エース (1965)	ウルトラQ (1968)
宇宙少年ソラン	少年ジェット	ウルトラセブン
宇宙人ピピ	スーパーマン	ウルトラマン
オバケのQ太郎	0戦はやと	黄金バット
スーパージェッター	鉄人28号	怪物くん
チャコちゃんハーハイ！	ビッグX	カエルのぼうけん
鉄人28号	ブーフーー	キャプテン・ウルトラ
鉄腕アトム	ポパイ	巨人の星
トムとジェリー	遊星少年パピイ	コメットさん
ビッグX	私の秘密	ジャイアント・ロボ
ひょっこりひょうたん島	エイトマン	魔法使いサリー
ブーフーー	奥様は魔女	
ポパイ	ジャングル大帝	アタックNo.1 (1970)
まんが大行進	ターザン	ウルトラマン
遊星少年パピイ	秘密探偵クルクル	怪物くん
ワンダースリー	遊星仮面	ゲゲゲの鬼太郎
ジャングル大帝		光速エスパー
ぼっこちゃん	アップダウンクイズ (1968)	サインはV
ウルトラマン (1966)	ウルトラセブン	タイガーマスク
おそ松くん	ウルトラマン	チビラくん
おはなはん	怪物くん	ひみつのアッコちゃん
おはよう！こどもショー	カエルのぼうけん	マグマ大使
サンダーバード	巨人の星	みんなであそぼう！ピンポンパン
チャコちゃんハーハイ	ゲゲゲの鬼太郎	ムーミン
鉄腕アトム	コメットさん	もーれつア太郎
ひょっこりひょうたん島	ジャイアント・ロボ	オバケのQ太郎
マグマ大使	チャコちゃん	キングコング
ウッドペッカー	ひょっこりひょうたん島	ポパイ
宇宙少年ソラン(?)	冒險少年シャダー	
子鹿ものがたり	ポパイ	
	マイティ・ジャック	
	魔法使いサリー	
	ママとあそぼう！ピンポンパン	
	遊星仮面	
	リボンの騎士	
	ロンパー・ルーム	
	わんばく探偵団	
	パーマン	
	ハリスの旋風	
	ヤダモン	

(h)社会的話題については、大部分の幼児から聞くことができなかった。ひとり年長の男子が吉展ちゃん事件のニュースをみた話を少し長くしてくれた。あとは交通事故、地震などについて視聴したことがあるといった程度である。

(i)筋のある絵を見せて話を作らせるというのでは、一つは幼児向きの絵本（「よいこのがくしゅう」学研 1963.4）から選んだもの。あと三つは、幼児の夏休み帳に出ていたものを使わせてもらった。三こまの絵からなっていて（のちに実物を示す）、それらを幼児にみせ、お話をつくらせるというものである。絵をみて話す場合は、絵が目の前にあるので、ともかく何かをしゃべらねばならないというのでほとんどの幼児が何らかの反応を示している。それは絵本を読んでもらったの

### しまうまとらいおんの話



とかテレビをみてその話を思い出して（再生）話すとき、全く話せない幼児がいるのと対照的である。（付録1として、話題によってどのような反応のちがいがあったかを文節数その他で示す。）

(i) その他の中には、次のような問がある。

(イ) 大きくなったらなにになりたいか

(ロ) 右、左が言えるか



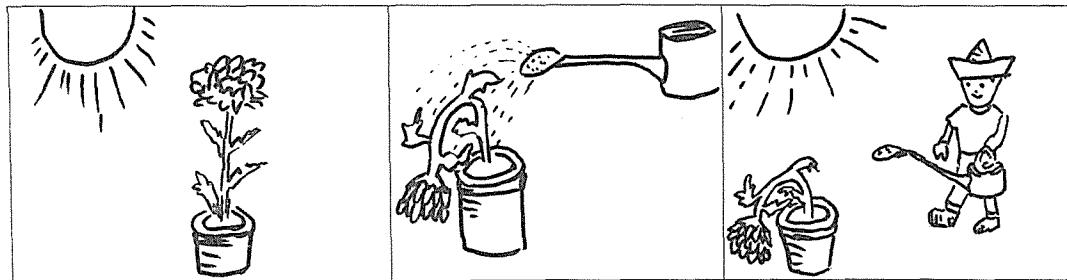
(イ) 数はどれだけ唱えられるか、10から1まで逆に唱えられるか  
 (ロ) 絵「しまうまとらいおん」に書かれている文字が読めるか  
 (ハ) その他、幼児が積極的に話したもの

三こまの絵からなる話

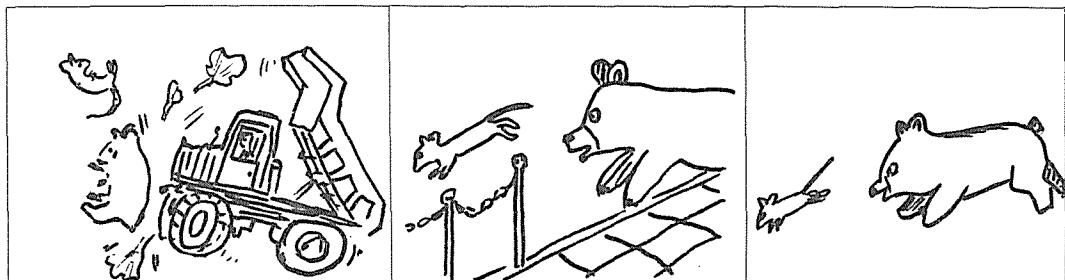
1 うさぎとかめ



2 男の子と花



3 ねずみとくま



## 2.2 幼児の話しことばの事例

幼児がどのような発話をしたかの実例をあげる。どの幼児を事例としてあげるとよいか迷ったが、文節数で発話の長さをはかったのがあるので、それを基準として選んでみた。次表は話しことばを採集できた全幼児のものである。(文の長さ、発話の長さ、文節の長さについては付録1でも述べる。)これらの中から年長、年中、年少とも、一番文節数の多い幼児3名、すなわち赤E女、小久女、神三男と、文節数の一番少ない幼児3名、自F女、神長男、赤h男(自j男は、2文節しか話していないので、次点の赤h男の例をとる)をあげる。ついで、ひとりの幼児の発達を見る意味から、年中、年長同一幼児のもの男と女の例をあげる。年中のとき一番よく話した自s男と、年長のとき女で一番よく話した赤o女を選んでみた。o女は年中のときは、調査児の中位以下しか話せていなかった幼児である。

### 幼児の発話の長さ——個人別の文節数一覧表——

\* 表中○印は年中、年長同一幼児。(5:8)とは調査当時5歳8ヶ月だったの意。太字の幼児は、のちに、その幼児がどういう話しぶりをしたかの事例を示す。

年長	文節数	年中	文節数	年少	文節数
赤E女 (5:8)	979	小久女 (4:7)	835	神三男 (4:0)	1,496
自A女 (6:5)	940	小高女 (4:8)	732	赤d男 (4:2)	739
自o女 (6:1)	875	神桑女 (4:10)	707	神古男 (4:5)	727
自p女 (6:1)	836	○自s男 (4:10)	605	小原女 (3:7)	647
赤I女 (5:8)	817	神規男 (4:6)	598	神高男 (4:4)	605
赤L女 (5:9)	810	小西女 (4:9)	578	赤a女 (3:10)	575
○赤w男 (6:3)	780	○自t男 (5:3)	575	神佐女 (3:7)	539
自l'男 (5:7)	773	○自j女 (4:7)	550	小佐男 (4:3)	498
自m'女 (6:4)	765	小寛女 (4:7)	549	赤t女 (4:4)	443
赤m'女 (6:3)	746	小西男 (4:3)	534	神大男 (3:10)	423
○赤o女 (6:1)	724	小岡女 (4:8)	496	神寺男 (4:4)	414
赤o'男 (6:2)	693	神松女 (4:8)	496	神秋男 (3:11)	386
○自b男 (6:0)	689	神村男 (4:3)	487	小相男 (4:4)	384
○自d女 (5:11)	680	小押女 (5:1)	476	神狗女 (4:3)	374
赤K男 (5:11)	651	小山女 (5:0)	464	神折女 (4:3)	346
赤J女 (5:8)	638	小川男 (4:10)	459	赤b男 (4:0)	337
赤c男 (5:10)	565	小福男 (4:3)	456	自d男 (3:10)	323
○自k男 (5:8)	558	○自k男 (4:8)	452	小矢女 (4:0)	322
○自s男 (5:9)	557	神遠男 (5:1)	439	神大男 (3:11)	311
○自g'女 (5:11)	556	神鎌女 (4:5)	434	小神女 (4:1)	301
○自u女 (6:5)	554	神井男 (5:0)	428	赤f女 (4:2)	300
○赤k女 (6:2)	550	○赤p女 (5:2)	420	自b女 (3:10)	296
○自t男 (6:2)	529	神永男 (4:1)	378	赤i男 (4:2)	291
自a'男 (5:11)	529	赤q女 (5:2)	374	小福男 (4:2)	278
赤F男 (5:9)	528	神宮男 (5:0)	370	自a男 (4:0)	269
○赤s男 (6:6)	521	小小男 (4:2)	351	神鈴男 (3:6)	259

自 i' 男 (6:5)	503	神閑女 (5:0)	344	神宮男 (3:8)	246
○赤 a 男 (5:11)	488	神伊男 (4:2)	334	小加男 (4:1)	236
赤 e' 男 (5:10)	486	小横男 (4:4)	334	赤 r 男 (3:8)	233
自 y' 男 (6:0)	467	○赤 t 男 (5:1)	320	神坂女 (4:0)	232
○赤 m 男 (5:10)	460	小篠男 (5:1)	318	赤 q 男 (4:1)	229
赤 u' 女 (5:11)	460	小山女 (4:5)	311	赤 n 男 (3:7)	219
赤 h' 女 (6:6)	459	神山男 (4:9)	309	赤 e 男 (4:1)	219
赤 j' 女 (6:6)	459	神増女 (4:11)	308	自 i 男 (3:5)	205
○赤 u 男 (6:5)	452	赤 i 女 (5:3)	305	小長男 (3:5)	205
自 c' 男 (6:3)	444	神渡男 (4:6)	302	赤 p 男 (3:7)	200
赤 q' 男 (5:11)	443	○自 r 女 (4:8)	302	赤 v 女 (4:0)	193
自 t' 女 (6:4)	434	神大女 (4:6)	301	小金男 (4:1)	184
赤 g' 男 (5:10)	432	小村男 (4:9)	301	赤 c 男 (3:8)	182
自 g' 男 (5:8)	430	○赤 k 女 (5:3)	295	神渡女 (3:10)	180
赤 k' 女 (5:8)	427	○赤 f 女 (4:10)	294	小藤女 (3:10)	176
自 q' 女 (6:1)	424	○自 u 女 (5:5)	293	赤 m 男 (4:1)	169
自 h' 男 (5:7)	424	赤 l 男 (4:8)	285	自 h 男 (3:5)	163
赤 B 女 (5:8)	416	自 c 男 (4:7)	285	小竹男 (4:1)	156
赤 s' 女 (5:8)	416	小藤男 (4:9)	283	赤 l 男 (4:3)	155
○赤 f 女 (5:9)	410	小成男 (4:7)	282	神玉男 (4:0)	155
○赤 c 男 (6:3)	399	赤 e 女 (4:9)	281	赤 u 女 (3:7)	154
○自 a 男 (5:8)	398	○赤 d 男 (5:4)	280	赤 s 女 (4:3)	153
自 B 男 (5:7)	397	小樋男 (4:3)	279	赤 o 男 (4:2)	148
赤 D 男 (5:11)	395	○赤 s 男 (5:6)	277	自 e 女 (3:9)	144
赤 O 女 (6:1)	382	小有男 (4:7)	275	小新男 (3:10)	141
赤 N 女 (5:7)	373	○自 p 男 (4:7)	273	赤 g 男 (3:5)	132
赤 P 男 (5:11)	371	小大男 (4:6)	263	自 k 男 (3:4)	131
○自 n 男 (6:5)	369	小小女 (4:2)	261	神村女 (3:6)	127
○赤 t 男 (6:0)	367	赤 g 女 (4:8)	256	神新女 (4:2)	126
自 e' 男 (6:1)	362	小永男 (4:4)	254	自 m 女 (3:10)	106
○赤 p 女 (6:2)	354	小徳男 (4:5)	250	小岸男 (3:11)	93
自 r 女 (5:8)	353	○自 h 女 (4:7)	244	自 l 女 (3:3)	91
自 f' 男 (5:5)	350	小谷男 (4:1)	242	神勝男 (3:7)	91
赤 Q 男 (6:4)	346	神柳男 (4:5)	241	小千女 (4:2)	88
○赤 x 女 (6:2)	341	○自 n 男 (5:5)	238	自 g 女 (3:5)	67
自 D 女 (5:11)	341	小足男 (5:0)	236	小北男 (4:4)	52
赤 C 男 (5:6)	340	小伊男 (4:3)	228	自 c 男 (3:10)	46
赤 b' 男 (6:5)	334	神高男 (4:10)	228	赤 k 男 (4:4)	44
自 x' 女 (5:6)	331	小福女 (5:1)	224	神柿男 (3:7)	34
○自 e 女 (5:7)	326	小市男 (4:5)	217	赤 j 男 (3:7)	12
○赤 d 男 (6:4)	322	小安男 (4:2)	216	神清女 (3:7)	10
赤 d' 男 (6:4)	322	神師女 (4:11)	215	赤 h 男 (3:6)	9
赤 i' 男 (6:2)	313	赤 b 男 (5:6)	211	自 j 男 (3:5)	2
○赤 r 女 (5:10)	309	○自 b 男 (5:1)	210		
赤 l' 男 (6:3)	306	○自 g 女 (5:0)	208		
赤 f' 男 (6:3)	303	○自 d 女 (4:11)	199		
赤 r' 男 (6:3)	284	小原男 (5:0)	198		
自 E 男 (5:7)	278	○自 a 男 (4:9)	197		

赤y'男 (5:7)	272	小志男 (4:2)	196		
○自l男 (6:0)	271	神敷男 (4:3)	192		
○自v男 (5:7)	269	小上男 (4:7)	191		
自z'男 (5:8)	269	○赤n男 (5:2)	191		
○自j'女 (5:7)	268	小小男 (4:3)	190		
赤a'男 (5:9)	262	神北男 (4:11)	183		
赤M男 (5:8)	261	○赤w男 (5:3)	179		
赤G男 (6:1)	258	小清女 (4:8)	173		
自w'女 (6:5)	257	小嘉女 (4:8)	173		
○自i男 (6:4)	256	○赤x女 (5:2)	166		
自d'男 (6:1)	255	○赤o女 (5:1)	160		
○自p男 (5:6)	253	小山男 (4:11)	159		
赤t'女 (6:4)	251	○赤r女 (4:10)	157		
自b'男 (5:9)	247	神織男 (4:4)	155		
赤A女 (6:1)	238	小高男 (5:11)	152		
○自r女 (5:7)	233	小森男 (4:6)	150		
赤H女 (5:8)	233	神福女 (4:7)	144		
自x'男 (6:1)	231	○赤m男 (4:10)	141		
○自o男 (6:3)	231	○赤u男 (5:6)	137		
自s'女 (6:3)	226	小榎男 (4:8)	136		
赤n'男 (6:2)	223	○自e女 (4:8)	135		
○自h女 (5:7)	221	○赤h女 (5:4)	133		
自v'女 (5:10)	221	自q男 (5:4)	129		
赤R男 (5:11)	219	神加女 (5:0)	128		
○赤j女 (5:7)	212	○自f女 (4:9)	123		
赤v'男 (6:5)	208	神堀女 (4:1)	122		
○赤n男 (6:2)	203	小中男 (4:6)	120		
○赤v男 (6:1)	191	○自i男 (5:5)	120		
自c'男 (5:11)	191	○自v男 (4:7)	119		
自k'男 (5:8)	191	○赤v男 (5:1)	114		
自u'女 (6:3)	185	○赤a男 (4:11)	113		
○赤h女 (6:4)	180	○自l男 (5:1)	112		
赤w'女 (6:2)	161	○赤j女 (4:7)	112		
○自m男 (6:4)	159	○自o男 (5:4)	110		
○自f女 (5:8)	141	小闇男 (5:0)	98		
自j'男 (5:7)	140	神島男 (4:4)	96		
赤P'女 (6:3)	132	小森女 (5:1)	95		
赤x'女 (5:7)	123	小長男 (4:6)	92		
自n'女 (6:1)	105	神金女 (5:0)	89		
赤z'男 (6:5)	98	小浅男 (4:2)	76		
自F女 (5:7)	96	神須女 (4:7)	76		
		○赤c男 (5:3)	75		
		神高男 (4:10)	72		
		神内女 (4:3)	71		
		○自m男 (5:4)	56		
		神野女 (4:6)	53		
		神長男 (4:7)	31		
平均	390	平均	260	平均 三男をとった場合	260 242

文節数を基準にした理由であるが、長くしゃべった幼児の文がどんなものか、少ししかしゃべらない幼児の文がどんなものかが比較して見られるということ、同一幼児の場合では、年中のときに長くしゃべったからといって、年長でも同じように長くしゃべるものでないこと、調査者との問答の答だけからでは、その幼児の能力（あいまいなことばだが）は断定できないということなど、文節を手がかりに推量できると思ったからである。大人でもそうだが、幼児の場合は特に心身が不安定なので、そのときよく話したからその幼児は能力があるなどと、気軽に言えないのである。

平均の文節数をあげると年長 390、年中 260、年少 260（年少の場合は人数も少なく、一人の幼児がばか長く話しているので、平均数が多くなっているが、一応そのままにしておく）。次に最長と最短をあげておく。

年長児 最長 979～最短 96

年中児 最長 835～最短 31

年少児 最長 1,496（次点 739）～最短 2

幼児は、前にのべたような質問をして話させると、この程度の発話の長さの反応ができるということがわかる。

以下に、8名の幼児の話した話すことばの実例を、右側に筆者の気づいた解説をつけて参考までにあげておく。

#### 年長児で文節数の一番多い幼児

赤長ーE女（5:8） 1966 本弟

○T・T。

　Tちゃんはね、去年やった？

○ヤンナイ。

　やらなかつた？／○ウン。／いくつ？

○ゴサイ。然

　おうちにだれとだれいます？

○エートネー # オカアサントネー オトウサントネー アト  
　ヒサシクントネー # アト オニイサン フタリ イルノ。然  
　お兄さんは何年生？

○ガッコ イッテナイヨ。ダイクサン。然

　じやーもう大きいのね。だれいちばん好き？

○ウントネー オニイサン。然

　お父さまのお仕事は？

○ウントネー ダイクサン。然

　お兄ちゃんも大工さんね。

○お兄 # オニイチャン フタリ イルカラ # オトウサン  
　ノネ # ダイクサンノ オテツダイ シテル。然  
　としてお兄ちゃんが好きなの？

○ウントネー # イツモ アソンデ クレルノ。然

　どんな遊びしてくれるの？

○ウントネ # トランプトカネ # ゲームトカ ソイウノ  
　ヤッテ クレル。然

○「イツツ」という子が大部分。

○「～カラ」は終助詞ともとれる。

○「ソウイウノ」で並立関係をまとめていう。

むずかしいでしょう。／〇ウン。／ほめられることある？／〇ウン。

どういう時？

〇ウーントネ ウント トランプ ヨク デキタッテ。然  
叱られるときある？

〇アンマリ ナイ。然

運動会があったわね。／〇ウン。／そのお話してくださる？

〇ウンドウカーアイ？ # ウンドウカ<sup>(エ)</sup>？然 ウン アノネー  
# アタシ サントウダッタケドネー ヨウコチャンテ イウ  
コ イルデショ、 # アノ コ イットウショウダッタノ。然  
それからどういうことあった？

〇モット？ # アノネ ダレカ センシデ カッタ ヒト イタ  
ノ。然 ソレデ オッキイ ハタ モラッタノ。  
いちばんおもしろかったのはなに？

〇ウンドカイ。

運動会の中で、おもしろかったもの。

〇ウーントネー ツナヒキ。然

として綱引きがおもしろい？

〇アノネー ウントネ ダレカネ ツマヅイテ ワラッテル ヒト  
(ハ) イルンダヨ。然  
きのう幼稚園でなにした？

〇ウーントネ、 ……ナンカ シテタ。

いつも幼稚園でどういうことします？

〇ウーントネ # アノネ # オソトデ アソンダリネ # ジ  
ヤングルジム ノッタリネ # オスペリダイ ノッタリ  
ジャナクテ スナバ イッタリネ ソイカラ テツボウ シタリ  
シテ アソンデルノ。然 お教室では？

〇オキョウシツ？然 ウント オエカキトカ ネンドトカ (シテ  
ル)。

何いちばん好き？

〇ウーント オエ オエカキ。然

どういうの書くの？

〇ウーントネ # イツモネ # オニンギョサントカ ソウイウ  
ノシカ カカナイケドネ # アノネ ウーント (ヤマモトカズ  
オ) ノ ウマック カクノ。

上手でしょ。

〇ウン。然

おうちに帰ってなにしました？

〇ウーントネ # オカアサンノ オテツダイ シタノ。然  
どんなことやるの？

〇ウーントネ # オソウジ シタリネ # アノネ アカチャン  
ネ # ウーント モリ シテタリ ヤッタリネ # ソシタリ  
ネ ウーント アカチャンニネー # ウントネ ウート オサ  
ンボ サシテ アゲタリネ # イロンナ コト スルノ。然  
感心ね。大きくなったらなんになりたい？

〇ウーントネ ……ウーント ……カミイーサン。

うん？

〇カミイーサン。

〇質問者の発問「運動会」をくり  
かえしている。

〇「センシ」→「せんしゅ」(選手)  
の意。

〇「たり～たり」を使っての並列。

〇かっこの中は発音不明瞭ではっ  
きりききとれなかった場合。

〇「イロンナ コト」と総括して  
いる。

かみいいさん。

○ウン。

として？

○イツモネー # オカアサンガネー # 「アタマ イタイ イタイ」 ッテ イウ トキ チャント トイテ クレル。然 ウン。幼稚園で先生がお話してくださったりなんかするでしょ。／○ウン。／そのお話でおぼえているのある？

○オハナシ？ # アンマリ オボエテ ナイケド スコシ オボエテ イルノ (アル)。きかせて先生に。

○アノネ # ウントネ オベント タベテタ トキネ # スグネ アソンダラ スグ カエッチャウノネ。# オエカキ シテネ # ソイデ 「オカエリモ シマショウ」 ッテ イッテネ # ソイデネ オカエリ スルノネ。# スルトネ ダレカハイツモ イチバンサイショニネ イツモネ ゴホン ョンデルノネ。# 「(ダ) メダ」 ッテ イッテモ キカナイカラネ センセイニ イイツケチャウ (ノ) ネ。ソウスットネ スグ シマッチャッテ アノ ……アノネ # ウントネ オカエリノ シタクシテルンネ。ソシテネ イツモサー ダレカネ ガクタイノ レンシュウシタ トキネ カスタネットガ オッコッテンノネ。# アレーット オモッテ センセエノ (オツクエ) ミルト タレカ オッコトシトクンダッテ イッテ (シ) ノネー。タカヤクンガネー；ソシタラ アタシ イツモ ミテルカラ ミンナ イチクミノ ヒトガ オッコトシトクノネ。ソイデ アタシ イツモネ 「オッコトサナイデ チョウダーアイ」 ッテ イットクノネ。ソウスト オッコトサナイ、 イツモ オッコッテナイノネ。然おうちからね、幼稚園にくるにはね、どういう道とおってくるの？

○ウントネ イツモ チカイ・ミチ。然  
どういうふうにくるの？

○アタシ オカアサン ムカエニ コナクッテモネ ヒトリデ カエレルヨ。然  
団地のなか？

○チガウ。バスドウリ。然  
テレビ見るでしょう？

○ウン。  
どんなの見てます？

○イツモネ オトナノ モン ミナイデネ (マンガ) スコシ ミテネ ソイデ ヤメトクノ。然 ハンブングライ ミタラ；  
として？

○アノネー オニカイハネ イツモネ イタク ナッチャウカラネ。オカアサンガ；／どこがいたくなるの？／○メガ イタクナル。然 ダカラネ # イツモ ハンブングライデ ヤメトク。然  
なんか見たのでおもしろいの先生にお話してくださる？

○ウン。アノネ マンガノ ナカノ トミートネ # スーパージェッタートネ # アトネ ウント ……ネ ウント ウント テツワンアトムネ ソレダケガ オモシロイ (ノ)。  
ポピーっていうのはどういうの？

○ポピー？

○質問のことばを一度繰返して  
いうくせがある。「オハナシ？」

○長く発話しているのだが、よく  
わからない。

○道順を聞くが、説明できない。

○質問に対する答ではない。

○「スコシ」→「ハンブングライ」  
とくわしく補足している。

うん。どういうお話？

○ロビー／／あロビー。ロビーってのどいうお話？／／○ウント  
ネー # ハジメネ ウントネ フツウノ コドモナノネ。#  
ソイデ ナンカ ワリイ コトヲ シタラ スグネ ロボットト  
カエチャウノ。然 フンデネ アノネ ロボットダッタラネ ア  
ノ アノ ソウジキミタイノガ ロ スグ ロケットノ トコロ  
ガネ デンワデモ ツイテンノネ。# ムセンキガ ツイテ ス  
グネ ワルイ コト シタ<sup>(ノ)</sup> シラセルノネ。ダレカニネ；#  
ソウスットネ (テ) ノ ナカニ パティーガ アッタノネ。#  
ソイデ キレイナ ヒトトネ アノ ポッテタノ オドッテタノネ。  
ソシテ ミー<sup>(ラ)</sup> ミタイノ ソレ キレイナ ヒトノ オトウ  
サン イナク ナッチャッタノネ。ソイデネ ミーラミタイ カッ  
コ シテンノ，カオ シテンノネ。スポーツカー ノッ<sup>(タシ)</sup>  
ドッカ ドライブニ イッタノネ。ソシタラ ソノ ヒトネー<sup>(テ)</sup>  
ワルイ ヒトダト オモッテ マチガエテ ウッタノネ。オトウ  
サンガネ ロケットノネ カオネ キズ ハイッチャッタカラネ  
ソイデ オトウサン シンジャッタ。然

あとはなにが好きだっていった？

○ウントネ パーピートネ # アト ウントネ マグマタイ  
ショウトネ # ソイウノ ニンギョミタイノ デキテンノ。#  
ソイカラ ウルトラマントネ # ウント オバケノキュウタロ  
ウガ スキ (ナノ)。然

おばけのQ太郎ってどいうお話？

○アノネ # ウントネー アタ アタマノ ケガネ サンボン  
シカ ナイノネ。然 ソイデ ホントノ オバケナノネ。然 ソイ  
デネ ウチニチネ オバケノネ ネジ マクト ウゴクノ アル  
ヨ。然 ソイデ ピーコトネ # アトネ ドロンパッテ イウ  
ノモ アメリカノ オバケナノネ。然 ソレガ アタラシクネ  
アノネ デテ キテネ ドロンパッテ イウノガネ アノ オバ  
ケノキュウタロウノ オトモダチデネ ピーコハ アノー オバ  
ケノキュウタロウノ イモウト。然 ショウチャントネ # ア  
ト オニイサント オカアサントネ オトウサンハネ ウント  
ネ ホテル イッタノネ。# ソシタラ ワラッテバッカリ イ  
ルノネ。アラー アノ ヒトハ キュウタロウ ウントネ ウー  
ント キチガイカナト オモッテ ミタラネ アノネ ナンカ  
ワラッタノネ。キチガイダト オモッテ クシュグッテ ミテ  
ヨケイ ワラッテ ワライガ トマンナク ナッテネ # アノネ  
ビョウキダト オモッタノネ。ソシテネ クスリ ノマシチャッ  
タラネ ヨケイネ ワライガ トマンナク ナッチャッタノネ。  
ワライ ワライガ トマル クスリ ノマシタラ スグ トマッ  
テネ # ウントネ ナオッタノネ。ソシタラ ソノ ウチノ  
ウチ タズネテッタノネ。# ソシタラ キュウタロウノ オトウ  
サンガネ ウント キテタンダッテ。

お母さんがね絵本よんでくだすったりお話してくだすったりしま  
す？

○ウン。

どんなお話きました？

○モモタロウトカネ # ウントネ ウルトラマンノネ # アノ

○テレビについて聞くとよく話  
すが、内容ははっきりわからな  
い。

○話しことばなのでなまつた言い  
方が出る。「ワリイ（悪い）」「フ  
ンデ（それで）」。

○話す過程の中で連想して、筋か  
らはずれたことを挿入する。

○「クシュグッテ」→「くすぐっ  
て」の意。

ネ ゴホン ヨンデ モラッタノ。然  
桃太郎さんのお話きかせて？

○ウン。アノネ ウントネ ハジメネ オバアサンガ カワヘ オ  
センタクニ イッタノネ。ソシタラ オッキイネ モモガ アッ  
タノネ。ス オイシソウダッテ オモッテ オウチヘ モッテッ  
テ キッタノネ。ソシタラ オジイサンガ チョウド カエッテ  
キタ(ラ) キリマショウ テ(タラ) ナカカラ カワイイネ エー  
ト マンマルイ ラシイネ コドモガ テテ(キチャウ)。#(ソ  
レガ) オトコノ コダッタノネ。ソレデ「ソダテマショウ」ッテ  
ユッテ ソダテタノネ。ソシタラネ ウントネ ドンドン オッ  
キク ナッテ イッテネ, ソイデ オジイサンタチガ タスカッ  
タノネ。ソイデネ ソノ コハネ トテモ(ニンキ)スゴイ オ  
オキイコデネ ウント ナゲトバシチャウンダッテネ。ソイデネ  
ソイデ「オジイサンニ マキワリヲ イタシマショウ。 オミズ  
クミマショウ」ッテ イッタラネ ソイデ オジイサンタチハ  
タスカッテ「モモタロウニ マカセマショ(ス)」テ (イウンデ)  
マカセタノネ。ソイデ オショウガツン ナッテネ「モモタロウ  
オダンゴヲ ヒトツ タベナイカ」ッテ イッタラネ ソン ト  
キネ ウントネ # ウント モモタロウ コウ イッタノネ。  
「スコシ オジカンヲ クダサイ」ッテ イッタラネ「オニ オ  
ニノ (ス) (エ) エバツヘ イッテ キマス」ッテ イッテ カブトト  
ネ アノー カタナヲ モッテネ オイシイ キビダンゴヲ モ  
ラッタラネ ソイデ イッテ キタノネ。# ソシタラネ「モシ  
モシ」アノー コノ サルガ キタノネ。ア サルジャナイ イ  
ヌガ キタノネ。「モシモシ モモタロウサン ドチラヘ オ,  
オコシデスカ」ッテ イッテ「オニノ セエバツヘ イクン  
ダ」ッテ イッテ ソシタラ「ワタシモ ツレテッテ クダサイ」  
#(ユ) ンタノネ。コンダ ヤマヘ イッタノネ。「モシモシ  
モシ」オサルサンガ キタノネ。「モシモシ モモタロウサン  
ドコヘ イクンデスカ」ッテ イッタラネ「ワタシ オニノ セエ  
バツヘ イクンデスヨ」ッテ イッタラネ ソシタラネ「ワタクシ  
モ アタシモ アタシモ ツレテッテ クダサイ。」「キビダンゴ  
アゲマショウ」ッテ イッテ ソイデ コンダア ネ アノ コ  
トリガ キタノネ。# 「モシモシ モモタロウサン ドチラヘ  
オコシデスカ」 チュッタラネ 「オニノ セエバツヘ イクン  
ダヨー」ッタラネ ソイデ オダンゴ アゲタラネ ソシテネ  
ヤット ツイタノネ。# ソシタラネ ウントー オニガ イタ  
ノネ。ソイデ アノネ モモタロウハネ ウント オニノ ウチ  
ヘ アノ ハイッテテネ ソイデネ アノネ ウント ソイデネ  
アノ ウント ……ネ オニガ オオ ウント オオサマノネ  
オニ オウサマノ オニノネ オウサ オニノ オウサマハネ  
テー トカラレチャッタノネ。「モウ シマセンカラ」ッテ イッ  
(テ) タカラモノ ゼンブ モモタロウサンニ ヤッタノネ。#  
ソシタラネ ウントネ ソレデ カエッテ キタラネ ソシタラ  
オジイサント オバアサンハ ニヨー ニヨー・クル「ア アノ  
カエッテ キタノカ」ッテ イッテネ ソイデ「ソノ タカラモ  
ノヲ ハ ネ ミンナ モモタロウサンニ アゲマス」ッテ モ  
ラッテネ オジイサンタチハネ ウント オカネモチニ ナッタ  
ノ。然

○「アノネ」「ウントネ」の間投詞  
が非常に多い。

○「マンマルイ ラシイ」かわつ  
た使い方。

○「セ」の発音がはっきりしない。  
「セエバツ」→せいばつ(征伐)。  
二重母音(ei)なので発音しにく  
いのか (eー) になっている。

○一文を切らないで長く続けてい  
う傾向が幼児期の終わりに出て  
きて、それは一種の発達である  
が、そのため文のみだれがめだ  
つ。

○鬼の言ったことばと、お爺さん  
たちが金持になった原因の関係  
がはっきりしない。「モラッテ  
ネ」でなく「… テキタノデ」  
とあるところか。

それでね、その時おばあさん川へ洗濯にいったっていったでしょう。／〇ウン。／どういうふうに洗濯していたと思う？

〇ネー # アマリ ワカンナイケドネー # ウントネ ムカシハサー # ウントサー センタクキ ナカッタカラサー # オッケ ウントサー タライミタイノデ ヤルデショ。# ソレデサー # ナカヘサー ミズ イレテサー ソイデ アラッテルンデショ。然

よく知ってるわね。そういうのどうして知ってた？

〇エデ ワカッチャウモン。然  
ニュースなんか見る？

〇ミル。然  
ニュースってどういうこと教えてくれる？

〇ウントネー # ウントネー ダイヤ トラレタ トキカネー # ダイヤ トラレタ トキトカネー # ソレトカネ アノネ # ウチュウノ ロケットガネ # ヤマニ ツイラクシタカネー # ウーントネー アノネー ウント ソイデネ # ショウネンガネ # オカネヲネ トッタトカネ # ソイウ コト オシエテ クレル。

それどうして知っているの？ テレビで見るの？ 新聞は？

〇シンブンネ アンマリ ヨメナイ (デ カイチャウンダ)。  
かずはいくつまでかぞえられる？

〇カズ？ # ゴジュウ。然  
十からね逆にかぞえられる？

〇……

夢みる？／〇ウン？／ゆめをみる？

〇アンマリ ナイ。然

絵本もってきたのね、／〇ウン。／この絵本をね／〇ウン。／これよんでみて？

〇ココ？ # シ マ ウ マ ト ラ イ オ ン。  
それから？

〇エー ヲ ヲ？ # エ ヲ ミ テ オ ハ ナ シ ……シ?  
# マ ……ショ。

ライオンがどうしましたか？ これお話してください。

〇アノネ # ウントネ ナンカネ ゴ<sup>(シ)</sup> ソウ<sup>(チ)</sup> ナイカッテサガシテタラネ。# ライオンガネ；# ソシテネ シマウマガイタノネ。# ソイデネ 「アレガ イイヤ」ッテ イッテネ ソレデネ オイカケテ イッタ<sup>(ノ)</sup> ネ、ソシテ ソノ シマウマネ ウーントネー イッパイ シマウマガ イル トコヘ イッタノネ。ダカラ ライオンネ ビックリシテネ ウントネモウ コナク ナッタノ。然

このお話してみて？

〇コレ？

こちらから。

〇イチバン？ # ウントネー カメガ カメ ジャナイ ウントネー ウサギサンガ ネンネシテタノネ。ソシタラ カメガキタノネ。……ソイデネ アッ 「カメサンカー」ッテ イッテアノネ 「カメサンカー」ッテ イッテネ ソイデネー キョウソウシタノネ。カケッコネ； ソシタラネ アノネ ウサギサンノカ ウント カチンナッタノ。# ソシタラネ # ソ アノ

〇絵本をみせてお話をさせたとき、題が書いてあるのでためしに読ませてみた。

〇この「ソシテ」は「そしたら」の意である。

〇「ネンネシテタ」と幼児語を使っている。

〇「ソシタラ」も使えないわけではない。

カメサンネ ノロイデショ。ダカラ ウサギサンガ イットウ  
ショウン ナッタノ。

そういうお話をいたことある?

○アル。

上手にお話をしたわね。／○ウン。／じゃここから、二番目の絵ね。

○アノネー # ハナガネ タオレチャッタノネー。デ ミズ ア  
ゲテモネ タタナカッタノネ。ソイデネ ナンカデ タッテタラ  
ネ アノネ タッテネ ダンダン オオキク ナッタノ。

こんどこれね。

○アノネー # ウーントネ クマガネ ネテタノネ。ソシテネ  
ネズミガ イタノネ。ソイデネ チュウチュウウテ ネズミ ナイ  
テタノネ。ソイデ クマサン 「ア ネズミ サンダ」 ッテ オ  
イカケテ イッタラ ジドウシャ オオドオリマデ オイカケテ  
イッタラネ ウンデ ジドウシャガ キテネ ウント サン  
アッ クマサントネ ネズミサンネ トバサレチャッタノ。

日曜日何したの? お話しして。

○アノネ オハナシ シタリネ # ゴホンネ ゴホンノ オハナ  
シ シタリネ # ウントネ サッキノネ アレ ヤッタリネ  
イロンナ コト シタノ。然  
夏休みのことおぼえてる?

○ナツヤスミ? # イッタ トコ? #

なんか楽しかったおもしろかったお話を。

○ウントネー オーイソロングビーチネ センセエト アッタノ。然  
ソレカラネ ウーントネ オトウサントネ オヤマヘ イッタノ  
ネ。オトウサンノ オトモダチノ オジサンノ ジドウシャデ  
ネ; # キョウコチャヤンテ イウ コネ # ソイデ ネチャッ  
タノネ。ズイブン ネタラネ ユウガタン ナッチャッタノネ。  
デ「キョウコチャヤン キョウコチャヤン オキナサイヨ」 ッテ「オ  
ジサン ノボロウネ」 ユッタト オモッタラ イチバン タカイ  
トコロ イッテネ 「キョウコー! キョウコ!」 ッテ ヨンデ  
ルネ。リックサック モッテ テッペンマデ イッタラ ス  
ルーットネ ウーントネ カマキリガ イタノネ。チョウド ビ  
ニール モッテ イッタカラ モッテッタカラ リン ナカヘ  
イレ(テ) オウチ モッテタ。ソイデネ ナニヲ アゲルカ ワ  
カラナイッテ ソノマンマニ シトイタラ シンジャッタノ。然  
かわいそうだったわね。

○ソイデ オハカ ツクッテ アゲタノ。然 タイフウデ タオレ  
チャッタ。

お墓?

○ウン。

台風の時どうだった?

○タイフウノ トキ? # ウーントネー ヤネガ モッチャッタ  
ノ。# タタミ ビッショリン ナッチャッタ。然 ヤネガネ  
アナ アイチャッタ。ネ ソイデネ ウチノ オトウサン ダイク  
サンダカラネ アノネ アタシモ クギ モッテ キテネ オト  
ウサンニ オテツダイ シタノ。然

まだほかに先生にお話してくださることある?

○エートネー #……アル (ナンカチュットネ) アノネ # ウー  
ントネ # アノネ # ウントネ オカアサンガネ # ( )

○第3の話を、この幼児はうまく  
まとめているが、二匹ともとば  
されたかどうかが、はっきりし  
ない話し方の幼児が多かった。

○まだいくらでも話をしそうだっ  
たので追加して聞いてみた。

○「リックサック」→「りゅっく  
さっく」の意。

○「オウチモッテタ」→「うちに  
持って帰った」の意。

○「オトウサンニ」「の」の意。助  
詞の誤用は多い。

ソイデ アタシガネ イツモ ネカシ ネカシテ アゲルノネ。  
ソイデ ミルク オカアサン ツクットイテ クレルノネ。ソレ  
デ 「ノマシテネー」 ッテ イウカラ 「ハイ」 ッテ ュッテ  
クジン ナッタラネー ソシタラ ノマシテ ヤルノネ。アサン  
ナッテ アタシ イチバン ハヤク オキテネ ダカラ オカア  
サンハ ヨル ミルクネ アノ アッタカイ トコ(口)ヘ オ  
イトクノネ。# ソウストネ アカチャン ナクノネ。ダカラ  
ミルク シタカラ トッテ キテネ ソレデ ノマシトクト マ  
タ ネチャウノ。オヒルゴロ;

感心ね。みんなしてあげるの？ お友達がいる？

○ (エ) ル。  
○ (イ) だれ？

○アノネー キョウコチャンテ イウ コトネー # アトネ ア  
ベクトント ヨシ一 アト リーチャンテ イウ アッ リエコ  
チャントネ アトネ ウント マミチャンテ ガッコウノ トナ  
リノ コネ # ミッチャンテ イウ コ イッショニ ガッコ  
ウヘ イクトキノ ヒトネー # コノ ヒトト エリコチャン  
ト キヌチャン。# ヒトツ ヒトリ フタリ サンニン ヨニ  
ン ゴニン ロクニン ヒチニン イル。然  
その子たちとなにして遊ぶの？

○イツモネー # ハンカチオトリ ハンター ハンカチ オトシ  
タラネ ソウスト アタシガ イツモ マケチャウノネ。ダカラ  
イツモ マンガヨミ シテ クレルノ。

○前にもあるが、直接話法の話し  
方は幼児に多い。

### 年中児で文節数の一番多い幼児

小中一久女 (4:7) 1968 本 第  
お名前言ってください。

○K・A。

お年いくつ？

○ヨンサイ。然

Aちゃんのお家誰と誰います？

○ ( ) オトウトガ イル ( )。ヒトリダケ。／それから？  
／○アトハ ヨコヤマ。トミコッテ イウ イナカカラ キタ  
オネエサン。／お母さんは？／○K ノリコ。

お父さんは？

○シンジャッタ。／何の御病気で？／○ワカンナイ。／あとどなた  
がいるの？／○アト オバアチャン。然 K マチコ。然／みんな  
の名前よく知っているわね。／○オジイチャンハ K マタイチ。  
じゃ全部で何人？

○エートネ # ト( ) (イシイサン) トイウ ヒトガネ #  
イツモ ハイタツニ クルノ。然 ( )。  
誰一番好き？ おうちの人の中で。

○エートネ ママ。／どうして？／ ……／どこがいいの？／○ワ  
カラナイ。

おじいちゃんはお仕事していらっしゃるの？

○シテル。／何のお仕事？／○ントネー # (イシイ)サンニ ハ  
イタツ タノムッテ イウ コトヤネ /ん？／○(イシイ)サン  
ニ ハイタツ タノムッテ イウ コトヤネ # エート ドッ

○はっきりしない。

○父親の仕事の説明ができる  
幼児は少ない。

カニ イク トキ ( )。

配達って何をしていらっしゃるの？

○エート フトン ト、トドケ (ル) ッタリ (カストブ) エート  
ネ トリニ イッタリ スル。

お母さんは何をしていらっしゃる？

○エートネ # エート (イツモ) /いつも何をしていらっしゃる？

／○ワカンナイ。然 ヨルハ ワカルケド。ヨルハ ナンカ オ  
ヨウフク ツカッタリ スカート ツクッタリ ワンピース ツ  
カ ツクッタリ スル。# (ヨウチエン)カラ カエッテ クル  
ト ママガ シゴト スル トキ アルカラ アンマリ ダカラ  
ワカンナイ。然 (音楽の音うるさく聞きとりにくし)

お家にいつもいらっしゃるの？

○コ、コウエントカ /大きな声してね。／○コ、コ コウエントカ  
ドッカデ イク トキモ アル。

昨日日曜日だったわね。何した？ おうちで。

○エート ドヨウビ ヨウチエンカラ カエッテッカラ オヒルゴハ  
ン タベテ エート # ムラヤマノ オウチ オトマリニ  
イッタ。# ソシテ ニチヨウビノ ユウガタ カエッテ キタ。  
／どこ行ったって？／○ムラヤマ。

何があるの、その辺に？／○ナ エートネー …… # /どう  
いう所？／○アノネ # イナカ。

お母さんのお家？／○チガウ。/違うの？／○オトモダチノ ウチ。  
然 ダケドネ # ヨソニ スンデテネ ソコノ ウチニモ ク  
ルコトガ アルノ。然 ( )。

楽しいことあった？

○エート ワナゲ モッ モッテネ # (ボクネ) エート ント  
トウキョウノ ハズレ ( ) ツレッテッテ チカイカラ ツ  
レッテネ ソウシタラ コドモタチニ (イチバン) ( )  
マチガエチャッタ。

お母さんに叱られることある？ どういう時？

○( ) カッタ トキ。

ほめられる時は？

○イイ コト スル トキ。

遠くに旅行したことある？

○ナイ。然

幼稚園では何をするのが楽しい？

○ント サンリンシャニ ノルッテ イウ コトハ ブランコデ  
アソブッテ イウ コトト オママゴトト アトハ オトモダチ  
ト オニゴッコカ タコアゲカ ナンカ スム ゴト。然  
おままごとってどんなふうにやるの？

○エートネ # ミンナガ ナカマヲ サキニ スコシ オトモダ  
チ アツメテ ャッテッテ エート コンド ナカマニ イレ  
テッテ オトモダチガ キタラ ナカマニ イレテ アケル。然  
ダケド ナカマニ イレル トキ ナカマニ イレナイ コガ  
アルンダヨネ。

どうして？

○ダッテ ワルイ コノ オトコノ コト イイ コノ オトコノ  
コ アルデショ。ソノ ナカデ ワルイ コノ オトコノ コハ、  
イレナイノ。然 マ、チュウグライデモ イレナイ コトハ イ

○「ドッカデ」→「どっかに」の  
意。

○この幼児声が小さく、聞きとり  
にくい。

○E女と比べると年中にもかかわ  
らず大人っぽい構文で話してい  
る。文と文が理論的に関連づけ  
られている。

イケド。# チュウグライノ イレル コトモ アルケド イレ  
ナイ コトモ アル。

幼稚園にいろんなお部屋があるでしょう。何組がどんなお部屋  
かって、この前きかせてくれたわね。

○エートネ # イチバン アッチガ # エート ワカンナイダ  
ケドネ # トナリノ コッチガ アノ ショクインシツッテ  
イッテ ゼンブノ センセイガ イル トコ。然 ハラダ(セン  
セイ) ( ) ダレモ ( ) ナル。然 ソシテネー #  
……ソノ トナリガ デル トコ。然 オニイサンタチガ；然  
ソコノ ソノノ ソノ ショクインシツノ トナリ アガッテ  
イクト ント マタ ニカイニ イク ワケ。ウエニ イクノ。  
階段があるのね。／○ソノ カイ ソレデー アトー コウテイ  
ニ イク トキノ アノ カイダン ノボッテ イクトネ #  
ソイデ アスコノ コウドウノ シタツ、 カワニ デテネ #  
ソノ ( ) ソコノ コウドウカラ ウエニ アガッテ イ  
クトー # エート アソコノ ウエニ イカレテ ベンジョガ  
アル トコロ。然

どこで遊ぶのが一番楽しい？

○オソト。然

動物がいっぱいいるでしょう？／○ン？／かたつむりなんか。何  
と遊ぶのが一番好き？

○カタツムリトネ # オタマジャクシ。# カエルン ナッタリ  
(シテル)。然

何かまだいたでしょう。おとなしいのが。抱いていたでしょう。

○モルモット。# ト ウサギ； # アレモ スキダケド。キョウ  
ヒトリデ ダコウト オモッタケド ダケナカッタカラ アキラ  
メチャッタ。然

こちらの手はどっちの手って言うの？

○…… ヒダリ。

よく知ってるわね。こっちの耳は？

○ヒダリ。

そうよね。大きくなったら何になりたい？

○ネコ。／ん？／○ネコ。／猫、どうして？／○タベルカラ。タク  
サン タベルカラ。

お魚好きなの？

○キライナ サカナモ スキナ サカナモ アルケド。

数はいくつまで数えられる？

○ヒャク。然 キュウ、キュウ。ヒャクキュウジュウキュウ マデ。  
然

じゃー10から逆に数えられる？

○ワカンナイ。然

夢なんか見る？

○ミナイ。／どんな夢見る？／○カジノ ユメトカ ヨウチエン  
ノ アソビトカネー # オウチガ ヒニ モエチャッタラ カ  
イジュウガ キタッテ ク コトカ、ヤ エートネ モウ  
ヨッコガ オウチニ マダ イルトカ ソウイウ ユメカナン  
カ。然

Aちゃんは弟さんがいるのね。いくつ？

○ヨンサイ。／弟さん？／○ニサイ。然

○「ニカイニ イク ワケ」など  
という言いまわしを使っている。

○「ケド」の接続助詞を上手に使っ  
ている。前の「ケド」は終助詞。

○「ヒニ」→「ひで」の意。

○「コトカ」の「カ」を「ヤ」と  
言いなおしているところなど、  
しっかりしている。

「モウ」も「マダ」に言いなお  
している。

お家で遊ぶ？

○アソブ。

お家へ行くにはどういう道通って行く？

○エート ヨウチエン デテカラネ エート ミドリノ オバサン  
トコ ワタッテ コンド スズランドオリ ハイッチャッテネ  
エート ワタッテ ハイッテ デテ エート ソレデネー エー  
ト サクラドオリノ ホウニ ワタッテ ( ) サンテ イ  
ウ ( ) ナイ ホウニ イッテ スーツ イクト フトン  
ヤサンダカラ フトンヤサン、ナノ。／お布団屋さんなの？ お  
家。／○オダヤッテ トコ アッテ ソノ ミセノ ナカニ ア  
ンノ。然

一人で来られるの？

○コラレナイ。然 タクサン ワタル トコガ アッテ。然  
交通事故って見たことある？

○ミタ コト アル。

どんなの見た？

○エート オバアチャンガネー # エート オウチノ マエ  
ヒーロックッテ シンゴウナド ( ) エート エート オショ  
ウガツニ ナッテ ママ ワリバシ カッタノヨネ。ソン トキ  
カイニイッテ カド ワタロウト オモッテ シロイ セント  
コネ エッ、テ テ ケガ シチャウ。然 モウ ナオッタケド。  
テレビなんか見ます？

○ミル。

どんなの見てる？

○エート コドモショートカ ピンポンパントカ アト ケロチャ  
ントカ ( ) トカネ ロンパールーム ミナイデショ。コノ  
ゴロ； アトハーアト (ティティティティティ) ターザン。  
キョウ オバケノ キュウチャン。# エート ミテタケド モ  
ウ ミナイ。

何が一番好きで見ている？

○シートネ キュウチャン。

お話聞かせて。どんなお話だった？

○ワスレチャッタ。然

今見ているのでお話できるのある？

○エートネ ケロチャン ( )。

ピンポンパンでいうのは？

○アノネ # ハジメ オウタ ウタッテ アツマッテネー エー  
ト アト ナンダッケ。ソレカラ タイソウ ヤンノ。然 オ  
ニイチャン ヨンデ。# ソレデー アトハ ドッカ カケッテ  
イッテ # ツギノ オカアサンタチガ ( ) ニ イッテ  
コンド アトハ ワスレチャッタ、モウ スコシ アッタケド  
ネ # (タイソウミタイ)。ソロッテ コンド オカアサンタチ  
ガ ( ) オカアサンガ キテ、サイゴニ マタ タイソウ  
スコシ ヤッテ ヤメル。# ソウシテ チョット ( ) ヤ  
ルンダッテ ( ) ダケド ( ) ハネ エート コンドハ  
エ カクノ。／こどもショー？／○パンピンポン。／あ、ピンポン  
パン。／○ソイデネ # エート ( ) アルンダケド ソノ  
ツギハーエート ( ) アレガ (モモ) チャンダッケ。アレ  
タシカ (モモ) チャンダヨネ。タシカ (ポンボ) チャンガ ア

○通りの名前を覚えていて道の説明のときに使っている。

○「ケガ シチャウ」過去形を使うべきところ。

○文不明瞭

○声が細く、低く聞きとりにくい。  
残念。

ツマッテ（オウタガ）アツマッテ コンド（ドレ）イクノ。#  
( ) ナッテ アト ワスレチャッタ。然  
大人のものなんか見ます？

○ミル。アップダントクイズ。  
そのお話聞かせて。

○ナンカイモ ャッテネー スワッテ エート マルイノ ブーッ  
ト オシテネ バツ フタツニ ナッタラ モウ ( ) (ビッ  
コノ) トキ アル。 ( ) オッコチナイデ ウエマデ イク  
トネ ドッカ イカレンノ。然 ソノ ナカノネ # オンナジ  
トコダケド コンド ウエマデ イカレンノ。然 ダッテ ム  
ズカシーイ モンダイガ デテネ アタラナイト コンド アタ  
ルトネ ウエマデ イカレンノ。ゼンブ；然 ゼンブジャナクテ  
／ああ／○イ、ワカルッテ イウ コト。／アップダウン・クイ  
ズね。／○マチガエルトネ # マタ オッコッチャウ。然 デ  
ネ デネ マチガエルトネ # ダレモ イワナイ。ト オッ、  
トネ ソイデ マチガエルト オッコッチャウケド ダレモ イ  
ワナイト ダ、スコシ タッテ ブーッテ ナル イッテネ  
エート (ナンテ) ソノ ユッテル ヒトガ オシエテ クレ  
ル。# ソレカラ カミガ ハッテ アッテ ワカラナクテ カゲ  
ガ (デル)。ソン ナカニ ヒトガ ハイッテテネ エート ム  
ズカシイ トイ ダスンダケドネ。# エート アトカラ；エー  
ト サンダイ アルンダケド ソントキネ ン (ナンデ) エー  
ト …… エートネ # ソントキ アノ エート ダレデス  
カッテ アタルデショ。ソウシテ アタルト エート ウエ  
エート サンダン アガ サンダンカイ アガッテ エート カ  
ミガ ウエニ イクノ。# ソウシテ デラレルノ。然  
ニュースなんかも見る？

○ミナイ。

お母さんが絵本読んでくださったりお話してくださったりする？

○スル。／どんなお話を聞いた？／○オハナシハ スルケドネ (オモ  
ウ) ハネー オハナシハ オバアチャンガネ # オシエテ ク  
レル。

どんなお話をおばあちゃんから聞いた？

○キンタロウトカネ # ソレカラ ( ) ト モモタロウトネ  
アトハ一 # ワスレチャッタ。然  
桃太郎のお話をしてくれる？ おばあちゃんから聞いたのやって  
みて。

○(ダメダヨ)。エート オバアサンガネー カワニ センタクニ  
(ト) オジイサンガ ( ) ソウシテ イッタラ バアサンガ  
イル センタクシテル トキ オオキナ モモガ カワニ ナガ  
レテ キテネー ソレデ エー オオキナノ ソノ モモヲネ  
モッテネ カエッテ オシイサンガ カエッテ キタラ アケヨウ  
ト シタラ ヒトリデニ アケテ ナカカラ チイチャイ アカ  
チャンノ コドモガ エートネ ニンゲンガ デテ キタノ。ソ  
シテ オオキク ナッ アノネ オ、オジイサンタチ ナンカ  
タクサン ツクッテ モラッテネ オニ ヤツツケニ イッタ  
ノ。ソシテ キジト イヌト サルニ アッテ イッショニ  
イッテネ ソウシテ キジガ イチバンニ アケテ ハイッテ  
イッタノ。ソウシテネ ミンナガ ソシテ アト オニ ヤツツ

○テレビの「アップダウン・クイ  
ズ」についての説明がしっかり  
している。

○「モンダイ」とか「トイ」その  
他「サンダイ」「サンダンカイ」  
などという語彙をつかってい  
る。

○「トイ」

○「サンダイ」大人のことばを使  
う背のび現象。

○「サンダンカイ」

○「アケヨウ」→「わる」の意。  
○「アケテ」→あいて→「われて」  
の意。

ケテネ ソレデ エート ミン ホカノ ヒトノ タカラモノ  
カエシテ クレテネ エート タクサン タカラモノヲ モラッ  
テ カエッテ キタノ。# オシマイ。然  
先生から聞いたので覚えているのある？

○……ナイ。

この前かたつむりのお話聞いていたでしょう。覚えている？  
○ドウイウンダッケナ。ワスレチャッタ。然 エート サクラグミッ  
テ イチバン サンサイダケド ソノ トキモ ハイッテ コン  
ド キクニ キテネ # ソン トキモ エート カミシバイ  
ミテネ キクニ ナッテカラモ カミシバイ ミタ。然  
覚えているのある？

○エート キクデハ オボエテンノガネ オヤユビヒメヤ チョッ  
ト ワカッテテモ ムズカシイノガ タクサン アッテネ，  
これは、ライオンと縞馬のお話なのよ。絵を見ながらお話してみて。

○ドレカラ ハジマルノ？

こうやって見よう。ライオンがどうしました？

○ヒトリボッチデネ # シマウマガネ # (ナシ) トッタ  
ノ。# シマウマガ ニゲテネ ライオンガ オイカケテ イッ  
タノ。然 ソノ ツギ コッチデショ。# シマウマガ タクサ  
ン シマウマガ タクサンネ (ハイ ヤリナオシ)チャッタカラ  
ダカラ コッチ イッテ スグ ライオン アルイテ カエッテ  
イッタラ シマウマハ ヨロコンデンノ。然 コレハ アト ド  
レカ (ナ)。

もうないのね。じゃこの字読みますか？

○ヨメル。/じゃ読んでみて。/○シ、マ、ウ、マ、ト、ラ、イ、オ  
ン。エ、ヲ、ミ、テ、オ、ハ、ナ、シ、ヲ、シ、マ、ショウ。  
字は誰にならった？

○エートネ # アイウエオノ ジュンデ オボエタ。然  
絵本を買ってもらったの？ アイウエオの。それで自分一人で覚  
えたの？

○ソウイウノハ ナイケドネ # エート コヤッテ ツメデモ  
カケテ ボールペン イッコ ワケテモ デキルケド アレ カ  
ケテ マタ コウ ヒッパッテ クルト アウ アイウエオガ  
デタリ メチャクチャ カイテモ マタ キエルヨウニ ナッテ  
ンノガ アッテネ # アレ カッテ モラッタ。然 マツザカ  
ヤデ；/それにアイウエオがかいであるの？/○ソノ ソレ コ  
ウ ト、トッテ ミルト。然

この絵本を持って来たの、お話してみて。ここから。

○エート ドウイウンダ。/こっちからね。/○エートネ エー  
ト エート オヤマノハ、ハタ ハタヲ イチバン ウエニ カ  
イテ グシ トッテ ウサギガ サキニ ソイデ トチュウデ  
ナカナカ カメ コナイノデ ネチャッテ ソウシタラ カメガ  
サキニ イッテ カケテ イットウショウニ ナッチャッタノ。  
( )。

このお話何ていうお話？

○エート ワスレチャッタ。然  
今度はこれね。

○オヒサマガ アッタカイ ヒカリ アタリ ダレカガ ジョウロ

○「サンサイ」

○落ちついて聞く。

○ひろい読みだが読める。

○「ので」の接続助詞を使正在する。

テ オハナニ ミズヲ アゲヨウト オモッタラ アノネー タ  
オレチャッタノ。／こっちからこうね。／〇ソイデ ジョウロデ  
ハナ ミズ アゲタラ ント エート オヒサマガ デテ キ  
テー エート ノビタノ。

今度はこのお話は？

〇エートネ コレ。コレ ナンダロウ？／熊。／〇クマガ ネズミ  
ヲ オイカケテネー ネズミガ サキニ イッテ ズーット  
イッタラ エートネー クルマニ ブツカッチャッタノ。  
どうなったと思う？ ぶつかったら。

〇コウツウジコデ アッタリ エート テヤ テヤ アシ アタマ  
ブツツケテネ アノ (バクシ) スルノ。

これ何のしるしですか？

〇コレ ワカンナイ。# キョウ センセイ キイテ ミル、ワカ  
ンナイ。

これ何？

〇ソレハネ # オーガタヤ エーガタヤ アルノ。然  
血液型なのね。AちゃんはO型なのね？／〇ソウ。／この上のは？

〇ワカンナイ。

〇絵がまずいせいか、聞く子ども  
がいた。

〇「バクシスル」ときこえたが、  
そう使えるのだろうか。この文  
全体にはっきりしない。

## 年少児で文節数の一番多い幼児

神少一三男 (4:0) 1968 本

名前を言ってください。

〇アノネ # M・M。  
年いくつ？

〇ミツツ。コンダケ。／これだけはいくつ？／〇タ アノネ ヨッ  
ツ。／四つに今度なったのね。／〇ン。アネ # ズット マエ  
ボクノ タンジョウビダッタノ。然 ソイデ ケーキ カッテ  
キテ クレタ (ノ)。然 バーラガ サイタ (ケーキ)。然 バラ  
ダッテ タベラレルンダヨ。然 アノネ ローソクナンカ  
ネー # フターツモ ツイテタ (ヨ)。# ダケド ナカミガネ  
イッポン ジ イッポン (ブン) ダヨ。イッパイナンダヨ。然  
ソイデ フタツン ナッテンノ。然  
おうち誰と誰います？

〇アノネ パバト ママトネ ソレダケ。然 オニイチャンハ  
ネ # アノ ドッ アノ フジパンヤサンニ イッチャッタ  
ノ。然 ダカラ イナイノ。  
おとうさんは何していらっしゃるの？

〇アノネ # イツモネ # ネ ネルノガ オソク アノネ  
ネルノガ イツモア ヨルネ ネンノガ # オソクッテ  
ネ # アノ アサン ナッテモ マダ オキナイ。然 ン。  
お仕事は何？

〇オシゴト？ ババノ？ # アノネ # イツモ ヨルネ #  
アノ オカネ モッテ ナンカ ヤッテンノ。然  
おかあさんは？

〇オカアサン？ # オカアサンハネ # ネナイデネ オコメ  
トイダリ ヨルネ オコメ トイダリナンカ シタノ。然 ソイ  
デ ボクネ ヒトリデ ネテタ (ノ)。然  
誰いちばん好き？ おうちの中で。

〇この幼児はすごくしゃべる。  
年長、年中児よりも文節数が多  
い。話がどんどん横道に発展し  
ていく傾向がある。

〇こここのところよくわからない。

〇職業のことと思わなかったた  
め。

〇「シティルノ」「ネティルノ」と  
言うべきところ。

○アノネー # アノー オニイチャンガ スキ。然 ン。

お兄ちゃんいないんでしょう？

○オニイチャン フジパンヤサン イッテテ コンドハ ズット  
コナインダ。然 ゾ ズット マエハ キタケド # アノ  
ズーット コナインダ (モン)。コンドハ；然 ゾ ソコニ オ  
ウジノ オジ オジイチャントネ オバアチャント ポクト  
ネ # ントネ ソレカラ, ネ ママト イッショニネ # オ  
ニイチャンガ イルネ フジパンヤサン トコネ # タクシ  
ノッテ イッタノ。

どうしてお兄ちゃんが好きなの？

○アノネ # オニイチャンネ イツモ ナンデモ クレルカラ。  
／どんなものもらった？／○アノネ ガムネ フジパンヤサンデ  
モラッタノ。然 コンナ カタナミタイナ コウイウ ガム。然  
フターツ； キリロイノトネ ソレカラネ # ソレカラネ #  
アレ。アノネ # アオ。然 アオト フターチュ。／よかったです  
ね。／○ソノ トキ アメ フック トキネ イッテネ ナ ナ  
ンカ キテネ ナンカ キテ イッタノ。カッパ キテ； 然  
ン。

お休みの日は何して遊んでいますか？

○オヤチュミカ？ # アノネ # ント オテンキガ イイ オ  
ヤスミン トキハネ カミヤコウエン イッテ アソブノ。然  
何して遊ぶの？

○カミヤコウエンテ シッテルデショ？／知らないの。／○アノ  
ネ # ココ アノ ココ ココノネ デルト コウイウ コ  
アソコニ コ コッチニ コウエンガ アルデショ？ マッスグ  
ミルト； アソ アソコノ コウエン イツモ ヒトリデ イク  
ノ。／で何するの？／○アノネ オカアサンガ イソ イソガシイ  
トキ。然 イクノ；然 エート アソンデンノ。

何して遊ぶの？

○ボクネ # アノ ブランコン トコデネ コウ イウ テツボ  
ウガ アッテ コウイウ ボウガ アッテネ コウ ャッテ ソ  
コニ ツカマッテネ グルリッテ ソコデ マワレンノ。# ソ  
ウイウニ ソレ シタリネ # オスベリダイ シタリ # ジ  
ヤングル ノッタリネ # ソレカラ アトハネ # アトハ  
ネー # ……／いろんなものあるのね。／○イロン オスナバ  
ヤネ # コウイウ エリカゴミタイナ ブランコヤネ # ナ  
ンカガ イッパイ アンノ。然 ソイデ コンナ メノ マワル  
(マド) カナンカ アンノ。然

夏にはどっか行った？ 遠い所行った？

○アノネ アノ # ナツニ？ # トオイ トコ イカナカッ  
タ。チカイ トコ。  
どんな所行った？

○アノネ カミヤコウエンノ モット サキヨリネ # アソコ  
ニ オウジコウエンテ アルデショ。／知らないね／○アノ ホ  
ラ カミヤコウエンノ ( ) ワタッタ トチュウニ。然  
ソウイウ ジャングルミタイノ。オサルミタイノ；然 ジャ ア  
ノ アソコノ アカバネコウエンハネ # コンナ フンスイ  
デテ (ンノ)。然 ウマノネ # コッカラネ ジャアーッテ デ  
テン。然 ヨルハ イケナイヨ。ユウガタハサ ユウガタハ ト

○「ココ！」→「ここを」の意。

○補足文で話す傾向がある。

○質問のことばを反復する。「夏に  
は？」に対して「ナツニ？」前  
にも「お休みの日？」に対して  
「オヤチュミカ？」とあった。

○「サキヨリ」「より」の使い方お  
かしい。

○文の切り方がはっきりしない。

ケイダイガ アッテサ トケイダイカラサ # ミズイロガ テ  
ンノ。然 ミズイロガ ヒカッテンノ。/ねおんさいん? /〇エ?  
/ネオンが光ってんの? きれいねえ。/〇ヨク ワカンナイケ  
ド。然 ン。

おうちのまわりには何がある?

○オウチノ マワリ? # オウチノ マワリニハネ # ナンニ  
モ ナクッテネ # レコード カケンノシカ (オヤネ) ナイ  
ノ。ソノネ サンジョウニガ アルンダヨ。# ウラノネ サン  
ジョウニ アッテネ # ウラッテ シッテルヨ。# ソコノネ  
ソコニネ # アノ サンジョウガ アンノ。アソコデ イツモ  
ネテンノ。然 ヒトリデ;

一人で寝られるの?

○ン。ソコニ オモチャバコガ アンノ。ヒトツ; 然  
どんなおもちゃが入っているの?

○アノネ ホントハ ズット マエハネ # フタアツネ オモ  
チャバコガ アッタンダケドネ # ナクナッチャッタノ。然  
ソイデ イッコニ ナッチャッタノ。然 ソイデネ ナニ ナン  
デモ ハイッテルヨ。然 ン。

おうちのお部屋はそんなふうなの。

○レコードヤナンカ カケル トキハネ # アノネ # レコー  
ド ポクンチ イッパイ ナイノ。# フタアツシカ ナクッテ;  
# グカラ イツモネ ソコデ カッテ クル(ノ)。ケンチャン  
ガ オニイチャンガ イッテルネ アソコノ フジパンやサンデ  
ネ イツモ ハナビヤナンカネ ヨルネ カイニ イクノ。アソ  
コニ; 然 トマル トキ トマルノ。然 アソコニネ オニイ  
チャンガ イル フジパンやサンニネ # ニカイガ アッテ  
ネ # ソレカラネ アノ カエル カエルッテ カエルガ イル  
トコモ アッテネ ハッパガ アッテネ カエルガ イル  
トコガ アンノ。アメ フッタヒハ カエルネ ドッカ イッ  
チャウンダヨネ。然 カクレチャッタノ。# ソイデ ミ ミラ  
ンナクッタ, ミランナカッタノ。

困ったことある?

○コマッタ コト? # アル。/どういうこと? /〇アノネ カ  
エリタイ コト。/どこへ帰りたいの? /〇オウチ。/いつ? 今?  
/〇ン? /今帰りたいの? /〇チガウヨ。/どこへ行った時帰  
りたいの? /〇(フ) アノ オニイチャン (ガ) (ノ) フジパンやサン  
(イク) トキ。 (カエレ), /帰りたくなった時困るの? /〇ン。  
おもしろかったことない?

○オモシロカッタ コト? # アルヨ。/聞かせて。/〇アノネ  
ココニ アノネー ジャングルヤナンカ アッテネ (オンナジ  
デ) ジャングルガ アンノ。# ソッカラネ ナンカ ノッタノ。  
アソッカラ, オフネ; 然 オフネ ノッテ モ モウ イッカイ  
ネ モドッタノ。# モドッテ ナンカ ワスレモン シタノ。  
ボク, # パパト ント ママトネ ボクト; # ワスレモン  
シテネ モウ イッカイ モドッテ モッテ キテ モウ イッ  
カイネ キテネ ソイデネ ト ソコニ トマッタノ。然 ン。  
今度は話を変えて幼稚園の話をしよう。

○ヨウチエンノ ハナシ? /幼稚園で好き? /〇スキ。/何するの  
がいちばん好き? /〇アノネ # カミヤ アノネ コッチ

○「ネオンサイン」ということは  
は知らないらしい。

○ここでも「オウチノ マワリ?」  
と問の反復がある。

○「けど」が使える。

○補足的表現が多い。

マッスグ イッテネ カミヤコウエンノネ ソコデネ アソ アノネ イツモ イツモ アノネ オヤスミ ナツン トキ ポウシ カブッテネ # アツイ トキネ アセ カク トキネ # ボウシ カブッテネ # ソイデネ カミヤコウエン イッテネ # ミンナネ アノネ # アノ ノウ アノネ ボウシヲネ # トッチャウ コダッテ アルンダヨ。然 イジワルナコガネ # ボウシヲ トッチャウ コダッテ イルノ。然 センセイハ アノ ミニ キタノ? ワルイコガ ドコニ イルカッテ。/そう。/○ミニキタノ。/そうじゃないわ。お話を聞きました。/○ホント? /悪い子なんか見に来たんじゃないよ。/○ジャ イツモ ジャ ココニ イツモ キテンノ? /いつも来れないよ。/○キテル。

M君みたいな子がどんなお話をできるかききに来たの。

○ホント? /だからきいているでしょ今でも。/○ン。

何して遊ぶの? 幼稚園では。

○ヨウチエン? # ああ保育園だ。幼稚園じゃなくて。/○ホイクエン。 イヤ カミヤ ホイクエンダ。では何して遊ぶの?

○アノネ # ナンカ イロンナ モノ シテ アソブ。# コッチノネ # コッチニ ベランダガ アルデショ。# アソコデネ プールガ コウ ャッテテネ ナンカ カケテ アル トキハネ アソバナイノ。センセイガ「ダメヨ」ッテ チュッタトキハネ ママモ「ダメヨ」チュッタ トキハ アソバナイノ。然「イイデスヨ」 チュッタ トキハ アソブノ。然 僕ね,/○ン。/いろんな人の所行ってはおもちゃとてたでしょ。そんなことしなかった?

○ン。アノ ドロボウ ダケダヨ。オコメヤナンカ トッチャウノハ ドロボウダケダモン。然 キンカヤナンカモ ナンデモ トッチャウ ヒトハ # ドロボウダ(ケ)。然 僕はいろんなとこいってはお友だちが遊んでいるものちょうどいいって言っていたでしょう?

○イワナイヨ。/それ違った? /○ン。

そんなことしないよね。

○ズッ ズット マエハネ # チーグサ イッテル トキハ # 「ショウダイ」 チュッタケドネ。# カミヤホイクエン キテルトキハ # イワナイ。然 オマツリン トキハネ # オマツリン トキハ ジュースヤナンカ ク<sup>(ラ)</sup> ルデショウ? 然 ダカラ; コンドネ ポクンチノネ # オジイチャンチ オ オジイチャント オバアチャン ネ # ウチ コンド イナカ(ノ) オウチナノ。然 イナカノ オウチガ コンドネ # オジイチャンガ オジイチャント オバアチャンガ イル。然 ポクンチノ オジイチャント オバアチャン。/いいわね。/○ソコニネ # デンシャ イッパイ ノッテ キシャポッポモ ミテネ # ケムリネ ダシダスネ キカンシャ ノッテネ, /煙出す機関車があるの? /○ン。ソレ ノッテネ アカバネネ # トマッテネ # ソレカラ マタ ツル<sup>(セ)</sup>ン イクネ デンシャ(ン) ノッテネ # ソイデ ソコデ ツル<sup>(サ)</sup>ン トコデ オリテネ ソイデネ イナカノ オバアチャンチナノ。ソコガ; おばあちゃんちには何がある?

○話がだんだんそれでいく。「あついのではうしをかぶる」→「ぼうしをとっちゃう子がいる」→「その子はいじわるの子」→「わるい子をみにきたのか」と。

○質問者の「幼稚園」という間に疑問を出す。

○「コウ ャッテテネ」は「コウ ナッテテ」と使うべきところ。

○自分の所業に対する言いわけがおもしろい。

○オバアチャンチ? # オバアチャンチハ ボクト オンナ  
ボクンチト オンナジネ アノネ # イッコネ オモチャバコ  
ガ アンノ。然 アノネ カゴニ ハイッテテネ # カゴニ  
ゼンブ ハイッテテネ オモチャガ。# ソコニ ソコンナ ソ  
コノネ ハイッテル トコハネ コウ ビニールデ コウ カゴ  
ガ ハイッテンノ。ソン ナカ; # ダカラ チラカシテモ ダ  
イジョブナンダヨ。オシイチャンチハ; 然 アノネ アノネ #  
ツクエハネ サンジョウニ アッテネ # ソイデ マエノ オ  
ニイチャンハ イツモネ # ボク スキナノ。然 ソイデ イ  
ツモネ キタ トキ アソンテンノ。/いいわねえ。/○ソイデ  
サ ボクンチノ # チカクニハネ ボクノネ バスノ ノル  
トコ アッテネ # コッチガワニネ # サイユウッチュウ  
トコ アッテネ # ナンデモ オクジョウデモネ デモネ タ  
ベラレル トコガ アンノ。サイユウストア。/あ、西友ストア。  
/○ン。

西友ストアは近くなの?

○ボクンチノ? # ウウン。# モット サキ, # サキニ。#  
ホラ ジドウシャガ トマッテル トコ アルデショ。#  
(コレ) ヘンナ エ。<sup>いっぽいね。</sup>ナツヤスミノエイガノ コウイウ カ  
ンパンガ テル。然 アソコ シッテルデショ。/知ってる。  
/○アソコノネ # コッチガワニ アンノ。然 <sup>(セ)</sup>イユウカ  
イ。

何売ってんの?

○アノネ アノネ # アソコノネ # エイゴノ カイ エイゴ  
デネ # ナツヤスミノ トコ シッテルデショ。(コウ ヤッ  
テ)。

英語で夏休み? 知らない。

○エイゴデネ # ナツヤスミノネ # トキネ アノ ド エイ  
ガカンニ イッテネ # クマサンヤナンカ ミテ キタ。然  
ソノ ナマエハネ # ジャングルブック。

ジャングルブック見たの。どんなお話だった?

○ダ ダケドネ カラーナンダヨ。アレハ;  
きれいだったわねえ。

○ダケド イロ イロガ デテンノ。/カラーだから色が出てんの  
ね。

○ン。ソレカラ ベンキデ ヌッタミタイニ コウ イロガ デテ  
ルノ。然 ボクンチダッテネ カラーナンダヨ。カラーテレビ; /  
あるの? /○ダケド シロクロン トキダッテ アルヨ。然 (ホ  
シデ) モ ナンデモネ コウ。コウ ヤッテ マワス トコ ア  
ンデショ。/手をふりながら一生懸命話してくれるわね。/○ア  
アレネ アレヲネ, # シタノ オシチャウトネ # コウ  
ヤッテ コウ マワシチャウトネ/チャンネル回すと? /○チャ  
ンネルジャナクッテネ コウイウネ # コウイウノ マワス  
チャンネル マワスト シロクロ ネッタリネ # デタリ  
ネ # オカシイ トキダッテ アンノ。然 センガ イッパイ  
デチャウ トキダッテ アンノ。

ジャングルジムってどんなお話だった?

○ジャングルブックダヨ。

ジャングルブックってどんなお話だった?

○話がどんどん発展していく。質  
問者が質問をはさまないと止ま  
らない。

○「ダケド」口ぐせ的。

○アノネ # トラヤネ # ショウヤネ # ヘビヤネ # ナンカガ イッパイ デテ キタノ。然ン。  
それでどうしたの？

○デ アレネ ダケドネ # ポク サイショハネ ポクネ アレネ アノ ヒトダト オモッチャッタ。然ン。ホントニ シャベルンダヨ。アレ；／しゃべらないよ。／○ホントニ ヘビダヨ。ヘビダヨ。然 ヘビガ シャベッテ ソイデネ # アノネ オニイサンノ アカチャンガネ サイショ デテ キテネ ソイデ ジャングルブックッテネ # ダンダン オオキク ナッテキテネ # ジャングルブックン ナッテネ # ソイデネ ドッカニ キリンヤ カンガルーヤナンカガ イテネ # ゾウサンヤネ # ナンカガ イッパイ デテ キタノ。# ケモノバッカシ；／よく覚えているわねえ。／○ケモノバッカシガ イッパイ デテ キタノ。ライポンモ デテ キタノ。ライオンモ；／ん？／○ライオンモ デテ キタノ。然  
僕大きくなったら何になりたい？

○アノネ バスノ シャショウサン ナリタイ。  
どうして？

○ダッテ バク ポクネ バスガネ # ポク ダイスキナノ。然ン。ダッテ バスノ シャショウサンテサ # トマ サイユウノ トキナンカサ # イク トキナンカ（トオク イク トキナンカ） シュウーッテ（ヒイテ） ズーッテ ント ハヤインダ。チョウトッキュウヨリ；然 ヒューツ。／本当？／○ホントダヨ。じゃあね、数いくつまで数えられる？

○アノネ # アノネ # サンジュウマデ。然 ゴジュウマデカナ。ア ゴジュウマデ。  
こっちの手どっちの手っていう？

○アノネ # オハシネ モツ ホウハネ コッチデショ。# コッチ オハシ モツ。  
お箸持つ方の手はどっちの手って言うの？

○アノ コッチ？ コッチハ オチャワン モツ ホウデ コッチガ オハシ モツ 然 オハシヤ アノ # コウイウ オシャジヤナンカ モツ ホウ。コッチハ；然 ソイデ コッチハ コウ オチャワンヲ オサエタリ コウ。然  
お茶碗をおさえている方の手はどっちの手って言うの？

○アノネ コッチノ テッテ イウノ。然  
夢見る？

○ユメ？ # ミル トキ ダンダンネ # ダンダン ミル トキモ アル。  
どんな夢見た？

○キョウハ ミナイケドネ # ズット マエ オジイチャンチニトマッタ トキ ヒトリデネ オジイチャンチ イナカノ オジイチャンチ トマッタ トキネ # アノネ ユメ ミタ コトハ アル。然  
僕のうちに保育園から行くにはどういう道通って行くの？

○アノネ カミヤコウエンノネ # アノ ミチ トオッテ イクノ。ソノ ミチ マッスグ イカナイデ チョット ソコニ カミヤコウエンガ アルデショ。コウ マッスグニ；# ソコニ チョット マガッテ ズーット イクノ。

○「ショウ」→「ひょう」の意。  
発音についてはこの本では取りあげていない。

○右とか左が出るかためしてみた  
が出なかった。

○「ダンダン」の使い方おかしい。

○「ミナイケドネ」→「みなかつた」と過去形を使った方がいい。  
「キョウ」もおかしいが。

○「アノ ミチ」「ソノ ミチ」「コウ」「ソコニ(を)」などというこ  
とばで片づけている。

神谷公園の近くなのね。

○ドコガ? 僕のうち。 / チガウヨ。然 ソッカラサ # ズーッ

ト ウチノ アッチニ シャシンヤサンガ アルデショ。# アソコ ズーット トオッテ イッテネ # アソコニ ギュウ ニュウヤサン アルデショ。# ソコ マタ ズーッテ。ソイデ タバコヤサンガ アルデショ。ソノ アガッタ トチュウニ; # ント ハナヤガ アッテ ソノ ソ トリヤガ アッテ # ソノ ヨウフクヤガ アッテ ソノ ツギニ ント タ トリヤノ マエニ タバコヤサンガ アルデショ。# ソコ一ネ ソコノネ ソノ トナリガ ボクンチ。然 ン。/公園の近くじゃないの? /○ン。/然 だって公園に遊びに行くんでしょう。近いのかと思った。

○ダッ チ チカイン, チョット チカイケドサー。# ダケド コウエン イク トキハサー # ハイル トキハ ダイジョウ ブダケドサー。# オフロヘ イッテサ # マルブロニ ガッコウノサー トコ トオルトサ オフロ イク トキ マルブロ イッタラサ カエル トキガ トオク インダモン。然 イク トキハ トオク ナイ チカイケドサ。# イク トキハネ # カンジガネ # ントネ アノネ アレダト オモウ。チカイト オモッテネ # カエル トキガネ # カ カンジガネ # トオクイト オモッチャウ。/どうしてかしらね。/○ワカンナ イヨ。

僕テレビ見る? /○ミル? ミルヨ。/どんなの見てる?

○マンガ イツモネ # ケロヨントカ カエルガ デテ クル マンガトカネ # ナンカ イツモ ナンデモ ミテンノ。ヨルハネ # ヤキュウノ ヒューマクン ミテンノ。/飛馬君? /○ン。

飛馬君のお話聞かせて?

○アノネ # コイデネ ヤキュウ イツモネ オトウサンニ オコラレテ ヤキュウ ャッテンノ。然 オトウサンニ イツモ オコラレテンノ。ソイデ オネエサンガ イテネ # ヒュウマクニ, ソノ ヒトガネ # イツモネ アノネ # イツモ デテ キテネ # アノネ オワリノネ アノネ ウタン トキハネ # アノ ヒューマノネ ナンデモネ ワッタリナンカ シテンノ。然 ソコ ミチャッタモン。然 ア,

いちばん好きなの? それが。

○ン。イチバン スキダネ。コンドハ ヨルダヨ。# ヨル ヨルネ ヒューマクン ャッテナイン(ダ)。コンドハ アタラシク ヤンノ。ウルトラセブン, ウルトラマン, # ウルトラセブン; (ガーッテ ナゲ) コウ アタマヲ ジャーッテ ナゲルトネ # ココデ ドッカ ピートアタルトネ # カイジュウノチカラモチノ (ギュ) ットモ ヒュッテ ナゲルトネ ナゲヨウト オモッテネ ピーッテ ヤルトネ # モイッカイ ピーッ。マタ トンデ クンノ。然 モイッカイ ピー ヨツツモ デテ クンノ。コ コンダケモ コンダケモ デテ クン/ジェスチャー うまいね。こんだけってそれいくつ? /○ヨツツ。然 ゴジュウモ デテクン。然 バンバン。然 ソイデ ドコデモ ピンピンテ アタルカラ # コワイウ トコモ (ドンドン) ポコン

○「カンジ」おもしろい使い方。

○「トオクイ」→「遠い」の意。

○「見る?」に対して一応「ミル?」  
と言い、「ミルヨ」という。エコラリーと言われているよくない癖。

○「オコラレテ」は「おこられながら」が言えないからだろうか。

○ジェスチャーに音まね語をまじえて生き生きと話す。

ポコンテ トレチャウンダ。然 (コケナンカ); 昔なんかが /  
トレチャッテ ドカーンテ ソイデ カイブツクン カイブツガ  
ドカンドカンテ ドカーンテ ドッカニ タオレチャウンダ。  
お母さんね絵本なんて読んでくださる? / ○アノー イツモ? /  
お話なんかしてくださる?

○ヨルネ # オジイチャンジャ ナクッチャ オハナシ シテ ク  
レナイ。然 ン。

おじいちゃんからきいたお話きかせて。

○アノネ # どういうお話がある? / アノネ ハナガ (トン  
コウ) ナガクッテネ # ナンカ ソウイウ オハナシ シテ  
モラッタノ。/ おぼえている? / ○オボエテナイ。然 ワスレ  
チャッタ。然 ムズカシイカラ。然

保育園の先生お話してくださる?

○ヨウチエンノ センセイ? ボクノ? # ボクノ セン ボク  
ノモ ボクノ ボクノ? / そう先生。/ ○アノネ # カツモトセ  
ンセイトネ # ヤキバセンセイト # クボタセンセイ。#  
コレダケ;  
どんなお話してくださった? / ○ネル トキ? / 寝る時でもいい  
わ。

○ネル トキハネ # アノネ # アサ ハヤク ネテネ アサ  
ハヤク ネチャッタノ。然 ソイデ フトングミハネ タオルノネ  
# コウイウネ # コウイウノ カケテ クレテネ # ソイ  
デ オニノ ホン ズット マエ ョンデ ハヤクネ (キモ)  
アノネ ネー # アノネ # ……/ 何? いいわ。/ ○パジャ  
マ キル トキ # パジャマ ハヤク キタラネ # ナンテ  
モ ョンデ クレルノ。然

これ縞馬とライオンの絵なのよ、こういうふうに絵をみながらお  
話してみて。/ ○ン。/ ライオンがどうしたの? / ○ナンチュ  
イエバ イイノ? / お話すればいいの。ライオンがどうしたのか  
自分で好きなように。

○アノネー エートネ # ナンカ コウイウノ シマウマガ キ  
タカラネ # カミツコウト オモッテネ ドンドン イッテ  
オイカケテンノ。然 ソイデネ コノ ライオン コノネ コッ  
チノ ライオンハネ # ツカレテネ ココデ ネテテネ ソイ  
デネ コノ シマウマタチガ # ココニ アツマッテネ #  
マアルク ナッテンノ。

字が読める?

○ジ? # ヨメナイ。

じゃあね、もう一つ。

○モウ ヒトツユ? # ナニ (コレ) (コンド)?  
今度はこのお話してみて。

○ナニ コレ? ナンダ コレ? / こちらからこういうふうにお話  
してみて。/ ○アノネ # コッタカラネ? / こっちからよ。/ ○  
カメガネ # ウサギガ サキニ ドンドン イッテネ ソイデ  
カメガネ ノロノロ イッテネ # ソイデネ アノネ ナンカ  
ネ ウサギガ ドッカデ ヒトヤスミ シテネ # アノネ カメ  
ガ サキニ イッテネ イットウショウ ナッチャウノ。/ 何の  
お話? / ○アノネ # カメトネ # ウサギノ カケッコ。#

○二重否定文、幼児にはめずらしい使い方。

○質問をよく理解していないため  
か。

○調査者に質問している。時々こ  
ういう幼児もいる。

○「ライオンが」の主語を言わな  
い。

このお話をいたことがある?

○アルヨ。ズット マエニ # アノネ ズット マエネ ママネ  
ヨンデ クレタノ。

じゃ今度これは?

○コレ? # コレ ナアニ? / こっちからよ, こっちから。/ ○  
コッチカラ? # ナンダ コレ? コレ ヨンダ コト アッ  
ナイ。

なくていいの。自分で絵を見ながら考えたとおり言えばいいの。

○アノネ # ココノ コウ コウ ナッテタ コウ アノネ  
コウレネ ドウシテ コウ ナッタカッチュウトネ # コウ  
マッスグ ナッテタノガネ カレチャッテ コンナ ナッチャッ  
タノ。ソイデネ カケテモ コンナニ ナッ ソイデ コウ プ  
チント (オ) (ナ) ッタノ。  
じゃこれは何でしょう。

○コレ? / こっちからよ。/ ○コッチカラ? # アノネ クマガ  
ネ コノ ネズミノ コトネ オイカケテネ イッテネ ソコ  
コノ トランクニ ポント ブツカッテネ ココネ ドントネ  
スワッチャッテネ コレ モウ コノ ソラネ ポートト オチ  
テ ポートト コッチ イク。アノネ # コウ ャッテネ  
オッコッチャウノ。# ココデ, # コウ;

熊とねずみが落っこっちゃったのね。/ ○ン。/ 先生が読んでく  
ださった三匹の山羊のがらがらどんのお話をできる? / ○デキル。  
/ じゃやってみて。

○アノネ # サイショハネ # クサヲネ オオキイ ヤギト  
チ, チ チビヤギノ ガラガラドンガネ アノネ ヤマニネ ナ  
ンカ ハッパ タベニ イクノ。ソイデネ ソノ ツギ ニバン  
ハネ アノネ アノネ ハシノ ハシヲネ ハシノ シタ( )  
ガネ キミノ ワルイ トロルガ イテネ # ソイデネ ハナ  
ガネ ツギデタ ハナデネ ヒカキボウノヨウナ # コンナ  
トンガッテテ コウ ナッテテネ # ソイデネ ソコヲネ ワ  
タラナクチャ イケナイノ。# ソイデネ ソコヲ ワタル(ト)  
チビヤギノ ガラガラドンガ サイショニネ イチバンニ キ  
テネ トロルガネ 「ダレダ」ッテ イッテネ # 「チビヤギノ  
ガラガラドンデス」 チュッテネ 「オマエヲ ヒトノミニ シテ  
ヤルゾ」 チュッテ 「オット タベナイデ クグサイ。モット ポ  
クヨリ モット オオキイ ヤギノ ガラガラドンガ クル」「  
ソレナラ マッ トットト キエウセロー」 ンテ イッテネ コ  
ンド ニバンメ ヤギノ ガラガラドンガ ャッテ キテネ, #  
ソイデ 「ダレダ オレノ ハシヲ カタコト ガタゴト サセ  
ル ヤツハ?」 チュウテネ 「チビヤギ ニバンメ ヤギノ ガ  
ラガラドンダー」 チュウテ 「ソノ ヒトモ ヒトノミニ シテ  
ヤルゾ」 ンテ ユッテネ ソイデネ 「モット オオキイ ヤギ  
ノ ガラガラドンガ クル」 チュッテネ 「トットトネ キエウ  
セロ」 チュウテネ ドンドン イッテネ コノ アトデ モウ  
ヤッテ キタノガネ オオキイ ヤギノ ガラガラドンガネ キ  
テネ # 「イッタイゼンタイ ナニ モノダー」 ンテネ ユッテ  
ネ トロルガ ドナリツケタラネ 「オオキイ ヤギノ ガラガ  
ラドンダー」 チュウトネ ソレハ ガラガラゴエダッタノ。(笑)  
ソイデネ (ツキデ) メダマハ デンガクザシテネ トロ ア

○「ドウシテ コウ ナッタカッ  
チュウトネ」と、言わんとする  
ことをまず提示する文脈導入形  
式を話しているところなど年少  
らしくない。

○「~カケテモ」の「何を」がはっ  
きりしない。「水をかけても」の  
意。

○「サイショハ」「ニバンハ」とい  
う。ひとりっ子で20歳前後と見  
られる使用人(?)と親しくして  
いた影響か。大人の表現。  
おしゃべりではあるが、筋の通  
らない話し方も多い。  
E女に近い。

イシテ イシモ フタツ アル オマケニ オオキナ イシモ  
フタツ アル チュッテネ トロル(ヲ) ヲ タニガワニ オト  
シテ シマッチャッタノ。ドボーンテ オトシチャッター。#  
ソイデネ イッショニ トロルハ イッショニネ バラバラニ  
ナッテネ # ソイデ ドッカ カ カワ タニガワト イッ  
ショニ ナガレテ イッチャッタノ。ソイデ オワリナノ。

よくおぼえていたわね。

○ダッテ ズット マエネ # オソイ トキダッテネ # ボク  
ハヤイ トキネ ズット マエネ イッパイ ミテ ズット マ  
エ ズツ ズーット マエ (ニニ) # ネ ガラガラドンネ  
ヨンダカラネ # アノネ オボエタノ。然  
どこがおもしろい? いちばん。

○イチバン サキ? /どこがいちばんおもしろい? /○アノネ #  
トロ トロルガ ドナリツケタバッカシガ オモシロイ。然「  
イッタイゼンタイ ナニモノダー」チュウ トコロガ オモシロ  
イ。

○何度も先生からこの絵本を読ん  
でもらったらしい。要領よく話  
せず、聞いた順序で何もかも話  
そうとするのがこのころの幼児  
の特色である。

### 年長児で文節数の一番少ない幼児

自長一F女 (5:7) 1966 姉 姉 兄 本 弟  
お名前いって。

○S・Y。

いくつですか? それいくつっていうの? かぞえてごらん。い  
つつね。お家だれとだれいる?

○オニイサント オネエサン フタリデネ # ウーントネ #  
オトコノ コネ フタリデネ # オカアサント オトウサン。  
だれ一番好き?

○アカチャンモ イ <sup>(ル)</sup> <sub>(ツ)</sub> カラ アカチャン。然  
どうして赤ちゃん好き?

○カワイイカラ。然

お父さんのお仕事知ってる? なにしてらっしゃるの?

○ハコ一 ツクッテル。然

お母さんは何してらっしゃる?

○ナンカネ オトウサント オンナジノ モノヲ シテル。然  
お祭あったでしょ? どんなだった?

○イカナカッタカラ ワカンナカッタ。然  
お休みしてたの? お家でなにしてた?

○カゼ <sup>(シ)</sup> <sub>(ヒ)</sub> イテカラネ # オイシャサン イッタリネ ウチ  
デ ネテタリ。然

寒かったものね。いつも保育園では何する?

○ブロックデ アソンデンノ。

なにつくるの? ブロックで。

○オウチ。然

それからどんな遊びする?

○ソレカラネ ソトノネ オニワデネ ブーランコ ノッタリ テ  
ツボウ シタリ アソンデル。

何が一番好き? 保育園でやることでは。

○ブロック。然

ほかはどんなの好き? /○……/先生どんなお話してくださる?

○指で示すが、口で言えない。

○家族構成はまちがいなくいう。  
弟ということばは出ないが。

○「オンナジノ」の「ノ」は不用。  
こういう言い方が残っている幼  
児は年長には少ないがいるので  
ある。

○「～ノッタリ～シタリ アソン  
デル」並立関係の文の不十分な  
例。「～したりしてあそんでる」  
と言える幼児は年長にはいるが  
少ない。

／○……／じゃお家から保育園に来るにはどんな道通ってきます？お家を出てから、どういうふうにくるの？

○イシガ アル トコ トオッテ キテネ ソレカラネ タイラナ  
トコ トオッテ キテ ソレ ソイデ クル。然  
テレビを見るの好き？ どんなの見てる？

○ナンカ マンガトカネ ダイマツッテ イウ ヤツ デテ クル  
ヤツ。然  
大人のものも見る？ みない。何が一番面白くてよくみる？

○マンガ。  
まんがの中で、いろんなのやってるでしょ？

○アトム。  
アトムってどんなふうな子ども？

○ロボットノ (ヤツ) デネ オシリカラデモネ ヒガ デテ キ  
テネ アシカラモ デテ キテ トベル ヤツ。  
アトムのどこが好き？ 気に入ってる？

○ゼンブ。  
特にどういうことやるから好き？

○ワカンナイ。然  
お母さんがね絵本読んでくださったりお話してくださったりする？ 全然しない？ そう。どんなお話をいた？

○ワスレチャッタ。然  
先生がね絵本持ってきたのこの字読める？ まだ読めない。そう。  
じゃこういうふうに絵をみてお話してみて。／○……／ライオン  
がどうしたの？ 紹馬どうしたの？／○……／これはどうして  
ところ？

○オッカケテル トコロ。  
そしてこれはどうしたんでしょ。お話するのいや？ そう。じゃ  
このお話してみて、こちらからね。／○……／じゃ夏休みはどう  
した？ なにしたお家で。

○オソトデ アソンデタ。  
保育園から合宿いった？ どうだった？

○オモシロカッタ。  
何したのがおもしろかった？

○ベットデネ アソンダ トキガ。然  
ベットで何したの？

○ナンカネ オニゴッコミタイ コト。然  
じゃこのお話は？

○ワカンナイ。然  
これは？ これは熊よ。熊がどうしたの？

○ネズミヲ オイカケテ イル トコロ。  
そして？

○トラックニ ブツカッタ トコロ。

○この道順の説明はめずらしい言  
い方。

○テレビの題名がはっきり言えな  
い。

○一語文で話すのが多い。

○絵をみての話はほとんど話さな  
い。

○別の話をさせる。

○「ミタイナ コト」と言えない。  
○もう一度絵にもどって聞く。ま  
ちがったことを言っているわけ  
ではないが少しあなた話さない。

### 年中児で文節数の一番少ない幼児

神中一長男 (4:7) 1968 本弟

お名前いってください。／○……／ぼくの名前は？

○N・M。

お年いくつ？

○ヨンサイ。然

おうち誰と誰います？

○オトウサント オカアサント アカチャン、（ト）アカチャン。  
誰一番好き？

○オカアサン。

どうして？／○……／お母さんのどこがいい？

○ワカンナイ。然

お父さんのお仕事知ってる？／○……／お母さんはいつも何して  
らっしゃるの？

○チャワン アラッタリネー # オベントウヲ アラッタリ シ  
テル。然

朝起きてからどうする？／○……／保育園で何する？ 何が一番  
楽しい？／○ウン？／保育園で何するのが一番楽しい？

○ツミキ。

積木で何つくる？ 自動車？ 飛行機？／○……／お当番ってど  
ういうことするの？

○オヤチュヲネー ハコンダリ モッテ キタリ、ネー # ツク  
エ フイタリ。#  
大きくなったら何になりたい？／○……／ぼくね数いくつまで数  
えられる？

○ヒャク。然

10から逆に数えられる？ やってみて。

○ヒトーチュ フターチュ ミツツ ……。

それはできないのね。保育園からぼくのうちへ行くにはどういう  
道通る？

○ワカレミチ。／うん？／○ワカレミチ。然

そしてどう行くの？／○……／夢見る？ 見ない。テレビ見てい  
る？ ど／かの見てる？ ウルトラ・セブンなんか見てる？ ど  
んなお話？

○コンド スル。然

絵本持って来たのね。このお話してみて。ライオンと綿馬のお話  
なの。ライオンがどうしました？／○……／この字読める？

○シーマーウーマートーラーイーオーンーエーネーミーテーオーハ  
ーナーシーラー シーマーシーヨーウ。

誰に習った？

○ヒトリデ（ ）。

自分で読んだ絵本のお話して。どんなご本読んでいる？

○ショウネン・マガジントカネ # (ヒバリノ ホン) トカ。

これはどういうお話かしてみて、ここからここまで。／○……／  
兎と亀がどうした？／○……／これは？／○……／じゃーね僕本  
を読んでみて。

○エーンーニーイールートオーブーツーヒーローコーサーンーイ  
ースーサーンーアーソービーマーシーヨーウ。ミ／ずっと読んで。  
／○ミーンーナーオ、トーモーダーチーデー {シユ} #  
どういうこと書いてあった？

○ンー。

○この幼児も一語文で答える。

○この幼児はお話はしないが、字  
は、ひろい読みで読める。(拗音  
は読めない)

○字を追っているだけで意味はわ  
かっていない。

## 年少児で二番目に文節数の少ない幼児

赤少一h男 (3:6) 1970 本

名前なんて言うの? /○……/名前言ってちょうだい。I・Sくん  
ね。いくつ? S君は。/○サンシャイ。/ん? /○サンシャイ。  
/大きな声で言ってごらん。/○サンシャイ。/おうちには誰と  
誰がいるの? /○……。/お父さん何してる? いつも。/○オ  
シゴト シテル。/おうちで? /○……。/どんなふうにやって  
るか見たことある? /○……。/何してたの? お父さん。机の  
上向かってんの? /○……。/お母さんはいつも何してらっしゃ  
る? /○オリョウリ。/大きい声で。/○オリョウリ ツクッテ  
ル。/どっち好き? お父さんとお母さんと。/○……。/両方  
とも好き? /○……。/ふんふんなんて言ったんじゃだめよ。こ  
とばで言わないと。  
幼稚園から帰って何した? /○……。/きのう何した? /○……。  
/今何してた? 幼稚園で。/○……。/遊び? お歌? /○……。  
/夏休みだったでしょう、ね、どっか行った? /○イカ  
ナイ。

○名前も言わない。

○幼児音

## 同一幼児（男）の年中、年長期の話しことば

自中一s男 (4:10) 1965 本 弟

ぼくの名前を言ってください。

○S・(ヒ)ロシ。  
(シ)  
いくつ?

○イツツ。

きのう面白いことあった? /○ン? /きのう何か面白いことあつ  
た? /○ン。/お話して。

○ン。アノネー ウント キノウハ シャムカッタッテネ カゼ  
シイタケドモネー シート ドウブツエン イッチャッタノ。カ  
ゼ シイテタケ (ド) (ロ) モ。然  
で?

○パパニ オンブシテ、カエリ ネムッチャッタノ。

重かったでしょう。

○カエリネー ボク ネムッチャッタカラネ エッオ ダレ (ラ)  
(ダ)  
ト オモッタラ ママラッタノ。然 ママン トコニネ コウ  
ナッタノ。然

何見た? 動物園では。

○ドウブツエンデネー ント ゾウトネー ウント コウラクエン  
モ ハイッテッタヨ。然 ン。アン カバトネー アト キリン  
ト ゾウト キバ アル ゾウ。/ん? /○キバ アル ゾウモ  
イタヨ。

どういうの牙ある象って?

○キバ アル ゾウネ ココニ キバ フタツ アルノ。シテネ  
オハナガ ナガクテネー ソシテ ミミガ オー ウーント  
オッキイノ。然 (ゾンテト) ト ミズン ナカ ハイッ  
テタノモ イッタヨ。然 ドウイ(ウ) (オヨ) オヨギ オヨギ  
(イ) ッタカ シッテル?

知らない知らない、教えて。

○この幼児は「ヒ」を「シ」と發  
音する。幼児音が残っている。

○「パパニ オンブシテ」→「おん  
ぶされて」となるところか。あ  
るいは「おんぶしてもらって」  
となるところか。

○この文は途中から話題が変って  
くる。

○このへん動詞の使い方おかし  
い。

○アノネ オヨギ イッタカラネ シッポー ウゴカシテ イ……  
イー ヤッテタノ。  
水中泳ぐの？

○ン。然 ソレカラネー ウント カエリハネー ウント オー ド  
マンスカー ノッテ キタノ。  
あら、よかったです。

○ソシテネ シカリゴウモ ノッテ キタノ。然 ツカレタカラ；  
然 タクシーナンカ コナカッタカラ バス ノッテ キチャッ  
タノ。然 ヨコハママデ イッチャッタンドヨ。フタリデ； ヨコ  
ハマノ ドウブツエン。然 ン。# カエリハ ウエンニ イッ  
チャッタカラネ ント ウエンニチ イッチャッタノ。然 ヨウ  
チエン イカナイデ；  
あら、さぼったの？

○ン？  
幼稚園さぼっちゃったの？

○ウン。然 ヨコハマカラネ キタラ マタネ モ ヨコハマ  
ズット ムコウ ホ イッチャッタノ。然 ムコウノ トオイ  
トコロダカラ。然 デンシャン ノッテ ズーット。然 トオク  
ノ イナカノ ホウニ。然 ズット マエハネ ウント # ズ  
ーット マエニネ スンデタ トキハ イナカ イッチャッタ  
ノ。然 イナガ イッタ トキネ，  
田舎って？

○イナカニネー ント ハタケニ トンボガ イッパイ イテネ  
ツカマエテ キタノ。  
よかったです。

○カブトモ イタヨ。然 アトネー ウント カエリハネー ウン  
ト ヨルン ナッテネー トマッテ キタノ。然 ミツツダケ；  
然 ソレカラネー ント カエッテ キタ アトニハネー エー  
ト # ネチャッタノ。# エ デ ネムタク ナッテネ #  
アサ オキタラネー キョウ ヨウチエン キタノ。然  
幼稚園って好き？

○ン？  
幼稚園って好き？ どういうとこいい？

○ドウ イウ トコ？ オヘヤ？  
いろんなとこ、いいとこあるでしょう。好きなところあるでしょ  
う。

○ウン。  
どこ？

○ドコッテネ，  
どういうもの？

○ツミキ？ オッキイ ツミキ。然  
なに作るの？

○ポートヤネエ オッキイ フネヤ。然 ツクレンノ。ボク；  
上手なんでしょうね。

○ジ<sup>(口)</sup><sub>(ド)</sub> ウシャダッテ ツクレンノ。然 トラックラッテ ナン  
デモ。  
こんど見せてね。／○ン。／それからなにが好き？

○アト？ # ウントネー …… チッチャ(ナ) ツミキモ ス  
キ，ダシネ # アトネー ウント ナニカナー …… オママ

○「ドマンスカー」→「ロマンス  
カー」ラ行がダ行になる。幼児  
音

○「疲れたからひかり号に乗って  
きた」と言わないで、理由を補  
足している。

○「ウエンニ」→「上野」か。

○話がとんでいく。

○この幼児は、あるいは倒置的(補  
足的)な言い方が癖なのかもしれない。

○「ドウ イウ トコ」と、質問  
者の間を反復している。

○ダ行とラ行の発音の混同が多  
い。

ゴト <sup>(ヒ)</sup> ッショニ ャッタ トキネ ウント # スキダシ  
ネ、ソンダケガネ スキナノ (ハ)。然 マタ (ナ一) キノウノ  
(ツギヲ) イ一 ミツツボ イッタノ。# イッパイ イッタン  
ダヨ。ヤスンデタ トキ; 然 シテネ キョウカラ ヤメ  
チャッタノ。イクノ; 然 シテネ イッタ トコハネ ウン  
ト ジュウホイクエンノネ チガウ ヨウチエンネ。ズット マ  
エ イッテタンダ。然 ズーット トオイイ トコ。然 ボク  
ズーット マエネ トオクノ ホウニ イタノ。然 ソシタラ  
コッチニ コシテ キタノ。然 ウチノ オトナリ (アメント)  
ボクニ コッチ ガワノネー オウチ(ダト) モウ ニカイダ  
テ ツクッテンノ。然 フルイ オウチ カリテンダ。然 アト  
ネ ウント, # (トナリノ) オウチ モウ デキアガッタカラネ  
カ…… ン…… ボク ズーット マエ ヤスンデタカラネ  
チヨ…… アノ一 オソトデ サムカッタノ。# シテ デ ト  
デン ノッテネー # ント バスン ノッテネー # ント  
タクシ一 ノッテ ロマンスカー ノッテ キ キュウコウレッ  
シャ ノッテ ズット ヨコハマ イッチャッタノ。# イナカ  
ニ; 然

○話がずんずんそれでいく。

幼稚園でおままごとをするでしょう。／〇ン。／その時にはぼく何  
になるの？／〇ナニ。／おままごとをする時ぼく何になるの？  
○オニイサンやネー シート オニイサンヤー オトウサン。然  
お兄さんやお父さんになった時どういうふうに言うの？

○アノネー ウント カイシャ イ <sup>(グ)</sup> <sub>(ク)</sub> トキハネー イン 「ハ  
イチャ」 ッテ <sup>(イウ)</sup> <sub>(シ)</sub> ノ。然 アカチャン イルカラ; 然 スッ  
トムーハ 「ハイチャイ」 ッテ イウンダ。然 ストムモ ボクガ  
「ハイチャイ」 ッテ (イエバ) ストムモ 「ハイチャイ」 ッテ。  
じゃーね／〇ウーン。／ぼくのうちにはねえ、／〇ウン。／だれ  
とだれがいるの？

○「ストム」→「つとむ」の意。

○アノネ ウント オバアチャン ン一 ハタライテルゲ <sup>(ド)</sup> <sub>(ロ)</sub> ネー  
ウント オトウサントネ ウント オトウサン シンジャッ  
タンドケ <sup>(ロ)</sup> <sub>(ド)</sub> モネー, 然 ウント マター モウ ニュウイン  
シタカラネー モウ ナオッタノ。ニュウイン シタノ。

○「死」とはなにかわからていな  
い。

死んじやって入院したの？  
○ウン シンダラ ニュウイン シテ モウ ナオッチャッタノ。  
然 ドコモ; 然 (ソ) シテネ # ウント …… ボクガ  
ネ # ウント…… イッタ トキハネー # ウント # ズ  
ーット マエデ シンデタノ。然 ニュウイン シテタラネ#  
ウント ボク ズーット ニュウイン シテタノ。然 シテネ  
シート ボクガ ナオッタ トキ パバガ コンド シンジャッ  
タノ。然 ボクノ ホウネー ニュウイン シテタ (オリ) ニ  
キタノ。

で、お父さんいないの？

○ン？ モ モウネー ナオッテ ウチニ ズーット インノ。  
何しててのおうちで？

○オウチデ？ # オトウサン？ # カイシャ イカナイデネー  
然 ント キカイヲ ヤッテンノ。然 オッキイ キカイ; 然  
お母さんは？

○オカアサン？ # シートネ ボクノ フュズボントネー #

シート フユ ナツノ、ネ ボウシ <sup>(ミガ)</sup>  
<sub>(ムイ)</sub> ワラボウシ ヌッテ  
クレテンノ。

いいお母さんね。

○ヒツダケ デキタノ。然 ボクノ ボウシ シュトムノ ボウ  
シモ フミチャンノ ボウシモ。然

おじい、おばあちゃんとお父さんとお母さんとぼくと、それから  
だれがいるの？

○アトネ ストムト フミチャン。

ちっちゃいの？

○ン？

大きいの？ ちっちゃいの？ その人たちは？

○オネエサン？

お姉さんなの。お姉さんはふみちゃん？／○ソウ。／つとも君は  
弟？／○ソウ。／

○チガウ イモウト。 ジャ、おうちで遊ぶ？

○オウチデ？ # アソブヨ。ボクト イッショニ；  
何して？

○アソンデ（ン） トキネ ストム ヘンジ シラレルノ。「アジャ  
アジャ」トカ。然 <sup>(ス)</sup>トムッ チ ウマ（レ）タ トキ  
「<sup>(オ)</sup>ンギヤアンギヤ」ッテ イッタノ。  
かわいいわねえ。

○「オンギヤオンギヤ」ッテ # イッタタッ（ト）キハネエ ウ  
ント ストムガネ # シート（ノー マーイ）カイッテ ナ  
カッタノ。「オンギヤオンギヤ」ッテ イッタ トキ；然 ソシ  
テ ネ シート「オンギヤオンギヤ」ッテ イッタタ トキネ  
コンド ン…… ンマ…… ュ…… 「マユミチャン」ッテ ュッ  
タノ。

おうちからね幼稚園に来るにはどういう道通って来るの？

○ミチ？ # ミチネー アノ コ（ウ）バン トコ タ（ル）。ン  
コ（ウ）バン トコ（ア）ラ クンノ。然 ボクノ オウチハ  
ネ シート モウ ニカイダテ ツクレネ ボクノ オヘヤ  
ニカイタテナノ。然 ヒトリ ネラ <sup>(レ)</sup>シノ。イツ イツツダ  
カラ。

感心ね。テレビ見る？

○テレビ？ # ドコデ？

おうちで。／○ン。／何好き？

○アノネー シート パピーヤ ミテルシネー # シート  
ジェッターラッテ ナンデモ ミテル。

どれが一番好き？

○アノネ パピートネ ント ジェッタート アトムト ン エー  
ス。

一つお話をかせて、そのうちどれでもいいから。

○オウチノ？

テレビのお話をよ。

○アノネ ント マンガ ヤッテル トキ？

漫画でも何でもいい。ぼくの一一番好きなもの。

○イチバン スキナ トキハネエ。# ント パピー <sup>(デモ)</sup>ス  
キ <sup>(ア)</sup>ノ。

○「シラレルノ」の使い方はおか  
しい。

○「ツクレテ」の使い方はおか  
しい。

○この幼児も、質問者の間をもう  
一度くりかえして言ってから答  
える癖がある。

じゃ、そのパピーのお話して。

○パピーノ ..... ネント ミタ トキネ # ント パピーネ  
ント アノ コイウ ャッテ ャルトネ # ント # パピーネ  
# ン ナッチャウノ。然 パピーッテネ マケナカッタヨ。  
然 ミタラ；然 チョット タケ <sup>(バ)</sup> <sub>(マ)</sub> ケタモン。アシダケ；  
お母さんねお話をしてくださいったり、絵本読んでくださいたりする？

○ン。

どんなお話をください?

○ネタ トキ オハナシ シテ クレンノ。然 アノネー # ン  
一 ナンノ ホンカ ワカラナイ? 然 ジャー オシエタゲ  
ル。ホン; # アノネ # ウント # ジドウシャノ ホン  
ジャ ナイモン。然 ポクノ オニイサン トキノ ホン。 然  
アノネー ウント # ナンダッケナー .....ウントネー #  
ン ジェッターノ ホントネー # ゼロセンハヤトノ ホント  
アト..... ビックエックスノ ホン。

ひとつお話を聞かせて、この先生にも。

○アノネー# シート .....アノー シー ボクネー # シート  
ママガ一 シー ョンデ クレタ ホンネー ナニ ツイテルカ  
シッテル?

知らないから教えて。

○ダイオンドモ ツイテタヨ。然 ゼロセンハネ ゼロセンシコウ  
キバッカイ ツイテタ(ヨ)。然 パピーノ ホンモ アッタヨ。  
然 パピーノ ホンネー # ント パピーバッカリ ツイテン  
ノ。然 オンナノ コ ツイテルヨ。

これね、綺馬とライオンのお話が書いてあるの。／〇ン。／ここからね、ライオンがどうかしたの。このお話をこの絵を見ながらやってみて。／〇ン。／ライオンがどうしたんでしょう。

○ライヨ (ン) ? # ....

このライオンどうしたの？

○ド(ウ)シタッテネ # ウント …… シマウマガ キタ, カ  
ラジャナイノ? # (ソ)シテ コッチ ズーット イッタン  
ジャナイ。# ア コレ オッカケテンド。然 シテ コレ シ  
マウマ コンノ ココニ イッチャッタカ(ラ) ココ(デ)  
チャッタノ。# ナッチャッタノ; 然 ン。

そして？

○(ソ)シテネマタ ン一ナッチャココカ(ラ)ズーット  
キタノ。ココ;然

そういうお話？

○ン?

そういうお話を？

ソ (1)

このおはなはなに？  
コノ (オ) ハナシ？ # ント  
(デ) ネテテネエ # ソコ (デ)  
(レ) コレダヨ；コレ ココ (デ) テテ  
ヤッテンノ。

龜かせん

○「コイウ ャッテ ャルト」  
→「ペンダントを押すと」の意。  
ことは数が多いわりに正確でない。

このお話を知ってる？

○ウチノモ コウ イウ ホン アンモン。然 コノ ホンデモ；  
何でお話を？ このお話を。

○コノ オハナシ？ # ント ウサギガ <sup>(ナ)</sup> <sub>(ネ)</sub> ムッタノー トネ  
一 # ント カメガ ハタデ ャッ ン ……ン ……ト ツ  
カマッテテ 「ヤーイヤイ」ッテ イッテンノ。  
これは何でしょうね。

○コレ？ # ウント オミズヲネ ント ャッタラ ……チガウ  
ヤ アノネー ウント コノ オハナガ カレチャッテネ ミ  
ジュ カケタラ (ソ) シテ オテンキニ ナッテ (ソ) シテ  
マッスグン ナッタノ。  
これは？

○コレハネー ウンート ……カジ シュル トキネー # ント  
コロ ココニ ネジュミガ イテ クマガ ツカマエヨウト オ  
モッタラ ココカラ アン ニゲラシチャウ。ン…… ネズミヲ  
ニガシチャッテ ココハ ズット イッチャツ ワタッテ イッ  
チャッタ( )。ココカラ トラックガ キタラー アン (シュ)  
モウ スコシデ シカレソウダッタノ。

自長-s男(5:9) 1966 本弟

前にやったの覚えてる？

○ウン。

まずなまえをきこうね。

○S・H.然

いくつ？

○ゴサイ。

お家の人がれとだれいます？

○オトウサントネ # オバアチャント ツトムトネ アトー オ  
カアサントー フミチャントーダケ。  
どなたがいいちばん好きですか？

○トネー／お家のの中でだれがいちばん好き？／○パパ。然  
どうして？

○ウントネ アソンデ クレルカラ。然

どんなお遊びするの？

○ウントー ネ オ <sup>(シ)</sup> <sub>(ウ)</sub> マ シタリネ # ウント オー ソレ  
カラネ ウントー オモシロイ コト シタリ <sup>(シユ)</sup> <sub>(ス)</sub> ルカラ。  
然

おもしろいことってどんなこと？

○ウントネ # ウーント ポールナゲ シタリネ # ウーント  
アト オー ウーン ウン ソレカラ ウント オー……  
じゃまたあとで思い出してね。お父さんの仕事知ってる？

○シッテル。

何？

○ウントネ メイシヲ ツクッテンノ。然 オウチデ；  
お母様は毎日何していらっしゃる？

○オカアサン ナイショク。然  
どんなお仕事？

○トネ ママガ一 # ヨウフクネ ヌウ一 オシゴトトカ ソウ

○理由・原因の「から」がよく使  
えないためか。「カレチャッテ」  
という。複文はむずかしい。

○「ニゲラシチャウ」は「にげられ  
ちゃう」か「にげだしちゃう」  
か。

○シカレソウダッタノ→「ひ」

○年中の時に比べると、秩序だて  
て話していく、内容もはっきり  
して解りやすい。

発音や言葉に発達がみられ、年  
中時のように文脈のみだれやそ  
れがない。

イウノ。然  
お家では何をして遊ぶ?  
○ボク?／ん。／○ウーン トモダチト アソングリ スンノ。  
幼稚園では?  
○ヨウチエンデハー ムシサガシ シタリ スンノ。  
虫好き? どんな虫とった?  
○ウチデハ クワガタトカ一 ア一 ネ一 クワガタノ アカチャ  
ン, トカ一 カブトノ ヨウチュウトカ ソ(ウ)イウノ。  
どんなところにいる?  
○クワガタ?／ん。／クワガタハネ キノ シタニ インノ。#  
カブトムシガ キノ ウエニ イルンデス。然  
幼虫なんかも?  
○ヨウチュウハ キノ ナカ。然  
じゃどうやってとるの?  
○カブト?／ん。／○カブトハネ # キニ キニ イッパイ イー  
サトウミズヲ ツケテ オイテネ # ウント ハヤ ハヤオキ  
シテ エ一 キニ ソノ アマイ アノ アマイ ミズン トコ  
ミテ ミタラ カブトムシガ イッパイ アッテ アルカラ ソ  
ウ ヤッテ トルノ。然  
お家に木があるの?  
○アル。カキノ キ;  
その柿の木に甘い水つけとくの?  
○ウン。  
先生もやってみるかな。いつごろとればいいの?  
○ウントネ アシタン ナッタラ トレバ イイノ。  
いつやつといて?  
○ウントネ ゴジニ ヤットイテネ # ソイデ/夕方の五時に?  
／○ウン。ソウシテ エ マタ アシタニ ナッタラー ソコン  
トコ ミテ オクノ。# ソウスレバ イルヨ イッパイ; 然  
くわがたはどうやってとるの?  
○クワガタハネ # ウント キノ シタニネ # ナンカノ ク  
ダモンノ ミヲ オイテ オクノ。# ソシテネ ウント アー  
ソウスルトネ # ウント一 ユウガタノ クシン ナッテ ミ  
テ ミルト # アノネ # サガシ ウント ハタラキ ハタ  
ラクウ クワガタガ サガシトイテネ # ミンナデ一 エー  
ヨンデ キテ タベテル トキ ソウ ヤッテ トンノ。然  
おもしろそうね。他に何とった?  
○カナブンハネ # ウント一 キノ キ クサノ トコデ カク  
レテンノ。ソウスットネ # タマ イッパイ タマルカラ ラ  
ネ ソウ ヤッテ トルンダヨ。# カナブンハ;  
どうしてたまるのそこに?  
○ウントネ # クサガ ダイスキダカラ。然  
蟬なんか?  
○セミハネ # キニ トマッテンノ。# セミ ソレカラネ ナ  
ンニモ タベナイデ ミッカシカ イキナイノ。  
どっちが泣くの蟬は?  
○セミ?／ん。／○セミダケ ナク。# クワガタカ カブトト  
カ カナブンハ ナカナイヨ。# キリギリスハネ # ウン  
ト一 オー オー キリギリスハ一 ネ # ヤマ イッテ

○「幼虫」ということばも知っている。動物など好きな子はそれにくわしい。

○「アシタニ ナッタラ」使い方おかしい。

○「ミテ オクノ」もおかしい。

○「トコデ」→「ここに」の意。

○質問者の問が不十分だった。誰か誰かを聞こうとしたのだったが。

ネ # ウント ソイデエ エー ヤマ イッテ カクレテテ  
ネ # ワナヲ ツクッテ オクノ。# カゴノ ワナヲ； ソウ  
スットネ # クダモンモ オイトイテネ， # ソウスルトネ  
タベヨウト シテ ハイッタラネ # パッテ ツカマエルノ。  
然

たくさんつかまえた？

○ウン。# ソレハネ # ジュッピキ シンジャッタ。然 モウ  
フタリッキヤ イナイ。然  
そういうふうにとるのだれに教わったの？

○ホンデ。然

どんな本見るの？

○ウントネ # ムシノ ホン。

夏休みには他にどんなことをした？

○ウーン ホカハネー # ウントー オー ヨウチエンデ？  
幼稚園でもいいしおうちでもいいわ。

○ウチデ アレ ャッタ。ウチデネ # ウントー オー オ  
エーカキ，然 エカキトネ ツミキトカ。# ソイカラ— ソト  
デネ # バレーボールトカ ャッテンノ。  
合宿にいった？ 幼稚園から。

○イカナイ。／いかなかつたの？／○ゼンソク オキチャッタノ。然  
ぜんそくおきると苦しいでしょう。どういうふうになる？

○イマデモ ナッテルケドネ # モウ ダイブ ヨク ナッタ  
ノ。

それから夏休みにどっか行った？

○イッタ。

どこいった？

○イナカ。# イナカデ クワガタ トッテ キタ。然  
田舎にはどんな人がいた？

○イナカ ジイチャントネ # オジイチャント オバアチャント  
ルミコチャント アト オー カズエチャン。# で何した？  
カズエチャンハ  
ルミコチャンノ オトモダチダカラサ。  
楽しいことあった？／○ン。／どんなこと？

○イロンナ ウチ イッタカラ。# ソイデネ # ウント コノ  
マエカラ キシャガ キュウコウニ ナッタソダッテ。然  
大きくなったら何になりたい？

○オーキク ナッタラ オマワリサン ナリタイ。  
どうして？

○ダッテ ピストル モッテンダモ {ノ}。  
こわいじゃない？

○オトナニ ナレバ コワクナイヨ。

どうして？ うたれたらこわいじゃない？

○ウン ハンニンヲ ヤツツケルカラサ。  
ピストルをとられたらどうする？

○ピストルナンカ ココン トコ ャットクカラ。# ウント ボ  
タンデ ハメテ アッカラ ダイジョウブナノ。然  
新聞なんか見る？

○オトウチャンダケ ミル。ボクハ ホントカ ソウイウノダカラ。  
ニュースは？

○ニュース？／ん。／○ニュースハ ボク ミルヨ。然

○二匹と言わず「フタリ」といっ  
ている。

○「けど」終助詞か接続助詞かはっ  
きりしない。「イマデモ ナッテ  
ルケド」は「今でもなるけど」  
の意か。

○「ハンニン（犯人）」と言える。

どんなことを見た？

○ウーン カジトカ ヒコウキジコトカ。

そんなのしたらどういう気がする？

○コワイナト オモウ。

ほくんちから保育園くるにはどの道通ったらこられる？

○ウントネー # ウーン…… ウントー コッチノ ホウニ  
シバタサンガ アンジャナイ。# ソコン トコ マガル トコ  
アルデショ。ソコ マガッテ イッテネ ウント ソコガ ボク  
ンチナノ。ソイデ ソッカラネ シバタサンノ ホウ イッテ  
コッチ マガッテ シノハラサン トコ ズーット イッテ マ  
ガッテ イッテ ソイデ ヨウチエン ツクノ。然  
ぼくは本読むの好き？

○ウン。

読むの自分で？

○ウン。ヨマナイ トキモ アル。然

お母さんがお話してくださったり、本読んでくださったりする？

○ウン。

どんなお話をいた？ お母さんから。

○コジカノ バンビトカ ソウイウノ。

覚えてる？ きかせて先生に。

○(アン) アー ア ア ア シート……

こじかのバンビっていうのは？

○コジカノ バンビッテ イウトネ # ウント フユン ナッタ  
リ ハルン ナッタリ シテネ オカアサンガ テッポウニ ウ  
タレテネ ツヨイ オトウサンノネ (オジ) ガ ヤッテ キテ  
ネ # ソレガ エイガン ナッタノ。然

映画見にいった？

○エイガ ミニ 不カナイ。# カイジュウノシカ ミニ イカナイ  
ヨ。(サンダータイガイガー)ト (キングウイドラー) アー ウ  
チュウダイセンソウデショ。# ソレ カイジュウモ デンダヨ。#  
ソイカラネ オー ソイカラ フランケンシュタイン バラゴン  
デショ。# ウルトラマンデショ。# ウルトラマンハ テレビ  
デ ヤッテル。# ソレト マグマタイシ。# マグマタイシモ  
テレビ。# ウルトラマンガ ニチヨウビ。ソレカラ アー ア  
ノアノ マグマタイシガ ゲツヨウ。然

じゃ日曜日にウルトラマン見た？

○ウン。イツモ ミテンノ。然

じゃお話して。きのうあったのは？

○ウルトラマン。／どういうの？／○ウントネ {ウ} {オ} — ゲジラ ゲ  
ジラガ カイジュウダッタノ。# ソイデネ オオアバレ シテ  
ネ ハヤタタイインタチニガネ # ウントー ヘリコブター  
ノッテ ヤラレテネ # ソイデ ウルトラマンガネ ヨンデ  
キ ウルトラマンガ ヨンデネ # ソイデ エー ソイデ  
ヤツツケチャッタノ。然 コンドノ カイジュウガネ ゴジラ。  
然 ゴジラハ ツヨイカラネ ウルトラマン コンドモ (デモ)  
マケナイヨ。然 マグマタイシガネ # ミカタキョウリュウト  
タタカワナカッタケド アノ カイジュウ タタカッテ (バト  
ラ)。ソレガ マケチャッタノ。# チキュウニ ナッチャッタン  
ダヨ。# ソレカラ ゴアガ カイジュウ ミンナ ツクッタノ。

○道順の説明はむずかしい。

○「～ジャナイ」「～デショ」の言  
い方を好む。

○怪獣ものが男児は大好きだ。

○「ウルトラマンガ」→「を」か。

○「けど」は終助詞か。

然

怪獣のテレビっておもしろい?

○ウン。タタカイ、スッカラネ。# ハヤタタイインタチノネ ジエットキ<sup>(ノ)</sup> コワレテルヨ。アンドラーニ ブッコワサレチャッタノ。然 ヘリコプターも コワレチャッタヨ。# ジドウシャハ コワレテ イナイケド。# こわれたらどうするの?あと。

○アト コワレタラ ヨンゴウデ ヨンゴウ ノルノ。# ソレゼンゼン マケナイカラサ。# ヒカリコウセン ダシタリ コウセン ダシタリネ # (ニンメン)ヒヲ ダシタリ シンノ。# デンキヲ ダシタリ シテサ; # ダカラ マケナイヨ。他何見るテレビでは?

○ホカハ ナイ。然 オバキュウハ アルケド。

きのうのおばQはどんなお話をだった?

○エートネ/あんまりたくさん見るから。/○オバキュウハネ # ピーコノネ # ウチノ オウチニ イッテネ # オッコチソウニ ナッテ ソイデサ # ホイデー ツリー シタリ シタノ。# ソレデネ オバキュウガ ツリ シテタラ オモイノガツレテ ミンナデ テツダッタラ ヒコウキガ ツレチャッタノ。然 おもしろいね。

○ソシテネ ウント ヒコウキデネ ウチヘ カエッタノ。# トバナイケド;

おばQはどこがおもしろい?

○アノ イヌニ ホエタリ スンノガ。# オバキュウ イヌニハ ヨワインダヨ。

先生絵本持ってきたの。この字読んでください。

○ウン。シ マ ウ マ ト ラ イ オ /それから?/○エヲ ミ テ オ ハ ナ シ ヲ シ マ シ ョ ウ。

絵を見てお話をしてください。ライオンとしまうまがどうしたのか。

○トー/ライオンがどうしました?/ライオンガ……

この絵はどんな絵?

○ライオンガ キテーネ ウントー シマウマガ キテ ソコニトマッテタラ ソイデ シマウマガ ニゲテー ライオンハ アトカラ ツイテ キタノ。# ソウシテネ シマウマガ イッパイ イル トコロ イッテル…… イッタラ<sup>(ア)</sup> — オドロイチャッタラ マタ カエッテ キタノ。

このお話を?

○(ン)トネ ウサギト カメガ カケッコシテネ ソイデー ウサギガ ソコデ ウー ヒトヤスミ ウント シテネー カメガ サキニーネ ヤマニ モウ ツイテンノ。

このお話を聞いたことある?

○アル。# ウチニ アンモン。ソレ; 然 ソノ ホン; じゃこれは?

○エー(ト) ハナヲ ソダテテネ ソレカラ ミズ ャッテネ (ソウ ャッテテ) ミズヲ カケテ ャッタラ ピート ナッタノ。

じゃこれは?

○(アノー) ココシ トコ ネズミガ キテーネ ソイデー ウート ネズミ トコニネー ウー ダンブカーガ キタノ。# ソ

○この幼児、文末に「けど」「からね」「からさ」「してさ」のくる文例が多い。

○「イヌニ ホエタリ スル」→「ほえられたりする」の意。受身形使えないらしい。

○何が(主語)「オドロイチャッタ」のかが、わからない。

イデー エー アトカラー クマガ オイカケテ キタノ。  
お母さんがね昔話してくださいさる？

○ウーウン。  
してくださいらない？ でも桃太郎さんなんて知ってる？  
○シッテル。  
やってみる？  
○( )覚えてる?  
○モウ ワスレチャッタ。

### 同一幼児（女）の年中、年長期の話しことば

赤中-0 女（5:1） 1965 兄 兄 本

お名前なんていいます？  
○M・K。  
おいくつ？  
○イツツ。然  
だれとだれがおうちにいます？  
○パンパト マ ママト オニイチャンガ フタリ インノ。  
だれが一番好き？  
○ママ。  
どうして？  
○アノ ママ ヤサシイカラ。然  
お父さんのお仕事知っています？  
○ンー。  
何します？  
○ギンコウ ヤッテンノ。  
行ったことある？ 仕事しているところに。  
○ン。

どういうふうにやってました？  
○ワスレチャッタ。  
きのう幼稚園から帰って何しました？  
○ヨウチエンカラ カエッテ? # ウント オママゴトデ アソ  
ンダ。然  
どういうふうにしてあそんだの？  
○オトモダチ ヨンデネ ウント オママゴト グシテ アソンダ。  
然

Kちゃんは何になりました？／○……／何になったKちゃんは？  
○オカアサン。

お母さんてどういうふうなことしてます？  
○ゴハン ツクッタリ スンノ。  
Kちゃんのおかあさんは？  
○ゴハン ツクッタリ ソウジ シタリ スル。然  
運動会があったわねえどうだった？ 面白いことあった？  
○ン。  
お話して。  
○アノネ # ……カケッコガ オモシロカッタ。  
それから？  
○……タノシイ ス(ケ)キ, ップ。然  
ほかにはどんなことありました。  
○タ……タマ ワナゲ。然 スズワリダ；然

○文節数は少ないが、質問に対し  
てはっきりと答え、内容もしつ  
かりしている。ただ、絵の内容  
把握はむずかしいようである。

○「フタリ インノ」数字を出  
してきちんとといえる。

○理由文（省略文とも）

あのね夏休みのこと覚えてる？ 楽しかったことある？ どんなこと？

○アノネ ウーンー ヨコスカデ トマッタノ。  
それから？

○デネ # ウントー イッタ トキネ # ウント ウミガ  
アッタノ。然 ウミデ オヨイダ。然  
幼稚園で楽しいでしょ。どんなこと楽しい？

○ユウギシ (ツ) トネエ アソトガ タノシイ。  
何一番好き？ほかには。

○ウンドウカイ？ 然  
大きくなったら何になりたい？

○(オ) ヨメサン。／ん？／○オヨメサン。  
として？

○カワイイカラ。然  
おうち行くにはどんな道通ったら行ける？

○マッスグ イッテ マガルノ。然 ソウ イケバ スグナノ。然  
ゴカイノサ # ヨンバンメ。  
テレビ見るでしょう。／○ン。／何見る？

○マンガ。  
どんなの好き？

○レオチャン。  
どういうの？

○レオ レオチャンネ ウント ツオイノ。然 コドモデ；# オ  
トウサント オカアサンガ ヤサシイケド シンジャッタノ。  
かわいそうね。それで？

○フンデネ レオチャン シトリデネ ウン ウ ウーントネ ワ  
ルイネー ウーントー ライオンガ キタノ ヤツケチャッタ  
ノ。

それ見るの好き？ ほかは？

○ナイ。然  
お母さんがね絵本を読んでくださったりお話してくださったりす  
る？ どんなお話？

○ウサギノ オハナシ。  
やってみて。自分でご本はまだ読まない？ そう。これね縞馬と  
ライオンのお話なのよ。ライオンがどうしましたか。絵をみながら  
お話してみて。

○ドッヂカラ イクノ？  
ここからよ。

○コッカラ コウ イクノ？ 然 デ コッヂカラ イウノ？ 然  
デ コウ イッテ コウ クルノ。然  
ライオンどうしました？

○ライオンガネ # シマーネ ウーン シマウマガノ トコ  
イコウト シタラネ # シマウマガ ワラッテネ # ソレデ  
イッタラネ ウント オイカケテ キタノ。# ライオンガ；#  
ソレデ シマウマガ タクサン イタカラ ニゲチャッタノ。  
このお話は何？

○ウサギト カメサン。# アノネ ウサギガサ ウントー カメ  
ガ「アソコノ オヤママデ」ッテ ユッテ ウーント キョウソ  
ウ シタラ ウサギガ カタイ カッタカラ ウント モウ ス

○「アソト」→「おそと」の意。

○間に對してたしかめの質問を出  
している。

○「ゴカイノサ ヨンバンメ」と  
きちんと数字で言ってる。

○「ヤサシイケド」→「やさしか  
ったけど」時の対応のあやまり。

○わからないときはちゃんと質問  
している。

○「ガ」と言い「ノ」で訂正。

グダカラサ ネチャッテ ソレデ カメハ カメガ イットウン  
ナッタノ。  
このお話を聞いたことがあります？ ん。だから？

○ママ。  
じゃこれは何でしょう。

○アノネ オハナヲ ミズ ャッテンノ。# コレ カレタンデ  
ショ？ 然 カレタノー ノ ノビタノ。  
じゃこれは？

○ト ネズミガ イテ クマガ イタノネ。# ソウシタラ クマ  
ガ ネズミノ コト オイカケタノネ。# ソイデ ネズミー  
ウント クマガ、ネ # ジドウシャニ ブ トランクニ ブッ  
カッテネ # ソイデ ネズミガ ウントー トンジャッタノ。

赤長一〇 女 (6:1) 1966 兄 兄 本  
お名前いってください。

○M・K。  
いくつですか？

○ロクサイ。  
おうちにはねだれとだれがいます？

○オニイチャント フタリトネー ママトネー パパトネー アタ  
シ。  
全部でなん人？

○ゴニン。  
だれいちばん好き？

○ママ。然  
どうして？

○ヤサシイカラ。然  
やさしいってどういうの？

○アノネー ナンデモ チャント シテ クレル コト。  
どういうことちゃんとしてくれるの？

○アノネー # ガム カッテ キテトカ イウトネー # 「ハ  
イ」ッテ イウ コト。  
お父さまのお仕事知ってる？

○シッテル。然  
なにしてらっしゃる？

○ギンコウ。然  
銀行ってどういうことやるの？

○アノネー オカネヲ ノ コマッテル ヒトヤネ # ソウイウ  
トキニ タスケテ アゲル(ヒト)。然  
しかられることある？

○アル。  
どういうとき？

○アノネー # アンマリ オソトデ アソビスギタ トキ。然  
ほめられるときは？

○アル。然  
どういうとき？

○アノネー パン カッテ キタリ スル トキ。然  
お兄ちゃんは何年生？

○「オハナヲ」→「おはなに」

○「ジドウシャニ」といって、あと「トランクニ」と訂正してい  
る。

○年長になると、長く話せるよう  
にもなり、複雑な構文を使える  
ようになる。

○自分を「アタシ」といって家族  
の一人として答えている。全体  
の人数も言える。

○わからないのがあたりまえ。

○サン ヨネンセイ。然  
もうひとりのお兄ちゃんは？

○チュウガク サンネンセイ。／大きいのねー。  
お兄ちゃんとなんかします？

○スル。  
どういうことする？

○アノネー # センシャゴッコ シタリ シテ アソンデル。然  
運動会があったわね。

○ウン。  
やりました？

○ヤラナカッタ。  
どうしてやらなかったの？

○カゼ ヒイテ オヤスミニ シテネー # ソレデー ミニ  
イッタノ。然  
たのしそうだった？

○ウン。  
どういうのやりたいと思った？

○カンガルキヨウソウガ ヤリタカッ（タ）。  
カンガル競争ってどういうふうにしたの？

○アノネー # ……ワスレチャッタ。然  
夏休みのこと覚えてる？

○オボエテル。  
いちばん楽しかったこと覚えてる？

○オボエテル。／きかせて。／○アノネー # ハジメニネー……イ  
ズ イッテネー # ソレカラネー マタ ソノ ツギノ ヒニ  
マタ トマッテネー # テ マタ カエッテ キテ コンドハ  
カルイザワヘ イッタノ。然 ソレデ ズーット トマッテ ソ  
イデ ナツヤスマノ オワリコロニ ナルト カエッテ キタ  
ノ。然  
軽井沢っていうのはどういうところ？

○アノネー # イ ヤマガ アッテネー ソレデ キ キトカ  
サイテテネー ソレデ オハナモ サイテテ チョウチョトカ  
トンデル トコロ。然  
涼しかった？

○ウン。  
伊豆ではなにをしたの？

○ウミデ アソンデタノ。然  
どういうお遊びしたの？ 海で。

○アノネー # ……ウキブクロ モッテネー （ジ） ャブ （ジ） ャ  
ブ ャッテ オスナトカデ アソンデタノ。然  
きのう日曜日だったわねー、なにしました？

○ヨシコチャンテ イウ ニネンセイノ オネエサンガ イ ウチ  
ニハ イナイケド オトモダチデネー # ソレデ ソノ ヒト  
ト タミーチャンデ アソンデタノ。然  
タミーちゃんてどういうふうにして遊ぶの？

○オニンギョウウデネ オヨウフクトカトネ カツラトカ アッテ  
ネ # ソウイウノデネ アソンデタノ。  
それからなにしました？

○アト ワスレチャッタ。然

○「シタリ シテ アソンデル」  
したりしてと言える（前出）。

○「カゼ ヒイテ オヤスミニ  
シテ～」と理由、原因を述べる  
接続助詞「から」「ので」を使わ  
ないで「て」ですませている。

○「ハジメニ」で言いはじめる。  
なかなか論理的。

○「オワリコロニ ナルト カエッ  
テ キタノ」時の対応がおかし  
い。「ナルト」不用か。

○題目語の欠けている構文。「トコ  
ロ」でまとめている。

○今何をしてたのか？と聞いたら  
「アソンデタノ」でもよいが、  
質問は過去のことを聞いている  
のでおかしい。幼児は現在のこ  
ととして認識するのだろうか。  
→「遊んだの」

○「アソンデタノ」→「遊ぶの」  
の意。

幼稚園で楽しいわねどういうことやる？

○オカアサンゴッコトカ ヤル。然

朝来たらどういうふうにするの？幼稚園では。

○アノネー タイソウ シテカラネー ゴア アッ ゴアイサツ  
シテカラネー タイソウニネ シテネー ソレデ ……ソレデ  
ネー オユウギデネー シテカラ モドッテネー ソレ  
デー ……デ…… ソレデネー ウントネー オナマエ ヨンデ  
カラネー ソレデネー コンド ホントカ ヨンデルノ。然  
先生にね、読んでもらった本だとかねーきいたお話をねー、みた  
紙芝居でね覚えてるのある？

○アル。然

きかせて。

○アノネー …… アノネー # ムカシノ トキニネー ウサギ  
ガ イテネー カワガ アッタンデネー ソノ カワノ ムコウ  
ノ ホウニネ ウサギノ クニデネー ソレデ ウサギノ オカ  
アサンタチガ スンデタノネー。ソレデネー ウサギハネー ウ  
ント コマッテタノ。ソレデ イキタカッタカラネ ソレデネー  
サメガ キテネ イッパインオネ カゾクヲネ オシエテネー カ  
ゾエテ ミテアゲルッテ イッタノネ。ソレデネー カワヲ ワ  
タリタカッタカラ ウソツイテタノ。# ソレデネー ソレカラ  
ネー イチ ニイ サン シイッテ アルイテタノネー。ソイデ  
ネー キレイニ ナランデルデショウ。ダカラ カワノ ムコウ  
ノ ホウマデ イキソコナッ イ イコウト オモッタノネ。ソ  
レデ ウソ「ウソダヨー」ッテ イッタノネ。ソシタラ モウ  
オトシチャッタノ。# ソウイウ オハナシ。然  
あのね、大きくなったらね、なんになりたい？

○アノネー ……アタシハネ オモチャヤサンニ ナリタイ。然  
どうして？

○オモチャダッテネ イウノガ オモシロイノ。然  
かずをねーいくつまでかぞえられる？

○ヒヤクマデ カゾエラレル。然

十から逆にかぞえられる？十、九ってこう下に。

○カゾエラレル。

やってみて。

○ジュウ キュウ ハチ ナナ ロク ゴ ヨン サン ニイ イチ。  
二十からは？

○カゾエラレル。

夢みる？

○アル。ユメ ミル。然  
どんな夢みた？

○アノネー オニイチャンガネー ウソ ツイタ ユメ。然  
それでどうなったの？

○アノネー アタシガ テレビ ミテタンダヨネ。# ソシタ  
ラ 「トリガ イタ」ッテ イッタンダヨネ。# ソシタラ ミ  
テタンダヨネ。# ソシタラ ミテタンダヨネ。# ソシタ  
ラ イタンダヨネ。# ソレ ツカマエヨウト オモッタラ  
ニゲチャッタノネ。ソシタラネ オニイチャンガネ ウソ ツイ  
テ 「サヨナラ」ッテ ユッタノ。ユメ ミタノ；然  
テレビを見る？

○助詞の誤まりが多い。

○「ムカシノ トキニ」はおかし  
い。

○「アッタンデネ」→「あって」  
か。

○「だれが」「だれを」がよくわか  
らない。

○この文よくわからない。

○ミル。

なにいちばん好きで見る？

○マンガ。然

マンガの中ではなに？

○アノネー アノネー ウッドペッカーッテ イウノネ マンガガ

アッテネ # ソレヲ ミルノ。然

どんなお話、ウッドペッカーって。

○アノネー カラスミタイナ トリガ イテネー ソノ トリガ  
ナマケモノデネー ソレデネー テヲ キロウト オモッタラ  
ネー キレナカッタンダケドネー ソレハ コンクリートデ デ  
キテルネー ウーント テダッタノ。／そんなの？／○ウン。

きのう日曜日はおばQ見た？

○ミタ。

どんなお話だったか覚えてる？

○アノネー # オバケノネー オバケタイカイッテ イウノガ  
アッタ。然 ソイデネ オバケガ イッパイ キテネ ソイデ  
ネー アメリカノ オバケトカネー ソウイウ オバケガ イテ  
ネー ……ナンダッケナ ドロンパッテ イウネー アメリカノ  
オバケガ イテネ ソレヲ ソレガネー マエカラノ オトモダ  
チダッタノ。アトノ ゼンブハ オトモダチジャ ナイノ。ソレ  
デネー ウーント ケーキ サムイ クニノハ サムイ トコガ  
スキデショウ。ダカラ レイゾウコン ナカヘ イレチャッテ  
ネー キツキツデショウ。ソレデサー アツイ クニノネー  
エート オバケガネー アツイ サム ウチニ ナカハ アツイ  
カラッ サムイカラッテネー ウーント ストープトカ イッパ  
イ ヤッチャッテネー # ソイデネー 「オナカ スイタ」ッテ  
イッタノネ。アツイ クニノ オバケガ；# ソレデネー アケ  
テ ミタラネ ナカ カラッポダッタノ。# アノネー キツイ  
カラッテ ゼーンブ タベチャッタノ。然 サムイ クニノ オバ  
ケガ；／冷蔵庫の中のものみんな食べちゃったの？／○ウン。／  
けっきょくどうしたの？／○ソレデネー オナカ スイタデ  
ショウ。ダカラネー キュウ キュウチャンジャナクテ ドロ  
ドロンパガネー ウーント 「オンナノネー オヒメサマニ シ  
テ アゲマショウ」ッテ イッタンダヨネ。# ソシタラネー  
ウーント キュウチャンガネ オンナ オトコナノニ オンナノ  
ネー # キモノ キテ デテ キタラネ オモシロガッチャッ  
テネ # ミーンナ トンデ イッチャッタノ。／そういうの  
だったの？／○ウン。／よく覚えてたわねー。

ほかはどんなのみてる？

○アトネ ウルトラマンテ イウノ ミテンノ。然 ソレトネー  
ウーント コジカモノガタリッテ イウノ ヤッテルノ。ソレモ  
ミテンノ。然 ソレネー ジュウイチジマデダカラネー # ド  
ヨウビニ ヤルカラ ドヨウビ(ノ) ア コノ ツギ, ニチヨ  
ウビデショウ。ダカラサー ダカラ アレー ヤッタ(ノ) ミテ  
タノ。然  
どんなお話だった？

○アノネー # アノネー ハジメニネー チッチャイ コドモガ  
ネー ウーント ヨウ ヨウチエンニ カヨウ マエナノネー。  
オカ オトウサンガネー ナンカ カイニ イッタノネー。ソシ

○助詞の使用の誤用。

○「～マンガをみるの」と言わな  
い構文がおもしろい。

○テレビをよく視聴している幼児  
が一般に文節数も多い。

○この年はおばQのテレビに人気  
があった。

○この幼児は内容もくわしく話せ  
る。

○「～デショ」という問い合わせ的  
な話し方をこの幼児は使う。

テネー ムラノネー ヒトビトタチニ オシエタンダヨネ。ソシタラネー 「カイモノ イッタンダヨ」ッテ オシエタラネー ソシタラ オトウサンガ オコッテネー (キッカッテ) キテネー ソイデネー ウマゴヤガ アラサレテタノネー。ユビナシグマッテイウノ。然 ムカシノ オハナシ。然 ソレデネー # チッチャイ コガネー # シカヲ ミツケテネー シカヲ カッタノネー。# ソシタラネー シカガネー スゴーク イタズラモノデネー ソイデネー アトカラネー オカアサンガネー コジカヲ コロシチャッタノ。然 テッポウデ; 然 ソレデネー チッチャイ コモ マタ コロシチャッタノ。ソシタラネー ウーント チッチャイ コガ ウチカラ デテネー # カワヲワタッテネー ソレデ フネニ チッチャイ コブネニネ ノッテネ ナガレサレテ イッタ トコロヘネ フネノネ オジサンガ キテネ # ソイデ ソレヲ タスケテネー ソレデ カエッテ キタノネー。# ソシタラ「オソカッタネー」ッテ イッタラ 「ウン」テ イッテネー # ソレデ ソレデネー ウーント イ ヨク ナッタラ モウ オワッチャッタノ。然 コノツギノハ オモシロイノ。/つづくの?/○ウン。然

○ウン。/それでもうひとつはウルトラマン?/○ウン。

ウルトラマンはどんなお話?

○ニチョウビ。然 アレハネー アノネー キノウ キノウ ヤッタノハネー # エカラ トビダシタ カイブツガ デテ キテネー ソイデー カイブツトカ ヤツケルネー チョウカンガキテネー ケ ケンミタイナ モノ コウ ヤッテ ヤルノネー。# ソウスルト ウルトラマンガ デテ クルノ。然 ソレカイブツグライデネー # ダンチヨリモ オッキイノ。然お母さんね絵本読んでくだすったりねー、お話してくだすったりする?

○スル。然

どんなお話を聞いた?

○アノネー ウサギト カメ。然

それからどんなお話を聞いた?

○アトハ ワスレチャッタ。

ニュースなんか見る?

○ミナイ。然

交通事故なんて見たことある?

○アル。然 パパ クルマ ウンテン シテテ マエ ヤッチャッタング。然 アノネー トランクニネー # ホラ シタニ ハイッチャッタリネー # ウーントネ タクシーニ ブツカッタリネー # ソレニネー スピードイハンダッタリ( )。/お父さんが?/○ウン。/あらたいへんじやないけがしなかったの?/○ウン。オニイチャンガ ノッテル トキニネー ウーント アノネー チッチャイネー トランクニ ノル チッチャイネコガネー トランクニ ハネラレチャッタカラネー イッテミタラネー「イマ ヤッテタンデスヨー」ッテ イッテタ。然 オニイチャン ツレテ イッタ トキノ ハナシ オシエテ クレタノ。然

絵本持って来たのれーこれ読んでください。

○シマウマト ライオン。# エヲ ミテ オハナシ シマショウ。

○「何を」教えたのかわからない。  
のちの文でのべている。

○「使役動詞+受身」の形式はむずかしいようだ。「ながれる」「ながす」の自他の使用的の誤まりもからむかはつきりしない。

○「キノウ ヤッタノハ」と題目語が提示されているが、文末「~だったの」が欠けている。話したことばにはこのような構文が多いが、文脈のそれである。

○「スピードイハン」ということばなど日常化しているようだ。

○スラスラと読めた。拗音も正しく読めている。

絵を見てお話ししてください。

○アノネー ライオンガネー シマウマ ネー タ サガシテタンダヨネー。ソシタラネー シマウマガ イッピキ イタノ。# ソシタラ ライオンガ タベヨウト シタラネー ニゲテ イッテネー ソレデー イッパイ イルネー イッパイ シマウマガ イル トコ ツレテ イッチャッテネー ピックリシテネー アー ソイデネー トバサレチャッテ ワーッテ イッタラネー ソシタラ シマウマガ ワラッタ トコロ。然でライオンはどうしてるの？

○ニゲチャッタノ。

こんどうさぎとかめのお話聞かせて。

○アノネー アレー コッカラジャ ナカッタネ。# アノネー ウサギガ カメガ オサンボ シテタノ。ソシタラ ウサギガ キテネー「ヤー ノロマノ カメクン」テ イッタンダヨネー。# 「ボク ソンナニ ノロマジャ ナイヨ」ッテ イッタンダヨネー。ソシタラ「ボクトネー キョウソウ ショウ」ッテ イッテ キョウソウ シタノ。ソシテネー ウサ カメハ オソイデショウ。ダケド ウサギノ ホウハ サキニ イッテネー チョット ヒルネヲ シテタラ ウチニネー イチバンノ タカイ ヤマノ ホウマデ イッチャッタノ。# ソシタラネー「キミ ホントニ ボクヨリモ タカ ハヤイネ。ダカラ ボクト イッショニ アソボウヨ」ッテ イッテ アソンデタ アソング トコロッテ イウノ。ハナシ；然

このお話ね、なにしちゃいけませんていうお話？

○アノネー イジワルヲ シチャ イケマセンテ イウ オハナシ。

そういうお話だと思う？

○ウン。

だれがいじわるしたの？

○ウサギ。然

このお話してみて。

○アノネー チッチャイ コドモガネー／こちらからよ。／○ハナガ カレタノネー。ソシタラ チッチャイ オトコノ コガネー ウーント ミズヲ ャッテタノ。ヤッタノ；# ソシタラネー ウーン オテンキデ ソレデ シバラク シテネー オテンキデ ショウ。ダカラネー ウーント オハナガ ノビテ キレイニ ナッタノ。然

こんどこれは？ これもこっちからね。

先生をよく覚えてた？

○オボエテナカッタ。

でもリスぐみのときやったの覚えてた？

○ウン。

この三番目のお話きかせて。

○アノネー クマガ ネズミヲ オイカケテタンダヨネー。ソレデ マチニ トコロノネー ニンゲンガ トオル ミチカラネー テ テ イッチャッテネー クルマガ トオル ミチニ イッテネー ソシタラ トラックトネー ウーント イッショニ ブツカッチャ クマガ ブツカッチャッテネー ソイデネー ソレデ オオケガヲシタ トコロ。然

○絵の解釈は年中時よりもよくできている。

○ライオンがびっくりしたのか、縞馬がか、主語がないので、絵がないとわからない。

○長い文が切れないのでつづいている。最初に「この絵」はということばはないが、最後は「～トコロ」といって結んでいる。

○名詞が連体修飾語になる場合助詞の「の」がつくが、それに影響されたか「イチバンノ タカイ～」と誤用している。「いちばん」は副詞として「高い」を修飾。

○「～ヨリ」を使用している。

○逆から話そうとする幼児がいた。

○「歩道」「車道」ということばを知らないので、「ニンゲンガ トオル ミチ」と「クルマガ トオル ミチ」で表現している。

## 第2部

# 第1章 文構造の分析の方法

## 1.1 3歳までの文の発達

3歳までの文の発達を筆者は五段階に分けて考えている。(注1)

- (1) 一語文の時期 (1歳前後)
- (2) 二語文の発生 (2歳前後)
- (3) 多語文、従属文の時期 (2歳半前後)
- (4) 文章構成期 (3歳前後)
- (5) 一応の完成期 (3歳～4歳)

ここではくわしいことは述べないが、幼児は1歳前後になると、大人との共有語（有意味語ともいわれている。）それも一語からなるので一語文と言われるが、そのことばを使って、事実を述べたり、願望や要求を表わすようになる。「あ！ 自動車だ」「自動車に乗りたい」と言いたいと思っても、まだかれらはそのような形式で話すことができないので、ただの一語「ブーブー」で、それらの意味を含めて発話するのである。だから、その一語はのちに分化する主語である場合も、補語、述語である場合もある。

(注2)  
それが早い幼児で1歳半ごろから、おそらく2歳前後になると単細胞が分化していくのにたとえられるように頭としっぽ、おなかとしっぽというように二つに分かれていく。すなわち主語＋述語、補語＋述語などの二語文になっていくのである。

2歳から2歳半前後になると、それら主語、補語、述語などに修飾語がついて、その修飾語は連体修飾語の場合も連用修飾語の場合もあるが、もの・ことをより細かく、正確に表現することができるようになってくる。したがって二語文でなく、三語文、四語文と多語からなる文が使えてくる。その連用修飾語、連体修飾語の形態も、語からなるばかりでなく、一回の判断を形成する文からなって、その文が、との文に対して、原因、理由、時、場面などをつけ加えていくようになってくる。との文に従属しているという意味で従属文と名づけられたりしている。つまり単位となる文が二つ重なったり、文の中にはめこまれて一文の形式が複雑になってくるのである。

そして、3歳前後になると、これら文が文＋文＋文……と重なって、あるいは、接続詞によってつながり、段落を形成し、幼児の発話が構成的になってくる。かくして、文章を構成する要素の大部分が3歳前後から4歳にかけて幼児に習得され、これらを自由に応用して、会話をしたり、説明をしたりすることができるようになるのである。

それでは、その後の幼児の文の発達はどんなふうな実態を示しているだろうか。それを幼児の一応の到達点である5～6歳児を中心としてみていくことにする。ここでは文が形成していく過程からみていくのではなく、到達点を静止しているものとして、文構造の形態が、幼児においてはどんなふうな構造をしているかをみていこうとするのである。そして、年長児の使用的する文

(注1) 大久保 愛『幼児言語の発達』(東京堂出版) 192ペ

(注2) 補語についてはのちに述べる。一応英語の object+α としておく。

構造がきまつたら、年中、年少ではどうか、年少から見ると年中、年長ではどのような文構造の発達がみられるかを調査してみようとするのである。

## 1.2 幼児の文構造分析のための方法

幼児の文構造をみる場合、日本語の文構造についての分析、研究があると、それに従って分析することができるが、現代語の文研究が立ちおくれている上に、(最近はチョムスキ一流の文についての考えが入ってきて、主語の問題なども討論され、国語畠以外で盛んになってきている。)現代語自身もいろいろの問題をはらんでいて、一筋なわではいかないところがある。これまでも、山田孝雄の文の種類の分け方(文を単文、複文に分け複文を重文、合文、有属文としている)とか、橋本進吉の連文節の考えによる文の分析とか、時枝誠記の入れ子型構造分析などの試みがなされていて参考になるが、筆者が主として参考にしたのは、それらももちろんあるが、幼児の構文の分析に適當と思われる以下に述べる二種の文献である。

### 1.2-1 チョムスキーの生成文法

その一は、1957年、Noam Chomsky にはじまる生成文法(generative grammar)の考え方である。くわしい文分析については当初より Chomsky 自身の考え方も変ってきていているようだし(1965年)、弟子たちによっても種々論議され、その種の論文が発表されており、立ちいったことはここで述べるつもりはない。しかし、ここにあげたのは、その考え方が、幼児の文構造の発達をみていく場合、非常に参考になるからである。そのためか、アメリカでは、幼児のことばの研究に生成文法の考え方を使って構文の分析をしている例をよくみる。以下に参考にした文献をあげる。

(1) Lois Bloom は “Language Development” で生成文法の言語理論が幼児の言語及び言語発達の研究者に影響を与えていたのは、次の二つの面からであると述べている。

- ① 言語構造において深層と表層の区別を考えたこと。
- ② 構造を述べるために意味というものが本質的な関連をもっていること。

そして次のような例をあげている。“Mommy sock” ということばが次のような二つの場面で幼児に使われたという。①キャサリンがお母さんの靴下をもちあげて、“Mommy sock” と言った。

(注1) 講座現代語『口語文法の問題点』(明治書院) 進藤正邦「文構造とその図解法」などにも、例がみられる。その他、三尾砂『国語法文章論』(三省堂) でも「文」「文の類型」等について扱っている。また、国立国語研究所報告 18『話すことばの文型(1)』(1960) (以下『話型1』として引用) では飯豊毅一が「構文」について分析を試みている。

(注2) 1957年に出了本は“Syntactic Structure”(勇康雄訳『文法の構造』研究社)で、1965年に出了本は、“Aspects of the Theory of Syntax”(安井稔訳『文法理論の諸相』研究社)である。その間にチョムスキー自身の考え方へ変更が見られる。

(注3) Paula Menyuk “Sentences Children Use”(1969), Lois Bloom “Language Development: Form and Function in Emerging Grammars”(1970), Carol Chomsky “The Acquisition of Syntax in Children from 5 to 10”(1969), ともに The M.I.T. Press. David McNeill “The Acquisition of Language: The Study of Developmental Psycholinguistics”(佐藤方哉訳『ことばの獲得』大修館, 1972), の中に筆者が参考として引用する Menyuk “The Acquisition and Development of Language”(Prentice-Hall, 1971) などなどと多い。

生成文法について概観が知りたい場合は、安井稔編『新言語学辞典』(研究社, 1971) がある。

⑥お母さんがキャサリンにキャサリンの靴下を与えたとき “Mommy sock” と言った。それが表層では同じことは “Mommy sock” で発せられたというのである。つまりお母さん (mommy) は ⑤の例では修飾語であり、⑥の例では、行為者であるというわけで、幼児のことばは、みかけではこのようにあいまいなので、生成文法的考え方、つまり深層に入って考えないことには解釈ができないというのである。筆者もこの本で、用例の解釈には、注釈をつけて幼児の深層を推察した。

(2)参考にしたもう一つの書物は、Paula Menyuk の “The Acquisition and Development of Language” である。その中から生成文法について述べてあるところ (17 ペ~20 ペ) を、筆者の考えも多少つけ加えながら引用する。

生成文法での統語規則は、文の機能的関係を述べ、言語の部門を決める。文法の統語部門は、  
基底構造規則と変形規則、形態規則からなっている。言語の底の各文は核連鎖である。<sup>(注)</sup> 基底構造規則は次のような種類の書きかえ規則によって核（文）を生成する。

$S \rightarrow NP + VP$  文 (S) は名詞句 (NP) と動詞句 (VP) に書きかえられる。

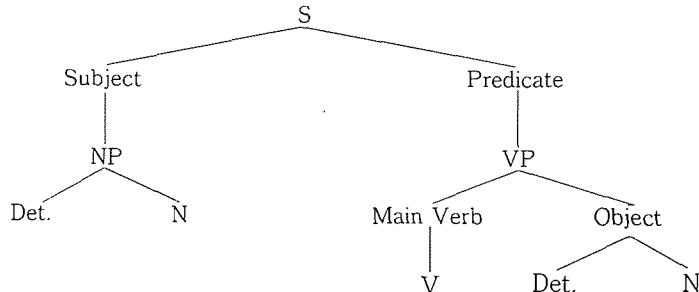
$NP \rightarrow Det. + N$  名詞句 (NP) は限定詞句 (Det.) と名詞 (N) に書きかえられる。

$VP \rightarrow V + NP$  動詞句 (VP) は動詞 (V) と名詞句 (NP) に書きかえられる。

文の主語は文の名詞句である。文の目的語（筆者の補語のちに述べる）は動詞句の中の名詞句である。文の述語は、文の動詞句であり、主動詞は動詞句の中の動詞である。母国語話者が内蔵している言語能力は、有限な手段を用いて無限な文を生成している。そのように文法とは、無限な文が生成できるように考えていく規則の集合、しくみであり、生成文法はそういうものなのである。

そして、文を形造っている要素をかりに語と呼ぶと、これら語は同一平面上に並んでいるわけではない。互いに引き合っていて、引き合うものどうしがまとまり合うことによって一定の構造をなしている。それを句構造 (phrase structure) と呼び、枝分れ図 (tree) で示される。（図1 参照）

図 1



(注) 三部門の一つで、syntactic component という。他に音形部門 (phonological component) と意味部門 (semantic component) とがある。

底の連鎖の各語（たとえば名詞、動詞）は、統語的、意味的、変形的特性を持っている。そして、書きかえ規則に加えて選択規則によって、次のような文 “The beauty is everlasting” は、beauty が抽象名詞で Art.+N の形では決してあらわれないから、文法的でない文だという。

また、基底構造連鎖は変形規則で前文をつけることによって疑問文 (Q), 命令文 (Imp), 感嘆文 (Emp), 否定文 (Neg), 疑問, 命令文 (Q-Imp) ができあがる。

$S \longrightarrow (\text{Pre } S) \text{ NP} + \text{ VP} (\text{Adv})$   
 $\text{Q}$   
 $\text{Pre } S \longrightarrow \text{Imp (EMP) (NEG)}$

図2は “The boy hits the ball” の基底構造の枝分れ図である。連鎖（記号列）の各語（語彙目録）は統語的、意味的、変形的性質をもっていて、たとえば、boy は名詞で、単数で、生物で、人間で、男であって、音は、/ b // o y /の順からなっているというのである。

変形規則はさまざまな文を生成するために底の連鎖を操作する規則である。核の中で削除、置きかえ、変換をおこなってさまざまな文型が生成される。

図2

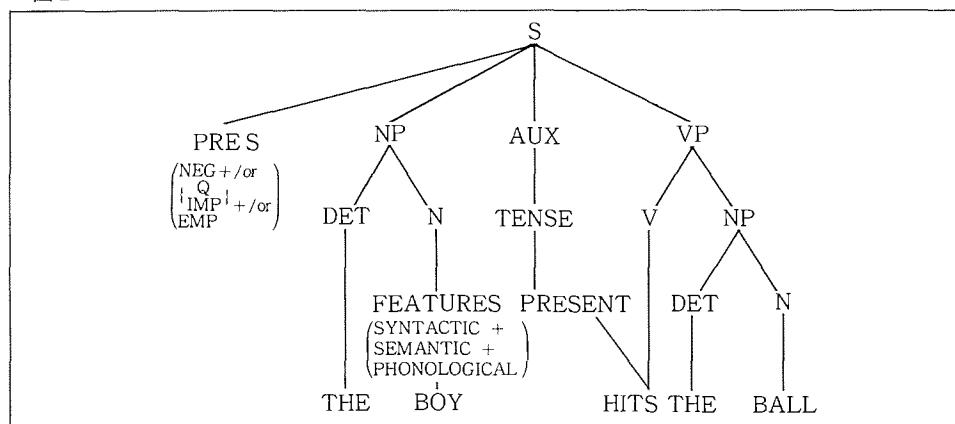


図3

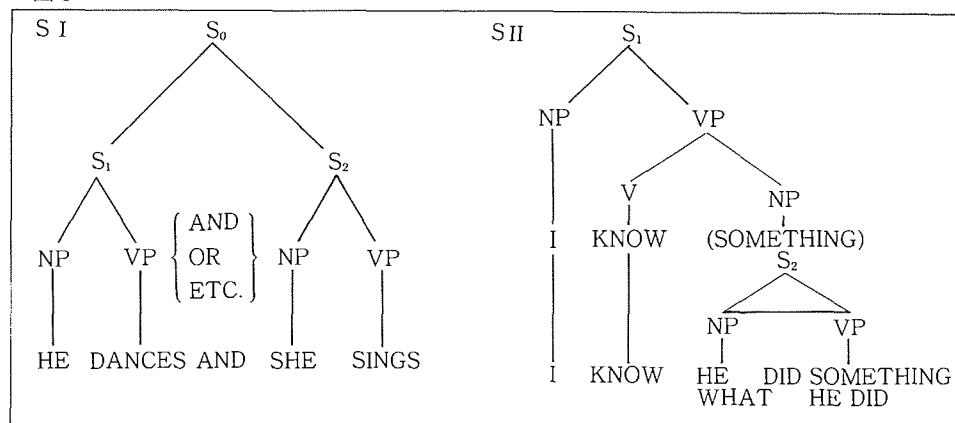
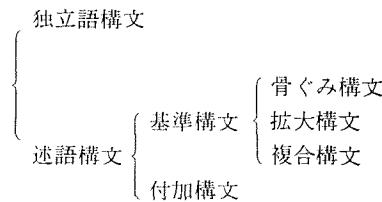


図3はS IとS IIの基底構造の枝分れ図である。連鎖は結合とか埋め込みの操作を使用することによって、長い文を理論的に生成することができる。(筆者の場合は連体修飾語を「埋め込み」と見ないで、取りだして別箇に分析した)

以上が、ブルームフィールドによって代表されている構造言語学に対して出てきたチョムスキーに代表される生成文法の中心的考え方の簡単な要約である。このような考え方は、幼児が文を生成していく過程としてもうなづけるところがあるので、枝分かれ図で幼児の文を分析するわけではないが、構文分析の一つの考え方として参考にした。

### 1.2-2 『話しことばの文型2』

これは国立国語研究所の報告書23(1963年)として出版されたもので、構文のところは、鈴木重幸・南不二男が担当している。(以後『話型2』として引用する)その中で文構造に関係したところをみていく。ここでは、構文の型を次のような種類に分類している。(98ペ)



そして、成分の種類は、(113ペ)

(骨ぐみ成分)…… {述語・主語  
目的語・補語} (いわゆる連用修飾語)  
(拡大成分)……… 連用語・状況語  
陳述的成分  
独立語 } (いわゆる独立語)

ついで、成分の略号を引用すると以下である(110ペ)。

Z……述語	K……従属句
S……主語 (S' と共存するばあいは部分主語)	s, m, z, ……は, S, M, Z, ……とそれぞれ同格の成分
S'……いわゆる総主	【D】……独立語構文
M……目的語	【Z】……述語構文
M <sub>ヲ</sub> ……「<体言>ヲ」の関係に立つ目的語	【Z】……基準構文
M <sub>ニ</sub> ……「<体言>ニ」の関係に立つ目的語	/ … Z / … 骨ぐみ構文
H……補語	R / … Z / … 連用語(R)による拡大構文
H <sub>1</sub> ……結果的補語	J / … Z / … 状況語(J)による拡大構文
H <sub>2</sub> ……内容的補語	K / … Z / … 複合構文
R……連用語	T[Z]……陳述的成分(T)のついた付加構文
J……状況語	D[Z]……独立語(D)のついた付加構文
T……陳述的成分	K[Z]……従属句(K)のついた付加構文
D……独立語	

また、各構文型における成分の意味的特徴の概観は次表のようである。(111ペ)

		意 味 的 特 徴
独構 立 語文 【D】	D T	呼びかけ・応答・評価・提示…… 文脈的導入、表現意図の補足……
述 語 構 文 【Z】	基準構文 (骨ぐみ成分) Z S M H <sub>1</sub> H <sub>2</sub> (拡大成分) R J (従属句) K	(主体などの)動作・状態・性質・種類…… (動作・状態・性質・種類……)の主体…… Zのことがらの成立に参加するものごと 結果の状態…… 言語活動・精神活動の内容…… (動作の)ようす、(動作・状態・性質……の)程度、量…… 空間・時間・原因・理由・目的・条件(未定・確定)…… 比較的はっきり現われている条件(確定)
	付加構文 T D K	文脈的導入、表現意図の補足、評価、提示…… 呼びかけ・応答・評価・提示…… 条件(確定——主観的な)、事実の提示的表現……

これら略号を使って、各文を分析すると以下のようになる。(240~250ペ)

構文の型	用 例
SH <sub>2</sub> Z (骨ぐみ構文)	○ボクハ(S)「コリヤ マズイ」ト(H <sub>2</sub> ) 思ッタ(Z)。
SJJZ (拡大構文)	○火ハ(S) ミシナノ 努力ニ ヨッテ(J) 午前三時ニ(J) 消 エマシタ(Z)。
SKケレドH <sub>1</sub> Z (複合構文)	○コンドノ 家ハ(S) 駅カラ 遠イケレド(Kケレド) 広ク(H <sub>1</sub> ) ナッタ(Z)。
KテSMヲZ (付加構文)	○電車ハ 事故ノ タメ トマッテ シマッテ(Kテ), ヒトビトハ (S) タクシーヲ(Mヲ) ヒロッタ(Z)。
TDKガS <sub>1</sub> Z (付加構文)	○ソレジャ(T) ミナサン(D) タイヘン タイクツナ 話デ モ ウシワケ アリマセンデシタガ(Kガ) 文法ノ 話ハ(S) オシ マイデス(Z)。

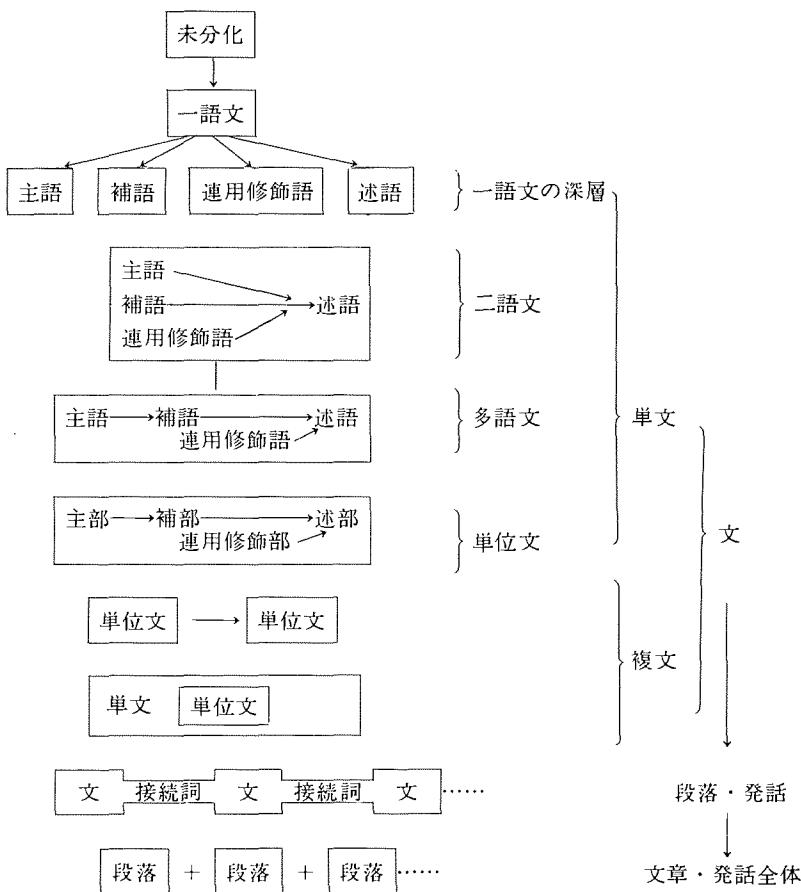
筆者が幼児の文の分析をするときの具体的操作について略号とか略号の内容について考えると、この本の世話になった。ただ、主語をSとして認めながらも、日本語の特色として考えられ  
(注1)

(注1) 三上章『象は鼻が長い—日本文法入門』(くろしお出版)「日英文法の比較」の章で、日本語における主語に疑義を起こした人々の意見をあげている。この本全体もそのことを扱っている。特に「は」に焦点をあてている。

たのか、述語構文の中に入れているところは肯定できなかった。幼児の文構造形成過程として、文を生成発展的(表層 surface と深層 deep の構造 structure を考える)なものとして考えるとき、また、操作の上から(これは『話型 2』の場合も扱い上は S を大きくとりあげている)も、主語のあるなしでみしていくほうが納得できると思って、筆者の場合は主語を大事なものとしてとりあげた。<sup>(注 2)</sup>

### 1.2-3 この本の方法と略号

この本の文構造分析の操作を述べる前に、前に述べた 3 歳前後に成立する幼児の文の形成過程を筆者の考えで図示してみる。立体図にならないので適切にあらわせないが、このような過程で文が生成していくと今のところみているのである。すなわち、混沌とした未分化の時期から一語



(注 2) 大久保忠利『日本文法の心理と論理』(国社・58 ペ)。文は A 主述文、B 非主述文に大きく分けられ、A には、完備文 (SZ 文) と不完備文 (省略文) があるという考え方。非主述文は「火事!」「痛い(足をふまれて)」で、不完備文は「その本だれに買ってもらったの?」という間に對して「おねえさん」という。「この本はおねえさんに買ってもらった」の省略文であるとする考え方である。

また、単位文という考え方を出している(62 ペ)。単位文とは「主語と述語の結びつきが一回おこなわれているもの」と規定している。そして、「条件として、その主部、述部に他の「単位文」(またはその省略形) が含まれていないこと」と述べている。この単位文の考え方を借りる。

文が生成する。一語文は深層として、将来、主語とか補語、連用修飾語、述語、連体修飾語になるものである。それが補語+述語、連用修飾語+述語、主語+述語、連体修飾語+主語、連体修飾語+補語の結合ができる、単位文なるものが幼児に次第に構成されていくのである。独立語、接続詞などが単位文について拡大文が使えるようになる。ここまでが単文である。ついで、単文と単位文が連結したり、単文の中に単位文が含まれたりして(単位文が文に含まれると「節」になる)、主文と従属文(従属節)の関係ができた文を複文という。単文と複文を合わせて文という。これら文が接続詞によってつながってできるのが段落、話すことばでは発話で、段落がまとまって文章、話すことばでは発話全体ということになる。幼児はこれら構文を不十分ながら使えるのである。

次に、これから使用する記号の説明をしておく。

S = 主語(主部) (S) = 主語(主部)省略の意

Z = 述語(述部) (Z) = 述語(述部)省略の意

D = 独立語 J = 接続詞 Rt = 連体修飾語(部)

H = 補語(部) (H<sub>1</sub> = なにを, なになど H<sub>2</sub> = だれに, だれなど H<sub>3</sub> = どこに, どこでなど)

RR = 連用修飾部 (T = 時(when), Y = 原因, 理由(why)など, R = 連用修飾語)  
(注)

C = 節、主述をもつ形式(省略形も含む)で、文中に埋め込まれるもの。

Q = 「と言う」「と思う」の対象。

N = 名詞・代名詞・数詞(体言) K = こそあど V = 動詞 A = 形容詞、形容動詞 Ad = 副詞  
補語は体言(N) + 助詞の形式を持ち、意味としては何、だれ、どこを指している。どのような助詞をとるかを表にしてみる。●が使用の多い形式である。(下表)

H 助詞 \	なに (What) H <sub>1</sub>	だれ (Who) H <sub>2</sub>	どこ (Where) H <sub>3</sub>
N ガ	○	○	○
ハ	○		
モ	○	○	
ヲ	●	○	○
ニ	○	●	●
ヘ			○
デ	○		●
ト		●	
マデ	○		○
カラ		○	○
ヨリ		○	
副助詞	○		○

ここに述べた文構造についての考え方は、現時点での筆者の考え方で、用例を分析しながらたどりついた結論である。しかし、今後、文の分析をしながら、考え方が発展的に変っていくこともありうるものである。その時はまた別の構想のもとに同じ資料の分類をするようになるかもしれないが、今は、この考え方で幼児の文構造をみていくことにする。

上に略記号で述べた各成分について、『話すことばの文型2』(話型2)と比較しながらどのような内容のものであるかを説明する。

(注) 連用修飾語としては、いわゆる副詞、名詞(Howにあたるもの) + 助詞(に、でなど)、数詞、音まね語、感じ音まね語を含む。

述語の中には、『話型2』と同様に複合述語もはいる。複合述語については、「文末の形式と用法」でも述べるが、「している」「してやる」「～したりする」「していい」「しなきゃいけない」などを含めた。「名詞+になる」の形式は「名詞+なる」とし、「ヨードン+スル」などのサ変動詞のつく形式とともに、補語+述語として扱った。『話型2』では「～なる」のつく形式は目的語とは別にし、『話型2』での「補語」として扱っている。

独立語の部分は「うん」「はい」「そう」などの応答のことばとか、呼びかけ、感嘆の類で『話型2』にしたがっている。

『話型2』では、陳述的成分をTとし、この中には、陳述副詞の類、接続詞の類、評価的部分、提示的部分が含まれているが、ここでは陳述副詞は運用修飾語とし、接続詞はJに入れた。Jの中には、「あと」「ほかは」など、「その他」「次は」の意味をもつ場合のものも含めた。

連体修飾語（部）は『話型2』の場合は二次成分として、分析を一次成分の構成要素として扱い、とりたてて行なっていないが、この書では、主語、補語、述語などの成分の構成要素としながらもそれ自身の内部構造の分析を試みた。

いわゆる「学校（橋本）文法」で運用修飾語として扱っているものを、『話型2』ではA、Bの2類にわけ、A類として、目的語と補語、B類として連用語、状況語としている。この本では、A類を補語（部）のみとして、『話型2』の目的語と補語<sub>1</sub>をこれに含めている。そして細かくH<sub>1</sub>、H<sub>2</sub>、H<sub>3</sub>と分けた。Qは、補語<sub>2</sub>にはほぼあたり「～と言う」「～と思う」などの対象になる部分である。直接話法の形式が入る。直接話法の部分の分析は行なわなかった。『話型2』の連用語と状況語は、運用修飾部で大きくくくり、その内部を時、原因・理由ほか、運用修飾語とした。

『話型2』では、主語、目的語、補語、述語からなる文を骨ぐみ成分としているが、この本では、核文とし、運用修飾語、連体修飾語を含めたものを単位文とした。

複文については『話型2』では複合構文と付加構文と命名し、二種に分けているが、ここでは、接続助詞数一つと二つ以上に分け、それをまた、単位文がいくつあるかによって下位分類した。

題目語をたてたが、それと主語とのちがい、述語の部分の主語の問題など、体系的にはまだ弱い点が多いが、今のところこの程度にして幼児の文構造をみていくことにする。

---

（注）複合述語の例は、『話型2』（72頁）にあがっている。

## 第2章 幼児の単文の構造と用法

### 2.1 幼児の文の種類

文構造の分析に入る前に、幼児はどのような種類の文を、このような問答形式の対話の場合に話すか調べてみる。調査者の問い合わせに答えて、「ん」「うん」「そう」などと返答する応答文がある。調査者である質問者に逆に問い合わせをなげかける疑問文がある。この形式としては、「文末の形式と用法」の章で述べるが、昇調「の」の形、「か」や「でしょ」の形などがある。(ここでは問答形式であるために疑問文は少ない。) それから命令文、これも文末形式のところで述べるが、他人のことばの引用の中にはあるが、他はほとんどない。感嘆文、これは「あ！」という叫びの用例その他にいくらか見られるがやはり少ない。会話文、これはかっこの中に入る他人の話の引用であるが、使われている。一番多いのは、ことがらや考えを述べる平叙文である。

平叙文としては、文を一度言い終え、そのあと不足の成分や、自分の考えを補足的につける補足(倒置も)文がある。(付録2として幼児の使用した形式を述べる。) その他、原因や理由を述べるたとえば、両親を好きな理由として「ヤサシイカラ」というような理由文も多い。名詞+助詞「ボクモ」「ホンヲ」などという形式の省略文もある。(理由文も省略文の一種としてよいかかもしれない。) 省略文としては、一語文もそうだが、連体修飾語+名詞止「オトナノ バングミ」とか、並立の助詞で結ばれた形式「ホソイミチヤ ヒロイミチ」などがある。

その他、質問者が次の問を、まだ幼児が話し終わらないうちに発言したため、幼児の発話が中断してしまうとか、幼児が次に発言することばを忘れ、文が中断するという中断文もある。それから録音が不明瞭で、文意が聞きとれない意味不明文とか、話してはいても文脈が不整で、内容のわからない不整文もある。これらは非常に多い。

平叙文の中から中断文、意味不明文、不整文を除き、この章では単文の構造をみていくことにする。

### 2.2 文の認定

(注)

どのようなものを文と認定するか、話すことばなので、分析をするわれわれが決めなければならない。カードになってしまえば、それから判断できるが、録音を文字化して句読点をつける場合には迷うものが多く困る。「問答形式」の場合は幼児が話し終えたら質問者がそれを引きとてまた別のことを聞くというので、大体見当もつくが、(それでも判断しかねるものもある)「自由の場」での会話は一語文が多く、全く判断できないときもあった。

判断の規準は、文末とするところに動詞の終止形とか終助詞があり、いくらかの間が認められたり、イントネーションもさがっており、(疑問形式はあがる。) 声も消えかかっているというよ

(注) 『話すことばの文型(1)』(前出)には、「文の認定について」(42~83頁)という章があって、文として認めるもの、文として不完全とするものを決めている。しかし、ここではそれによらない。ともかく、幼児の話すことば全部をありのままに扱ってみることにしている。

うなことに大ざっぱにいうとなるが、それでも決めかねる場合があった。次のようにある。

①「でしょ」で文が切れるかどうかの問題。

○シェナンドデショウ、アト オクサマハマジョデショウ、アト プロレスデショウ、ア、アト ケンドウシカミナイ。オトナノモンハ；（自長-b男6:0-21）

○クマガネー ネズミノ トコ オイカケテ ドウロマデ キテネー ネズミガ ドウロニ キ ドウロヲ ワタル アノネー ノ ドウロ サーット トオッタデショ、デ、ネー ドクマモ トオッタデショ、ソシテネー ジロウシャガ キタラ パート アタッチャッタノ。（自中-g女5:0-13）

この「でしょ」では文は切れないようだ。この二児には、このような話しぐせがある。「と」や「て」で文をつなげてもよい文である。

②文末か接続助詞かはっきりしない例。

「から」「けど」の類。また終助詞「ね」も。

○「ボクト イッショニネ キョウソウ シナイカイ」ッテ ユッテネ ウサギハ ピョンピヨン イッテルケドネ カメハ ノロノロ イッテネ マケタケドネ〔。〕 ンートネ 「ユウガタマデ カカルダロ」ッテ ユッテ シトヤスミ シテネ カメガネ ヤマノ テッペネー〔。〕 ウント ウサギガ オキタラ ピョンピヨンネ ヤマノ テッペンマデ イッタノ。（赤中-s男5:6-16）

かぎかっここのところで文が切れていいかどうか。次のも「けど」が文末か接続助詞かに迷うもの。

○オトウトガ マダ ジガ ヨメナイカラネ ョンデクレルケドネ〔。〕 アタイハ モウ ジガ ヨメルノ。ダカラネ ヒトリデ ヨメルノ。（赤長-f女5:9-13）

○ギュウニユウ ノン ノンデネ ウ ヨルニ オフロ イクカラネ〔。〕「モウ ネナサイ」ッテ ユッタカラ ウ ネルノ。（自長-i男6:4-11）

「けど」と「から」は終助詞のように思える。次のは「ね」の例。「ウーン」という間があったりして終助詞のように思えるがどうか。

○ハジメ コウ キテネ ソレカラ コウ マガッテ、ソレカラ コッチニネ スグ ヤレバ クミチャンチノ オウチダカラ スグネ〔。〕 ウーン ジュンチャンチモネ イッショニ カイルカラ スーグ チカクナノ。（道順の用例から）（赤中-k女5:3-10）

## 2.3 幼児の単文の構造

前にあげた平叙文の中から、幼児がどのような内部構造をもっている単文を使って、自分の言わんとすることを表現しているかを概観してみる。以下のように分けて章末に用例をあげた。

### 2.3-1 省略構文

2.3-2 述語構文 Z, HZ, RZ, QZ, YZ, ほか

2.3-3 主述構文 SZ, SHZ, SRZ, SQZ, SYZ, ほか

2.3-4 題目語をもつ構文  $\boxed{S} \frac{SZ}{Z}$

用例の記録にあたっては、「アノネ」「エート」「ウントネ」の間投詞は省いた。これらの間投詞

がどのように発話の中に含まれているかは第一部に引用してある幼児の話しことばでみていただきたい。文であるかどうかの認定の場合、間投詞が手がかりになったりして重要な意味をもっている場合もあるが、今度の調査研究では取りあげなかった。言いなおしのためのくりかえしの部分、ただのくりかえしの部分や言いさしは～～～であらわした。また、下線のひいてある部分はここでは内部構造を分析しないでおくというしである。連体修飾部、複合述語、会話などが入っている。用例は多数の幼児が使用している構造については全部をあげていない。また、単純な文構造の例をあげるようにした。このような構造をどのくらい幼児が用いているかをみるために横に数字をあげておいた。数字をあげた幼児は、年長と年中は同一幼児のもの、年少は神谷、小川の園児である。●は、他の幼児から補充したもので（補助資料と呼ぶ）、数字に含まれていない。一幼児が話した文数を参考までにあげると、平均では、年長88文、年中64文、年少106文である。文の中での文節数の割合は、年長4.4文節、年中3.6文節、年少2.8文節で、あたりまえのことであるが年少が最も短かい文で話しているのである。（付1参照）

備考には、きづいたことを述べた。また、あげた用例には、どういう幼児が使ったかもわかるようにした。特に使用数の少ない構造は、用例を全部あげたので、どういう幼児が用いているかもわかる。

章末の用例から言える単文の構造について概略まとめてみると以下のようになる。

### 2.3-1 省略構文

体言一語からなる文（一語文）は、年長、年中、年少を問わず多いが、中でも年少児に多い。副詞一語からなる文もここに入れた。

連体修飾語＋体言止の構造も年少児に多い。体言＋助詞止、なかでも格助詞止の形式は年長に多く、体言が連体修飾語で修飾されている場合の格助詞止の形式は年少児にはなかった。

並立的に体言を助詞「と」「とか」「や」で並べる構文を幼児はよく使う。（前にも述べたが質問にもよるだろう。）また、「それだけ」という形式で、並立的に並べた語をまとめたりすることもできる。（ここにあげた構文を全部省略構文と見るには問題があるかもしれないが、一応そのように考えた。）

### 2.3-2 述語構文

これにはいろいろの構文があるが、述語だけからなる文をみると、動詞述語文が一番多く、ついで形容詞（形容動詞も含む）述語文、名詞述語文となっている。年少児には述語だけの構文が多い。短い文で話しているわけで、体言一語文、述語一語文が多いのはもっともなことである。述語文の中には述語一語から成立しているものと、その述語に連体修飾語のつく構文、述語が並立関係をもつものなどがある。年齢を問わず少ないが、年少には少ない。以下に述語の部分の体言止、活用形止の区別なしに、述語構文のさまざまな形式をみていくことにする。

独立語＋述語の構文のうち、独立語の中には間投詞の類、呼びかけ、応答その他を含む。以後の用例からは省いてある。

接続詞＋述語の構文では、接続詞およびそれに準ずる文脈導入的部分をもつ構文である。以後、

（注）+の印であるが、こういう順序に並んでいるという意味で深い意味はない。以下同じ。

接続詞の部分は独立語と同様に用例から省く。構文として取りあげないことには問題が残るが、接続詞のついた文については第6章で分析するので、単文の構造からは省いた。

補語+述語の構文では、補語を、 $H_1 H_2 H_3$ に分け、 $H_1$ には具体的なものや抽象的なことがらのうち、「なに」(what)にあたる意味のものを入れた。 $H_2$ は「だれ」(who)にあたる人間、動物、テレビ漫画の主人公が含まれる。 $H_3$ は位置とか場所を示す「どこ」(where)をあらわしている。(この中にも具体的な場所のみでなく抽象的な場所も入れた。) $H_2$ はともかく、 $H_1 H_3$ は、非常に目の荒い大ざっぱなくくりかたで問題が残る。たとえば『話型2』の「補語<sub>1</sub>」をここに含めたこととか、(その一部は文末形式のところで多少分析するが。)厳密に発達をみる場合は $H$ に含まれる語彙の語彙的発達もみる必要がある。補語についての細かい研究は今後の課題にしたい。連体修飾語の内部構造については第4章にくわしいが、ここでは修飾語は被修飾語の一部とみなして下線をつけ、分析の対象にしていないが、そのようなくみあわせは取り出して数を調べた。補語<sub>1</sub>の「を」のつく構造が年齢に関係なく多い。その他、時、場所の修飾もわりにみられる。形式名詞「とき」「ところ」の修飾である。主語、述語の部分の修飾は少ない。

$H_1 +$ 述語の構文の中には、時枝誠記説の対象語も入っているが助詞では、「を」をもつ構造が一番多い。しかも「を」の助詞が零の形式が多い。特に年少児に多いのが特色である。連体修飾語をもつ $H_1 +$ 助詞「を」零の形式は前に述べたが年齢に関係なく多い。幼児の使うことばや構造の特色については章末の用例の備考のところでも述べているので参照されたい。助詞使用の省略や誤まりの例もあげておいた。話すことばなので、ただの話しあやまりという場合もあるが、幼児にとっては、助詞をはっきりと認識して使うことがむずかしいようである。助詞が脱落しているため意味が通じなくなる場合もある。助詞が二つ重なる「でも」「にも」を「も」の助詞だけで表現しているのに気づいた。また、助詞を正しく使えないとはいっても、そこに何かがあるという自覚はあるのであろう。「オトナノ—ワカンナイ」とか「ウミ—イッタヨ」と長音にのばしたり、間投助詞の「ね」とか「さ」をはさむ例がみられた。

$H_2 +$ 述語の構文では、助詞「に」「と」のつく形式が多い。「と」のつく形式は $H_1$ にはみられなかった。

$H_3 +$ 述語の構文では、助詞は、「に」と「で」のつく形式が多かった。ここにあげた「で」「は」のついたたりたては述語の部分が体言止か助詞止になっている省略文である。ここまでに使われた補語につく助詞を表にしておく。(「名詞の格の用法」として高橋太郎が研究を開始しているので、詳細はそれにゆずる)この表を見ると、助詞「を」をつけない形式が $H_1$ で一番多く、ついで「に」のつかない形式が $H_3$ で多い。ともになくても意味が通じる助詞である。

これら $H$ の部分が節からなる連体修飾語をもっている、つまり補語でなくそこが部(補語部)

---

(注) 外国語にもある。Menyuk 160 ペ 平叙文は次の矢印の順序で発達していくという。

That box → That's box → That's a box

Big boat → That big boat → That's a big boat

Rick go → Rick going → Rick is going

すなわち、おとしやすい語は be動詞、助動詞、動詞叙法の can, do, will, 冠詞(a), 語形変化(現在分詞のおしまいの部分)などであるようだ。

補語一つにつく助詞の種類と使用数

構文の型	助詞	年齢			構文の型	助詞	年齢		
		年長	年中	年少			年長	年中	年少
H <sub>1</sub> Z	が	18	14	12	H <sub>2</sub> Z	(を)	1	2	2
	(が)	6	4	1		に	9	13	8
	は	6	11	5		(に)	1		
	(は)	4	1	1		にも		1	
	も	8	6	13		と	7	5	5
	を	11	4	4		から			1
	(を)	86	84	88	H <sub>3</sub> Z	が	2	1	4
	に	7	7	5		を		2	1
	(に)	8	4	7		(を)	1	5	5
	にも		1			に	12	7	15
	で	18	14	13		(に)	6	15	16
	でも	1	1			にも	2		3
	では	1				へ	2		3
	まで	3				で	11	9	8
	だって			1		(で)			2
	その他	8	19	11		でも	1	5	1
	が	3	2	1		まで	2		2
	(が)	4	1	1		から	2	4	3
	も			1		までしか		1	
	を			2					

(かっここのものは、その助詞が脱落しているもの。)

をなしている構文も年長にはある。たとえば次のような構文である。(「連体修飾語の形式と用法」参照)

○ソイデ オクジョウデ アソンデネ, ソイデ ジュウエン イレルト シタガ ミエル ポ  
ウエンキョウ ミタノ。(自長-e 男6:1-5)  
○ポパイガネ ホウレンソウ タベテネ, ヤツツケル トコガ オモシロイ。(赤長-し女  
5:9-20)

Hを二つもつ構文はH<sub>3</sub>とH<sub>1</sub>の組んだものとH<sub>1</sub>とH<sub>1</sub>, H<sub>1</sub>とH<sub>2</sub>, H<sub>2</sub>とH<sub>3</sub>, H<sub>3</sub>とH<sub>3</sub>の組み合せの構文が使われている。

Hを三つもつ構文もあるが意味のはっきりしないものもあったりして少ない。

R(連用修飾語)について、述語文を拡大する文について述べると、いわゆる程度とか情態をあらわす副詞がつく構文が一番多い。音まね語もよく使う。ついで名詞+助詞の形式とか数詞で、陳述副詞のつく構文は、年長が年中、年少に比べるとよく使っているという程度。陳述副詞にも色々あるので、陳述副詞は、幼児にとってむずかしい表現ということは一概に言えない。Rが二つ以上つく形式は少ない。

H Z の構文に連用修飾語 R のつく形式では HRZ と RHZ の構文をよく使う。その他は少ないが H や R がその上に加わった構文 RHHZ とか HRRZ などもある。

T(時)+述語の構文。これは述語文を時で限定する構文であるが、年長、年中、年少ともよく使う。特に年長が多い。H Z 文を T で拡大した THZ、HTZ の構文もよく使っている。H が H<sub>3</sub> の構文をわりに使っている。特に T を最初にもってくる構文が多い。その他 R がついて TRZ となる構文、H のつく THRZ、RTHZ の構文など変った種類も使っているが使用数は少ない。

T の部分が一語、たとえば「ヨル」「キノウ」などを使っての構文もあるが、形式名詞「とき」を連体修飾語で限定した複雑な構文もよく使う。たとえば、「ニチヨウビン トキ」から「ハジメキタ ヒニネ カワニ イッタ トキ」というふうに連体修飾語の部分が節になったり、ここでは用例がないが節の部分が複文構造の場合もありうる。

Q+述語の構文は、Q には、他人の話をそのまま引用して、述語の部分が「と言う」になる直接話法や、心の中で思っていることを述べ、述語が「と思う」の形式になる構文などを含めたが Q の内部構造については取りあげなかった。

Y+述語の構文は、Y の部分が述語の理由や原因等を述べているもので、つまり、どっかにいく目的、たいへんな理由などである。YZ 構文は少なかった。幼児は「ヤサシイカラ」という文を、「ママガ スキ」と述べたあとに、補足するような形式で使ったり、質問者が「どうして好きなのか」と聞いたときの返事として、このような構文を使う。これは一応一括して理由文とした。幼児の場合、複文構造でも、理由などを述べる構文が少なかったが（「複文の構造と用法」参照）、接続助詞「から」「けど」などが文末にくる理由文を使用しているからだろう。

### 2.3-3 主述構文

助詞「が」が主語につく動詞文を一番よく使っている。その次は強調の意をもつ「は」「も」の形式で、この構文は年少児がよく使っている。いわゆる総主文を SZ 構文のあとに入れたが、問題が残ろう。用例が少ない。

主語+補語+述語の構文もよく使う。語順が補語+主語+述語となっている構文もそれについて使う。後者のように前にくる補語は、場所を示す名詞が多い。「には」の意味で文のはじめにくる構造も正在している。助詞の整っているものとそうでないものがある。

補語を二つもつ構文もあるが少なくなる。H<sub>3</sub> と H<sub>1</sub> をもつ構文が中ではよく使われる。

連用修飾語をつけて主述文を拡大した構文では SRZ の構文をよく使う。述語構文のところで述べたのと同じで、程度、情態の副詞を使う構文が多い。語順が RSZ になる構文は少ない。R が二つ重なる構文はほとんど使っていない。

SHZ の構文に連用修飾語のつく構文は 6 つのちがった語順全部を使っているが用例は多くない。S が最初にきて、R、H が交替した構文が、中ではよく使われている。H や R が二つにふえた構文もあるが少ない。

時で、主述構文が拡大された形式は、T(時)が S より前、文頭にある TSZ の構文をよく使う。SHZ を T で拡大した構文は、四つの語順の形式の構文を使っている。その他 H が二つあったり、T を二つもつ構文などもあるが、数が少ない。TSHHHZ という構文を年長の一児（赤長 W 男）が使用していた。

主述構文を時と連用修飾語で広げた形式や、主+補+述の構文を、時と連用修飾語で広げた構文も使っているが非常に少ない。

Qの入っている構文では主述にQの入っている構文が多い。その他RとかTの入る構文は少ないが、TSHQZの構文を年少の三男が使っていた。

SYZの構文も見られるが少ない。これについては述語構文のところで述べた。

章末の使用例をあげる順序は、主述構文ではSZ, SHZ, SRHZ, TSRHZ, TSRHYZという構文が拡大していく方法でなく、SZ, SRZ, STZ, QSZ, SYZと、まちがった種類に分類して、その中の構文拡大という形式をとっている。

### 2.3-4 題目語をもつ構文

この構文は絵の説明をするとき、あるいはテレビのお話をする時に、最初に「これは」とか「～の話は」というふうにもってくる構文で、述語のところが、「～のところだ」の略された「とこ」などを文末にもっている。題目語のほかにZ文の中に主語をもつ構文である。この中には題目語の略された構文と、Z文の主語の略された構文がある。年齢を問わず用いているが、使用例は少ない。大部分の幼児が、日常会話では使っていない構文のようである。

## 2.4 まとめ

幼児の単文の構造でいえることは、順次述べてきたことにつきるが、全体に、簡単な構文を使って用をたしている。一語文が多かったり、述語だけの述語構文が多かったり、補語のつく形式も補語一つ、連用修飾語で広げた構文も、それが一つ、時、理由などで拡大した構文もそれが一つというような実態である。使用数の多い構文の型を参考までにあげると次表のようになる。

幼児のよく使用している構文

構文の型	年齢	年 長	年 中	年 少
一語文		322	312	428
Z		312	220	400
H <sub>1</sub> Z		187	171	166
SZ		148	137	209
SHZ		89	57	65
RZ		72	42	63
H <sub>3</sub> Z		44	50	65
SRZ		35	19	46
HRZ		32	20	20
HHZ		28	16	29
H <sub>2</sub> Z		25	24	21
TZ		31	17	15
THZ		22	26	11
QZ		18	9	30

年少が年長や年中より多い構文は、一語文、述語だけからなる構文、主語述語からなる構文などで、一文節や二文節からなる単純な構文である。連体修飾語をもつ構文は少ないのである。(複文のところで述べるが、年中に多い構文は接続助詞一つからなる構造で、年長が多く使用するのは、四文や五文からなる接続助詞二つ以上からなる構造であることは興味深い。)

用例をみながら気づくことだが、構文の型が複雑に発達していくとともに、助詞のまちがった使用、幼稚な語彙使用、その他、動詞の使いまちがいなどが少なくなっている。どのような例があるかは注釈をつけたり、備考欄でも述べたが、以下に拾ってみる。ここでは語彙関係のものを主としてあげる。述語の部分は「文末の形式と用法」のところであげる。

### 1) 語彙使用の未熟さ（ことばたらずの例なども）

○チ(ス)タイル チテンノ。(神少一古男 4:5-2)

父親の仕事の説明。洋服メーカー「東京スタイル」の仕事をしているということらしい。

○ニジュウ クレルカラ。(神少一高男 4:4-1)

こづかいとして20円くれるから父親が好きだの意。「から」文末の理由文でもある。

○ハナ(花)ガ チャント ウエニ ナッテンノ。(神少一寺男 4:4-18)

「上に向いた」とか、「元気になった」とかとなるべきところ。

○ジドウチャワタリヲネ ヒトチュ ワタッテ イクノ。(神少一古男 4:5-10)

横断歩道のこと。

○オチュカイノ トコ トオッテ イク。(神少一坂女 4:0-6)

「お使いに行く場所」あるいは「お使いに行くとき通る道」の意である。ことばたらずの文である。

○シロバイニ ナリタイ。(神中一規男 4:6-7)

「白バイのおまわりさん」とかいうべきところ。

○ドライブ イクノ。(小中一篠男 5:1-13)

「ドライブするの」であろう。

○コノ コウイウ ハネネ, (自中-t男 5:3-12)

赤い羽根と言えないで、品物を指示したり、このような表現で代用する。「こういう」という表現は多い。

○タイオンケエ ハカッタノ。(自長-d女 5:11-9)

体温をはかったのか、体温計ではかったのかわからない。助詞欠如でより一層わからなくなっている。

○ウサギト カメガ ヤママデ ヨーイドン シタノ。(赤長-v男 6:1-11)

競走（かけっこ）のことをこのように表現している。

### 2) 副詞のまちがった使用

○ナルベクネ オハナシ シテ クレナイケドネ チート オハナシ シテ クレル。(神中一遠男 5:1-23)

○ダッテ ナゲテモ ナゲテモ ゼンゼン ホームラン アタッチャウンダモン。 (赤長-e男 5:10-7)

○アンマリモ タノシク ナカッタ。(赤長-g男 5:10-4)

○チョット ミタコトハ ナイ。(赤長-h女 6:6-2)

前者は「も」が不要、後者は「も」が必要のもの。

### 3) 反対語をまちがえる。

① ある←→いる 生物は大体「いる」を使う。

○ヨウチエンニ アル トリナンカ, (神中一遠男 5:1-11)

○ソコニネ オオキナ オオキナ クマガ アッタノ。(赤長-u女 5:11-4)

② いく←→くる

○カオ アラッテネ ゴハン タベテ ホイクエンニ クルノ。(神中一松女 4:8—5)

○シゴトナンカネ チュクッタラ チゴトナンカネ カエチニ イッテネ マタネ アタラチ一ネ チゴトヲネ モラッテ イクノ。(神少一古男 4:5—30)

③あげる←→くれる←→もらう

○ミーチャン ヒロチャンカラネ ツルノネ……オシエテ クレタカラ ダカラ デキンノ。  
(小少一矢女 4:0—10)

「教えてもらった」の意。

○オカアサンノ コトヲ テツダッテ クレタリネ オカアサンノ コトニネ ナンカ アゲタリ スル コト。(神中一松女 4:8—4)

ほめられるときはどういう時かと聞いた返答。「あげる」の意。

全く、使えない場合もある。

○ママニ、カッタノ。(小中一山崎男 4:11—7)

「買ってもらった」の意で言う。

## 2.3-1 省略構文

\* = 注: △ = 助詞なし文の意 × = 助詞の誤用の文 ● = 構用の文

文構造 年齢別 用例	用例数	用				例	用例数	年 少 (神谷・小川)	備考
		年 長 (赤羽・自由)	年 中 (赤羽・自由)	年 中 (赤羽・自由)	年 少 (神谷・小川)				
1 (Z) 文	322	○アトム。(自-e女5:7-14) ○ゴサイ。(自-s男5:9-1)	312	●ボールナゲ。(赤-1男4:8-5)(注) ●ヨツツ。(赤-e女4:9-1) ○ドシテモ。(赤-女4:7-7) ○タマニ。(自-e女4:8-10)	428	○ジドウシャ。(神-鎌男3:6-4) ○マダ。(小-岸男3:11-8) ○ドシテモ。(小-千女4:2-8)	—語文。 体言や副詞 からなる。		
6	17	○チヨツト。(赤-u男6:5-3) ○ドシテモ。(赤-m男5:10-1)							
45	30	○ライオンガ。(自-t男6:2-26) ○オソビナンカ。(赤-t男6:0-6)	45	○オトウサント。(自-1男5:1-1) ○マンガダケ。(自-g女5:0-8)	14	○コッチャモ。(神-高男4:4-2) ○ヨッチャマデ。(神-坂女4:0-5)	—注)年中に は年長にあ がらず転出 した幼児の 用例が多い。		
Rt (Z)	92	○オトナノバングミ。(自-f女5: 8-8) ○スキップシリネ アソンダリ スルトコ。(自-e女5:7-10)	79	○オッキイ ツミキ。(自-s男4:10: 8-8) ○イジワル シナイ トキ。(自-p 男4:7-3) ○ニジュウサンテ カイテ アル トコガ。(赤-t男5:1-8)	134	○ヨシコチャンテ イウコ。(小- 千女4:2-3) ○ヘビトカ カイジエウノ ユメ。 (神-寺男4:4-14)			
*下線の部分 は一成分と みなす。 以下同じ	3	○カブトムシト クワガタ トッタ コトガ。(自-p男5:6-4)	4						
並立関係のも の	86	○シズオカノネー イズミチャント ケンチャントー シズオカノ オ バチャントアタシトネー アサ ブノ ヒト。(自-h女5:7-10) ○ショウネンジエットカネ シンド バッドノ ボウケンカネ ノッバ ノ コッテ イウノトカ。(自- d女5:11-22)	76	○アトムトカ テツジン。(赤-v男 5:1-6) ○イストネー ソレカラネー ウチ ノ オネエサント ソレカラ ネー オトウサント オカアサン ト。(自-d女4:11-2)	75	○ケーブルカート ロープウェー。 (小-幅男4:2-5) ○アブナイ ハナビトネ アブナ ナイ ハナビ。(神-秋男3:11-5)			

○ カケッコトネ カンガルリート ネ バラガサイタトネ ソレカラ ツナヒキトネ ソレダケ。(赤-d 男 6:4-5)	○ カケッコトネ スズワリト ソ (レ) ダケ。(赤-w 男 5:3-3)	○ ハヤハヤト ママト ソレダケ。(神 -三男4:0-2)	並立関係を まとめてい う言い方も ある。
---	--	----------------------------------	--------------------------------

2.3-2 文構語述

後特別にとりあげない JZ *接続詞は以後特別にとりあげない、 (第6章参照)	40	○ソウダナ、イッチャッタンダ。(赤-m男5:10-21)	○アッ！ チカクジャナイ。(自-b男5:1-7)	○ウン、ママ。(小-矢女4:0-2) ○チカウ、アカチャンノ トキダ。 (神-高男4:4-10)
		○デサー ネチャッタ。(赤-w男6:3-18) ○ソイデ マガソノ。(自-1男6:0-14)	26 ○ソイデネ ワルモノジャナナイヨ。 (自-t男5:3-17) ●ダカラネー キツ(イ)ノネー。(赤-1男4:8-17)	41 ○ソシタラ タオレチャッタノ。(神-佐女3:7-12) ○ダッテ ウレシイソンダモン。(神-杵男3:7-1)
2.2 H <sub>i</sub> Z H <sub>i</sub> =もの、 ことがら、 抽象語。 何(What) にあたる補 語1。	12	○アトハ ワスレチャッタ。(赤-q女6:1-24) ○ホカニハ ソラン。(自-i男6:4-9)	18 ●アトネー ハナト クチ。(自-q男5:4-2) ○ホカニ ハビー ミル。(赤-w男5:3-7)	41 ○アト ベンギン。(神-宮男3:8-4) ○ホカ(ハ) ツミキ。(神-玉男4:0-3)
		△2 H <sub>i</sub> Z H <sub>i</sub> =もの、 ことがら、 抽象語。 何(What) にあたる補 語1。 *格助詞の種 類と、ある なしをここ では述べる が以下略 す。	△2 ○カンガルキヨウソウガ ヤリタ カッ(タ)。(赤-o女6:1-6) ○ミズアソビガ タノシカッタ。(自-r女5:7-5) ●マグマタイシト アト ウルトラ マント ソレダケガ シュキナ ノ。(自-z男5:8-10) ○ムシノ カンサツ テキルヨ。(赤-m男5:10-8) ○ウタトカ ソウイウ モノ ス キ。(赤-p女6:2-9)	14 ○オソトノ ホウガ タノシイ。(赤-m男4:10-3) △1 ○シ ヨメナイノ。(自-v男4:7-8) △2 ○ムシノ カンサツ テキルヨ。(赤-m男5:10-8) △4 ○ウタトカ ソウイウ モノ ス キ。(赤-p女6:2-9)
88	6	は	は	10 ○アッ！ チカクジャナイ。(自-b男5:1-7)
		○ゼンブハ オボエテマセン。(赤-s男6:6-14)	8 ○ママノ ミル モンハ ワカンナ イ。(赤-x女5:2-7)	10 ○オママゴトガ オモシロカッタ。 (小-矢女4:0-4)
後特別にとりあげない JZ *接続詞は以後特別にとりあげない、 (第6章参照)	41	○ソイデネ ワルモノジャナナイヨ。 (自-t男5:3-17) ●ダカラネー キツ(イ)ノネー。(赤-1男4:8-17)	41 ○ソシタラ タオレチャッタノ。(神-佐女3:7-12) ○ダッテ ウレシイソンダモン。(神-杵男3:7-1)	12 ○オママゴトガ オモシロカッタ。 (小-矢女4:0-4)
		○アト ベンギン。(神-宮男3:8-4) ○ホカ(ハ) ツミキ。(神-玉男4:0-3)	(注)接続詞 に準じるものとした。	△1 ○ゴハシ スキナノ。(小-矢女4:0-9)
2.2 H <sub>i</sub> Z H <sub>i</sub> =もの、 ことがら、 抽象語。 何(What) にあたる補 語1。	1	△1 ○ムシ シュキ。(自-t男5:3-25) △3 ○ムシ シュキ。(自-t男5:3-25)	△1 ○ムシ シュキ。(自-t男5:3-25) △3 ○ムシ シュキ。(自-t男5:3-25)	5 ○ヨムノハネー デキナイ。(神-高男4:4-18)
		△4 ○ゼンブハ オボエテマセン。(赤-s男6:6-14)	(注)いわゆる対象語「カラダガオッキイ」などもこの中に含めある。 △印は助詞なし文の例。助詞なし文には意味のわからぬものもある。	



△8   ○サンボ イッタ。(自-h女5:7-6)	△4   ○ロゲット ノッタノ。(自-p男4:7-6)	△7   ○ジテンシャ ノリタイヨー。(小-新男3:10-6)
にも× ●シャ[さ]ンボ <sup>テ</sup> モ[にも] チエレ <sup>テ</sup> テッテ クレタ <sup>。</sup> (自-z男5:8-4)	1   ○ゾウノ オスベリニモ ノッタン <sup>ダヨ。(赤-f女4:10-9)</sup>	×1   ○テレビ <sup>テ</sup> [に] デルノ。(神-新女4:2-7)
で 18   ○ボールテ アソブ。(赤-c男6:3-7)	14   ○テレビ <sup>テ</sup> キイタ コト アル。(赤-m男4:10-9)	13   ○オモチャ <sup>テ</sup> アソンダ <sup>。</sup> (神-玉男4:0-2)
×1   ○タイオンケエ[で] ハカッタ <sup>。</sup>	×   ○オスベリダイ <sup>上</sup> [で] アソブ。(小-新男4:3-5)	×1   ○ナンカ[で or をして]アソブ <sup>。</sup> (小-新男3:10-4)
でも 1   ○ナンデモ カッテ クレル。(自-t男6:2-1)	1   ○ママノ ミル モンデモ <sup>。</sup> (赤-x女5:2-7)	「でも」使えないのか。
×1   ○エーゴモ[でも] カゾエラレル。(赤-c男6:3-15)	●   ○ニンギョウモ[でも] アソブ <sup>。</sup> (小-清女4:8-4)	
では 1   ○ホンデハ ワカル <sup>。</sup> (自-d女5:11-11)		
まで 3   ○ヒヤクマデ カゾエラレル。(赤-o女6:1-13)		
だって 1   ○ナンカ センセイ <sup>。</sup> (赤-a女6:4-6)	1   ○オウチダッテ モチアゲチャウヨ。(神-高男4:4-13)	
その他 8   ○トヤナンカ キクノ。(赤-h女6:6-3)	19   ○ビックエックサンカ ミテルヨ。(赤-a男4:11-7)	11   ○ナニカネ オヨウフクナンカ <sup>。</sup> (神-大男3:11-1)
○オカサンゴッコトカ ヤル。(赤-o女6:1-9)	○タイソウトカ シタ。(赤-s男5:6-3)	○オウチゴッコトカ シテ <sup>。</sup> (小-相男4:4-4)
○オシゴトバッカシ シテル <sup>。</sup> (赤-x女6:2-3)	○イジワル オネエサンヤ イジワ <sup>。</sup> (赤-リ サセテ イラレマシタ <sup>。</sup> (赤-p女5:2-10)	○ホンダケ ヨム。(神-大男3:11-9)
○デモ タダ センソウツテ イウ <sup>。</sup> (赤-シカ オボエテナイヨ。(赤-m男5:10-16)	○ソレシカ シッテ ナイ <sup>。</sup> (白-r女4:18-15)	○テッジンノッキリ ヨメナイケド

(自-g 女5:11-19)

ネ。(赤-t 男5:1-11)

○ヨウチエンノタノシイネ ホンヤ  
ラ アトネ ドウブツノ ホンヤ  
ヨンダノ。(赤-k 女5:3-10)  
●アア! ソレナラネ シツテ  
イル。(赤-t 海男4:3-16)

2-3 H<sub>2</sub> Z  
H<sub>2</sub>=人間,  
動物, 怪獣  
など。  
だれ(Who)  
にあたる補  
語。

か 3 ○オニイチャンガ スキ。(自-b 男  
6:0-5)  
△4 ○アカチャントネ オカアサン ス  
キ。(自-g 女5:11-2)  
も を△1 ○マジヨノ コドモ ウンジャッテ  
ンノ。(自-b 男6:0-25)

に 4 ○カミサマニ オコラレタノ。(赤  
-u 男6:5-13)  
3 ○フランケンシュタイン ナンノ。  
(自-i 男6:4-14)  
△1 ○ジドウシャノ ウンテンシュサン  
ナリタイ。(自-v 男5:7-12)

ネ。(赤-t 男5:1-11)  
○ヨウチエンノタノシイネ ホンヤ  
ラ アトネ ドウブツノ ホンヤ  
ヨンダノ。(赤-k 女5:3-10)  
●アア! ソレナラネ シツテ  
イル。(赤-t 海男4:3-16)

か 3 ○オニイチャンガ スキ。(赤-r 女4:  
10-1)  
△1 ○ミーンナ スキ。(赤-a 男4:11  
-1)

△2 ○ダレカノ ゴト(注)(だれかを)ミ  
ツケテンノ。(自-p 男4:7-16)

に 4 ○カミサマニ オコラレタノ。(赤  
-u 男6:5-13)  
3 ○フランケンシュタイン ナンノ。  
(自-i 男6:4-14)  
△1 ○ジドウシャノ ウンテンシュサン  
ナリタイ。(自-v 男5:7-12)

△1 ○オニイチャンガ スキ。(神-三男  
4:0-3)  
△1 ○オカアサン スキー。(神-古男4:  
5-1)

1 ○ボクモ ボクモ チュレテッテ  
クレル。(神-高男4:4-12)  
2 ○ネズミヲ タベヨウト シテル。  
(神-坂女4:0-8)

△2 ○ダッテー ワリイモン ャッチユ  
ケルンダモン。(小-金男4:1-6)  
8 ○オネエチャンニネー アヤ〔ら〕ツ  
テ モラッタノ。(神-狗女4:3-8)

1 ○ダレニモ オゴ(こ)ランナイ。(自  
-p 男4:7-3)  
●ボクタチニヤ (には) シテクレナ  
イ。(神-伊男4:1-11)  
5 ○ノリコト アソブノ。(赤-s 男5:  
6-4)

△1 ○ヒヨウト タタカッタノ。(赤-u  
男6:5-9)  
●オカアサンカラネ キイタ コト  
アル。(赤-f 男6:3-14)

1 ○オバアチャンント アソブ。(小-神  
女4:1-5)  
1 ○イチバン チイチャイ ヤギカラ  
イキマシタ。(神-坂女4:0-9) (物

より	○カイジユウヨリ ツヨイ。(小-襟 男4:9-13)	語】	
2.4 H <sub>3</sub> Z H <sub>3</sub> =場所 とか場面 (Where)。	が2 ○ソコガ(注)オモシロイノ。(自-g 女5:11-13) △1 サカミチ ノボッテ (クルノ)。(自 -h 女5:7-7) △2 ○ソコー ハイルノ。(赤-g 男5:10 -7) △3 ○オニカイノ トコニ ネタノ。(自 -m 男6:4-5) △4 ○イナカ イッタノ。(自-k 男5:8 -3) △5 ○ソレカラネ オモテガ シュキ。 (自-n 男5:5-7) △6 ○ソイカラ ジドウシャノ アル トコヲネ ワタル。(赤-b 男5:6 -6) △7 ○ハイシャニ イッタ。(赤-b 男5: 6-3) △8 ○ソウシタラネ アナン ナカ ハ イレタンダヨネ。(自-j 女4:7 -17) △9 ○ビーグミノ ウエハネ[ラえには orでは]ネナカッタノ。(自-d 女 5:11-8) △10 ○ドッカヘ イッタノ。(赤-x 女6: 2-5) △11 ○ドコヘモ イカナカッタ。(神-野 女4:6-4) △12 ○ドコモ(に)も イカナイノ。(小-佐 男4:3-3)	4 ○テンショウラン イナカノ (フ) クシマケンノ イナカノ ホウガ イイナー。(神-宮男3:8-5) 1 ○ドウロヲ ワタッテ イクノ。(小 -矢女4:0-7) △5 ○オチュカイン トコ トオッテ イク。(お使いに行くときとおる 道) (神-坂女4:0-6) 15 ○ソウシテ ウチニ カエッタノ。 (小-新男3:10-9) △16 ○トオイ トコ イカナカッタ。(神 -三男4:0-7) △17 ○ヤマヲ(に) ノボッテッタノ。(神 -狗女4:3-17) 3 ○コッチニモ デキテンノ。(小-竹 男4:1-10) △18 ○ドコモ(に)も イカナイノ。(小-佐 男4:3-3)	(注)話の内 容をあらわ す場所。
	△1 サカミチ ノボッテ (クルノ)。(自 -h 女5:7-7) △2 ○ソコー ハイルノ。(赤-g 男5:10 -7) △3 ○オニカイノ トコニ ネタノ。(自 -m 男6:4-5) △4 ○ソレカラネ オモテガ シュキ。 (自-n 男5:5-7) △5 ○ソイカラ ジドウシャノ アル トコヲネ ワタル。(赤-b 男5:6 -6) △6 ○ハイシャニ イッタ。(赤-b 男5: 6-3) △7 ○ソウシタラネ アナン ナカ ハ イレタンダヨネ。(自-j 女4:7 -17) △8 ○ビーグミノ ウエハネ[ラえには orでは]ネナカッタノ。(自-d 女 5:11-8) △9 ○ドッカヘ イッタノ。(赤-x 女6: 2-5) △10 ○ドコヘモ イカナカッタ。(神-野 女4:6-4)	4 ○テンショウラン イナカノ (フ) クシマケンノ イナカノ ホウガ イイナー。(神-宮男3:8-5) 1 ○ドウロヲ ワタッテ イクノ。(小 -矢女4:0-7) △5 ○オチュカイン トコ トオッテ イク。(お使いに行くときとおる 道) (神-坂女4:0-6) 15 ○ソウシテ ウチニ カエッタノ。 (小-新男3:10-9) △16 ○トオイ トコ イカナカッタ。(神 -三男4:0-7) △17 ○ヤマヲ(に) ノボッテッタノ。(神 -狗女4:3-17) 3 ○コッチニモ デキテンノ。(小-竹 男4:1-10) △18 ○ドコモ(に)も イカナイノ。(小-佐 男4:3-3)	(注)話の内 容をあらわ す場所。
	△1 サカミチ ノボッテ (クルノ)。(自 -h 女5:7-7) △2 ○ソコー ハイルノ。(赤-g 男5:10 -7) △3 ○オニカイノ トコニ ネタノ。(自 -m 男6:4-5) △4 ○ソレカラネ オモテガ シュキ。 (自-n 男5:5-7) △5 ○ソイカラ ジドウシャノ アル トコヲネ ワタル。(赤-b 男5:6 -6) △6 ○ハイシャニ イッタ。(赤-b 男5: 6-3) △7 ○ソウシタラネ アナン ナカ ハ イレタンダヨネ。(自-j 女4:7 -17) △8 ○ビーグミノ ウエハネ[ラえには orでは]ネナカッタノ。(自-d 女 5:11-8) △9 ○ドッカヘ イッタノ。(赤-x 女6: 2-5) △10 ○ドコヘモ イカナカッタ。(神-野 女4:6-4)	4 ○テンショウラン イナカノ (フ) クシマケンノ イナカノ ホウガ イイナー。(神-宮男3:8-5) 1 ○ドウロヲ ワタッテ イクノ。(小 -矢女4:0-7) △5 ○オチュカイン トコ トオッテ イク。(お使いに行くときとおる 道) (神-坂女4:0-6) 15 ○ソウシテ ウチニ カエッタノ。 (小-新男3:10-9) △16 ○トオイ トコ イカナカッタ。(神 -三男4:0-7) △17 ○ヤマヲ(に) ノボッテッタノ。(神 -狗女4:3-17) 3 ○コッチニモ デキテンノ。(小-竹 男4:1-10) △18 ○ドコモ(に)も イカナイノ。(小-佐 男4:3-3)	(注)話の内 容をあらわ す場所。
	△1 サカミチ ノボッテ (クルノ)。(自 -h 女5:7-7) △2 ○ソコー ハイルノ。(赤-g 男5:10 -7) △3 ○オニカイノ トコニ ネタノ。(自 -m 男6:4-5) △4 ○ソレカラネ オモテガ シュキ。 (自-n 男5:5-7) △5 ○ソイカラ ジドウシャノ アル トコヲネ ワタル。(赤-b 男5:6 -6) △6 ○ハイシャニ イッタ。(赤-b 男5: 6-3) △7 ○ソウシタラネ アナン ナカ ハ イレタンダヨネ。(自-j 女4:7 -17) △8 ○ビーグミノ ウエハネ[ラえには orでは]ネナカッタノ。(自-d 女 5:11-8) △9 ○ドッカヘ イッタノ。(赤-x 女6: 2-5) △10 ○ドコヘモ イカナカッタ。(神-野 女4:6-4)	4 ○テンショウラン イナカノ (フ) クシマケンノ イナカノ ホウガ イイナー。(神-宮男3:8-5) 1 ○ドウロヲ ワタッテ イクノ。(小 -矢女4:0-7) △5 ○オチュカイン トコ トオッテ イク。(お使いに行くときとおる 道) (神-坂女4:0-6) 15 ○ソウシテ ウチニ カエッタノ。 (小-新男3:10-9) △16 ○トオイ トコ イカナカッタ。(神 -三男4:0-7) △17 ○ヤマヲ(に) ノボッテッタノ。(神 -狗女4:3-17) 3 ○コッチニモ デキテンノ。(小-竹 男4:1-10) △18 ○ドコモ(に)も イカナイノ。(小-佐 男4:3-3)	(注)話の内 容をあらわ す場所。

で 11   ○ウチデ ネタノ。(自-t 男6:2 -5)	9   ○ウミデ オヨイダ。(赤-o 女5:1 -5)	8   ○アメリカデ ャッテタヨ。(神-高 男4:4-8)
では× ○テレビハネ マンガヤナンカ (自 1 -g 女5:11-9)	×1 ○テレビデネ ウチュウバトロール ホッパ。(自-t 男5:3-16) (注)	△2 ○オクジョウ ノンノ。〔屋上で馬な どに乗る〕 (小-加男4:1-3)
でも 1 ○オウチデモ ムシサガシ。(自-k 男 5:8-5)	1 ○ウチデモ ナラッタリシタノ。(赤 -b 男5:6-5)	○オニワ〔で〕 アソンダ。(神-怖男 3:7-2)
まで2 ○イチバン ウエマデ アガッタ ノ。(自-v 男 5: 7-5)	4 ○ドコデモ オモシロイ。(自-r 女 4:8-7)〔同一人〕	○オクジョウ ノンノ。(屋上で馬な どに乗る) (小-加男4:1-3)
から2 ○フトンカラネ(注)コロガッチャッ タ。(自-m 男 6:4-5)	1 ○ソコマデシカ ワカンナナイワ。(赤 -p 女5:2-14)	1 ○トオイー トコマデ イッタノ。 (神-狗女4:3-3)
その他	4 ○コ(ウ)パン トコ (ア)ヲ [か ら] クンノ。(自-s 男4:10-17) ●コウエンダケ イクノ。(小-嘉女 4:8-3)	3 ○コッカラ ハイレナク ナツ チャッタノ。(小-竹男 4:1-10)
2.5 H <sub>1</sub> H <sub>1</sub> Z	1 ○ソイカラ テツボウデネ サカア ガリ ヤルノ。(自-i 男6:4-13)	3 ○チュミキデ ネー ナンカ ツク ルノ。(小-藤女3:10-2)
	1 ○ソイデ ナンカ (ハツ) ト ホ シ ホンニ ハッタリ シチャッ タ。(自-b 男6:0-16) ●アミモノキカイデ セーター ヌッタリ スンノ。(赤-o 男6:2 -7)	×1 ○オシヨバネ デ テマエニ イク ノ。〔おそばのでまえにいく意か〕 (神-高男4:4-2)
	×1 ○ソイダケデ〔を〕 ミル。(自-k 男4:8-9)	5 ○オハナニ ミズ カケンノ。(小 -岸男3:11-7)
	○オニンギョウウデネー オカアサン ゴッコデネ〔をして〕 アソブンデ ス。(赤-x 女5:2-3)	2 ○グズラモ テレビデ ミテル。(神 -古男4:5-18)

H <sub>1</sub> H <sub>2</sub> Z	1	○タカラモノヲネー ソーノネ ト ライタ ヒトタチニ ワケタン ダッテ。(自-u女6:5-22)	1	○クラウンテサー クラウン オジ チャン ツレテ キタツレテ イッテ モラウ コトアコト アルヨ。(神-宮男3:8-3)
	2	○オネエチャントネ スルエ ャッ タノ。(自-n男6:5-6)	2	○オカアチャント オハナシ (シユ) ル。(小-藤女3:10-7)
H <sub>2</sub> H <sub>1</sub> Z	3	○オカアサント ハナシ シテンノ。 (赤-m男4:10-3)	3	○オシゴト カイシャテ ャッテ ル。(小-岡女4:8-2) ○ソシテネ ヒコウキデネ ウチヘ カエッタノ。(自-s男5:9-22)
	4	○イシネ カワノネ トコヘネ ナ ゲタノ。(自-d女5:11-7)	4	○オシゴト カイシャテ ャッテ ル。(赤-q女5:2-10) ○テービハ オウチテ ミタ コト アルヨ。(小-安男4:2-5)
H <sub>3</sub> H <sub>1</sub> Z	5	○イナカデ クワガタ トッテ キ タ。(自-s男5:9-11)	5	○ウチテ センタクヲ シテ イ ル。(小-福男4:2-2)
	15	○ボクンチテ [家で] ニクヤ ヤッテル。(自-b男6:0-4) 〔父親の職業のこと〕 1 ○カッチャンチニ アソビニ イッ タノ。(自-e女5:7-10)	1	○シタデ チュミキデ アションダ リ シテタノ。(神-猫女4:3-5)
H <sub>3</sub> H <sub>2</sub> Z	1	○マエノ アサガオグミデハネ レーメンノネ オンガクタイノネ ニンギョウゲキ ミタノ。(自-d 女5:11-9)	1	○オカツノリクントネー ソレカラ ボクノ オカアサントネ カツノ リクンノ オバサントネ タケノ アール イッタノ。(神-秋男3:11 -6)
	2	○オトウサント タイイクカンニ イッタノ。(赤-f女5:9-5)	2	○ハバクト オソトテ アソア。(赤 -h女5:4-3)



RRZ	-a 男5:11-18)	4 ○ ジュッコシカ ヤスマナカッタ ヨ。 (自-g女5:11-2)	4 ○ ソウネ ニカイグラシカ ヨシ テ ナイ カシラ。 (赤-p女5:2 -14)	4 ○ ソウネ ニカイグラシカ ヨシ テ ナイ カシラ。 (赤-p女5:2 -14)	9 ○ サンボン スケチャッタノ。(神 -清女3:7-2)
	12 ○ ャッパリ ワスレチャッタミタ イ。 (赤-m男5:10-6)	3 ○ タダ アソンデルタケナノ。(自 -o男5:4-2)	3 ○ タダ アソンデルタケナノ。(自 -o男5:4-2)	1 ○ ゼンゼン アソ ナンナイヨ。 (小-佐男4:3-9)	1 ○ ゼンゼン アソ ナンナイヨ。 (小-佐男4:3-9)
	3 ○ ソイデ スグ パット オキチャ ウノ。(赤-m男5:10-20)	●ダンダン コンナニ オッキク ナッテ キタ。(神-桑女4:10-27)	1 ○ ソイデ スグ パット オキチャ ウノ。(赤-m男5:10-20)	1 ○ チャントネ ミンナテ ツカウ ノ。(神-新女4:2-3)	1 ○ チャントネ ミンナテ ツカウ ノ。(神-新女4:2-3)
	1 ○ マダ アンマリ ヨクネ ワカン ナイ。(赤-h女6:4-6)				
	2・7 HRZ	15 ○ アレ センブ ョンダヨ。(自-t 男6:2-20) ○ カズハネー ヒヤクマテ カゾエ ラレル。(赤-w男6:3-18)	13 ○ テツジントカナンカ イッパイ ミルノ。(自-r女4:8-10) ○ シドウシャデネー アーッテ ヤッテタノ。〔幼稚な表現。お父さ んの仕事についての答〕(自-i 男 5:5-2)	8 ○ デンサンサネー-[でんしゃ] フター ノッテ イクノ。(神-折女4:3-5)	8 ○ デンサンサネー-[でんしゃ] フター ノッテ イクノ。(神-折女4:3-5)
	*H=H <sub>1</sub> H <sub>2</sub> H <sub>3</sub> 以下同じ	3 ○ ドロンハガネー オバキエウノ オカアサンニ バケタコ トコ ロガ イチバン オモシロカッ タ。(赤-d男6:4-14)	2 ○ オリガミ(ネ) オリガミ オルノ ガ イチバン タノシイ。(赤-t 男5:1-6) ×1 ○ ドコデモ(からでも) マッスグ イカレル。(自-d女4:11-7)	2 ○ オリガミ(ネ) オリガミ オルノ ガ イチバン タノシイ。(赤-t 男5:1-6) ×1 ○ ドコデモ(からでも) マッスグ イカレル。(自-d女4:11-7)	2 ○ オリガミ(ネ) オリガミ オルノ ガ イチバン タノシイ。(赤-t 男5:1-6)
	14 ○ タイティネ サミシイ ユメバ カシ ミル。(赤-p女6:2-18) ○ マダ ヨウチエンニ モッテ テナイ。(自-u女6:5-3)	4 ○ ヒトリデ オニンギョウテ アソ ンダノ。(赤-j女4:7-2) ○ ソシテネ スグネ オウチ ツク ノ。(赤-x女5:2-6)	4 ○ タイティネ サミシイ ユメバ カシ ミル。(赤-p女6:2-18) ○ マダ ヨウチエンニ モッテ テナイ。(自-u女6:5-3)	12 ○ イーッハパイ オモチヤ モッテン ノ。(神-佐女3:7-3) ○ マタネー プーリユ(プール) イッチャウノ。(神-場男3:10-6)	12 ○ イーッハパイ オモチヤ モッテン ノ。(神-佐女3:7-3) ○ マタネー プーリユ(プール) イッチャウノ。(神-場男3:10-6)
	HRHZ	1 ○ ヨウチエンデハネ イツモネ オ	1 ○ ナンカ シカクイ トコデネ マ		

ソトデ アソンデル。(赤-f 女5: 9-11)	タネ エヲ カクノ。(赤-s 男5: 6-9)	RHHZ	1 ○タマニハネ ハシマト イッショニ コウエン イクトキモ アル。 (小-押女5: 1-4)	●ソイデ アンマリネ カオ ヨク ミレナカツタンダッテ。(小-大男 4: 6-11)	1 ○アソ ツモ ハトリテ イクノ。(神- ソレモ マダ チョット ワカン ナイ。(赤-r 男6: 3-6)	RRHZ	1 ○タマニハネ ハシマト イッショニ コウエン イクトキモ アル。 (小-押女5: 1-4)	●ソイカラネ マタ ズーット オ イカケッコ シテルノ。(小-押女 5: 1-19)	1 ○アソ ツモ ハトリテ イクノ。(神- ソレモ マダ チョット ワカン ナイ。(赤-r 男6: 3-6)	RRHZ	1 ○ソシテ オッキイ カイジュウ ダッテネ シュグネ ホウチョウ ミタイニ ミタイデ[ので?] コ ウ ヤッテネ ブッテ キッチャ ウ。(注)(神-高男4: 4-13)	HRRHZ	1 ○ソシテ オッキイ カイジュウ ダッテネ シュグネ ホウチョウ ミタイニ ミタイデ[ので?] コ ウ ヤッテネ ブッテ キッチャ ウ。(注)(神-高男4: 4-13)
2・8 TZ T=時をあら わす	31 ○クジニ ヤンノ。(自-v 男5: 7-9) ○ヤスミン トキハ ヤッテ クレ ナイノ。(赤-w 男6: 3-11)	TTZ	17 ○ニチヨウビニハ イカナカッタ ノ。(自-g 女5: 0-3) ○……キヨウモ オンナジナノ。(赤 -j 女4: 7-3)	2 ○ナンカネー 「オフロニ ハイリ ナサイ」 ッテ イウ トキネー <sup>1</sup> ハイラナカッタ トキ オコラレ ル。(T一つとも)(赤-k 女6: 2-5)	TTZ	2 ○セシセイガ 「ダメヨ」 ッチユツ タ トキハネ ママモ 「ダメヨ」 チユツタ トキハ アソバナイ ノ。(く)かえしとも)(神-三男4: 0-16)	TTZ	1 ○セシセイガ 「ダメヨ」 ッチユツ タ トキハネ ママモ 「ダメヨ」 チユツタ トキハ アソバナイ ノ。(く)かえしとも)(神-三男4: 0-16)					

2.9 THZ	HTHZ	16 ○マエネ オシロ ツクッタノネ。 (赤-u 男6:5-24) ○ソイデネー ハナビ ヤルマデネ フォークダンス シタノ。(自-d 女5:11-9)(注)	14 ○コノ マエ カミシバイ シテ クレタノ。(赤-i 女5:3-6) ○ニチヨウビハネ <sup>(ア)</sup> マツリ イッタノ。(自-n 男5:5-12)	2 ○ニチヨウビハネー テレビ ミ テタ。(小-相男4:4-6) ○ヨルハネ ヤキュウノ ヒューマ クン ミテンノ。(神-三 男4:0 -32) ○オヤス オヤシュミノ ヒハネー サマーランド イッタノ。(神-高 男4:4-3)
		4 ○シェーカラネー ズーット マエ ニネ トウキョウタワーへ イッ タノ。(自-v 男5:7-5)	9 ○コノ マー-エニネ トシマエン イッタ コトガ アルノ。(赤-f 女4:10-7)	6 ○オヤス オヤシュミノ ヒハネー サマーランド イッタノ。(神-高 男4:4-3)
HTHZ	HTHZ	2 ○テレビ <sup>キ</sup> テレビ イマネ ス キ。(自-f 女5:8-8) ○オサムクンテ イウ コト ソノ ヒ アソンダノネ。(赤-f 女5:9 -16)	1 ○ニュース キノウハ ミナイ。(赤 -s 男5:6-10)	2 ○ダッテ シエンショウサー コド モノ トキ ミタ コト アルモ ン。(神-高男4:4-9)
		2 ○テレビ <sup>キ</sup> テレビ イマネ ス キ。(自-f 女5:8-8) ○オサムクンテ イウ コト ソノ ヒ アソンダノネ。(赤-f 女5:9 -16)	1 ○ナンダッケナ ヨウチエン ケ ノウ イカナカッタノ。(自-u 女 5:5-1) ●オウチデ ヨル テレビ ミテタ ノ。(小-伊男4:3-3)	1 ○カマクランカネー カマクラナ ンカ ニチヨウナンカネ ネー イクノ。(神-古男4:5-4)
THHZ	HTHZ	1 ○ソイデネ ハジメ キタ ヒニネ カワニ イッタ トキネ キノボ リ シタノ。(T一つとも)(自-g 女5:11-3)	1 ○ニチヨウビン トキネ シコウキ ヤネ シヨイウノ アシャデモ ヤッテ クレルノ。(語順)(自-j 女4:7-6)	1 ○オヒルハネー ヒトリテ アソ ン デタノ。(神-閑女5:0-5)
		2 ○イマネー ニジュウッテ カゾエ ラレル。(赤-f 女5:9-14)		

RTZ	1	○トキドキハ、オヒルネノトキ スル。(赤-g男5:10-10)	○アンマリネー ソン トキ ヨル ネ アンマリ ネムレナカッタ。 〔くりかえしとも〕(自-y男6:0-20)	1	○ソイデ イツモネ キタ トキ アソンデンノ。(神-三男4:0-20)	
TRHZ	1	○トキドキネ オカエリニ ゴホン ヨンデ クダサッタリ スル。(赤-p女6:2-5)	1	○キヨウハネ ヘイキチヨウノネ トッカラネ ヒトリデ キタノ。 (自-r女5:7-10)	1	○ソンデ プー(ユ)ガネ オワッタ トキ コウエン イ ニ〔エ〕 イッパーイ アソンデ キチャウ ンダカラ。(神-場男3:10-7)
THRZ	1	○キヨウハネ ヘイキチヨウノネ トッカラネ ヒトリデ キタノ。 (自-r女5:7-10)	1	○ケサ ヨウチエンニ イク マエネ ミンナネ ゴホン チョットタケ ミンナ〔訂正〕ヨンジャッタノヨ。 (小-伊男4:3-13)	1	○キノウハネー マタネ タカチ ンチ イッタノ。(神-折女4:3-5)
TRHZ	1	○ニヨウビハ イツモ オウチ アソンデ イマス。(赤-i女5:3-4)	1	○オトウサンニ ハジメ イッペン オシエテ モラッタノ。(神-桑女 4:10-20)	1	○アアナイ アナイ」ッテ イウ ノ。(小-竹男4:1-8) ○ヒダリツ(ツン)。(神-勝男3:7-5) (赤-d男5:4-9)
HTRZ	2・12 QZ Q=直接話法 ほかを表わす	○「ドンブラコッコ コッチャ マイゾ」ットカ ユッタンダッテ。 (自-u女6:5-17)	○「エヲ ミテ オハナシ シマ ショウ」ッテ カイテ アル。(赤 -f女5:9-17)	4 ○「ワタ タベチャッタ」ナント ユッテンノ。(自-g女5:0-5) ○オバケノ キュウタロウ(ツン)。 (赤-d男5:4-9)	29 ○「アアナイ アナイ」ッテ イウ ノ。(小-竹男4:1-8) ○ヒダリツ(ツン)。(神-勝男3:7-5) (赤-d男5:4-9)	(注)直接話 法の内部は 分析してい ない。
TRHZ	2	○「ココデ タベヨウ」ト オモッテンノ。(赤-d男6:4-17)	○「ドッカノ アイテル オウチ ナカ ハイッチャッタ」ト オモ ツ(ツ)	1 ○「クマガ ハシッテル トコニ ネー トビダソウ」ト オモッタ ツ(ツ)	「と思う」の つくもの。	

2.13	HQZ	○ダカラ 「カワノ ムコウノ ホ ウマデ イコウ」ト オモッタノ ホ。 (赤-0 女6:1-12)	4 ヴ。 (袖-サ男5:0-28) ○カワイイト オモウ。 (赤- j 女4: 7-8)	4 ヴ。 (袖-サ男5:0-28) ○カワイイト オモウ。 (赤- j 女4: 7-8)
		4 ○ネンドナンカガ イチバン オモ シロイト オモウナ。 (赤- a 男5: 11-11)	●スウジミタイナ アレニネ〔はつ きりしない〕「ナントカ ナント カ」ツテ カクノ。 (小-雀女4:8 -3)	●スウジミタイナ アレニネ〔はつ きりしない〕「ナントカ ナント カ」ツテ カクノ。 (小-雀女4:8 -3)
2.14	QRZ	●ヤッパリ 「オイシャサン ナリ ナサイ」ツテ ユッチャウ。 (赤- h 女6:6-10)	1 ○タダ カ <sup>(ネ)</sup> タシヨタロウツテ (ユ)。 (自-n 男5:5-9)	1 ○ソシテネ 「オウチガ コワレチ ヤウヨウ」ツテ <sup>(キ)</sup> <sup>(ヒ)</sup> ツチリ オ シャイテンノ。 (小-加男4:1-9)
			1 ○タダ カ <sup>(ネ)</sup> タシヨタロウツテ (ユ)。 (自-n 男5:5-9)	1 ○タダ ネ タタネー 「アイザワ」 ツテ カイテ アルダケ。 (小-相 男4:4-12)
2.15	QRHZ	●ソレネ ジブンデ イイト オ モッタノ。 (赤-G 男6:1-9)	●「オママゴト ダイジンダ」ナシ テ ヨク ミンナニ イワレチャ ウ。 (小-山中女5:0-23)	●「オママゴト ダイジンダ」ナシ テ ヨク ミンナニ イワレチャ ウ。 (小-山中女5:0-23)
			HRQZ	HRQZ
2.16	YZ	Y=理由ほか をあらわす	1 ○ミセテ クレーニ キタノ。 (自 -t 男6:2-3)	(注)～のた めにの意の ものもこ に入れた。
			1 ○ダッテ オシゴトデネー タイヘ ン。 (自-u 女6:5-16)	
2.17	HYZ		●アイスクリーム カイニ イク ノ。 (小-德男4:5-3)	×1 ○ <sup>(カ)</sup> マクラデネ〔に〕 ツリニ イ ツタノ。 (神-古男4:5-5)
			●ナンカ タベニ イツタノ。 (小 -光女5:1-3)	

HHYZ	2,18	RHYZ	●チュウシャ シニ イク。 (小-押 女5:1-13)	2 ○オカアチヤン オカアチヤント イッショニネ オウマチヤン リニ イッタノ。(小-藤女3:10 -7)
			○オチドコネ〔仕事〕 ドコダッテ トリニ イクノ。(神-古男4:5-7)	
	2,19	TYZ	1 ○ソシタラ ミンナテ ムシトカ ソウイウノ ツカマエニ イク ノ。(赤-n男5:10-12)	●ダカラネ キョウ ゴヨウデ イッタンダッテ。(赤-q女5:2-4) ●キノウネ オマイリニ イッタ ノ。(小-野女4:9-3)
	2,20	THYZ		●イチシチネ ショウジョフレンド ガ ハツバイシタトキネ ソレ カイニ イクノ。(赤-q女5:2-18)

### 2.3-3 主述構文

文構造 年齢別 用例	用 例					備 考
	用例数	年 長 (赤羽・自由)	年 中 (赤羽・自由)	用例数	年 少 (神谷・小川)	
3.1 S&Z	4	○コンドノ カイジュウガネ ゴジ ラ。(自-s男5:9-19)	●コレガ ウサチヤン。(小-徳男4: 5-10)	3	○コレガ オジシャン。(小-原女3: 7-11)	名詞文
	83	○シマウマガネ ハシッテンノ。(自	62 ○ライオンガ キタノ。(赤-u男5:	63	○タイソウガ ハジマッチャッタ	動詞文

	-f 女5:8-9)	○ジブンガ ワルイノ。(自-f 女5: 8-12)	6-8)	○ウシャギガ ハヤイノ。(自-k 男 4:8-19)	ヨ。(袖-場男3:10-11)	形容詞文
△ 6	○ママト ハラハ イル。(自-r 女5: 7-1)	△19 ○デンキ トマツチャッタノ。(自 -a 男4:9-4)	△ 1 ○ボート アッタヨ。(小-福男4:2 -4)	△ 1 ○ジャイアントロボ ベンツトカネ アルヨ。(小-佐男4:3-17)	△ 1 ○ボート アッタヨ。(小-福男4:2 -4)	助詞欠文
1	○ガムヤラネ マセラ デテ キタ。(赤-h 女6:4-8)	5 ○モンスタートカ 口ぶットトカ ナシデモ デンノ。(赤-1 男4:8 -5)	13 ○ソイカラ ゾウサンモ イル。(ト -矢女4:0-12)	13 ○ジャイアントロボ ベンツトカネ アルヨ。(小-佐男4:3-17)	13 ○ジャイアントロボ ベンツトカネ アルヨ。(小-佐男4:3-17)	副助詞のつ いてるもの。
S <sub>stZ</sub>	12 ○ソイデ ガイコツモ ニゲチャッ タ。(赤-j 女5:7-11)	9 ○カブトモ イタヨ。(自-s 男 4:1 0 - 6 )	43 ○ソイカラ ゾウサンモ イル。(ト -矢女4:0-12)	43 ○ソイカラ ゾウサンモ イル。(ト -矢女4:0-12)	43 ○ソイカラ ゾウサンモ イル。(ト -矢女4:0-12)	
	×	×	×	○ダイオンドモ〔も〕 ツイテタヨ。 (自-s 男4:10-21)	○ダイオンドモ〔も〕 ツイテタヨ。 (自-s 男4:10-21)	
S <sub>stZ</sub>	4 ○ターザンハ クジ。(赤-u 男6:5 -10)	7 ○ハナボノ オシゴトハネ オベン キヨウ。(赤-i 女5:3-2)	17 ○コッチハ ミギ。(小-佐 男4:3 -13)	17 ○コッチハ ミギ。(小-佐 男4:3 -13)	17 ○コッチハ ミギ。(小-佐 男4:3 -13)	
	18 ○ソシテネ ライオンハ ビックリ シテルノ。(赤-t 男6:0-19)	10 ○トワサンハネー トッテモ ツ ヨイ ライオンドッサンダッテ。 (赤-q 女5:2-11)	22 ○オバアチャンハ イカナカッタ ノ。(袖-狗女4:3-3)	22 ○オバアチャンハ イカナカッタ ノ。(袖-狗女4:3-3)	22 ○オバアチャンハ イカナカッタ ノ。(袖-狗女4:3-3)	(注)述語の 部分が連体 修飾語をも つ。
△ 3	○オカサン ナイショク。(自-s 男 5:9-3)	△ 7 ○コレ オハナ。(自-f 女 4:9-13)	△21 ○コレ クマ。(小-千女 4:2-8)	△21 ○コレ クマ。(小-千女 4:2-8)	△21 ○コレ クマ。(小-千女 4:2-8)	
△ 13	○マグマタイシ デテ コナカッ タ。(赤-h 女 6:4-7)	△ 14 ○ソウネ 1チバン スキナノ マンガダ。(赤-p 女 5:2-6)	△13 ○ボクネー アソブノ。(小-新男3: 10-2)	△13 ○ボクネー アソブノ。(小-新男3: 10-2)	△13 ○ボクネー アソブノ。(小-新男3: 10-2)	
1	○クワガタッテネ ハサミミタイ ノ。(赤-u 男 6:5-6)	1 ○オカシノ オウチッテ オカシテ デキテル オウチ。(赤-e 女 4:9 -10)	13 ○ミサイルッテネ マルーラ ノ。(小-佐男4:3-17)	13 ○ミサイルッテネ マルーラ ノ。(小-佐男4:3-17)	13 ○ミサイルッテネ マルーラ ノ。(小-佐男4:3-17)	
S <sub>thZ</sub>	○アトムダケ コワレテナイノ。(自 -x 男6:1-10)	○ココダケ マワルヨ。(小-足男5: 0-7)	○ココダケ マワルヨ。(小-足男5: 0-7)	○ココダケ マワルヨ。(小-足男5: 0-7)	○ココダケ マワルヨ。(小-足男5: 0-7)	
	2 ○オカサンナラ オコンモン。(自 -p 男5:6-3)	1 ○コレダケシカ ナイ。(赤-a 男4: 11-5)	1 ○コレダケシカ ナイ。(赤-a 男4: 11-5)	1 ○コレダケシカ ナイ。(赤-a 男4: 11-5)	1 ○コレダケシカ ナイ。(赤-a 男4: 11-5)	

(注)いわゆる総主文。

	3・3 SHz	<ul style="list-style-type: none"> <li>サンバンメノ オニイサンハネ アシガネ ナガク ナルノ。(神-規男4:6-28)</li> <li>カイツクンネ テモ アシモ ノビルノ。(小-成男4:7-10)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サンバンメノ オニイサンハネ アシガネ ナガク ナルノ。(神-規男4:6-28)</li> <li>カイツクンネ テモ アシモ ノビルノ。(小-成男4:7-10)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ライオンガ コレ ミテンノ。(自-f女5:8-9)</li> <li>○ライオンガネー シマウマネー サガシテタンダヨネ。(赤-o女6:1-26)</li> <li>○カブトムシガ キノウエニ イルンデス。(自-s男5:9-4)</li> <li>○ショシテ ママガ シロイノ カッタノ。(自-p男4:7-15)</li> <li>○クマサンガ ネズミヲ オイカケタノ。(自-u女5:5-14)</li> <li>○ライオンサンガ キノウカゲニ イタンデスッテ。(赤-p女5:2-9)</li> <li>○カメト コ(レ) デ[山まで?] キョウソウ シテ ンダヨー。(赤-a男4:11-9)</li> <li>○アドウカンッテサ アドウ タベルミタイ。(神-村男4:3-14)</li> <li>○ダンプカーニ クマ ヒカラ チャッタノ。(自-k男5:8-24)</li> <li>○ダッテ カイツクダッテ ポクスキダモン。(赤-w男6:3-15)</li> <li>○ウシロニ プロペラミタイノガ アンダヨネ。(自-b男6:0-6)</li> <li>○オウチニ ソノ ゴホン アルモン。(赤-f女4:10-11)</li> <li>○ハピノ ホンネ ハピーベッカリ ツイテンノ。(自-s男4:10-22)</li> <li>○ボクネ ニュースデネ ワルイ コトヤネー イイ コトヤミ</li> </ul>	24	○ヤギガ クチャ タペル。(神-H1 -坂女4:0-9)
				5	○カメ ネ(注) オイカケテシノ。(神-村 女3:6-7)	
	HSz	<ul style="list-style-type: none"> <li>オウチニ ソノ ゴホン アルモ ン。(赤-f女4:10-11)</li> <li>○ハピノ ホンネ ハピーベッカリ ツイテンノ。(自-s男4:10-22)</li> <li>○オウチニ ナカニネ オオカミ ハ(シ)ノ。(神-三男4:0-8)</li> <li>○ヒロコネ トランクニネ コレテ 〔意味はつきりしない〕 ブツカツ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○オウチニ ソノ ゴホン アルモ ン。(赤-f女4:10-11)</li> <li>○ハピノ ホンネ ハピーベッカリ ツイテンノ。(自-s男4:10-22)</li> <li>○オウチニ ナカニネ オオカミ ハ(シ)ノ。(神-三男4:0-8)</li> <li>○ヒロコネ トランクニネ コレテ 〔意味はつきりしない〕 ブツカツ</li> </ul>	17	○ライオンガネ ドウブツエンニ イルノ。(神-佐女3:7-11)	
				17	○ライオンサンガ キノウカゲニ イタンデスッテ。(赤-p女5:2-9)	
	SHHz	<ul style="list-style-type: none"> <li>○オウチニ ソノ ゴホン アルモ ン。(赤-f女4:10-11)</li> <li>○ハピノ ホンネ ハピーベッカリ ツイテンノ。(自-s男4:10-22)</li> <li>○オウチニ ナカニネ オオカミ ハ(シ)ノ。(神-三男4:0-8)</li> <li>○ヒロコネ トランクニネ コレテ 〔意味はつきりしない〕 ブツカツ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○オウチニ ソノ ゴホン アルモ ン。(赤-f女4:10-11)</li> <li>○ハピノ ホンネ ハピーベッカリ ツイテンノ。(自-s男4:10-22)</li> <li>○オウチニ ナカニネ オオカミ ハ(シ)ノ。(神-三男4:0-8)</li> <li>○ヒロコネ トランクニネ コレテ 〔意味はつきりしない〕 ブツカツ</li> </ul>	1	○カメト コ(レ) デルノ。(神-新女4:2 -7)	
				1	○カメト コ(レ) デルノ。(神-新女4:2 -7)	

女6:2-19)	1	HHSZ	タ。 (自-t 男5:3-13) ○ショウタロウハネー テツジンニ ネー ナニカネー ンヨク ナル モノネー シカケルノ。 (赤-n 男 5:2-5)	ター。 (神-佐女3:7-13) ○オトウサンモネ シタデ オシゴ ト シテル。 (神-新女4:2-2)	「ヨーイド ン シタ」 「ヒルネシ タ」などサ 変動詞にな るものとこ こでは二成 分とした。
×1	1	HSHHZ	○ウサギガ ト カメガネ やママ デ ヨウイドンテ〔競走〕 シタ ノ。 (赤-v 男6:1-11)  ○オカアチャンハ オウチデネ〔家 にいて〕 ヤクルト ハイタッ シテンノ。 (自-j 女5:7-2)〔複 文?〕	○クチュニネ ドッカニネ イッポンノ ネクチュニネ ネジュミカネ ク ワエテ イッチャツタノ。 (自-j 女4:7-15)	1 ○クチュニネ ドッカニネ イッポンノ ネクチュニネ ネジュミカネ ク ワエテ イッチャツタノ。 (自-j 女4:7-15)
HSHHZ	1	HSHHZ	○アレデネ フネトカナシカネ ポ ク チュクッテンノ。 (自-b 男6: 0-27)	○オウチデネ ゴ オカアチャンネ ゴハシノ シタク シテタ。 (自 -t 男5:3-2)	1 ○……オウチデネー オ チャンネー オバアチャンノ ガネ カケリ シテンダヨー。 (神-狗女4:3-7)
HSHHZ	1	HSHHZ	○ガッショクデネ ホリグチクンタ チネ ナンカネ マクラデ ナン カ シテタ。 (自-1 男6:0-7)	○オシゴト イッパイ アシノ。(自 -f 女5:8-3)	3 ○コレ チョット オコリミタイ。 (自-r 女4:8-17)
3.4 SRZ	16	HSHHZ	○オモチャノ プラモデルノ セシ シャモネ サンコ アルノ。 (自 -b 男6:0-11)	○ソイデネ ヒコウキガ イッパイ アンノ。 (神-大男3:11-8)	26 ○ソイデネ ヒコウキガ イッパイ アンノ。 (神-大男3:11-8)
3.4 SRZ	6	HSHHZ	○ソイデー シマウマガ イットウ キタノ。 (自-v 男4:7-10)	6 ○ソシテネ ココ ヒツツ アイテ ルヨ。 (神-佐女3:7-18)	7 ○ソイデー シマウマガ イットウ キタノ。 (自-v 男4:7-10)

RSZ	7	○ソウイウ コトハ アンマリ ナ イケド。(赤-t 男6:0-13)	●オカアサンモ トキドキ ヨム ケードネ。(赤-q 女5:2-20)	4	○ソイデ ボクネ ヒトリデ ネテ タ(ノ)。(神-三男4:0-3)	4	○ソイデ ボクネ ヒトリデ ネテ タ(ノ)。(神-三男4:0-3)	2	○チーットネ イナカノ オハチヤ ンチハ トオク〔い〕イノ。(神-佐 女3:7-5)
	1	○ライオンガ アキラメテ カエッ テ イッタノ。(赤-w 男6:3-28)							
	2	●ソノ ツギ スキナノート ソレ ト一 オモシロイノハ、イッパイ アル。(注)(赤-a 男5:9-13)							
	5	○アノネ イッパイ ミチガ アル ケドネ。(赤-u 男6:5-7)	5	○イチバン マユミチヤンガネ オッキノ。(自-e 女4:8-5)	2	●モ(ウ)ヒトリネ ジャングルタイ ティノネ オトモダチネ イルン ダッテネ。(赤-q 女5:2-11)	4	○ネジュミカネ ピヨンツテ トン ダノ。(神-高男4:4-23)	
	1	○タダネ ジアンガ ヨムダケ。(自 -d 女4:11-5)	1	○タダネ ジアンガ ヨムダケ。(自 -d 女4:11-5)	4	○ソレデネ モウ オハナシハ ナ イ。(神-高男4:4-6)	4	○ソレデネ モウ オハナシハ ナ イ。(神-高男4:4-6)	
	2	●カレンダー イッパイ コ(ウ)イ ウフウニ カサネテ アッタ。(赤 -f 男6:3-2)							
	2	○ダカラ ボク ガイシャノ ナマ エノ ホウガ〔を〕 ヨク シツ テル。(赤-t 男6:0-3)	●タッチャン・オエカキ〔絵〕 ジョ ウズニ カイタ(ヨ)ネー。(小-伊 男4:3-2)	1	○ジョーハネ ナイフテ グシャツ テ ヤッチャウ。(神-高男4:4-1 6)				
	1	○ガイシャノ ホウガネ チッチャ イ クルマヨリ タクサン アル ネ。(赤-t 男6:0-3)	●ダケドネーエ ソノ コネーエ ジャングルタイティニ ノネ オ カアサンニ トッテ モ ニテル ノ。(赤-q 女5:2-11)	1	○オカアサンハネ オミセデネ タ ダ〔意味はつきりしない〕 ハタ ライテンノ。(小-新男3:10-2)				
	1	○ソレデ ライオンガ シマウマニ トビッカカルヨウニ ～ オイカ ケマシタ。(赤-s 男6:6-18)	2	●ソウシラネーエ ウサギガネ トチュウデ グウスカ ネチャツ タンダッテネ。(赤-q 女5:2-14)	1	○ソウシテネー カメガ ココヘネ コウネ タツ アルイテンノ。(小 -相男4:4-17)			

SPRHZ	4	○クマガネ マタ ネズミン トコ ミテンノ。(自-f 女5:8-12)	2	○レオチャン シトリデネ ワルイ ネー ライオンが キタノ ャッ ツケチャッタノ。(赤-o 女5:1-7)	2	○ダッテ ママ イツモネー アイ スクリームトネ ラムネトネ オ モチヤ カッテ クレルモン。(小 -佐男4:3-1)	（注）「～たり」 で続く構文 は整わない 構造が多い。
			2	○オカアサンハ マイニチ マイニ チ アノネー カイシヤ イッテ ンノ。(自-f 女4:9-2)	×	○オカアサン イツモネ オソウジ ヤネ[をしたり] ゴホン ヨンデ (シ)ノ。(小-佐男 4:3-2)	
HSRZ	1	○ドウツエンニネ ライオンガ イッピキ イタノ。(赤-u 女5:11 -16) ○オバケタイカイナンテ ヘンナ オバケガ タクサン イタヨー。 (赤-f 女5:9-10)	3	○ウラニハ フネガ イッパイ オ イテ アシノ。(自-t 男5:3-5)	1	○アイウエオノ ホン ミーチャン ジアンデ ヨメシノ。(小-矢女4: 0-9)	（注）「～たり」 で続く構文 は整わない 構造が多い。
			2	○ココカラ チューッテ コウゼン ガ (デルノ)。(小-藤男4:9-13)	2	○ウチニネ ゴ ゴホン タクサン アル。(小-神女4:1-10)	
RHSZ	1	○ソレカラサー ウチニハ イッパイ モケイガ アルシサー。(赤-w 男 6:3-2)	1	○ココカラ チューッテ コウゼン ガ (デルノ)。(小-藤男4:9-13)	1	○イッパイ マゴチャンノ オウチ ニ ライオン[猫?] イル。(小-山 崎男4:11-8)	（注）「～たり」 で続く構文 は整わない 構造が多い。
			1	○ソレデ オカアサマガネ モウネ テンゴクニ[で]ネ カミサマニ ナッチャッタノ。(赤-u 女5:11- 8)	1	○ダイブ ママ エホン ヨンデ クレルノ。(小-猪女4:8-18)	
RSHZ	1	○ソレデ オカアサマガネ モウネ テンゴクニ[で]ネ カミサマニ ナッチャッタノ。(赤-u 女5:11- 8)	1	○オバアチャンハネ イツデモネ ネコニ ゴシ[ち] ソウ ヤルノ。 (自-a 男4:9-3)	1	○ミーチャン ショッチュウ ショ ツチュウ シンアンデ ヒコウキ チエクシノ。(小-矢女4:0-5)	（注）「～たり」 で続く構文 は整わない 構造が多い。
			1	○テハ モーット モット アッチ カラネ アツ アッチ [こつち] マデ トドクヨ。(小-海男4:3 -12)	1	○ソノ ウエカラ オトウサンガ フトン バッサッテ カブセン	

SHRRZ	3.6 STZ	1	○テ アカネタイインハネー ナイフ デネー ココ オナカ オナカ グシャツト コウ ([身ぶり]で説 明) ャッチャウ。(神-高男4:4- 16)
		5	●ダッテ オトウサンモ オカシ ネ〔お金〕マイニチ スコシ レルモン。(神-桑女4:10-4)
TSZ	13	○ソレカラ ボク ジュウイチジニ ネル トキ アル。(赤-t 男6:0 -14)	4 ○ボクネ ぶクト オカアチャンネ ユウガタ カインノ。(白-t 男5: 3-9)
	10	○アツイ トキネ ハナガネー カ レチャッタノ。(赤-n 男5:2-11)	10 ○ソレデネ カイジュウガ キタ トキ ウルトラマンガ クンノ。 (神-大男3:11-7)
TTSZ	1	○ソイデ イチバン サイショニ ロビンガ ハイッテ ナイ トキ ニ〔T一つとも〕 オモシロイト オモッタノハ、オバキユウナ。 (赤-r 女5:10-8)	●モモグミン トキ イタ、ア モ モグミン トキネ アタシノ イ タ トキネ〔桃組にわたしがいた 時〕の意ならT一つ〕 クワ(ワ) ラ センセイ ヨンデ クレタノ。(神 -大女4:6-14)
	2	○ボクネ オトウチャンガネ オー トハイ トリニ イク トキネ トデンニ ノッテ イッタ コト アル。(自-t 男5:3-1)	2 ○ボクネ オトウチャンガネ やマヘ イク トキネ リック ショッテ イク ノ。(小-原女3:7-21)
3.7 STHZ	1	○ママト ヨウコガネ オデカケシ タ カエリ タクシニ ノツ チャッタノネ。(赤-p 女6:2-18)	1 ○オバアチャンガネ やマヘ イク トキネ リック ショッテ イク ノ。(小-原女3:7-21)
	2	○コノ マエカラ キシャガ キユ ウコウニ ナッタンダッテ。(自 -s 男5:9-12)	2 ○コナイダ アタシ ヨウチエン オヤスミ シタノ。(赤-q 女5:2 -5)(注)
TSHZ	1		4 ○ヨルネ オジイチヤンジャ ナ クッチャ オハナシ シテ クレ ナイ。(二重否定) (神-三男4:0 には出でこ
	2		

1	○ウシャギハネー トチュウテ <u>ネ</u> ムイッテ イッタ トキ カメガ ネー オヤマデネー マッテタン ダモン。〔はっきりしない〕(自-p 男4:7-17)	5	○アメ フツタヒハ カエルネ ドッカ イッチャウンダヨネ。(神 -三男4:0-12)
1	○ハビー＝ズーット マエニネー アナガ アイタンダッテ。(赤-f 女4:10-5)	1	○イマハネー イマネー トーシ チャンネ <u>チガウネー</u> ヨウチエ ンデネ <u>ナンカ</u> <u>ネンカ</u> ベン キヨウ シテル。(小-神女4:1-4)
1	○ママネ ヨルネ オソトニネ オ バアチャンニ オイダシタノ。〔退 い出された〕(自-h女5:7-9)	1	○ハジメ オジサン <u>オテンキ</u> ノ イイヒ オジサンがネー オハ ニ ミズヲ カケテタノ。(赤-p 女5:2-16)
1	○ソレデネー キノウネー .....オ トウサンネー カイシヤネー ... ...ヨルネー ボクト イッショニ スーパージェッター ミタンダモ ン。(自-k男4:8-10)	1	○サツキネ <u>ヒロコネ</u> ヒロコネ ダレーモ <u>イナイ</u> <u>トキネ</u> セエ ユウ イッタ トキネ マイゴニ ナッチャッタノ。(神-佐女3:7-7)

TSHHHZ	1	○アトカラ(注) ボウヤタチガネー カワノ スグ ソバデネー イシ ヲネー カワニ ナゲテタ。 (赤- w男6:3-15)	(注)「アト」 の意、時間 的あとなの かはっきり しない。	
			(注) 使うこと多 し。	
STRZ	3	○ソノ アイタニ カメガ ノソノ ソ アルイテ キミシタ。 (赤- s男6:6-20)	●コノ オハナハネ オテンキダ 〔の〕 トキネ コウ(注) タオレ チャタノ。(神-鎌女4:5-17)	1 ○ソレデネ ボク ネル トキネ ボク ヒトリデネ ネンノ。 (神 -古男4:5-17)
			●テモ ソン トキハ モウ ヨシ ノブチャン シンデタンダヨ。(赤 -c 男5:10-22)	
TRSZ	3	○トラックガネ ハシッテル トキ ネ ヒトリデニネ ココガ アイ チャッタノ。(自-v男4:7-11)	1 ○トラックガネ ハシッテル トキ ネ ヒトリデニネ ココガ アイ チャッタノ。(自-v男4:7-11)	
			●オバケガネー ヨルニ ナッタ トキネー ムコウカラ サーット キチャウ。(小-村男4:9-10)	
THRSZ	3.9	○ソシテ オハバサンガ カワニ 〔で〕 オセンタク シテル トキ ネ カワカラ ドンブリコトネ モモガ ワレテ キタンダヨネ。 (自-A女6:5-29)	×	(注)時の対 応のおかし いものがあ る。
			1 ○サイショネー ムカシネー ワル イ オジイサント ヨイ オジイ サンガネー フ ヒトリズツネー クビニ オオキイ コアヨ ココ ニ クツツケ〔て〕タノネ。 (注) (赤-w男6:3-21)	
TSRHZ	1			

3.10	SQZ	4	○ソイデネ カメサンガ 「イット ウショウ」ッテ イッタノ。(自-v 男5:7-15)	3 ○クマガネー 「カケッコヲ シテ ネー アンボウ」ッテ ユッタノ。 (赤-r 女4:10-11)	7 ○ウタハネー 「セブン セブン」テ (アウ)。(神-秋男3:11-8) ○クマガ ネジュミヲ タベヨウト オモッタノ。(袖-宮男3:8-12)
			2 ○ソンデー 「ドウイウ ナマエニ シマスカ?」ッテ オバアサン エッタ ンダッテ。(自-u 女6:5 -18)	1 ○ソイカラ 「イタイ ゴメン ゴ メン」テネ オジサンガ イッテ ンノ。(自-t 男5:3-19)	8 ○「イッタイゼンタイ ナニ モノ ダ」ト オッキイ ヤギガ イイ マチタ。(物語、数は同一人)(神 -古男4:5-26)
3.11	SHQZ	2	○ボクト〔たちは〕 センセイニ 「サンバカタシヨウ」ッテ イワ レタノ。(自-b 男6:0-12)	1 ○ボクネ アンボウグヤサンデ ホ ン カウト オモッタンダヨ ネ。(自-b 男6:0-15)	
			3 ○ボクト〔たちは〕 センセイニ 「サンバカタシヨウ」ッテ イワ レタノ。(自-b 男6:0-12)		
3.12	SQRZ	1	○ソノ ヒト イツモ 「チッチャン ガ キター」ナンテ イッテンノ。 (赤-f 女5:9-9)	③ダカラネーエ アタシネ ジヤン グルタイテイノネ オカアサンカ トネ イツモ オモッチャウノ ネ。(赤-q 女5:2-12)	1 ○ソイデネー「ダメー」ツテネー オオカミガ オコツテ エッタ ノ。(小-神女4:1-14)

3・13  
SRHQZ

● オカアサンハネ イツツモネ オ  
ミセデネ 「カレーライス イツ  
チヨウ」トカ イウノ。(神-松女  
4:8-3)  
● クミチャシン ヨク ママニ 「オ  
モチャダイシンダ」ナンテ イワ  
レルヨ。(小-山中女5:0-21)  
● ボク オウチデ イツモ ヴ  
「ウンドウカイ シヨウヨ」ツテ  
イウノ。(赤-b 男5:6-4)

SHRQZ

3・14 TSQZ  
3・15 TSHQZ

1 ○ ハジメネ ウサギガネ 「カケ...コ  
シヨウ」ツテ イッタノ。(赤-f  
女4:10-9)

SYHZ

2 ○ オトウサン コウツウジコテ シ  
ンジャツタノ。(白-f 女4:9-1)  
● ボクガネ カイシャン トコマテ  
ムカエニ イクノ。(神-達男5:1  
-24)

3・16 SYZ

3 ○ オトウサンガネー ナンカ カイ  
ニ イッタノネー。(赤-o 女6:1  
-20)  
○ オトウチヤンネ テレビネ ナオ  
シニ イッチャウノ。(白-e 女5:  
7-3)

SHYHZ

1 ○ オカアシンハネ オ(ツ)トメテ  
ネ ピヨウイン イッテンノ。(白  
-i 男5:5-2)

SYHZ

SRYZ		ママガネ モウ ムカエニ キテ クレルノ。(小-川男4:10-16)	
TSHHYZ	1 ○アルヒ コドモガネ オハナニ ミズヲ カケニ キタンダッテ。 (自-h女5:7-14)	1 ○サイショハネ クサヲネ オオキ イ ヤギト チビヤギノ ガラガ ラドンガネ ヤマニネ ナンカ ハッハッ タベニ イクノ。(物語) (神-三男4:0-42)	

## 2.3-4 題目語をもつ構文

年齢別 文構造 用例	用			例	備考
	用例数	年 長 (赤羽・自由)	年 中 (赤羽・自由)		
4・1 題目語 のあるもの S S Z Z		コレ オハナガ タオレタ。(小 -極男4:3-12)		2 ○エムゼーゴーッテネ[というお話 は] イロシナ モンガ デルン ダヨ。(小-福男4:2-9)	
				○キャラテンウルトラノ オハナシ ハネ ボロボロカイジエウダッテ デル。(神-高男4:4-15)	
				2 ○コレネ カメガ ウチャギ ミツ ケタノ。(神-秋男3:11-14)	
				○ウルトラチエアンハ[の話(は)] ンカネ ウルトラチエアン ノ。(神-大男3:11-8)	
4 ○コレハネ ウサギサンガネ カメ ヲ ウタグッチャッタノネ。(赤 -t 男6:0-20)	2 ○コレネ ウサギト カメトネ ケッコ シテルノ。(赤-d 男5:4 -13)	○オモシロイ トコネー マンガガ ネ シンブンニ ツイテル ユ。(自-t 男5:3-16)	○コレハネ クマガ ネジュミヲ オイカケテ(イル)トコ。(自-q 男 5:4-12)		
○ハピーッテネ[というお話(は)] ンゲンガ ロボットニ ナルノ。 (自-i 男6:4-8)		○コレハネ クマガ ネジュミヲ オイカケテ(イル)トコ。(自-q 男 5:4-12)			
		○ソイカラ コッチャネ カメノ ホウガ ジーット [はつきりしな			

SHQZ Z	い] ヨソミ シナガラ ノボツ テッタノ。(赤-b男5:6-11)	1 ○コレ オオカミネ ヒネ 「アツ イ アツイ」ツテ ヤッテンノ。 〔言ってんの〕(小-矢女4:0-16)
TSZ Z	コレハ ハジメ ネジュミト ク マガ イタノ。(自-C男5:11-11)	1 ○コレハ ハジメ ネジュミト ク マガ イタノ。(自-C男5:11-11)
(S) HZ Z	1 ○コッチャハ〔二匹が〕タタカイ ス ルトヨ。〔はつきりしない〕(自-p 男5:6-11)	1 ○コレハネ [人が] トラックテネ スナヲ ハコブノ。(神-折女4:3 -14)
(S) HHZ Z		1 ○コノ オハナシハ [男の子が] シャワーテ オハナニ ミズ カ ケタノ。(神-鈴男3:6-12)
(S) RRZ Z		1 ○シヌッテネ コウ ャッテ コウ ヤッテ シヌ コト。(神-場男3: 10-3)
4・2 題目語の ないもの		1 ○〔これば〕ライオンがネ カンガ エテル トコ。(赤-s男5:6-14)

## 第3章 幼児の複文の構造と用法

幼児の複文の構造と用法をみていく場合いろいろの方法が考えられる。その方法がすぐれたものであるかどうかによって、見えるところも見えなくなる恐れがある。ここでは一応次のような方法で考えてみたが、問題が多く残っている。まず大きく三つに分ける。

- 1 一つの接続助詞によって文が成立している場合
- 2 二つ以上の接続助詞によって文が成立している場合
- 3 接続助詞「たり」「し」をもつ文

1の中を 1.1 主語一つからなるもの、1.2 主語二つからなるもの、1.3 題目語をもつもの、と三つに分け、それを、主語のあるもの、主語のあらわれていないもの、に分けた。また、下位分類として、接続助詞によって分類し、「て」は使用が多いので特に意味分類を試みた。

2については、2.1 一つの主語からなるもの、2.2 二つの主語からなるもの、2.3 三つの主語からなるもの、2.4 四つの主語からなるもの、2.5 五つの主語からなるもの、2.6 題目語をもつ文 2.7 その他の構造からなる文、2.8 不明文と分けて概観してみた。

3は前者1,2と質がちがうように見えるが、この二つの接続助詞は並べて述べるところに用いられ、「て」の意味する内容のうちの並列の意と似ている。この構造は単文と複文の1,2の三つの文構造のいずれにもかかわるので、どこに属させるとよいか迷い、第3の分類をたててここに入れた。「たり」が文の一部にある場合は文内部のこととして、3で扱うとともに、複文1,2及び単文のところでも扱ってある。

このように分類してみた場合、幼児の複文の構造にはどのような特色がみられるか、また、年齢的にはどのような発達があるか、用例をあげながらみていくことにする。用例は章末にあげた。「単文の構造」で述べた用例のあげ方と同じである。使用数もあげておいた。

1の一つの接続助詞によって文が成立している場合と、2の二つ以上の接続助詞によって文が成立している場合とを比較すると、この調査の場合、年少、年中は1の一つの接続助詞をもつ文が年長より多く、年長は、2の二つ以上の接続助詞をもつ文が年中、年少より多く、なっていた。特に年少は前者1のほうが圧倒的に多い。まだ複雑な長い文は話せないのであろう。以下くわしくみていくことにする。

### 3.1 一つの接続助詞によって文が成立している場合

#### 3.1-1 主語一つからなる構文 (SZZ文)

これは『話型2』で複合構文と名づけているものに近い。単位文が複合された構文である。この中には 1-1.1 主語のあるもの 1-1.2 主語のあらわれていないもの の二種類があるが、主語をきちんと使っている構造より、主語を使わいで話す構造が年齢を問わず多い。

どのような接続助詞を使っているかでは、主語のあるなしにかかわらず次のようにある。用例は章末にあげた。

原因や理由をあらわす「から」「ので」、仮定をあらわす「たら」「と」「ば」、逆接、否定をあらわす

「けど」「ても」「たって」「のに」「じゃなくて」その他、及び「て」が使用されている。このうちよく使用されているのは「て」「から」「たら」「けど」の順である。「から」は年少に少なく、「たら」のほうが多い。「けど」は年中、年少には少なく、年長がよく使っている。「て」はともに多い。「ので」「ても」は少なく、「ても」は年中に用例がなかった。「ても」を使わなければならないところを「て」ですませている誤用もみられた。「単文の構造と用法」のところでもみた。「のに」はSZZの構文の場合どの年齢にもこの調査の場合みられなかった。「のに」を使うところを「で」ですませている例が年中にみられた。

幼児は文を接続する場合「て」をよく使用する。「て」の使用数は、他の接続助詞を合わせたものと年長ではほぼ同じぐらい。年中、年少では「て」を用いるほうが多い。年長児程も使用している。つまり他の接続助詞の使用が少ないのである。「て」についてはどのような意味で使用しているかを調べてみた。「て」は、先行、理由、目的、場所、状況、状態、様子、方法・手段、並列、引用等の意味に使っている。(もっと分類できるかもしれないが、今はこの中に含めた。)

このように分けてみると、「て」の前の部分が「て」のあと部分より時間的に先に行なわれているという意味の先行の用例が多くなっている。場所、状態、方法・手段をあらわしている用例も年齢を問わず使われている。

理由の意の「て」はここでは少ないが接続助詞「ので」がよく使えないために「て」ですませているという場合もみられる。

主語の使われていない文が非常に多いが、この場合の主語は話し手「わたしやぼく」である場合がほとんどである。それに天候や時の場合もある。

その他「て」で接続されている構文に主語のくりかえしがみられた。「SZZ」となっているのである。「SZZ」の形式とみた。年齢を問わずみられた。たとえば、次のようにある。

○オバケガ デテ キテネ、オバケガ イタズラ スルノ。(赤長一 a 男 5:11-11)

○ソノ ツギニ カメガ イチバン ウエ(へ) ノボッテ イッテ、カメノ カチナノ。(赤中一 i 女 5:3-16)

○ママ カイシャ イッテネ、ママハネ ソイデ ベンキョウ シテンノ。(小少一長男 3:5-2)

幼児の発想として、時間的順序で述べないと話がすすまないという、表現するとすれば「行動型思考」とも名づけられるような思考のあらわれで、前文の述語の動詞が「来て」「行って」となって、

---

(注) 三上章『文法小論集』(1970・くろしお出版)の中で「省略の法則」(155ペー)として次の例があがっている。

- 主題何々には次の文まで勢力を及ぼすから、第2文以下が略される。
- 前文で注意の焦点にあった名詞。
- 条件句が主題を形成する場合。
- 話手と相手の眼前のもの。  
などと、また、無主格文の種類をあげている。
- 時の副詞句+デアル。
- 時間、寒暖、距離を表わすとき。
- ~ニナルの形は主格(時が、気温が、状態が、事態が)を欠く。  
などと。

次に、主語のくりかえしがくるという構文になっているのではなかろうか。行動にともなってことばが話されるのである。

### 3.1-2 主語二つからなる構文 (SZ/SZ 文)

この構造は『話型 2』で付加構文と名づけているもので、単位文が付加され、のちの主文に対して、従属文を形成している構文である。主語のあるなしからみると、四つの文の可能性を考えられる。つまり両方の文に主語があるものとないもの、前文（以下従属文という）に主語がある、後文（以下主文という）に主語がないものがある。年長はどの構文もよく使っているが、全体から見ると、この構文は年長より年中のはうがよく用いている。また、年齢を問わず主語のあらわれていない構文をよく用いる。

どのような接続助詞がよく使用されているかをみると、やはり「から」「たら」で、「ので」「けど」「ても」は少ない。ここでは「のに」が少ないと使用されていた。「て」の使用は「SZZ」の構文と同様、年中、年少とも多い。「て」をみると、両方の文ともに主語のある SZ/SZ の構造によく使い、両方の文ともに主語のない構造と前部分に主語のない構造に少ない。意味的にみると、従属文は理由、状況、並列が多い。誤った使用の例もある。

### 3.1-3 題目語をもつ構文

絵の説明をする場合に「この絵は」の意で、「これは」と言ったり、テレビの題をあげて、それを説明するというもので、題目語をまずあげて、ついで主語のあらわれる構造である。単文の構造のところでもみた。この中には題目語のあらわれているものと、題目語があらわれてなくて、文末が「ところ」「こと」で終わったり、「話なの」という形式で終わっているものがある。また、題目語はあって、主語のない構造もある。接続助詞は「から」「たら」「て」などをもつ構造があるが使用数は少ない。しかし、年齢を問わず使っている。

ここで、幼児の使用した一つの接続助詞よりなる構文の場合の助詞の種類と、年齢による使用数を表にしてあげておく。接続助詞とはいえないが、中止形を参考までに入れておいた。（別表参照）

「て」を一番よく用い、ついで「から」「たら」「と」という順である。ただし、年中では「から」と「たら」が同数、年少では「から」が少なくなっている。年少では前後の文を理由づけることをせず、「て」で状況を説明するという表現をとっているためで、前後の文を関連づけて論理的に述べることが十分にできないためのようである。しかし、二つ以上の接続助詞よりなる文の接続助詞についての分析（後出）がなされていないので、接続助詞一般がこうだとは、この表からだけでは言えない。

不整表現とか意味不明文（録音の一部聞きとりにくかった文）について述べなかったが、そういう構文もあ

接続助詞の種類と使用数			
	年 長	年 中	年 少
から	50	47	12
ので	4	3	2
たら	33	46	33
と	14	10	9
ば	6	2	3
けど	32	7	8
ても	3	0	3
たって	3	2	4
のに	1	0	0
て	95	94	85
じゃなくて	2	0	0
ないで	1	4	2
中止形	4	0	0
誤用	12	5	8

（注）中止形も入れた。

る。年少45と多い。ついで年中21、年長6である。たとえば次のようにある。一例ずつあげる。

- ソイデネ ネジュミヲネ オコイダチテ クマガ オコリダッタノ。(神少一大男3:11-12)
- ソシタラネ アマリ ハヤスギテネ デンシャガ イクノ。(赤中-f女4:10-7)
- ウチデ ョンカイデネ ミナチャンテ イウ コトネ マキチャンテ イウ コト ョンカ イダケドネ ソノ ベランダヨリ ムコウニネ スグネ アサニネ イルノ。(赤長-k女6:2-12)

### 3.2 二つ以上の接続助詞によって文が成立している場合

これも、主語がいくつあるかによって分けてみた。

- ①一つの主語からなる構文
- ②二つの主語からなる構文
- ③三つの主語からなる構文
- ④四つの主語からなる構文
- ⑤五つの主語からなる構文
- ⑥題目語をもつ構文
- ⑦その他の構造からなる文
- ⑧不明文

このように分類した幼児の用例は「一つの接続助詞によって文が成立している」用例に続いて章末に備考をつけてあげてあるが、少し解説をしておく。

#### 3.2-1 主語一つからなる構文

これは、主語一つからなるが、接続助詞は二つ以上もつものである。前に述べた「SZZ」の構造の複雑になったもので『話型2』の複合構文に当ろう。

この中は、主語のあるもの、主語のないもの、の二種に分けた。そうすると、主語のない構造が一番多く、年長で特に多かった。

用法をみると状況を述べ説明するというのと、時間的順序でできごとを述べるというものが年齢を問わず多かった。理由、原因を述べる用法は少なく、仮定の意で使っているのも少ない。

#### 3.2-2 主語二つからなる構文

これは、二つの接続助詞よりなる文が、主文、従属文のいずれかにある構文で、付加構文と複合構文の合体したものである。「SZ/SZZ」、「SZZ/SZ」の両方の組み合わせがある。

この構造は、年齢を問わずよく使われる。やはり主語のあらわれていない構造をよく使っている。また、主文がSZZになっている構文が、従属文（前の部分）がSZZになっている構文よりもよく使っている。両方がSZZの構文は年少に一例みられたのみである。文がより複雑になるからだろう。年中は三例である。意味的な使われ方をみると、従属文が主文の理由の意より状況を説明するとか、結果の前提とかの用い方が多い。しかし、理由、仮定的用法も使ってはいる。

#### 3.2-3 主語三つからなる構文

三つの主語からなる構文および四つの主語、五つの主語からなる構文は、層的に単位文が重なっているので、従属文+主文の構造が次の主文の従属文になったりというふうで、平面で示すのはむずかしいが斜線を多く引くことによって表わしてみた。（使用例参照）

---

(注)『話型2』の中では複合構文、付加構文については、ここで述べるような方法では分析を試みていないので、厳密には用語の概念がちがっているかもしれない。

この構造では前の部分が「～て～て」という時間的順序で絵のコマを追って述べる状況説明の文が多くなっている。原因や理由も「ので」「たら」「から」などという接続助詞を使わないで「て」で述べるという形式もみられる。用例ではかぎかっこをして接続助詞を補っておいた。誤用が多い。接続助詞の数が増すにともなって誤用も多くなっている。この構造では三つとも主語のある形式を年長はよく使っている。SZ部分が複合構文SZZとなる構造が年長にはみられた。第1の単位文の主語と第3の単位文の主語が同じという構文もみられた。

その他、三つの主語をもつ構文にみられる構造は次のようにある。従属文が条件とか、理由になって、以下の二つの主語からなる主文が生じたという文は、年少になく、年長、年中にみられた。ついで、最初の文が状況説明で、SZZの構文をもち、中間の文が最後の文の条件とか理由になっている構造で、これも年長、年中だけで、年少にはみられなかった。使用例も少ない。

### 3.2-4 主語四つからなる構文

四つの単位文ともなると、単位文の組み合わせができる文の可能性は、主語のあるなしなども問題にすると、16あるということになる。幼児が用いた中では、前三つの単位文が付加構文となって、できごとの時間的順序、理由、原因の意味を表わしている場合が年齢を問わず多い。この中を分けると、最初の単位文と第3番目の単位文の主語が第2の主語と第4の主語と等しいという構造をよく使う。第1の主語と第4の主語が同じという構造は年少にはみられなかった。その他、前三つの文をあと一つの単位文がまとめるという構文も年長に二例ある。主語四つからなる構文では、その他、前二つの文が状況を表わし、のちが原因、結果になっている構文、前の文が理由と結果で、それがまたのちの二文の理由になっているというような構文もあり、だんだん文構造が複雑になってくる。用例も少なくなる。その他、前の文が状況説明、中間の二つの文が最後の文の条件になっているという構文。これは年長、年中に一例ずつ。前の一つの文で状況を説明し、のちの三つの単位文でできごとを述べるという構文もある。年長にみられた。

### 3.2-5 主語五つからなる構文

これはもっと複雑な構文で、年少は用いていない。四つの構文の形式がみられた。

主語六つからなる構文もあったが、「その他の構造からなる文」(後出)に入れた。

### 3.2-6 題目語をもつ構文

これは、前に出た題目語をもつ文と同様に絵を「これは」と指したり、テレビの漫画の内容を話す構造で、述語の部分が二つ以上の接続助詞によってつながっている複雑な構文である。年少に少ない。

### 3.2-7 その他の構造からなる文

ここは六つに分けた。そのうち、

#### ① 文中に主語をもつ節の含まれる文

これは  $SZ \frac{SZ}{Z} ZZ$  の構文となる主語一つからなる文と、 $SZ \frac{SZ}{Z} Z/SZ$  のような構文となる主語二つ以上からなる構文の二つに分けられる。年少にみられなかった。年中の用例も少ない。

#### ② 提示的単位文をもつ文

これは、「～というと」という構文を前文にもつ特殊な構文なので用例が少ない。このような言い方を覚えると、それが話しぐせとなる場合もある。

### ③一文で話そうとして「～て～て」となる文、他

～て～てとなる文は、時間的順序に並べて話すためにできる文で年齢を問わず幼児に多くみられる。しかし、年少は少ない。六つの主語あるいは七つの主語からなる文という項目をたてるとそこに入る文構造も便宜的にこの中に入れた。ここには内容が理解できるものを入れたが、長く続くため文脈がそれなり、文の意味が理解できなくなった、のちに述べる2.7の「不明文」に入る構造には、この～て～ての形式をもつ構造の文が多い。

### ④会話文のはいる文

幼児に物語をさせると表のような直接話法形式の構文がみられる。主語がいくつあるかによってこれを分類しようとするとできないわけではないが、特殊なので別にとりあげた。年少の用例は次の「物語を一文で長く話す文」の項にもはいりそうである。おもしろい構文があったのであげておく。

○キヨウハ カイスイギ ツレテ イッテ ヤロウト シテ 「ハーイ」 ッテ ユッ「ダメダメ  
キガイ ナク（シマスワ） 「(不明) シナサイ」「オイオイ カミト ハンケチハ?」「アッ  
ワスレター」「マダ マダ ゴアイサツヲ」「イッテマイリマス」「チェッ ツマンナイノ」「オ  
イシイ ケーキガ ノコッテタ テヲ アラッテ ( )」「イタダキマス」「クサッテルワ」  
「ア一 キヨウハ カツヲチャント ワカメチャン オッコッチャッタノカモカ」(赤中一  
女5:3-11)

サザエさんのテレビについての話である。

### ⑤一つの物語を一文で話そうとして長文になったもの

年少は例の幼児(三男)ひとり、年中にはよい例がみられなかったので、補助資料から補った。このように長い文で話せるというのは一応発達ではあるが、文意識が幼児にないからともいえる。

### ⑥挿入文をもつ文

これには「でしょ」の挿入文をもつ文があるが年中が多く使っている。「だよ」の挿入文は年長が使っていて、年少の用例はみられない。単語や句を補足する挿入は、年齢を問わずあるが節を挿入する例は年少には見られない。挿入文全体についていえば、挿入の言い方を好む幼児がいて何回も使っている。のちに述べる補足文の構造と似て話しぐせもあるようだ。「だよ」を使用している自g女など一人で六文もこのような構文で話している。年中の「だよ」も同一児二例である。挿入が文中に入ると、挿入のあと文が乱れ、統一のない文になりやすいようである。年少では挿入の構文は三男ひとりにのみみられた。

## 3.2-8 不明文

二つ以上の接続助詞をもつ長い文には、文の内容、つまり意味するところのはっきりしない文が多いので、不明文として特に用例を分類してあげた。一括してもよいのであるが、八種に分類してみた。互いに関連があるので、明確に分けられたとはいえないが、どのような不明文があるか、いくらかでもわかる。

①内容不明——漠然と内容のわかるものもあるが、これまでに分類した用例よりはわかりにくいものがはいっている。年長は年中、年少などに比べて、単位文を接続助詞でつないで、長い文で話しているので、話している文の中味が聞き手に理解できないという現象を呈している。

② ごたごた話して統一性なし——一文の中に三つ以上のことがらを入れて、「～て～て」でついで話しているので、統一しない文がある。わかるようでわからないのが特色である。

③ 主語や補語がないため内容不明——幼児が話す内容を大人が前もって知らない場合にはその文が理解できないということが起こる。これまでにあげた例の中にもこのような主語、補語なしの文はあったが、大人が幼児の話す内容を知って補った場合である。

④ 構文はよいが内容のおかしい文——これは年長にはみられなかった。

⑤ 前後の文の関連性不明瞭——前文と後文との関係がなく、後文が前文とは全く別の話になっているものがある。②の統一性なしや⑥の文脈のそれとも関連がある。

⑥ 文脈のそれ——文末に近くなつて、別の話になつてくるもので、年齢を問わず同じくらいある。年長にはそれほど多くないということになろう。

⑦ 絵に対する解釈ができていない——絵をみて話す話題があったが、その内容については幼児が絵をみて自分で理解する以外にない。その絵の理解がこちらの意図するものとひどくかけ離れている文をここに入れた。絵を逆にみて話した場合はここには入れなかった。

⑧ 録音の聞きとりにくい箇所をもつ文——録音した幼児の話しことばを文字化したものが、この調査研究の資料になっているが、幼児の声が小さかったりして、文字化できなかった箇所のある文をここに入れた。年少児に多くみられた。

### 3.3 接続助詞たり、しをもつ文

これは前に、ここに取りあげた理由を述べたが、单文の構造と複文の構造の両方に関係するので、分けて用例をあげないで、ここにひとまとめにして取りあげた。並べて述べる接続助詞である。くわしくは章末の用例を見ていただくことにして、「～したりしてあそぶ」という場合「して」を省略する形式とか、「～たり～たり」の一方が欠けていたりする構文がある。前者は、年中に一例のみで、年少ではなく、このような構文は年長しか用いないようである。また、大部分の幼児は「～たり～たり～たり」という構文で表現するところを、「～て～て～て」という表現ですましているようである。

「し」については、年少では文末に用いる用例のみであった。「～し～し～し～」という表現は年長ひとりのみであった。このような表現を用いないで、幼児は「～て～て」で表現するのである。

### 3.4 まとめ

このような分類のしかたで大人の複文を分析した研究がないので比較できないが、筆者の話しか方を大人のモデルとして自省しながら幼児の構文を考察してみると、幼児の特色として次のようなことがいえるように思われる。

(1) 接続助詞の使い方の誤用がめだつ。なんでも「て」ですませる傾向がみられる。次のようにある。

○ソイデ カメガ サキニ イッテネ 「ワーイワーイ」ユッテタラネ ウサギガ サマシテ チヨット ウエマデ イッタラネ〔けれど〕 カメノ カチダッタノ。(赤中-g女4:8-12)

○ハジメネ ライオンガネ 「エサハ ナイカナー」ッテ サガシテネ〔てたら〕 シマウマガ  
イタカラネ カケテ イッタノ。(赤長-c 男6:3-21)

前後の関連をつけることができないで、事実を事実のままで述べるという傾向がある。つまり、「て」で状況説明的に述べて、「から」「ので」などを使って理由として述べることができないものである。もう一例。

○ジャックガ オオイソギデ ニゲテネ キニ ツカマッテ ズーット オリテ イッテ ノコ  
ギリデ キッテネ〔たので〕 オオオトコガ オッコッチャッタノ。(赤長-y 男5:7-11)

(2) ~て~て~てでつないでいくつものことがらを一つの文として述べる傾向がある。これも前に述べたが、発達であるとともに、まだ文意識の確立ができていないからである。大人にも残っている人がいる。

(3) 一つの文の中に主語をもつ節を含む複雑な文構造は、年長児のしかも特別の幼児のみが使用して、他は(S)ZZ~Z形式とか、SZ/SZZ、SZSZ/SZ文で話すか、不明文を話している。四文、五文の単位文からなる文は年少児ではほとんど使えない。年少児は一つの接続助詞よりなる文が多く、二つ以上の接続助詞よりなる文が少ないこともそのあらわれである。

(4) 幼児は話す場合に時間的順序で、しかも、行動したままを話して、端折って話すということができない。たとえば、

○タクシーノ ドアガ アイテネ デ ママガ ノッテ~(赤長-p 女6:2-8)

○オマツリニ イッタラネ ワタアメガ アッタカラ カッテネ ソレカラ イッテネ~(自長-c 男6:3-1)

下線の部分である。大人ならもっと簡潔に話せるところである。この種の例は多い。前にも幼児の行動型思考性について述べた。

(5) 文末のところとも関係するが、時の対応のまちがいが多い。

○ユメミタラネ モモタロシャンガネ ボクンチノネ ト一 アケテ キテルヨ。〔来てたよ〕  
(神中-渡男4:6-13)

○ヨウチエンノ コドモガネ 「アソビマショウ ライオンサン」ッテ ユッタラ シマウマ  
ガ ワラッテタノ。〔笑ったの〕(赤長-h 女6:6-11)

(6) 次のような表現のしかたもある。家族のことを聞く質問で、「何人いるの?」という間にに対する答。

○フミエチャン ヒトリトネ ソイカラネ オカアサンネ オカアサン ヒトリデネ ソイデ  
ハルコチャンモ ヒトリデネ ソイカラ オバアチャンモ ヒトリデ アンチャンハ ヒト  
リデネ ソイカラネ マユミチャンモ ヒトリデネ ケイチャンモ ヒトリ。(自長-e 女  
5:7-1)

何人という質問者の質問にこだわったのか、かわった表現である。

六つの例をあげたが、このような側面から幼児の文の形式と用法をみていくことも可能である。今度の研究では幼児の文構造の概観を巨視的に調べることをまず第一の目的としたので、細かいところまで分析することができなかった。今後の研究課題にしたい。

複文の構造と年齢別による使用数を一覧にしておく。(別表参照)

複文の構造と年齢別使用数

		構 造	年 長	年 中	年 少
文 が 成 立 し て い る 場 合	主語一つから なる構文	SZZ	46	43	36
		(S)ZZ	100	52	57
	主語二つから なる構文	SZ/SZ	32	44	28
		Sのあらわれていないもの	76	75	42
	題目語を もつ構文	題目語のあるもの	3	4	3
		題目語のないもの	3	2	3
	主語一つから なる構文	SZ~/Z	8	6	8
		(S)Z~/Z	33	12	7
	主語二つから なる構文	SZ/SZZ	10	5	7
		Sのあらわれていないもの	19	10	4
		SZZ/SZ	4	2	5
		Sのあらわれていないもの	6	5	1
		SZZ/SZZ	4	2	1
		Sのあらわれていないもの	5	1	
二 つ 以 上 の 接 続 助 詞 によ つ て 文 が 成 立 し て い る 場 合	主語三つから なる構文	SZSZ/SZ	19	6	2
		Sのあらわれていないもの	28	8	5
		SZ/SZSZ	6	6	
		Sのあらわれていないもの	1		
		SZZ/SZSZ	3	2	
		Sのあらわれていないもの	1	1	
	主語四つから なる構文	SZSWSZ/SZ	16	10	3
		SZSWSZ/SZS	3	1	
		SZ/SZSWSZ	2	1	
	主語五つから なる構文	SZSWSZ/SZS		1	
		SZ/SZSWSZ/SZ	1		
		SZ/SZSWSZ/SZS	3	1	
		SZSWSZ/SZ/SZS	2	1	
	題目語を もつ構文	題目語のあるもの	7	4	1
		題目語のないもの	8	6	1
	その他の構造 からなる文	文中に主語をもつ節の含まれる文	11	1	
		提示的単位文をもつ文	1	1	1
		一文で話そうとして「～て～て」となる文, 他	14	8	3
		会話文のはいる文	3	4	
		一つの物語を一文で話そうとして 長文になったもの	5		1

	挿入文をもつ文	24	16	3
不明文	内容不明	49	27	17
	ごたごた話して統一性なし	9	1	3
	主語や補語のないため内容不明	7	1	3
	構文はよいが内容のおかしい文		4	1
	前後の文の関連性不明瞭	3		4
	文脈のそれ	7	10	7
	総に対する解釈ができていない文	5	2	4
接続助詞たり、しを もつ文	～たり～たりをもつ文	52	5	15
	～し～しをもつ文	5	6	2

### 幼児の複文構造の使用例

#### 1 一つの接続助詞によって文が成立している場合

年齢別 文構造	用例	用		例	備考	
		年 長 (赤羽・自由)	年 中 (赤羽・自由)			
1-1 主語一つからなる構文						
1-1.1 主語 あるもの						
SZZ ～から [5] [2]	○ボク モウ オウキイカラネ ソウユウ ノハ アマリ キカナイカラネ。(赤-t 男6:0-17)	○ライオンガ([は]) シマウマ ミツケタカ ラネ オイカケタ モッタノ。(赤-s 男5:6-15)	○(ミ)テネ クマガ ネズミネ キライダ カラネ ダカラネ(注)(ホ) エツケテン ノ。(小-矢女4:0-13)	○(ミ)テネ クマガ ネズミネ キライダ カラネ ダカラネ(注)(ホ) エツケテン ノ。(小-矢女4:0-13)	原因、理由を あらわす。(順接) (注) 第6章 参照	
～ので				○ズーット マエ カッタ[買]ノテネ タ カーノ。(小-佐男4:3-4)	原因、理由を あらわす。(順接)	
～たら [2] [2]	○ウサギハ、ツカレタノテ トチュウテ ネテ シマイシタ。(赤-p 女6:2-15)	○セミ ツカママエタト シタラサ コン チユウ シチャウンダ。ボク; [補足](赤 -m 男5:10-9)	○オトウサマハ イツモネ オヤクショカ ラ カエッテ キタラ ネタリ スル ヨー。(赤-b 男5:6-2)	○ボク オオキク ナツタラ フエ カツ テ モラウンダ。(小-佐男4:3-15)	仮定、時を あらわす。 (順接)	
				○モシカ リス[組]が アカダッタラ ソ シタラ アカノ カチッテ ャンノ。(赤 -u 男5:6-4)	仮定少なし	
				○ジドウシャ(ノ) シャー ジドウシャガ シャ ヨコッチニ コッチニ マガルト ボーンシッテ アッカッチャウノ。(白-k 男4:8-8)	仮定、時を あらわす。 (「たら」や 「ば」より 結びつきが 強い)	
				～ば □ □ □	○ショウガッコウ([は]) コノネー ョ ヨ ウチエン カラネー カズオチャンチノ ～ば □ □ □	前おきとか、 仮定、時を

～けど 4 2 2	○ボクネ ナツヤスミジュウニネ コンナ アツイホン ミンナ ヨンジャオウト オモッタケド ヨメナカッタノ。(赤- t男6:0-14)	○セミハネ キヨウノ ニチヨウビハ イ キテルケドネ コノ ツギノ ニチヨウ ビハ シンデンノ。(自- t男5:3-27)	ホウカラネ ズーット イケバネ ア あらわす。 ル。〔はっきりしない〕(神-寺男4:4-5) (順接) 逆接
		○ソシタラ カメガネ〔は〕 ノロクッテモ ウエマテ アガツチャッタノ。(赤- t女5:10-4)	○ソシテネ ョンバンメノ オニイサン ハネー ヒニ モヤシテモネー モエナ イノ。(神-規男4:6-29)
～ないで 1 2 1	○セミ テ ミッカシカ イキナノ。(自- s男5:9-8)	○ソレヲネ パピー ャッツケル コト デキナイデネー オウチデネー カンガ エタノ。チキユウ;〔補足〕(赤- f女4:10-6)	○オカアサンハネ ネナイデ トイダリ ヨルネ オコメ トイダリナ シカシシタノ。(神-三男4:0-3)
		○ソレテネー チッチャイ コガネー シ カヲ ミツケテネー シカヲ カッタノ ネー。(赤- o女6:1-21)	○ソイデ シカガ イハイ キエ ヤッテル。(神-寺男4:4-17)
～て 29 28 25	○ダカラサ ウサギハ ツカレテ ネタン ダッテ。(自- d女5:11-27)	○テ コビトガネ ワルモント オモッテ ユワイチャッタノ。(赤- n男5:2-7)	○ソレデネ ボクガネ イッカイネ ネー <sup>ウミノ</sup> イッテ ナカニネ フカイ トコニネ イッテネ オッコ チャッタノー。(神- 古男4:5-6)
		○ウマガネ ネズミヲ タベヨウト シテ クマガ 〔言いなおしか〕 オッカ テ イッタンダッテ。(自- d女5:11-30)	○トラックガ /こっちからよ。/クマガ ク マガネ ネズミ(ノチ) ツカマエヨウト オモッテネ クマガネ キタノ。(神- f女4:3-15)
～	○ボクナラ イナカ イッテ ンモ モラッテ キタモン。(自- p男5: 6-1)	○ボウンドウカイニ テテネ ボク イッ チャクン ナッタノ。(語順)(赤- t男5: 1-4)	○ハシネ ショッチャウ ショッチャウ カイシャ イッテ オ オシゴト スル ノ。(小-矢女4:10-2)

○ハハタ クルマ ウンテンシテテ <sub>マエ</sub> ヤツチャッタンダ。(赤-0女6:1-24)	○ソコニ マホウツカイノ オバアサンが キテテネー 「イカセテ アゲヨウ」ト イッテネ イッタノ。(赤-p女5:2-12)	○オニイチヤン フジバシヤサン イッテ テ コンドハ ズット コナインダ。(神 -三男4:0-4)
	○ソシタラ オハナハ マッスグニ ナツ テ キレイニ ナリマシタ。(赤-p女6: 2-16)	○デネ シンデレラハネ オネエサンノ タンスカラネー アノ オネエサンノ フクヲネ ヒロゲテ ミ <sub>テ</sub> ナキダシ チャッタンデスッテ。(赤-p女5:2-11)
●オクサマハ マジョハネ ママミタイナ カッコウ シテテネ ソシテネエ マ ジョナノネ。(赤-1女5:9-23)	○ソノ アイダニ カメサンガ ノシノシ ト アルイテ イッテ コノ テッペン マテ イッチャッタノ。(赤-f 女4:10 -11)	○ソイデサー ジャイアントロボン トコ ノコウイウ マルイ トコガ (ボ) ヤーンンテ ハレ <sub>テ</sub> ハナレ <sub>テ</sub> ミサイル ニ ナルヨ。(小-佐男4:3-17)
	○ソイデネ カメハネ ウサギ <sub>ネ</sub> ネテル <sub>ネ</sub> ウサギヲネ〔の〕 ソコノネ トコヲネ 〔の〕 マエヲ トオッテネ オヤマヘ ツイタンダッテ。(自-d女5:11-28)	●オニイチヤンガ オカネ <sub>ヲ</sub> イッパイ タメ <sub>テ</sub> カッテ クレタノ。(神-桑女4:10-23)
○オテンキノ イイ アサ ヒトリノ ボ ウヤガ「ミズヲ オハナニ カケマシヨ ウ」トユッテ 6:6-21)	○ソノ ウチネ カメサンガネ 「イット ウダー」 <sub>ツテ</sub> イッテネ トココ ココネ ノボッチャッタノ。オヤマニ; 〔補足〕(赤-r女4:10-10)	●ウサギサンガ 「イタイ イタイ」 <sub>ツテ</sub> イッテ コロン(ダノ)。(赤-q男4:1-7) 「といって」
	○ソレカラ ネ「オコシニ ツケテンノハ、 ナンデスカ」 <sub>ツテ</sub> イウカラ <sub>ネ</sub> 〔言つて〕 オサルモ モラッタ(ン)。〔語順〕(自-o 男6:3-9)	○ウルトラマンハネ ナンニモ ナクツ <sub>テ</sub> ネ〔ても〕 トベシノ。(神-古男4:5-14)
1-1.2 主語の 誤用	○(おかあさんは) ヨウサイノ センセイ ダカラ <sub>ネ</sub> イロシナ オヨウフク <sub>ツ</sub> クッテ クレル。(赤-p女6:2-2)	○(おかあさんは) ハイシャサンノネ ハ コ <sub>ツカツ</sub> ャッテルカ <sub>(シ)</sub> ネ ヨン 〔誤〕 <sub>デ</sub> クンナイ <sub>ノ</sub> <sub>(自-1男5:1-5)</sub>

1-1.2 主語の  
あらわれて  
いないもの  
(S)ZZ  
～から  
[17][1][3]

～たら [8][5][9]	○([ぼくは]) アソッコカラサ スーッテ オリヨウト シタラネ オッコッチャッ タノ。(自-1男6:0-7)	●([ぼくは]) オウチ カエッタラ カズ チャント マタ アソンダ。(自-c男4: 7-7)	○([ぼくは]) オーキク ナッタラ ガッコ ウニ イキタイ。(神-寺男4:4-13)
	○([ぼくは]) ナンカ <sup>(シユ)</sup> ルト スグ ゲルノ。〔はっきりしない〕(自-b男6:0- 13)	○([ぼくは]) カエッテ〔み〕ナイト ワカン ナイ。(神-高男4:4-19)	○([ぼくは]) カエッテ〔み〕ナイト ワカン ナイ。(神-高男4:4-19)
～と [2][1][4]	○([ぼくは]) オトナニ ナレバ イヨ。(自-s男5:9-13)	○([ぼくは]) オトナノ ニュースハ イケドネ コドモノ ニュース ミル。 (赤-t男6:0-17)	○([わたしは]) オトナノ ニュースハ イケドネ コドモノ ニュース ミル。 (赤-t男6:0-17)
	○([ぼくは]) ナンカ <sup>(シユ)</sup> ルト スグ ゲルノ。〔はっきりしない〕(自-b男6:0- 13)	○([ぼくは]) ナンカ <sup>(シユ)</sup> ルト スグ ゲルノ。〔はっきりしない〕(自-b男6:0- 13)	○([ぼくは]) オトナニ ナレバ イヨ。(自-s男5:9-13)
～けど [22][2][3]	○([ぼくは]) オトナノ ニュースハ イケドネ コドモノ ニュース ミル。 (赤-t男6:0-17)	○([ぼくは]) マダ <sup>。</sup> ジブンデ ヨム ツ モリッタシタケド <sup>。</sup> マダ ヨマナカッ タノ。(自-d女4:11-12)	○([ぼくは]) マダ <sup>。</sup> ジブンデ ヨム ツ モリッタシタケド <sup>。</sup> マダ ヨマナカッ タノ。(自-d女4:11-12)
	○([ぼくは]) ナンカ <sup>(シユ)</sup> ルト ドウイウノカ ワカンナイケド たちは) ツナヒキデネ 「シロ」 カテ アカ カテ」 <sup>。</sup> テネ ャッタノネ。(赤-m 男5:10-15)	●スコシ <sup>。</sup> チカインケドネ ガイノネ ウエナノ。(赤-q女5:2-9) -三男4:0-29)	●スコシ <sup>。</sup> チカインケドネ ガイノネ ウエナノ。(赤-q女5:2-9) -三男4:0-29)
～でも [2][1][1]	●〔ユウセイカメンは〕 ソイデ ガケカラ オッコチテモ シマ(な)ナイノ。(小-大 男4:6-9)	○([ぼくは]) ブツタッテネ オコラエナイ ヨ。(自-t男5:3-8)	○コン(ド)ネー〔わたしは〕 オカネ ツ カ(ワ)ナイデネ オモチャデ アソブ ノ。(神-4女3:7-3)
	○([ぼくは]) オフロ ハインナクッタッテ アツインダモン。(赤-w男6:3-2)	○([ぼくは]) カイシャ イカナイデ ネー キカイヲ ヤッテンノ。(自-s男 4:10-14)	（注）一応接 続助詞とし た。
～たって [2][1][1]	○〔アトムは〕 コドモジャナクテネ ロボ ツト。(自-e女5:7-15)	○〔アトムは〕 コドモジャナクテネ ロボ ツト。(自-e女5:7-15)	○([ぼくは]) タ(べ)テ ソーシテネー ネ ルノ。(神-怖男3:7-2)
	○〔わたしは〕 ハチジハシニ ネテネ シ チジニ オキル。(赤-p女6:2-7)	○([ぼくは]) (オ)ヨウフクトネ カバント ボウシラネ キガエテネー オソト イ	○([ぼくは]) タ(べ)テ ソーシテネー ネ ルノ。(神-怖男3:7-2)
～じやなくて [2][1][1]	○〔アトムは〕 コドモジャナクテネ ロボ ツト。(自-e女5:7-15)	○〔わたしは〕 ハチジハシニ ネテネ シ チジニ オキル。(赤-p女6:2-7)	○([ぼくは]) タ(べ)テ ソーシテネー ネ ルノ。(神-怖男3:7-2)
～て [43][30][35]	○〔わたしは〕 ハチジハシニ ネテネ シ チジニ オキル。(赤-p女6:2-7)	○([ぼくは]) (オ)ヨウフクトネ カバント ボウシラネ キガエテネー オソト イ	○([ぼくは]) タ(べ)テ ソーシテネー ネ ルノ。(神-怖男3:7-2)

クノ。(赤-n男5:2-2)	○〔どちらにハリ一は〕ソシテ ドウロコ ウジヲ シテル トコロテ アソビ <sup>~</sup> ソント ドロダラケニ ナリマシタ。 (神-規男4:6-24)	○〔ねがみは?〕コッカラ カ(ケ)テネ ソイデ コッカラ シ[ひ]カラ* レチヤ ッタノ。〔意味はつきりしない〕(小-竹男 4:1-8)	理由 * ラ不 <sup>用</sup>
○〔わたしは〕 ノロウト シテ テヲ ケタノ。(赤-p女6:2-18)	○〔ぼくは〕 ヨウチエン イッテ テツボ ウ ヤッテタ。(自-o男6:3-4)	○〔ぼくは〕 オウチ モッテ イッテ チュケルノ。(自-f女4:9-8)	目的
○テネー〔二匹は?〕ドウロニ デヨウト シテ <sup>~</sup> デウシャニ ハネラレ チャッタノ。トラック;〔補足〕(赤-d男 6:4-19)	○〔ぼくは〕 パペニ オンブシテ〔されて カエリ〕ネムツチャッタノ。〔状況 or 理 由?〕(自-s男4:10-1)	○〔ぼくは〕 パペニ オンブシテ〔されて カエリ〕ネムツチャッタノ。〔状況 or 理 由?〕(自-s男4:10-1)	場所
○〔チャコちゃんは〕 モ <sup>~</sup> モトコミタイネ アタマ シテ <sup>~</sup> ココニ チョン <sup>~</sup> コ ウ ヤッテ ブラサガッテル チヨンマ ケ イッテルノ。(自-d女5:11-16)	●ソイデ 「ももたろうは」 オオキク ナ ッテネ ハタラクヨウニ ナッタノ。 (赤-1男4:8-8)	○ソイデ 「ももたろうは」 オオキク ナ ッテネ ハタラクヨウニ ナッタノ。 (赤-1男4:8-8)	状況
○〔わたしは〕 オヤマ ツクッタリ シテ アンダノ。(赤-f女5:9-6)	●〔それは〕 ピコピコッテ ュ <sup>~</sup> ュ <sup>~</sup> テ ソイデ トアノ。(神-遠男5:1-19)	○ソンデ ソンデ〔ねずみは〕「ボーン」 ト トンデ トラックン トコニ キタ ノ。(神-場男3:10-16)	状態 ●ソレデネ〔ぼくは〕 カンガエ <sup>~</sup> ネ ミチュケンノ。(神-古男4:5-19)
○〔わたしは〕 オエカキラネー ャッ テ <sup>~</sup> ネンドモ ヤル。(赤-x女6:2 -9)	●〔わたししたちは〕 ソイデ マンガ フタ ツ ャッテ ウタモ フターツ ャン ノ。(神-端女4:11-11)	○ソイデネ〔わたししたちは〕「チヨコレ ート カ(ッ)テ タベヨウ <sup>~</sup> 」 <sup>ト</sup> イツタラ ユ <sup>~</sup> ユ <sup>~</sup> テ <sup>~</sup> チヨコレートヤ <sup>(サ)</sup> ンニ イッタノ。(自-j女4:7-4)	方法, 手段 並列
●〔わたししたちは〕 ソレデ「ソダテマショ ウ」 <sup>~</sup> テ ユ <sup>~</sup> テ ソダテタノネ。(赤-E 女5:8-19)	○ソイデネ〔わわたしたちは〕「アーアー クタビレタ」 <sup>~</sup> テ ネチャウノ。(小-原 女3:7-21)	○ソイデネ〔おばあさんは〕「アーアー クタビレタ」 <sup>~</sup> テ ネチャウノ。(小-原 女3:7-21)	引用

誤用  
□1□

## 1-2 主語二つからなる構文

1-2.1 SZ/SZ

～から  
□3□□2

○テモサー ポクガ サキニ ネムツ  
チャッテカラ オカサンガ ハイッテ  
クル。(赤-w男6:3-2)

～ので

□6□□6

○ソレカラ ウサギが メヲ サマシタラ  
モウ カメハ ツイテ。(赤-p女6:2  
-15)

～と

□5□□3

○ソイデネ ライオンガネ チョットア  
ルイテ イクト シマウマガ イタノ。  
(自-d女5:11-24)

～ば

□1□□

○カメハ ノロケドネ ヴサギハ ピヨ  
ンピヨン ハネマス。(赤-s男6:6-19)

～に

□1□□

○クマガネ ネズミニサ ソウダンショウ  
ト オモッタノニネ ネズミガネ テテ

○(ばくは) キノウネ イッテモネ オヤ  
スミ シテカラネ 「してたときは？」  
ケンチャンチ イッテタノ。(自-a男4:  
9-4)

○(ぱくは) キノウネ イッテモネ オヤ  
スミ シテカラネ 「してたときは？」  
ケンチャンチ イッテタノ。(自-a男4:  
9-4)

○ダッテ ウシャギ ネチャッタカラネ  
カメガ カツノ [かったの]。(自-i男5:  
5-8)

●ソウシタラネエ シマウマガネエ イッ  
パイ イルノテ ライオンハネエ  
ビックリ シテネー ニゲテ イッタ  
(ワケネ)。(赤-q女5:2-14)

●オニ、サンガネ ミヂュヲ カン カケ  
ヨウト オモッタラネ オ オハナガ,  
ネ カレタノ。(自-q男5:4-11)

○ソイデネ ライオンガネ チョットア  
ルイテ イクト シマウマガ イタノ。  
(自-d女5:11-24)

○ス[つ]トムモ ポクガ 「ハイチャイ」  
ツテ (イエバ) ストムモ 「ハイチャ  
イ」ツテ。(自-s男4:10-11)

○カメハ ノロケドネ ヴサギハ ピヨ  
ンピヨン ハネマス。(赤-s男6:6-19)

○クマガネ ネズミニサ ソウダンショウ  
ト オモッタノニネ ネズミガネ テテ

○ヒロコネ アカチャン ヒト(ニ)ニ、ア  
カチャン ワマレッカラネ ヒロコ ヒ  
トリジャナイ。〔はつきりしないが〕(神  
-佐女3:7-1)

○ジケンガ アツタラネ イタンダヨ。マ  
イティー；〔補足〕(小-福男4:2-7)

○ボクノ アシニネー オベンキヨウノ  
ドウガガネ ミーチャン ユラストネ  
ドカーンッテ ミンナ オッコッテ ク  
ンダモン。(語順)(小-佐男4:3-13) (注)

●ウチ カラー〔テレビ〕ナイケドネー  
オオモリノ オバアチャンチダ (ケ) カ  
ラー。(赤-a女3:10-17)

<p>イッチャッタ(ノ)。(赤-j 女5:7-15)</p> <p>中止形 (注) [3] □</p>	<p>オトモダチ クロイノネ。(赤-q 女5:2 -12) (注)</p> <p>●ソシタラ ウサギガ ソノヘンテ ネ テ シマイ, カメガ サキニ イッテ シマイマシタ。(赤-A 女6:1-11)</p> <p>○ミギノ ホウガネ エーグミ<sub>テ</sub>ネ ヒダ リノ ホウガ ビーグミ<sub>ダ</sub>ッタノ。(自 -d 女5:11-8)</p> <p>○ソイデネ イ<sub>イ</sub>イッカ オヒサマガ<sub>タ</sub> イヨウガネ<sub>テ</sub>ッテ<sub>テ</sub>ネ<sub>テ</sub> ダリヤ ヒライ タノ。(自-d 女5:11-30)</p> <p>○キュウチャンネ ヘリコブター ツクロ ウト オモッテ<sub>テ</sub> キュウチャント ショ ウチャンガ ネー ツクロウト シタン ダヨネ。[ごたごた](自-g 女5:11-19)</p> <p>○クサガ ハエテ イ<sub>エ</sub>ネ ソコニ カエ ルガ イルンダヨ。(自-k 男5:8-4)</p>	<p>(注)年中で (は q 女のみ が「ので」 「のに」を用 いている。</p> <p>(注)接続助 詞とはいえ ないがここ に入れた。</p> <p>(注)接続助 詞とはいえ ないがここ に入れた。 先行</p> <p>●ソノ シマウマネ<sub>ニ</sub>ゲテ<sub>イ</sub>ツテ<sub>ニ</sub> ライオンガ オイツイタンダッテ。(赤- q 女5:2-13)</p> <p>○デ<sub>シ</sub>ヒトリ ネ<sub>テ</sub>ネ<sub>テ</sub> カメサンガ イットウ ナッチャッタノ。(自-1 男5: 1-10)</p> <p>○ソイデネ ライオ<sub>ン</sub>ガネ ムコウニ イッ テネ コレガネ ワガ* ラッテンノ。(神 -秋男3:11-13)</p> <p>●ソイデネ<sub>一</sub> ナツテ<sub>ニ</sub>テ<sub>一</sub> ナツテ<sub>ニ</sub>テ<sub>一</sub> テ<sub>ニ</sub> ナツテ<sub>ニ</sub> ナツテ<sub>ニ</sub> ナツテ<sub>ニ</sub> ナツテ<sub>ニ</sub> (神-増女4:11-17)</p> <p>○ソイデネ オハナガ<sub>ナガクテ</sub>ネ<sub>一</sub> ソシ テ<sub>ニ</sub> ミミガ<sub>オ</sub>一<sub>一</sub> オッキイノ。(自-s 男4:10-3)</p> <p>●ウサギガ<sub>コ</sub>ッチニ イ<sub>テ</sub>ウ<sub>一</sub> ウ<sub>ニ</sub>カ メガ アルイテンノ。(赤-b 男5: 6-10)</p> <p>(注)年中で が「ので」 「のに」を用 いている。</p> <p>(注)接続助 詞とはいえ ないがここ に入れた。</p> <p>(注)接続助 詞とはいえ ないがここ に入れた。</p> <p>目的</p> <p>状況</p>
---	--	---

<p>●ヨルネ オトウサンガネ 「ダメ」ッテネ 「マンガ ミチャ ダメッ」ッテユッ テネ アト オカアサン 「チョットグ ライ ミサシ ミサシテ アダナサイ ヨ」ッテユウ (カラ)。(自-B男5:7-2)</p>	<p>○ソイデネ カメサンガ テッペンマデ ノボッテネ〔けれど〕 マダ ウサギサン ガ ノレ ノボレナカッタノ。(自-n男 6:5-19)</p> <p>○ゴジラハ ツヨイカラネ〔けれど〕 ル トラン コンドモ マケナイヨ。(自 -s男5:9-19)</p> <p>○カメハネ〔が〕 「ウサギサーン」デ ダラネ〔のに〕 ウサギサンガ ドッカ イッチャッタノ。〔はつきりしない〕 (赤 -j女5:7-14)</p>	<p>○ソウチテネ オミズヲネ オミズハ タ クチャン テテネー〔のに〕 ダレカ〔も〕 モツ モッテナイノ。(神-村女3:6-8) 3:11-13) (物語)</p> <p>○チイ〔タ〕イ やギガネ サキニ イッ テネー〔たら〕 ナンカネ キミワリイ (トロル)ガ スンデ イタノ。(神-大男 3:11-13)</p> <p>○アメ フッタカラ 〔ほくは〕 オウチテ アソンデタノ。(小-佐男4:3-3)</p> <p>○タクシーナンカ コナカツタカラ 〔ほ くたちは〕 バス ノッテ キチャッタ ノ。(自-s男4:10-4)</p> <p>○シマウマガネ カクレタンデネ 〔ライ オンは〕 タオレタ。〔はつきりしない〕 (赤-s男5:6-15)</p> <p>○ワルイ モノガ キタラネ スグニ 〔ビックエックスは〕 ヤク ヤツケル。 (自-h女4:7-6)</p>
--	--	--

## 1-2.2 SZ/(S)Z

～から  
[9]12[1]～ので  
[1]2[1]～たら  
[6]3[6]

○ダケド モウ オカアサンや オトウサ  
ン モドッテ キタカラ 〔その話は〕  
コンドテ オワリニ ナッチャウノ。(赤  
-r女5:10-8)

○ソシタラ アンマリ カメサンガ ノロ  
イノデネ 〔うきぎは〕 スヨーシネ ネ  
チャッタノ。(赤-r女5:10-11)

○ワルイ カイアツガ キタラネ 〔アト  
ムは〕 ヤツケンノ。(自-e女5:7-16)

～と [2.2.]	○ボクがネ ナニカ ゴハシ タベナイト [ぼくは] ワ 〔おかあさんは〕 (ス) ゲ オコルン ダモン。(自-b 男6:0-8)	○ダッテ ホンガ ナイト [ぼくは] ワ カンナイソダモン。(赤-s 男5:6-11)
	○ソレカラネー オトウサンガ イツモ ネー ミガイテルケドネー [ぼくは] ニヨウビダケ トキドキネー ガラス ネー マドノ ガラスヲ フク トキ アル。オニイサント イッシュヨニ; [補 足] (赤-k 女6:2-6)	○エシャ アッタケド [きんぎょは] シ ンジャワソダヨ。(神-渡男4:6-22)
～けど [2.1.]	～ても [1.1.]	○ジ ナクッテモ [ぼくは] ヨメナイ。 〔わからぬの意〕 (小-岸男3:11-8)
	～たって [1.1.]	○……ソ(レ)テ ロボット キタッテ 〔パパーは〕 ヤツケラレルヨ。(赤-f 女4:10-6)
中止形 [1.1.]	○キヨウガ オトウトノ オタンショウビ テ コンド [彼は] ヨツツン ナルノ。 (赤-f 女5:9-7)	○ソシテ ナンカガ タスケニ キテ 〔ねずみは〕 ヴエニ アガッチャッタ ノ。(赤-e 男4:1-7)
	～て [9.11.3]	○イナカニネー ハタケニ トンボガ イッパイ イテ [ぼくは] ツカマエ テ キタノ。(自-s 男4:10-6)
～りしない [赤-a 男 5:11-9]	○ソシタラ マタ コウセンガ テ 〔それは〕 カタチガ カワッタ カイ ジユウガ〔に〕 ナッチャッタノ。〔はつき りしない〕 (赤-a 男 5:11-9)	○ココジョヤ ナイネ ヨウチエンニネー ハタグミガ イテ ミ ○アカチャンガ イテ [ぼくは] ダッ コネ チタ コト アンノ。(神-大男3: 状況)

<p>ソコヘネー チョットネー イッタノ。 (自-g女5:0-1)</p> <p>●ソイデネ ヤネ(シ) ヤネ(ニ) ヤネ デネーエ ヤネニ アナ アイデテネー エ [人が] オソト デンダッテ。(小 -抑女5:1-18)</p>	<p>ソコヘネー チョットネー イッタノ。 (自-g女5:0-1)</p> <p>●ソイデネ ヤネ(シ) ヤネ(ニ) ヤネ デネーエ ヤネニ アナ アイデテネー エ [人が] オソト デンダッテ。(小 -抑女5:1-18)</p> <p>ソイカ コスル モノガ アッテ [お ばあさんは] ギュギュギュト (オセん タク シテタノ)。(赤-L女5:9-14)</p>	<p>ソイカ コスル モノガ アッテ [お ばあさんは] ギュギュギュト (オセん タク シテタノ)。(赤-L女5:9-14)</p> <p>○ウサギガネー コ(コ)(デ) ソコ(レ) ヤマデ [かめがい] ハタ ヤ ッテンノ。[はっきりしない] (自-s男4: 10-24)</p> <p>●ソシタラネ ソシタラ ママガネ 「チョット アタシ ココデ オツカイ シテ クルヨ」ツテ イッテネ [わたし は] ヨウコチャント アソンデタノ。 (赤-L女5:9-8)</p>	<p>ソイカ コスル モノガ アッテ [お ばあさんは] ギュギュギュト (オセん タク シテタノ)。(赤-L女5:9-14)</p> <p>○ウサギガネー コ(コ)(デ) ソコ(レ) ヤマデ [かめがい] ハタ ヤ ッテンノ。[はっきりしない] (自-s男4: 10-24)</p> <p>●ソシタラネ ソシタラ ママガネ 「チョット アタシ ココデ オツカイ シテ クルヨ」ツテ イッテネ [わたし は] ヨウコチャント アソンデタノ。 (赤-L女5:9-8)</p>	<p>ソコカラ トランクガ キタラ [から] [二匹は] (シユ) モウ スコシデ カレソウダッタノ。(自-s男4:10-26)</p> <p>●ソイデ コンドハ オサルガ キテネ [から] [ももたろうは] キビダンゴ ヒツアゲタノ。(赤-1男4:8-9)</p>
<p>1-2,3 (S) Z /S Z ~から [3][1][1]</p>	<p>○ナカナカ ライオンが オイツカナイ カラ ボウヤタチガ ワラッテルノ。(赤 -t男6:0-19)</p>	<p>○[男の子が] ミズヲ ヤンナカッタカラ ネー カレチャッタノ。オハナガ; (補 足) (赤-1女4:10-11)</p>	<p>○ソウシタラ タイヨウデ ミズ [はっきり</p>	<p>~ので</p>

誤用  
□□□

○ダイ オトコノ ヒトガネ ミズヲ  
ハナニ [お花が] カレ カレデルカラ  
カケテンノ。[話順] (神-寺男4:4-18)

○[男の子が] ミズヲ ヤンナカッタカラ  
ネー カレチャッタノ。オハナガ; (補  
足) (赤-1女4:10-11)

1111	りしない」〔男の子が〕 ミズヲ カケ タノテ オハナ キクノ ハナガ マッ スグニ タチマシタ。(赤-s 男6: 6-21)	○テ 〔男の子が〕 ミズ アゲタラネ オ ハナガネ ゲンキニ ナッタノ。(自-m 男6: 4-14)	○シテ 〔ガリバーが〕 オキテ メー サ マシタラネ コビトガ ニケチャッタ ノ。(赤-n 男5: 2-7)	○ダッテ キヨウサー, 〔ぼくが〕 オッ コトシタラサー ダレカ トッチャッタ ンダモン。(小-佐男4: 3-11)	○セシイガネ 〔わしたちが〕 オシャ ベリシテルトネ 「ホン ヨン (デ) アーゲナイ」 ッテ イウノ。(〔語順〕(神 -佐女3: 7-19)	○スコシ 〔おまえが〕 マッテレバ オッ キイ ヤギノ ガラガラドンガ ヤッテ クル。〔物語〕(神-古男4: 5-26)	(注)時の提 示
454	～たら 〔1111〕	～と 〔311〕	～ば 〔1111〕	～けど 〔321〕	～ても 〔1111〕	～たって 〔1111〕	
	～〔男の子が〕 ミズ アゲタラネ オ ハナガネ ゲンキニ ナッタノ。(赤-m 男6: 6-7)	●シテ 〔ももたろうが〕 シバラク ア ルイテ イクト マタ サルガ キタ ノ。(赤-e 女4: 9-7)	○〔男の子が〕 ミズヲ スコシズツ ャツ テレバ ハナダッテ キレイニ サク。 (赤-w 男6: 3-30)	○〔ぼくは〕 ソウイウノモ スキダケドサ コノ ゴロ チョウガ イナイモン。(赤 -s 男6: 6-7)	○デネー ソノ トキネー 〔ぼくは〕 オ ミコシ カツガーナカッタケド オサー ムグンガ カツイダノ。(自-g 女5: 0-1)	●ズット マエダケドネ エイガデネ ナ ンダッケナ コイッテ イウノネ ウチ ノ オトウサンガネ エイガズ ャッタ ノ。(赤-q 女5: 2-3) (注)	○ダカラ 〔ぼくが〕 チラカシテモ ダイ ジョウアナンダヨ。オジイチヤンチハ; (補足) (神-三男4: 0-20)
				○ソシテモ アールガ ナイノ。(となりの おばさんが) イクラ サガシテモ; 「補 足」(自-b 男6: 0-25)	●(三番目のお兄さんは) ウミ, ヘー ボ チャーンテ ヤッテモネーアシガ ドン ドン ナガク ナッテ クンノ。(神-村 男4: 3-17)	○ユメッテ ユツタツテ イロイロノ ユ メガ アルカラネー。〔提示的〕(赤-s 男 6: 6-12)	● (デ) キュウショクが アルトキネー 〔ぼくは〕 オトモダチノ オウチネー
						～て 〔1123〕	先行

<p>語、用 [6][26]</p> <p>シトリ シトリデネー イカレン イツ テネー ソイデネー ママガ ムカエニ クンノ。〔はつきりしない〕(小-川男4:10 -17)</p> <p>○〔そののりものは〕 グルグル マツツ メガ マワルノ。(赤-f 女4:10-9)</p> <p>○〔わたしほ〕 オカアサン ナツテ オニ イチャン コドモン ナル。〔赤-p 女 5:2-2〕</p> <p>○〔ランケンシエタインは〕 オ~ オッキ クテネ クチガ〔も?〕 オッキイノ。(自 -i 男6:4-14)</p> <p>○〔ライオング〕 ココマデ キテネ 〔たら〕 イッパイ シマウマガ イタ ノ。(自-v 男5:7-15)</p> <p>○〔わたしが〕 ナンカネ ホンラネ ヨン テ〔たら〕 ワライバナシガ アッタノ ネ。(赤-r 女5:10-6)</p> <p>○〔男の子が〕 ツギノ アサノ* オミズヲ カケテ カラ〔たら〕 オハナガ ピント ナッタノ。(自-h 女5:7-14)</p> <p>○〔?〕 イナカニ イッテネ(と) オネエ チャンカネ サンニン イルノ。〔はつき りしない〕(自-1男6:0-4)</p>	<p>理由</p> <p>○〔おうちが〕 オッコチテ (ヒル) コノ ブーチャンガ ニゲタノ。〔はつきりしな い〕(小-竹男4:1-9)</p> <p>○〔かめが〕 ココニ コウネ イテネー ウサギガ ココヘ イッタンダ。〔はつき りしない〕(小-相男4:4-17)</p> <p>○〔やきが〕 クチャニネー〔を〕 タベニ カエッテネー〔たら〕 エッチャンガネー ドッカ イッチャッタノ。(自-a 男4:9 -6)</p> <p>○〔わしが〕 キタナク ナツエ 〔たら〕 オカアチャンガ アラッテ ク レルシダモノ。(神-高男4:4-6)</p> <p>○〔わたしほ〕 カズ カゾエレ, レナイケ ドネ〔から〕 ユウゴ, オネエチヤンニネ カゾエテ モラウノ。〔ケドネのままで文 末とも〕(神-折女4:3-8)</p>
<p>1-2.4 (S) Z (S) Z</p> <p>～から [271]</p> <p>○〔しまうまが〕 タクサン イルカラ 〔ライオンは〕 ビックリシテ カエッテ イッタノ。(自-i 男6:4-16)</p>	<p>○〔运动会は〕 ナガカッタカラ (は行くは) ワスレチャッタ。(赤-a 男4:11-4)</p> <p>○〔うちは〕 ヨウチエンノ トナリダカラ ネ 〔おかあさんは〕 ムカイ コナイ ノ。(神-佐女3:7-8)</p>

～たら [6 17 6]	○〔ライオンが〕 ソレ ツカマエヨウト オモッタラ 〔しままは〕 ニゲチャッ タノネ。(赤-0女6:1-14)	○〔あなたが〕 ソコヲ トオツタラ ちが〕 ミエテ イク クルノ。(赤-a男 4:11-6)	○〔ぼくが〕 オキク ナッタラネ 〔おか あさん(は) オオキナ オチャワン カッテ クレンノ。(神-錦男3:6-5)
	○ソイテ 〔ぼくが〕 ズーット オイトク トネ 〔それは〕 カチカチニ ナッテ カタマッチャウノ。(自-b男6:0-27)	○〔ぼくが〕 ワルイ コト スルト 〔お とうさん(は) ヒッタクノ。(自-t男5: 3-22)	○ホラッ 〔狼が〕 プーッテ ヤルト 〔家 が〕 コワレチャウ。(小-佐男4:3-24)
～と [4 1 1]	○〔男の子が〕 ミズ アゲレバネ 〔花は〕 ノビテ クンノ。(自-r女5:7-18)	○〔あなたが〕 ソウ イケバ 〔うちは〕 スグナノ。(赤-0女5:1-6)	●〔あなたが〕 アルイテ イケバ 〔デハバ ト(は) スグ アン(ノ) ヨ。(赤-a女3: 10-9)
	○〔あなたが〕 ソウスレバ 〔虫が〕 イル ヨ。イッパイ;〔補足〕(自-s男5:9-6)	●〔お話の本は〕 ウチニ アッタケドネー 〔わたしは〕 モウ ミナクナッチャッタ。 (小-園女4:8-24)	○ダッテシャー 〔オバケが〕 ウゴイテル ケド 〔ぼくは〕 コワクナイモン。(神 -高男4:4-4)
～けど [2 1 1]	○ソイテネ 〔男の子が〕 ミズ アゲテモ ネッ 〔花は〕 ヒラカナイシダッテ。(自 -d女5:11-30)	○ソイテネ 〔男の子が〕 ミズ アゲテモ ネッ 〔花は〕 ヒラカナイシダッテ。(自 -d女5:11-30)	○ソイデネ 〔男の子が〕 〔水を〕 カケテ モ コンナニ ナツ〔?〕 ソイデ 〔花 が〕 コウ プチント ナッタノ。(〔はつ きりしない〕(神-三男4:0-41)
	～でも [1 1 1]	～たって [4 4 4]	○〔あなたが〕 ドッチ マガツタツテ 〔うちは〕 アルノ。(神-場男3:10-12)
～たって [1 1 1]	○ソイテ 〔あなたが〕 ハイツテ 〔?〕 〔そこは〕 チカイノ。(赤-t男6:0-11)	○〔お祭が〕 ムコウニ アッテネー デネー 〔ぼくは〕 ナンカ カッタノ。 〔意味はっきりしない〕(自-b男5:1-1)	理由
	○〔本は〕 ムズカシクッテ 〔私(は) ヨメ ナイ。(小-野女4:9-18)	●〔本は〕 ムズカシクッテ 〔私(は) ヨメ ナイ。(小-野女4:9-18)	

### 1-3 題目語をもつ構文

1-3.1 題目語 あり [3 4 3]	○コレハネ クマチャンガネ ネズミヲ オッカケテラネ ネズミハネ ドウロニ ネ イッチャッタ。(赤-f 女5:9-20)	○コレハネー ハナニネー オハナネー オレタカラネ [人が] ミズヲ カケナ カッタカラ ハナガ オレチャッタノ。 (赤-k 女5:3-15)
1-3.2 題目語 なし [3 2 3]	○(そこは) キガネ イッパイ アッテネ ハヤシガ アル トコロ。(自-d 女5:11 -10)	○ソイデネ [それは] ウサギガネー ドウロニ カケダシタカラネー クマモ ネー カケダシテ イッタ コト。(赤 -k 女5:3-16)

### 2 二つ以上の接続助詞によって文が成立している場合

年齢 文構造	用 例	例		備 考
		年 長 (赤羽・自由)	年 中 (赤羽・自由)	
2-1 主語一つからなる構文				
2-1.1 S~Z/ [8] 6 [8]	○オトウサンハ、アサ ハヤアク オキタ ヲ[て] カイシャ イッテノヨ カエッテ クルノ。〔説明〕(自-i 男6:4 -12)	○ソン ナカニ テッジン アシノマ (シ) マ ドカント ハイッテネ ソイ デネ 「ガアオガアオ」ツテ ャツテモネ 〔けれども〕ノトベナク ナッチャッタ ノ。〔前提〕(赤-t 男5:1-9)	○サツ エ ウルトラシェブンテネ シヤ イショ ニンゲン ナッテネ ウメ ガネ ミタイノ カケルネ／ウルトラ シェブンナンノ。〔説明〕(神-高男4:4 -14)	○説明が多 いが理由も ある。
2-1.2 主語二つからなる構文	○オトウサンハ、アサ ハヤアク オキタ ダカラネ〔ひとりなりで〕 サミシクテネ キレイナ キウワク オネイサンノ キ レイナ キウワクネ ミテネ／ナイ チャッタノ。〔理由〕(赤-p 女6:2-14)	○ハビーッテネ ココニネ ペンダント ゲテテネ (ソイデ) コウ ャツテネ カタホウノ アシ コウ アゲテ ホウ ヒザ ツケテ／ソシテネ コッカ ラネ コカット ハケチャウ。〔説明〕(赤 -w 男5:3-8)	○ソレデネ ボク ヒトリ ネテネ アサ アサ ボクネ アサ アサネ ボクネ オカ オカアサンツテ ヨバナイデ ネノオキチャウノ。〔説明〕(神-古男4:5 -18)	

2-1.2  
(S)2~/2  
[8][2][1]

○〔わたしたち〕 ソノ ワライハナシ ヨン  
ダラ トッテモ オカシイ〔かつた〕カラ  
／ワラッチャッタノ。(赤-「女5:10-6）

○〔ぼくは〕 ナンカ オツカイ イッテ  
ナンカ ナンカネ モツ モツ上ネ／ス  
グ ホメラレルノ。(赤-m男5:10-3)

○ソウシテネ ライオンは シマウマ  
ガ イッパイ イル トコロ イッテ  
ル ……イッタラ オドロイチャッタ  
ラ〔て〕／マタ カエッテ キタノ。(自  
-s 男5:9-23)

○〔お兄さんは〕 コノ マエ ガッコウ  
イッテケドネー モウ オ(オ) キイ  
ケドネー オオキカニ, ネー／マ＼モ  
ウ ガッコウ イッテナイ。(自-b 男  
5:1-8)

○〔ぼくは〕 ナンカ オツカイ イッテ  
ナノ オカアチャント チュクッテネ／  
モツ モッテ キタノ。(説明とも)(神  
-古男4:5-33)

[14][5][3]

○〔ぼくたちは〕 フクロガ アル トコマ  
デ オ オコメノ フクロガ アル ト  
コマデ カケッテ ソレ〔を〕 ココマテ  
ハイタラネ ハタノ マワリ ピヨン  
ピヨン トンデネ／ハタノ マワリ マ  
ワッテ クルノ。(赤-t 男6:0-5)

○〔ぼくは〕 (レコードを) カーケテ モ  
ラッテ ノイティネ ケンチャンチ  
イッテネ／マタ カケテ モラッタノ。  
(自-a 男5:8-8)

○〔お兄さんは〕 コノウハ シャムカッタッテ  
ネ〔寒くて〕 カゼ シイ〔て〕 タケドモ／  
ドウブツエン イッチャッタノ。(自-s  
男4:10-1)

●〔お母さんは〕 アッ コナイダネ デカ  
ケタンダケドネ マタ キョウモネ  
ルッテ ユッテネ／デカケタノ。(赤-q  
女5:2-4)

○ソレデネ 〔ぼくは〕 アチタネ 「汽車」  
モツテ イコウト オモッテネ キチャ  
ラネ オカアチャント チュクッテネ／  
モツ モッテ キタノ。(説明とも)(神  
-古男4:5-33)

[11][5][3]

○ソイティネ アトハ 〔ぼくは〕 オフロネ  
ハイッテネ オシッコ シテ／ネタノ。  
(自-a 男5:8-6)

○ソイティネ 「ももたろうは」 ドンドン  
イッテネ ヴミニ キタラネ ポートヘ  
ネ イッテネ ソイデネ オニガシマニ  
イッテネ ソイティネ オニヲ コラシメテ  
（説明とも)(神-三  
男4:0-13)

○〔ぼくは〕 ハタグミニ イッテ  
ソイティネ オニギリ タベテネ ア  
テ／カエリ(ハ) プラモデルヲ カッテ

○〔お父さんは〕 シゴトナンカネ チュ  
クッタラ チゴトナンカネ カエチニ  
イッテネ／マタネ アタラチ一ネ ネー  
チゴ チゴトヲネ モ モラッテ  
イクノ〔くるの〕。(神-古男4:5-30)

○〔お父さんは〕 シゴトナンカネ チュ  
クッタラ チゴトナンカネ カエチニ  
イッテネ／マタネ アタラチ一ネ ネー  
チゴ チゴトヲネ モ モラッテ  
イクノ〔くるの〕。(神-古男4:5-30)

○〔お父さんは〕 ワスレモン シテネ (の  
で) モウ イッカイ モドッテ モッテ  
キテ モウ イッカイネ キテネ／ソイ  
テネ ト ソコニ トマッタノ。(神-三  
男4:0-13)

ノカエッテ キタノ。(自-0 男6:3-10) | ト ギュウニュウ タベテネー ソレニ カエッタノ。(自-福男4:2-3)

オセンベエネ ミコイダケ タベテネー  
ノ五つ。ノソイデネ ソイデネー ウチ  
イ カエッタノ。(自-k 男4:8-1)

## 2-2 主語二つからなる構文

2-2.1  
SZ/SZZ  
[105][7]

○テ シマウマガ コンナニ イルンデ/  
ライオンガネー オイカケテ イッテ  
ネー ピックリ シチャッタノ。〔理由〕  
(赤-w 男6:3-28)

○カ カイジュウガネ デテ キテネ(の  
で)ノハヤタタイインガネ(は)ニゲ  
ヨウトオモッタケドネ ニガナイカラ  
ネ(にげられないからね)ペンデネ ワル  
トラマン ヨンダノ。〔理由でなく状況で  
説明〕(自-n 男6:5-11)

○……カメガ ウサギガネー ……ヨコン  
ナッテネー/カメガネー サキニ イッ  
テネー ソイデ ヤマノ テッペンニ  
アガッタノ。〔状況説明〕(自-0 男5:4-7)

●ライオンガネ チ[[し]] マウマラ ミテ  
ネ ライオンガネ チマウマラ ミテネ  
(みたので)ノチマウマハネ ワルイト  
オモッテ ニゲチヤッタ (ノ)。〔理由で  
なく状況で説明〕(赤-g 女4:8-11)

○チョレデネ カメチャンガネ モウ ト  
オクニ イッテネ/ネ カメチャン  
チャキチャンハネ ャットオキテネ  
カケ カケテ イッテネ イッテ  
ネ イッタノ。〔状況説明〕(神-古男4:5-20)

○カイ (ジユ) ヴ デテネ(たら)/ダンガ  
ネ セアンニ ナッテネ ヤツッケン  
ノ。〔状況説明〕(神-秋男3:11-9)

SZ/(S)Z<sub>2</sub>  
[8][4][1]

○テネ イシ キレイナネ アノ イシネ  
ハタグミサント ヒヨコグミサン イカ  
ナカッタカラネ/〔ぼくたちは〕 イシネ  
キレイナ イシネ アツメテネ モッテ  
イッテ アゲタノ。〔理由〕(自-h 女5:  
7-3)

○ナンカ コウイウノ シマウマガ キタ  
カラネ/〔ライオンは〕 ナンカ  
オモッテネ ドンドン イッテ オイカ  
ケテシノ。〔はつきりしない〕〔理由〕  
(赤-q 女5:2-15)

○ナシカ コウイウノ シマウマガ キタ  
カラネ/〔ライオンは〕 カミツコウト  
オモッテネ ドンドン イッテ オイカ  
ケテシノ。〔理由〕(神-三男4:0-38)

○アノ ソベニ オオキナ ヤマガ アッ  
テネ/〔ぼくたちが〕 シタカラ ミル上  
ネ ノボレソウナ カンジテ〔だけれ  
ど〕、ノボロウト スルト ノボレナイ  
ノ。〔状況説明〕(赤-u 男6:5-21)

○前の部分  
は理由より  
状況説明多  
し。

○……=間  
のあるしる  
し。

○ナシカ コウイウノ シマウマガ キタ  
カラネ/〔ライオンは〕 カミツコウト  
オモッテネ ドンドン イッテ オイカ  
ケテシノ。〔理由〕(神-三男4:0-38)

(注)年中の  
例でよいの  
がない。  
補助資料が  
多くなる。

○ソレデ〔ダンプカー〔は〕〕クマニ アタッ  
テノ……ネズミハ、ビックリシテ  
アガリマシタ。〔状況説明〕〔赤-s 男6:6  
-21〕

○ソレデ〔ダンプカー〔は〕〕クマニ アタッ  
テノ……ネズミハ、ビックリシテ  
アガリマシタ。〔状況説明〕〔赤-s 男6:6  
-21〕

○〔〔シンドレラが〕〕 デ オー オシロニ  
ツイテネー／ソノ ヨル オウジサマガ  
〔は〕ネ 「ソノ オヒメサマ マガ  
チバン ギレイダ」ト イッ〔元〕  
ル オソクマデ ソノ オヒメサマトバ  
カリ オドッテ タンデスッテ。〔説明〕〔赤  
-p 女5:2-14〕

○ダカラネ コビトガネ マタ 〔カリ  
バーバーは〕 ネタラ／マタ テテ キテ  
コビトガネ カイダントカネ モッテ  
キテネ カイダン ア モッテ キテ  
ノッタリネ シタニ オリタリネ シテ  
ル。〔状況説明〕〔赤-n 男5:2-7〕

○ママ アミモノ シテルカラノ／〔僕が〕  
「ヨンデッ」ツテ ユツテモ ヨンデク  
レナイ。〔語順〕〔赤-b 男5:6-9〕〔注〕

○ハイラナイ トキハ コウユ フウニ  
ネー コウイウ イー 〔それは〕 ソン  
ナニネー オオキナイカラネー／〔は  
くは〕コウイウフウニ マガリメヲ  
ツケネー イレチャウノ。〔理由〕〔赤-a  
男5:11-5〕

○〔猿が〕「オコシニ ツケテシノハ ナン  
デスカ」ツテ キイタラネ／〔桃太郎が〕  
「オダンゴダヨ」ツテ イツタラネ〔て〕  
「オニセイバツニ イクカツツテ イッタ  
ノ。〔説明〕〔自-o 男6:3-9〕

○ヨルテモ カツラネ ……モクヨウビ  
ニ 〔ぼくが〕 モシ カエッタト  
シタラ／〔ぼくは〕 イチバン サイシヨ  
ニネ イチヲ ツケテ ヒヨツコリヒヨ

○……〔うさぎか〕 ニゲテテネ／カメガネ  
ウエニ ノッカッテ ナンカ ャッテン  
ノ。タッテンノ；〔補足〕〔意味はつきり  
しない〕〔説明〕〔神-寺男4:4-18〕

○……〔うさぎか〕 ニゲテテネ／カメガネ  
ウエニ ノッカッテ ナンカ ャッテン  
ノ。タッテンノ；〔補足〕〔意味はつきり  
しない〕〔説明〕〔神-寺男4:4-18〕

○ソシテネ 〔男の子が〕 ミジエカ  
ジュー カ カケテ 〔に〕 キテ ミジユ  
カケテネ〔たら〕／〔花は〕 ダンダン  
ウ コウ ナッテテ オレ オレソウデ  
ネ オレ オレナカッタノ。〔原因〕〔神  
-高男4:4-22〕

○ソシテネ 〔男の子が〕 ミジエカ  
ウエニ ノッカッテ ナンカ ャッテン  
ノ。タッテンノ；〔補足〕〔意味はつきり  
しない〕〔説明〕〔神-寺男4:4-18〕

ウタンジマダナ。〔仮定〕(赤-s 男6:6  
-10)

2-2.2  
SZZ/SZ  
[4]2[5]

○クマガネ ネ (ジユ) ミヲ オイカケヨ  
ウト シテネ (ジユ) ミヲ オイカ  
ケテ イッタラネ/ネズミ ト クマガネ  
ジドウシャニネ ドシーン ジドウシヤ  
ト ブツカッチャッタノ。〔理由〕(自-b  
男6:0-32)

○ソレヲネ ソレガネ モシカ ピンビ  
ンッテ ナッテネ キエチャッタラネ/  
モウ ニドト ウルトラマン タチアガ  
ラナク ナッチャウ。〔仮定〕(自-k 男5:  
8-16)

○クマガネ (ジユ) ミヲ オイカケヨ  
ウト シテネ (ジユ) ミヲ オイカ  
ケテ イッタラネ/ネズミ ト クマガネ  
ジドウシャニネ ドシーン ジドウシヤ  
ト ブツカッチャッタノ。〔理由〕(自-b  
-11)

(S)ZZ/(S)Z  
[1][3][1]  
[5][2]□

○ソイデネ 〔男の子が〕 オミズヲ ャツ  
タラネー オミズヲ ャツタラネー ア  
ンマリネー イキオイヨク ャッチャッ  
タカニネ/ハナガネー ノヒタノ。〔理由〕  
(赤-r 女4:10-11)

○ソシテ 〔ウルトラマンが〕「ガアオー」  
ツテ ャッテ トン(デ) ャッテ〔ので〕/  
ネ ソイデネ マグネットス マケ  
チャッタノ。〔理由〕(赤-t 男5:1-10)

○(ぼくは) イツモ ソコデ オリテネ  
マガッテ イクトネ/〔そこは〕 ミンナ  
コウジョウ。〔自-t 男5:3-4〕  
〔はつきりしないが〕

○ソレヲ 〔鬼は〕「ゼンゼン ヘンナ  
ドリダ」ツテ ユッテサー「キノウ  
タ オジイサンシャナイカラ」ツテ

○ウサギガネ カケダシテネ ウサギガネ  
(繰返しどみだ) イチハジメネ イット  
ウダッタノニネ/カメサンガネ コンド  
ネ イットウ ナル (ン)。〔ト-神女4:1  
-11〕

○〔男の子が〕 ジョウロネ ミガイテネー  
(ド)ヨウロネー モッテツテネー コレ  
(ジ)ヨウロネ (ワ)ナ  
ニ アゲテネー〔たら〕ノオ (ハ)ナガネー  
コウイウニネー ツイタ ママ サイタ  
ノ。〔理由〕(ト-相男4:4-18)

○ソイデネ 〔男の子が〕 オミズヲ ャツ  
タラネー オミズヲ ャツタラネー ア  
ンマリネー イキオイヨク ャッチャッ  
タカニネ/ハナガネー ノヒタノ。〔理由〕  
(赤-r 女4:10-11)

○ソイデネ 〔男の子が〕 オミズヲ ャツ  
タラネー ペンシル  
アゲタラ/ウルトラマンガ イキタノ。  
〔はつきりしない〕〔理由〕(赤-w 男6:3  
-15)

○ソイデネ 〔男の子が〕 オミズ カケ  
テネ アッタカイ トコニネ ヤル上ネ  
/〔花が〕 ピント ナッタ。〔条件〕(自  
-a 男5:8-18)

ユツテサ ソイデサ ソノ コブヲ ツ  
ケテ ポンテ リョウホウニ ツケ  
チャッタカラノ/ソイデ〔おじいさんは〕  
カエッチャッタノ。〔ついいったの〕〔説  
明〕(赤-w男6:3-24)

2-2.3  
SZZ/SZZ  
[4.2.1]

○ソレテ カメガ ノボッテ「イットウ」  
テ イッタラノ/ウサギハ メヲ サマシ  
テ ナイテ カエリマシタ。〔前提〕(赤  
-s男6:6-20)

SZZ/(S)ZZ  
[4.1.1]

○ソシテネ オボウサンガネ トオッテネ  
タスケテ クレテネ〔ので〕/〔孫吾空は〕  
ケライン ナッテネ ソウシテ(注) ワ  
ルモン ヤツケタリ シテネ ナン  
ダッケ インド インドマテ イッタ  
ノ。〔理由と前提〕(赤-u男6:5-14)

(S)ZZ/SZZ  
[1.1.1]

○アサネー (ぼくは) パラシエート  
カッテ キテネ ソイデネー パラ  
シエート ソトデ トバシテカラネ/ヨ  
ンジュニゴウカンノ コガネー (ト  
ブバイ) スルカッテ キテネー キタ  
ノネー。〔前提〕(赤-w男6:3-9)

●ダケド ソノ ネ アルートト イウ  
オトコノ コガ イテネ チ〔つ〕カ  
マッチャッテネ〔ので〕/ポハイガネ  
タッケニ キテ ホウレン(ツオ)  
ホウレンソウ ネ タベテ〔たら〕チカ  
ラモチ ナルノ。〔なつたの〕〔説明〕(赤  
-g女4:8-7)

○ソイデネ コノ ライオン コノネ  
コッチノ ライオンハネ ツカレテネ  
ココデ ネテテネ/ソイデネ コノ  
マウマタチガ〔は〕 ココニ アツマッテ  
ネ マアルク ナッテンノ。〔状況説明〕  
(袖-三男4:0-38)

(注)接続詞  
の項で述べ  
るが「て」  
ですむところに「そ  
して」を入  
れている。

## 2-3 主語三つからなる構文

2-3.1 SZ SZ/SZ [19][6][12]	○ユミガネ オバアチャントネー ナンカ カイニ イッテネ オネエチャンハ ガッコウ イッテネ／アトハ ボクネ ケンチャニ カシマ ケンチャントネ アソンデタノ。〔状況説明〕(自-a 男5:8 -3)	○ネズミガ イテネ ソイデネ (コー) ク マガ イテ／ソイデネ クマガ ネズミ ネ オイカケテンノ。〔前提〕(自-o 男5: 4-8)	○クマガ イテネ ソイデネ チイチイ チーッテネ ネズミガ イテネ／クマガ ネウイ ネジュミヲ ミッカッタノ。〔み つけたの〕(神-大男3:11-12)	○SZには SZZの場 合もある。
SZSZ/(S)Z [4][5][3]	○ハジメネー ライオンがー エサハ ナイカナッタ サガシテネー〔たら〕シ マウマガ イタカニネー／〔ライオンは〕 カケテ イッタノネー。(赤-c 男6:3 -21)	○(ソレ)デ クマチャンが 「マッテー」ツ テ イッタラ ダンプカーガ キエサ／ 〔二匹が熊かが〕 「アイタタタター」ツエ シチャッタ(ノ)。〔ぶつかった意〕(赤-f 女4:10-13)	○ソウシテネー シマウマガ ココヘネ イッピキ イテネ ライオンが ココヘ イッピキ イテネー／〔しまうまは〕 コ ウネー オクチヲネー ソレト エート アイテンノ。〔状況説明〕(小-相男4:4 -16)	
SZ(S)Z/SZ [6][1][1]	○ソノ トキ ミンナ〔が〕 ベンキ ヌツ タリ シテ〔ので〕 〔へやが〕 ピカピカ ナッチャッテネ／ソレデ オカアサント オトウサント ショウチャンダチネ ビックリ シチャッタノ。(赤-x 女6:2 -12)	○ソシテネー やネノネ やネハネー チョコレートダカラ(ラ)ネ 〔ヘンデルた ちは〕 やネノ チョコレート タベエ ネ〔たら〕／ソシテネ〔すると〕 マホウ ツカイノ コエガ キコエタノ。(自-h 女4:7-9)	○ハシニ [が] アツタカラネー〔やきが〕 ワタロウト オモッタラネー／シタニ ネー ワユイネー ……ワユイ ウー (メヤ)ガ [トロル] シュンテ イタノ。〔物語〕(神-狗女4:3-14)	
(S)SZ/SZ [3][ ]	○〔人が〕ミズヲ マイテ〔たら〕 オテント サマガ キテネ／ハナガネ ペット ヒ ライタノ。(自-e 女5:7-20)			

SZ(S)Z/(S)Z ○ボウヤタチが ミサン ナカニ イタカ  
 〔はやたが〕 ハイツタタノ〔それほ〕  
 タキノ ミズダッタンダヨ。(赤-w男6:  
 3-14)

(S)ZSZ/(S)Z ○シテ〔人が〕オミズアゲタニ  
 オヒサマハレダツタカラネ〔花が〕  
 ピントナッタノ。(赤-r女5:10-13)

○〔うさぎが〕「ドウシテネ ソイジャ  
 ソンナニノロイノ」ツテ キタラ  
 〔かめが〕「ムコウノオヤマノマワリ  
 ネカケ(グルミ)シヨウヨ」ユッテネ/  
 (ト)ネ〔二匹は〕カケッコシタノ。(自  
 -0男6:3-12)

SZ/SZSZ  
 〔6〕

○イヌガネネズミノコト オイカケテ  
 ネ〔たら〕ソトニネズミガ トンダケ  
 ドイヌハトベナカッタノ。(前提)  
 -v男6:1-13)

○ムカシムカシ〔おじいさんと〕オバアサ  
 ンガイテネ/オジイサンハネ ヤマヘ  
 タッキギヲトリニイッテネ オバア  
 サンハネカワヘセントクニイッタ  
 ノネ。(自-h女5:7-11)

○ニュースツマンナインバッカリ ヤル  
 トキハネマイニチテレビケシテ  
 オクケシトイテネ/サトシネママガ

○ココニネアセモガデキテネ〔わた  
 しは〕カイクッテ〔モ〕ネ〔かけない  
 ように?〕テープヲ〔ハ〕シテクレ  
 タノ。〔はっきりしないが〕(神-佐女3:7  
 -6)

○シテ〔二匹が〕オオドリニ  
 ダンプカーガキテネ/〔二匹は〕ペッ  
 シャンコナ(ツチヤッタ)。(自-t男5:  
 3-25)

○ソイデ〔二匹が〕オオドリニ  
 ダンプカーガキテネ/〔二匹は〕ペッ  
 シャンコナ(ツチヤッタ)。(自-t男5:  
 3-25)

○第1のS  
 と第3のS  
 が同じ場合  
 もある。

○S Z=S  
 ZZの場合  
 もある。

○ソイデネマグネットストテツジント  
 (キヨピー)ロボット〔ガ〕タタカッ  
 ダラ/マグネットスト(テリー)ド  
 ボットヤラレテネテツジンダケヘ  
 イキダッタノ。(原因)(赤-t男5:1-16)

○ソレカラネシマウマガネダ〔ラ〕イ  
 オンニネ〔の〕ソバニヨツエネ/ダイ  
 オンガオコル上シマウマニゲン  
 ノ。(自-c男4:7-12)

ツケタカツタラ ママ ミテテ サトシ  
ムコウノトノテレビノアル ハン  
タイガワノレコードガアル ホウニ  
イツ イッテ アソシエンノ。ナンカ  
シテ; [補足] (赤-a 男5:11-18)  
〔前の「サトシネ」は、前部分のSとも〕

2-3.3

SZZ/(S)Z/  
[32]

○クマサンガネー ネズミヲ オイカケテネ  
オオドオリマテ キテネ/ネズミサンハ  
ワタツタカラ ヨカッタ(ケド)/クマサ  
ン ブツカツチャッタノ。ジドウシャニ;  
〔補足〕(自-v 男5:7-17)  
-15)

○ウサギト カメガ ヤマニ ノボロウッ  
テ イッテ キヨウソウシテ, ノソシテ  
ウサギ ネチャッタカラ [て] オキテ  
ミタラノカメサンガ ノボッチャッタ  
ノ。テッペンマテ; [補足] (赤-m 男5:10  
-22)

○はじめの  
文は状況の  
説明多し。  
中間の部分  
が後の文の  
理由になっ  
ている。  
○S Z = S  
ZZの場合  
もある。  
○第1と第  
3のSが同  
じのもあ  
る。

○クマノ ウチニネ ネズミガ キテネー  
ナニカネ トッテ イッテネ[ので]/ク  
マチャンガネー オイカケテネー[たら]  
(テ)ズミがネー ドラックノ ウエニ  
ノッカッテ イッチャタ。(自-h 女4:7  
-15)

○アノネ ウサギがサ カメガ「アソコノ  
オヤママデ」ツテ エッテ キヨウソウ  
シタラ/ウサギが カタイ カッタカラ  
[かちそうだつたから]モウ スグダカ  
ニサ ネチャッテ ソレデ カメハ カ  
メガ イットウン ナッタノ。(赤-o 女  
5:1-10)

●ソウシテネー オジイサンガ カエッテ  
キテネ キロウト シタラノ(桃は)ヒ  
トリデニ ワレテ モモタロウガ テテ  
キタノ。(赤-e 女4:9-6)

●ソレデネ オバアサンモ ホチイト オ  
モツテネ イッタラネ/[おばあさんは]  
ウソチユキダカラネ, ダカラ[舌切雀は]  
オバケ オバケ ハイッテリネ ハコヲ  
クレ [あげ] タノ。(赤-g 女4:8-9)

SZZ/(S)Z/  
SZ

SZZ/(S)Z/  
(S)Z

(S)ZZ/SZ/ SZ	○タクシ一 ノッテネ デン〔ほくは〕 コ ノマエ イッタ トキネ デンシャ ノッテテネ ドッヂ〔?〕 イッテネノハ ハネ オウ カイシャノ オウチ ハイ ツテネノボク シヤ シャシン トッテ モラッタノ。(自-a男5:8-2) SZ
(S)ZZ/(S)Z/ SZ	○ソレデ〔男の子が〕 アッタカイ トコ ニ イッテ オヒサマテ ア タマセル カラノ〔木は〕 マタ ドンドン ノビテ キレイナ オハナガ サイタノ。〔咲く の〕(赤-f女4:10-12)

#### 2-4 主語四つからなる構文

2-4.1

2-4.1.1  
[3]32

○ウサギサンガ サキニ ハシツラテネ  
カメサンガ アトカラキテネ ウサギサ  
ンガ ネチャッテネノカメサンガネ  
カッタノ。(赤-x女6:2-18)

○ソコニ シマウマサンガ キテネ ハッ  
ト ライオンサンガ キガツクト シマ  
ウマガ ウマガ ニゲテネノコンド ラ  
イオンサンガネ オイカケタンデスッ  
テ。(赤-p女5:2-9)

○ライオンノ ホウガ (チユ) ヨイノニネ  
〔くて〕 コッチガ ヨワイノニネ〔ライ  
オンガ〕 ニゲテ イクカヨ〔しまうま  
が〕 ワラッテンノ。(自-b男6:0-29)

○ライオンガネ シマーラネ シマウマガ  
ノ〔の〕 トコ イコウト シタラネ  
シマウマガ ワラッテネ ソレデ〔ラ  
イオンガ〕 イッタラネノ〔しまうまが  
オイカケテ キタノ。(逆から絵をみてい  
る) (赤-o女5:1-9)

○カメカネ ウサギガ サキニ ドンドン  
イッテネ ソイデ カメガネ ノロノロ  
イッテネ ソイデ ナンカネ ウサギガ  
ドッカデ ヒヤスミシテネノカメガ  
サキニ イッテネ イットウショウ  
ナッチャウノ。(神-三男4:0-39)

○ソレデネ〔男の子が〕 ミジュ アゲテ  
ネ〔花が〕 カレテネ〔男の子が〕 ミ  
ズ アゲルトネノマタネ〔花が〕 マツ  
チュグニ ナンノ。(神-古男4:5-21)  
○主語のい  
ずれかがあ  
らわれてい  
ないもの。

○主語のそ  
ろってい  
るもの多  
い。  
○時間的順  
序、理由・  
原因なども  
ある。

○S1とS  
3=S2と  
S4

○主語のい  
ずれかがあ  
らわれてい  
ないもの。

2-4.1.2

○ソイデネ (コウシ) ッテ ウマガ ナイ  
テネ イヌモ ナイテネ ネコモ ナイ  
[2]32

テネ／ミンナ ナイタノ。(自-d 女5:11  
-21)

2-4.2  
SZ/SZ SZ  
[21]

○ソイデネ オセントク オワッテ [おば  
あさんが] カエッテ キテ オウチニ  
イッテネ ソイデ オジイサンガネ ヤ  
マカラ カエッテキテネ／ワロウト シ  
タラネ アカンボウガ ウマレタノ。(自  
-0 男6:3-8) [二人で?]

SZ SZ/SZ SZ  
[11]

○ソンデモ [桃太郎は] イクッ (テ) ツ  
タラネ オジイサント オバサンハ  
バアサンハネ 「ソンナラ イッテラッ  
シャイッ」 チュッテ／オバアサンハ  
ミダンゴヲ ツクッテ オジイサン モ  
モタロウノ ハタラ ツクッタノ。(自  
-u 女6:5-19)

○前の部分  
が状況 後  
が原因、結  
果。  
○主語なし  
も含む。

○前の部分  
が理由と結  
果、それが  
また後の文  
の理由にな  
っている。

2-4.3  
SZ/SZ SZ SZ  
[11]

○カ (ク), ウサギサンガー 「カケッコシ  
ヨウ」 ッテ ユッテサ／ウサギサン〔ノ〕  
ガ イチバン ハヤクッテサ カメサン  
ノロッペテサ [のに] ウサギガ ヒルネ  
シエル アイダニサ カメサンガサ テ  
ッペンマデ ノボッチャッタノ。モン。  
(自-t 男6:2-26)

○前の部分  
が状況 説  
明、中間の  
部分が最後  
の文の条  
件。

SZ/SZSZ SZ  
[11]

○テネ カツ ネズミヤ ウマヤネ カボ  
チヤヤ ソ (ウ) イウノガ アッテ／カ  
ボチャハ バシャニ カワッテネ イヌ  
ハネ ウマニ カワッテ ネズミハ

ギヨシヤニ カワツチャッタノ。(赤-p  
女5:2-13)

2-5 主語五つからなる構文

SZ/SZSZ/  
SZSZ

□1□

○ココニ ライオンガ イテネ、ソシテ  
シマウマガ キテ、シマウマノ アトネ  
ライオンガ オイカケテシテネ ライ  
オンガ ヒックリガエツテネ シマウマ  
が タクサン ア シマウマガ タクサ  
ン イルノテネ ライオン ヒックリガ  
エッタノ。(赤-w 男5:3-9)

SZ/SZSZ/  
SZ/SZ

□1□

○ウサギサント カメトネ カケアシシテ  
ネ/ウサギサンガ サイシヨ イテネ  
カツエ カメサン オソイノテネ ウサ  
ギサンネ ヒトヤスミシテラネ/カメ  
サンガネ サキニ イッチャツテネ カ  
メサンガ カッタノ。(自-j 女5:7-12)

SZ/SZSZ/  
SZSZ

□3□

○ボウヤガネー オハナニネ ミズ アケ  
テネ/[\*]チット タツラネ オハナ  
コノ ミズガネ アツク ナツテネ[の  
で]/マタ ソコニ オイテ アッタ ミ  
ズヲ [男の子が] カケタカラ [花が]  
カレチャッタノ。〔はつきりしない〕(自  
-v 男5:7-17)

○ウサギト カメガネ カケッコシテネ/  
ウサギガ カツエ カメガ マケテネ/  
ウサギガ ネタラネ カメガネ ドンド  
ン イッチャツエ, カッタノ。(赤-n 男  
6:2-12)

○Sのあら  
われていな  
い構文も含  
む。

○前の部分  
が状況説明  
で後の部分  
が原因、結  
果をあらわ  
すもの。ま  
た、前の部  
分が時間的  
順序をあら  
わすものな  
どがある。

○主語六つ  
からなる構  
文は2-7.3  
に入れた。  
〔\*〕=天候,  
時をあらわ  
す。

○ソシテネー アルヒ センタラ オバ アサンガ シテルトネー ムコウノ ホ ウカラ モモガナガレテ キテ ネー……/テ オバアンガ ヒロッテ タベテ ミルトネ オイシカッタカラ ネ…… オシイサンニモ トットイテ ネー/[おじいさんか] ワッタラー ア カチャンガ デテ キ(テ) (自-h女5: 7-11)
--

## 2-6 題目語をもつ構文

2-6.1 題目語  
をもつもの

○ウサギガ カッタラ[たときは] カメ ガ マケテネ/ <u>ソイデネ</u> ウサギハ ネー ネー ネムクテネー ヒルネ テネー/ <u>ソレデネ</u> カメハ サキニ イッテ カメノ ホウガ カッタノ。(自 -b男5:1-11)
--

○コレハ、クマトネズミト[が] オイカ ケッコ シテ <sub>テ</sub> サー ドウロノ マンナカ ニ デチャッタラサ/トランクガト、 キテ <sub>テ</sub> サー キーッテ キュウティシャ シタノ。(赤-W男6:3-31)
○シエナンドーテネ ユキガ フッテネ タロ(ウ)ト ウマト イッショニアル イテネ ドッカ コヤガ アッタカラネ トマッタ(ン)。(自-b男6:0-24)

○ズット マエネ ボクガ オウチニ <u>イ</u> テネ スット マエ ノ エメネ ([は]) ボクガ オウチニ イテ / ヤマガ ミエ テ カザンガ アンノ。(小-福男4:2-9)
---

○コレハ、クマサンガネ ネズミガ イ テネ [た] ソレ オイカケテネ [た ら]/クマガネ ジド。バスドウリニ テ ダンプカーニ ヒカレソウニ ナッ タノ。(赤-W男5:3-11)
○コレハ ハジメ ネズミサンガ イテ コンドクマサンガ キテ ネズミサン ガ アマリ オオキイノテネ ラ クジ ラカトオモッチャッテ ニゲテ コン ドクマサンガ オイカケテ キ ラックガ キテネ キャーッテ ネズ ミサンガ イッテ ウシロカラ クマサ ンノ ウシロカラ トランクガ ドカア ント ブツカッチャッタノ。(赤-p女5: 2-17)

(S)/S-Z  
[8|6|1]

○[そこは] キガネ イッパイ アッテネ/  
ハヤシガ アル トコロ。(自-d女5:11  
-10)

○[この絵は] ソシタラ ライオンガ タ  
ベヨウト シタラネー [しまうまが]  
ニゲテ イッテネー ソレデ イッパイ  
イルネー イッパイ シマウマガ イル  
トコ ツレテ イッチャッテネー [ラ  
イオンは] ビックリシテネー アー  
ソイテネー トバサレチャッテ[ので]  
ワーッテ イッタラネー ソシタラ  
シマウマガ ワラッタ トコロ。(赤-0女  
6:1-26)

○ソシテネ [これは] シマウマハネ ヨ  
ヨロコンデルケドネ/ダイオンガネ ヴ  
マンナカッタカラ ヒトリデ ネ ドッ  
カヘ イ イーク トコ。(赤-s男5:6  
-15)

●(その話は) ショウチャンガ デテ ト  
オニイサンガ デテ キテ オトウサン  
モ デテ ト オカアサンモ デテ  
ルノ。(赤-i女5:3-14)

## 2-7 その他の構造からなる文

2-7.1 文中に  
主語をもつ  
節の含まれ  
る文

2-7.1.1 主語  
一つからな  
る文

[6| ]

●ボク オマツリニ イッタラネ ワタアメ  
ガ アッタカラネ カッテネ, ソレカラ  
イッテネ キンギョツリ ャッテカラネ  
イッテ, ソイカラ キヤラメルガ ノッ  
カッテテ ソレガ マワッテテネ テッ  
ボウデネ ウッテネ, ボク イッコダケ  
キヤラメル トッタケド アト ハズレ  
ダッタ。(自-c男6:3-1)

○[わたしたちは] ウタヲ ウタッテネ  
ソレカラネ オユ ハジメハホー オハヨ  
ウゴッコ シテ ソレカラネー センセ  
イガ キタラネー シマッテネー ソレ

○ソレデネ [ぼくが] ブー ナラシテモ  
〔友だちが〕 デテ コナイカラ  
モイチド ヤッテ ミタラネ マダ  
〔友だちが〕 デテ コナイカラ カイ  
シャ イッタノカナート オモッテ  
(ツ)キ アノ カエッチャッタノ。〔帰  
ってきた〕 (赤-1男4:8-3) (注)

○<sup>SZ</sup><sub>Z</sub>を  
含むもの。  
○主語があ  
らわれてい  
ない構文も  
含む。

(注)問題が  
あるがここ  
に入れてみ  
た。

カラ タイソウ シテ ミンナ コウシ  
 シンデネー オヘヤニ ハイツテネー  
 オウダラ ウタツテネー ソレカラ  
 オナマエヲ ヨンデネー〔もらつて〕ソレ  
 カラネー オテラヘ イクノ。(赤-k女  
 6:2-10)  
 ○ダカラネ 「シンデレラは」 イコウト シ  
 タケドネ オカアサンガ〔に〕ネ 「ダイ  
 ドコロヲ キレイニ シナサイ」 トカネ  
 イツケラレチャツ〔て〕タカラネ ソノ  
 コトバッカシネ アタマニ アッテネ  
 ソウイウ コト ワスレチャッタノ。(赤  
 -p 女6:2-13)

○〔僕は〕 ヤマ イツテネ トンボガ  
 イッパイ イタカラネ カ カ ムシカ  
 ゴ モッテ アミモッテ トツダ  
 ッテ キタネノムシガゴン ナカンネ  
 トンボガ イッパイ ナッチャッタノ。  
 [(S)Z SZ Z/SZ] (赤-u 男6:5-21)  
 ○ロケットガネ マグマニ カワッテネ  
 タタカッテネ カイジュウガ シニソウ  
 ナッテモ タタカッテネノ〔怪獣が〕シ  
 ンダラネ 「マグマは」 マタ カイル。  
 [(S)Z SZ Z/SZ] (赤-n 男6:2-7)

2-7.1.2 主語  
 二つ以上か  
 らなる文  
 [5][1]

○いはずれか  
 の単位文の  
 中に  $\frac{SZ}{Z}$  を  
 含むもの。

2-7.2 提示的  
 単位文をも  
 つ文  
 [1][1][1]

○ナンデ オモシロイツテ イウトネ ア  
 タシ サチコがネ、アカチャンガネ ア  
 ソンデルトキ ジャマシテネ ナンカ  
 ヤッチャウカラ。(自-g 女5:11-7)

○ヨウ コウレネ 「わたしが」 ドウシテ ゴ  
 ウ ナツタカツチユウトネ コウ マツ  
 スグ ナツテタノガネ ドッカ テ  
 コンナ ナツチャッタノ。(SZ/SZZ) (神  
 -三男4:0-41)

<p>ミニ シナサイ」<u>ッタカラネ</u> 「わたし は」 オヤスミ シタノ。((SZ/<u>SZSZS</u> Z/(SZ)Z) (赤-q 女5:2-6)</p>	<p>○ソイデ ネズミガ キテネ ソイデ ク マガ ニゲテ イッテ ソイデ ネズミ ガ ニゲテ ソノ クサリガ アッテネ クマガ ニゲテ ネズミトネ クマガ ネ チョット トラックニ ヒカラレ ノ。 (赤-k 女6:2-27)</p>	<p>○ソイデネ ウサギサンガ トットコ トッコ イッチャッテネ ソイデネ カメサンネ ココデ ノロノロ ノロノ ロ アルイテッテネ コンド ウサギサ ン チカラテニ ノロノロ ノロノロ シテネ コンド カメサンガ トトコ トッコ アルイテネ ソイデ ウサギ サン ノロノロ シテテネ (イッ タトキ) トットトットトトト カメサ ン ハシッテ イッチャッタノ。 (赤-t 男5:1-13)</p> <p>○ソイデネ 「オコシニ ツケテンノハ ナンデスカ」 チュッテ 「キミダン ゴ」「ワタシニ シトツ <u>クダサイ</u>」 ツ チュッテネ 「ソノ カワリ オニタイ ジニ イクカ」 ツ チュッテ 「ハイ オトモ シマス」 ツ チュッテネ キミ ダンゴ ヒトツ モラッタノ。 (自-u 女 6:5-20)</p>
<p>2-7.3 一文で 話そっとし 「~て~て」 となる文、 他</p>	<p>2-7.4 会話文 のはいる文 [34]</p>	<p>○マイニチネー オセントク シタリ シ ゴト シタリネ シテテネ オネエサン ト オカアサンタチネー アソンデ バッカシ イテネー オシロッカラネー オテガミガ キテネー オネエサンタチ ネー キレイニ シテネ イッチャッテ</p>
<p>2-7.5 一つの 物語を一文 で話そっと して長文に なったもの</p>	<p>2-7.5 一つの 物語を一文 で話そっと して長文に なったもの</p>	<p>○ソイデネ ソコヲ ワタル(ト) チビヤ ギノ ガラガラサンガ サイショニネ イチバンニ キテネ トロルガ 「ダレ ダ」 ッテ イッテネ 「チビヤギノ ガ ラガラサンデス」 チュッテネ 「オマエ ヒトノミニ シテ ャルゾ」 チュウ 資料の例を</p>

<p>「オット タベナイテ クダサイ。 モット ポヨリ モット オオキイ や ギノ ガラガラドンガ クル」「ソレナラ マットトトキエウセロー」 マッテネ コンドニバンメヤギノガ ラガラドンガ ャッテ キテネ, ソイテ 「ダレダ オレノ ハシヲ カタコト ガタゴト サセル ャッハ?」 チエウテ 〔注〕終わり のほう主語 欠文。</p>	<p>「オット タベナイテ クダサイ。 モット ポヨリ モット オオキイ や ギノ ガラガラドンガ クル」「ソレナラ マットトトキエウセロー」 マッテネ コンドニバンメヤギノガ ラガラドンガ ャッテ キテネ, ソイテ 「ダレダ オレノ ハシヲ カタコト ガタゴト サセル ャッハ?」 チエウテ 〔注〕終わり のほう主語 欠文。</p>
<p>シタラ オバアサンガ ヒロッテ オウ チヘ モッテツテ ホウチヨウデ キッ テ ソウシタラ ナカカラ アカチャン ガ ウマレテ キテ ソウシテ..... サカナヲ タベサシタリ サシタリ ソウシテ オオキク ナッテ ソシタラ ニッポンイチノハタヲ ツ クッテ ソウシテ キビダンゴヲ ツ クッテ..... ソカシタラ オニタイジニ イッテ モモタロウ オニントコロ ヲヤッタノ。(神-師女4:11-7)(注)</p>	<p>「チビヤギ ニバンメ ヤギノガ ラガラドンダーチュウテ「ソノヒト モヒトノミニシテヤルゾ」 ユッテネ ソイテネ「モット オオキ イ ヤギノ ガラガラドンガ クル」 チエッテネ「トトトネ キエウセロ」 チエウテネ ドンドン イッテネ コノ アトデ モウ ャッテ キタノガネ オ オキイ やギノ ガラガラドンガネ キ テネ「イッタイゼンタイナニ モノ ダーダー」 ナリケタラネ オオキイ ヤギノガ ラガラドンダーチュウトネ ソレハ ガラゴエダッタノ。(神-三男4:0 -43)</p>
<p>シタラ オバアサンガ ナイ カラネー オルスパンデネー マホウツ カイノ オバアサント, ガネー キテネ カボチャツ チュウ カボチャラネー バ シャニ シテネー シロイネズミヲネ ウマニ シテネー シンデレラネー バ シャニ ノッテネ オシロニ イッテ ネー カエル トキニネー カタホウノ クツネー オ タヌケチャツテネー シロ ンナイデネー オウチ カエッチャツテ ネケライタチガネー マチジエウノ ネー シメ オンナノ ヒトニ ハカセ テネー シンデレラノ ウチニモ キテ ネー オネエサンタチ ハイタケド ネー オオキイ 三 アシガ オオキスギ テネー ハインナクテネー シメガ ハイ タラネー ハイ ピッタリダッタカラ ネー オウジサマトネ ケッコン シテ ネー ソイデ オシマイ。(自-1女5:7 -8)</p>	<p>○「会話文 のはいいる 文」とも言 える。</p>

2-7.6 挿入文  
をもつ文  
2-7.6.1 「で  
しょ」挿入  
5.11.2

○文のみで  
なく、単語  
や節を含  
む。

-u 女5:5-2)

男4:0-30)

2-7.6.2 「だ  
よ」  
挿入  
[8][2]

○ソレデ ソノ オトコノ コノ ママガ  
サイナク ナッチャッテ ママガ イ  
タンダヨネ シンデンダヨネ ソ(イ)  
デ ニンゲン モドシチャッタノ。(自  
-g 女5: 11-14)

2-7.6.3 単語  
や句を補足  
する挿入  
[7][3][1]

○テレビネ アカチャンガ イルカラネ  
アルクンダヨ, ソレデ モウ オオキイ  
カラネ ソコヘ シタニ オイトクトネ  
サワルカラネ タカイ トコニ アゲテ  
ミチノ。(赤-a 男4: 11-7)

2-7.6.4 節を  
挿入  
[4][2]

○キュウチャンガネ ショウチャンニネ  
「テレビ キタヨー」ッテ ミテネ,  
フタリテ, ソンデネー キュウチャンノ  
オトワサンがネ 「ダメダメ」ッテ ユッテ  
テネ シアンモ ミルッテネ オカア  
サンガ チュウイ シタンダッテサ。〔後  
文それ〕(自-h 女5: 7-8)

2-8 不明文  
2-8.1 内容不  
明  
[492717]

○ソシタラネ スグ ソバニ パンヤサン  
ガ アルカラ [ぼくは] パン カッテ  
ネ サキ タベテ オウチ カイッカラ  
スグネ オフトン ヒイエ, オフロ(へ)  
イク トキモ イク トキモ アルヨ,  
ソンデ ネエネ ママタチハ シュウイ  
チジ ジュウニシマテ オキテンノ。(自  
-u 女6: 0-9)

2-8 不明文  
2-8.1 内容不  
明  
[492717]

○……デシシャデネ ウチ カエッテ キ  
カラネ… ボクガネ マドノ ホウテネ  
デンシャガ キタラネ ボクネ スワッ  
テ タッテラネ スワッチャッタ。(自  
-1 男6: 0-5)

2-7.6.2 「だ  
よ」  
挿入  
[8][2]

○ソイデ オネエサンガ イテネ, ヒエウ  
マクシニ, ソノ ヒトガネ イツモネ  
イツモ デテ キテネ オワリノネ ウ  
タン トキハネ ヒューマノネ ナンデ  
モ ワッタリナンカ シテシノ。(神-三  
男4: 0-33)

2-7.6.3 単語  
や句を補足  
する挿入  
[7][3][1]

○クマサンガネ ネズミ ミツケテネ コ  
コニ キタラ ネズミガネ トビダシタ  
カラ ジドウシャニネ クマ クマサン  
ガ ネズミヲネ タスケヨウト シテネ  
トビダシタラネ ジ ジドウシャニ ブ  
ツカッチャッテネ ネズミガ トビア  
ガッチャッタノ。(赤-e 女4: 9-15)

2-7.6.4 節を  
挿入  
[4][2]

○ソノ カエリニ ミツコシ ヨツテ,  
ノ カエリニネー ウチビ ウチ アタ  
シノ オウチ コワシテネ ビル ツク  
ルノ, / そう。/ ソノ ビルニ ヨルノ,  
ヨッタノ。(小-野女4: 9-5)(注)

(注)一文と  
言えるか疑  
問。

2-8 不明文  
2-8.1 内容不  
明  
[492717]

○ウ(ル)トラセブン アレ ツクッテネ  
タイアンモ チュクッテ テネ アレ  
ビーバー ビーフネ ビー ネ デンキ  
ジユウト シュエウト アレ ア ハシ  
ンドゴ アレハネ フタガ ナクッ  
ヤツ。(赤-s 男5: 6-7)

<p>2-8.2 ごたご たと話して 統一性なし [9][1][3]</p> <p>○オカヤマデネ ナンカネ ドッカ イッ タ トキネー ソレデネ キノウハネ 〔わたしは〕 オ オカヤマへ イカナイ デ アサクサニ イッテネ ソレデ ゴ ルフノ ツギ アサクサヘ イッテネ アサクサノネー オマライスルトコガ イットウ オモシロカッタ。(赤-k 女6: 2-7)</p> <p>○ショイデネ スイトウ モッテ イッテ ネ コンドネ スイトウ モッテ イッ テネ マタネ コンド ドッカへ アス キノウネ ドッカへ イクラネ チュ ンテネ コウラクエン(へ) イッテ キ タノ。(自-j 女4:7-13)</p> <p>○ダッ チ チカイン、チヨット チカイ ケドサー ダケド コウエシ イクトキ ハサー ハイル トキハ ダイジョウア ダケドサー オフロヘ イッテサ マル プロニ ガッコウノサー トコ トオル トサ オフロ イク トキ マルブロ イッタラサ カエル トキガ トオク インダモン。(神-三男4:0-31)</p>	<p>○[主語] 「チヨット コマルッ」<u>チユッタ</u> ラネ コンド オウジョ オッキイ オ ウジヨ マデネ チッチャク ナッチャ ツタカラネ フリノ オウジヨニネ タノンダノ。(自-j 女4:7-17)</p> <p>○[主語] 「チヨット コマルッ」<u>チユッタ</u> ラネ コンド オウジョ オッキイ オ ウジヨ マデネ チッチャク ナッチャ ツタカラネ フリノ オウジヨニネ タノンダノ。(自-j 女4:7-17)</p>	<p>○[主語] オワレテネ ポッカーシッテ ラ イヨンカ キテ オオカミト ライヨン ト ケンカシタノ。(小-加男4:1-10)</p> <p>○ソレデネ アミモ アッテネ オシガ ナ オッチャッタノ。ドコモ; (自-s 男4:10 -5)</p> <p>○ソレデネ アミモ アッテネ オシガ ナ ハイッテネ アマイノ。(神-古男4:5 -12)</p> <p>○アウブウニ ジイチャント バアチャン ト オベベ キテ ソシテネ ソシタラ ネ ソンタラ コウイウ コニ トビダ シテ 「アブナイ」<u>ッテ</u> イッタノ。ヒロ コガ; (神-佐女3:7-15)</p>
<p>2-8.3 主語や 補語なしの ため内容不 明 [7][1][3]</p> <p>○デネ ョ<sub>ス</sub> モウ ヒトリネ テキガ 〔正ちゃんに〕 イテネ ソノ ヒトモネ オトコノ コガ ヒトリ イテ ソレデ 〔正ちゃんは〕 アト ミンナ アツメテ キテネ ソレデ ズット マエハ 「二 人は?」 ケンカシチャッタノ。(赤-p 女 6:2-11)</p>	<p>○カッチャンガ ボク<sub>ス</sub> ボクガネー シ タオリ<sub>ス</sub> カッチャンガ スッテンコロリ ン シタカラ ナーンダト オモッタラ カッチャンガ ネテタノ。(合宿のベッド で) (自-k 男5:8-8)</p>	<p>○シンドラ ニユウイン シテ モウ ナ オッチャッタノ。ドコモ; (自-s 男4:10 -12)</p>
<p>2-8.4 構文は よいのが内容 のおかしい もの [4][1]</p>	<p>○カッチャンガ ボク<sub>ス</sub> ボクガネー シ タオリ<sub>ス</sub> カッチャンガ スッテンコロリ ン シタカラ ナーンダト オモッタラ カッチャンガ ネテタノ。(合宿のベッド で) (自-k 男5:8-8)</p>	<p>○おば(Qは) ピーコノネ ウチノ オウ チニ イッテネ オッコチ<sub>ス</sub>ウニ ナツ テ<sub>ス</sub>イデサ ホイデ<sub>ス</sub> ツリー シタリ シタノ。(自-s 男5:9-21)</p>
<p>2-8.5 前後の 文の関連性 不明瞭(注) [3][4]</p>		<p>(注)「文脈 のそれ」に もはいりそ う。</p>

2-8.6 文脈の それ(注) [7][10][7]	○ソシテネ ワルモンガ キタラネ スグ ニ ウォーターシュートテ イウノ ココノ ボタンオス上 ピーテ アイ テ ソシテ シュシュエット ナケルトネ ミンナネ シンジャウノ。(赤~m男5:10 -19)	○[わたしほ] ○(わたしほ) ○ソレガネ ソレデネ コッチ イッタラ ネ マタ シマウ(マ)ガ イテ ネコ ノ コタチガネ オゴライテネ ウチへ カエッテダネ。(自-n男6:5-17) [5][2][4]	○ソシテネ ソンコニ ノッテ ンドハ ブランコニ ノッテ ソレ カラ コンドハ アタラシイ ノリモノ ガ デキタノ。タコ; (赤-f女4:10-8) [5][2][4]	○ムカシネー ハッパガ[に] ココヘ [咳] テンテンムシガ イテ ワンコガ イッパイ イテ アッコッチニモ ワンコガ アルヨ。(小・長男3:5-13) [5][2][4]	(注)統一性 なしにも いりそう。
2-8.7 線音に対する解釈が できていな い [5][2][4]	○ソレガネ ソレデネ コッチ イッタラ ネ マタ シマウ(マ)ガ イテ ネコ ノ コタチガネ オゴライテネ ウチへ カエッテダネ。(自-n男6:5-17) [5][2][4]	○ソイテ オテンキガ アルカラネー ハ ナ モウ オレナイデネー アラシイ ネー ハナト トリカエテネー ダカラ コニ オイテ アンノ。(赤-k女5:3 -16)	○ソイテネ トンデネ トンダラネ ダメ ダッタカラネ ジドウチャニ タノンテ モ ダメダッタノ。(小-佐男4:3-22) [5][2][4]	○ソシタラネ (ミミガ) アッテネ ジブ ンノ ミミガ ( ) アッテ ( ) テンノ。(神-折女4:3-13) [5][2][4]	○ソシタラネ (ミミガ) アッテネ ジブ ンノ ミミガ ( ) アッテ ( ) テンノ。(神-折女4:3-13) [5][2][4]
2-8.8 録音の 聞きとりに くい箇所を もつ文 [9][3][4]	○オカアサンハサ (サキ) .....ダレカガ サ バケテサ オカアサンガサ ナッテ サ- ( ) イタノネ。(赤-x女6:2 -11)	○コレハネー カジ シュルトキネー ココニ ネジュミガ イテ クマガ ツカマエヨウト オモツタラ ココカラ ニゲラシチャウ ン... ネズミヲ ニガ シチャッテ ココハ ズット イッチャ ツ ワタッテ イッチャッタ ( )。(自 -s男4:10-26)	○コレハネー カジ シュルトキネー ココニ ネジュミガ イテ クマガ ツカマエヨウト オモツタラ ココカラ ニゲラシチャウ ン... ネズミヲ ニガ シチャッテ ココハ ズット イッチャ ツ ワタッテ イッチャッタ ( )。(自 -s男4:10-26)	○「~たり する」「~た りするこ もある」に ついては「単 文の構造	

### 3 接続助詞たり、しをもつ文

文構造 年齢別 用例	例			備考
	年 長 (赤羽・自由)	年 中 (赤羽・自由)	年 少 (袖谷・小川)	
3-1 ～たり～ たりをもつ 文				○「~たり する」「~た りするこ もある」に ついては「単 文の構造
～たり～たり する [29][5][15]	○オママゴト シタリネ オニゴッコ シ タリ テツボウ シタリ スンノ。(自 -u女6:5-15)	●(お母さんは) イツモネ オツトメ イツタリネ オリヨウリ ツクッタリ シテンノ。(赤-g女4:8-2)	○(ほくは) ナマイ カイタリネ ホン ヨンダリ チテルノ。(小-金男4:1-5)	

○オリガミトカネ アト一 ナンカ ツ  
クッタリネ ソレカラサ オエカキトカ  
ネ ネンドトカ スル。〔2例あり〕(赤  
-j 女5:7-6)

と用法」及び「文末の  
形式と用  
法」のところ  
で述べ  
た。

○「たり」の  
一方の欠け  
ているもの  
もある。  
○「たり」で  
文末になっ  
ている省略  
文もある。  
(注)文末で  
まとめる。

～たり～する  
[2] [ ]  
○アレ ャッタリネ イロイロ スルノ。  
(赤-k 女6:2-11) (注)  
●ケンカシタリネ ソウイウ フウニ ヤ  
ルノ。(赤-j 女5:8-16)

～たりして～  
[9] [ ]  
○センシャゴッコ シタリシテ アソンテ  
ル。(赤-o 女6:1-5) (注)  
●ソレカラネ トノネ オニワデネ  
ブーランコ ノッタリ テッボウ シタ  
リ〔して〕アソンデル。(自-F 女5:7-3)  
●ホイクエンハネ スベリダイテ アソン  
ダリネ スキップ〔したり〕シテ アソブ  
ノ。(自-C 男5:11-4)

●オカアサンゴッコッテネ オカアサンニ  
ジュンバンニ ナツタリネ アカチャン  
ニ ジュンバンニ ナツタリネ オネエ  
サンニ ジュンバンニ ナツタリシテ  
アソブノ。(赤-e 女4:9-11)

(注)これは  
1つの接続  
助詞からな  
る文には  
いっている。  
○誤用をあ  
げておいた。

～たり～たり  
[1] [ ]  
○ウチ カエッタラネ エホンネ ミタリ  
ネ テッボウ シタリ ブーランコ シ  
テネ コウエンニ イッテ アソンテ

○「たり」で  
なく「て」で  
ませてい、

キタノ。(自-j 女5:7-6)

○ボクネ マクラ カタツケタリ ナンカ  
シテタラネ ドンドン ナケルカラ ポ  
クネ ココ ブッチャツテ ネ タオレ  
チャッタ。(自-1男6:0-8)

その他  
[1][2]

3-2 ～し～し  
をもつ文  
～し～

[3][4][2]

○イツモネ オサンボ イク トキニ ツ  
レテ [いって] クレルシネ オカイモ  
ノモ ツレッテ クレル。(赤-f 女5:  
9-2)

[1][2]

～し～まとめ

- 152 -

る。

○二つ以上  
の接続助詞  
よりなる文  
にはいって  
いる。

○年少文末  
のみ2例あ  
る。

○文末でま  
とめる。

他の幼児が  
「て」を使う  
ところを「  
し」を使っ  
ている。

る。

○二つ以上  
の接続助詞  
よりなる文  
にはいって  
いる。

○年少文末  
のみ2例あ  
る。

○文末でま  
とめる。

他の幼児が  
「て」を使う  
ところを「  
し」を使っ  
ている。

る。

○二つ以上  
の接続助詞  
よりなる文  
にはいって  
いる。

○年少文末  
のみ2例あ  
る。

○文末でま  
とめる。

他の幼児が  
「て」を使う  
ところを「  
し」を使っ  
ている。

る。

○二つ以上  
の接続助詞  
よりなる文  
にはいって  
いる。

○年少文末  
のみ2例あ  
る。

○文末でま  
とめる。

他の幼児が  
「て」を使う  
ところを「  
し」を使っ  
ている。

る。

○二つ以上  
の接続助詞  
よりなる文  
にはいって  
いる。

○年少文末  
のみ2例あ  
る。

○文末でま  
とめる。

他の幼児が  
「て」を使う  
ところを「  
し」を使っ  
ている。

## 第4章 連体修飾語の構造と用法

連体修飾語を、幼児は大体2歳前後の時期から使用しはじめる。そして、大人ほどではないが  
一応就学前には、ある程度複雑な構造も使えるようになる。ただ連体修飾語は、その他の文の要素も同じであるが、語彙と密接な関係をもっているので、語彙の十分な習得が連体修飾語の発達に関連してくる。それ故、形式のみから発達はみられないが、構造の複雑さも発達のめやすとして考えられるので、構造と意味の二方面から幼児の連体修飾語の特色をみていくことにする。

この一部は、『国立国語研究所年報19』(1968)で報告した。

構文論的な面から連体修飾語をみた研究は成人の場合にも少ない。しかし、連体修飾語は、体言

(注2)

(注1) 大久保愛は『幼児のことば』(国土社)に、一児の連体修飾語の発達の過程を述べた。それによると、1歳8か月に準体助詞を使って、パパのものかママのものかの意で、「パパノ?」「ママノ?」と言った。連体修飾語の発芽である。次1歳10か月にも準体助詞的使用がある。「〇〇(自分の名、以下同じ)ノヨ」。そして1歳11か月に所有所属関係をあらわす「〇〇ノ シャシンキ」「〇〇ノ ママ」と使っている。この月にはまた、属性を示す形容詞的修飾語がはじめて使われ、「アカイノ ツクッテ」。2歳になると盛んに使う。「オオキイ バス」等と。また、この時期には、節を含む言い方も使っている。「〇〇ノ ジジ カク モノ」。2歳1か月には「コノ ズボン」とこそあとの修飾が出たり、「ガッコウノ センセエ」という名詞による修飾も使われる。また、「タンポポノ オベベ」と属性を示す名詞修飾が出てくる。2歳2か月には「アカチャンノ トキ」と時の修飾があらわれ、2歳3か月になると「チガウ オバチャン」と動詞をもつ修飾形式がはじめて使われ、「ニヤンコガ ヒッカイタ トコ」と節をもつ連体修飾構造で形式名詞を修飾する形をしきりに使うようになる。二語以上の修飾語をもつ形式は「ヨソイキノ ユウエンチ ノ オベベ」(2歳7か月)「ウラシマサント イウ コエ」(2歳8か月)という順序で使っている。単純な構造が多いが、形式は3歳までにはほとんど出ているといえる。

(注2) 山田孝雄は次のように言っている。『日本文法学概論』753~773ペ

「すべて連体格の語はその対象たる体言に対してその観念を限定してその意義をば明確にせむがために附加せしめたる制限的観念をあらわす語にして之が附加せられたるによりて、その対象たる語とこの連体格の語とが一団となりて更に大なる観念団をなすものなり」

また、大久保玲子は「修体文素の指導過程をさぐる」(児言研国語No.3 1965・2)に、連体修飾語を五つの基礎的な型に分けている。

(1)形容詞文からの変型とみられるもの(形容動詞を含む)

(イ)形容詞について いい天気 しんけんな顔

(ロ)名詞(主語) +形容詞について 月のいい晩 運動がよいため

(2)動詞文からの変型とみられるもの

(イ)動詞について ぬかる道

(ロ)名詞(主語) +動詞について みんなのいるへや わたしが買う品物

(3)名詞文からの変型とみられるもの この形が一番多いとしている。

うなぎの頭 もずの声

名詞のいくつも重なった形もある。

あなたのそとの草の葉の上

この名詞文では

(A)単位文に還元できるもの ひとつのふとん

(B)単位文に還元できないもの 川の中 の形式の二種がある。これら五つの型が派生、複合されて複雑な連体修飾語をつくるという。

の意味をより明確に精密に表現するのだと、そこで一つの判断が成り立っているのだから、その能力がどのように幼児の場合発達していくかを調査してみることは大切なことと思える。また、運用修飾語とちがって、修飾、被修飾の関係を文の分析とは独立に研究できるので、とりあげてみた。もちろん文の中における連体修飾語の位置、つまり、連体修飾語が補語を修飾するか、主語を修飾するか、述語を修飾するかそのどちらが幼児の場合に多いか、その年齢的発達はどうかなどと調査の対象となる問題もあるが、こんどはその点は調査しなかった。連体修飾語の内部構造をみたにとどまった。

## 4.1 連体修飾語の構造

### 4.1-1 一語よりなる連体修飾語の構造

これは注1のところでも述べたが最初にあらわれる構文である。どのようにあるかをあげておく。

一語からなる連体修飾語の例

形式	用例	年 長 (5:5~6:6)	年 中 (4:1~5:6)	年 少 (3:3~4:7)
体言→体言		ヒマワリノ ハナ ネズミノ コト コノ オウチ	オネエサンノ フク オマツリン トキ コノ ライオン	チカテツノ シャショウ オハナノ トコロ ソノ クギ
形容詞→体言 他		ワルイ ビョウキ タクサンノ シマウマ イロイロナ オハナシ	キイロイ レッシャ カワイソウナ コト コンナ ゴホン	アブナイ ハナビ イジワルナ コ オオキナ チャワン
動詞→体言		ショウドクシタ スプーン ネル トキ	コマッテル カオ ワラウ トコ	アソンダ ユメ コマッタ コト
副詞→体言		ズット マエ	チョット ウエ	ズイブン マエ

数はあげなかったが、年長、年中、年少にかかわらず体言（名詞・代名詞・数詞など）が体言を修飾するという形式が一番多く、次は修飾部分が形容詞類、動詞、副詞という順になっている。形容詞類はこの種の語彙が幼児の年齢を問わず少ないことが影響して、「わるい」「おっさい」「ちいさい」のことばのみが多くなっている。年少の場合は形容動詞による修飾が少ない。同じ理由と思うが、「この」「こんな」「こういう」などで表現をすます傾向も見られる。副詞は慣用的なものに終わっている。

被修飾語である体言には、形式名詞である「とき」「ところ」「こと」がよく使われている。

### 4.1-2 二語以上よりなる連体修飾語の構造

問題の残るところもあるが大きく四つに分け幼児の使用する二語以上よりなる連体修飾語の構造と発達を調べてみる。それぞれに所属する用例は章末に示した。用例は補助資料も含めて、適当なものをあげた。

#### 1 □→□→Nの構造

これは修飾語の部分が二語以上よりなるが、まず被修飾語に近い修飾語が被修飾語を修飾し、次にその全体を他の修飾語が修飾するという構造である。三種類に分ける。

1.1  $\square \rightarrow [N \rightarrow N] \rightarrow [N \rightarrow N]$  の部分が「オトコノ コ」「オトコノ ヒト」のように一語的である。語彙不足のため二語を重ねていう例もある。「エイゴノ カイ」と。これは英語塾の意か。年少ではその例だけだった。 $\square$ の部分には名詞、こそあどと形容詞のもの（形動を含む、以下同じ）がある。

1.2 もやはり 1.1 と同じ構造で、近い修飾語と被修飾語とが結びついて、その全体を遠い修飾語の名詞、こそあど、形容詞、副詞、動詞が修飾するというもの。

近い修飾語と被修飾語の結びつきが密接で、遠い修飾語と近い修飾語との位置を転換することができない。この場合も年少児では三男と b 女と鈴男と佐男の四人が使用しているだけである。このうち形容詞的修飾をもつ組み合わせは年少では三男と佐男のみである。年長児には被修飾語に近い修飾語が二語からなるものがある。近い修飾語が副詞や動詞のものは年齢を問わず少ない。年少は三男のみ。「こんな」「こういう」が形容詞→名詞を修飾する構造は年長、年中に多い。「こんな」「こういう」は、「その」「この」とちがって指示的であるより属性的である。そのせいか年少は三男と佐男のみ。ここで、年少でよく顔を出す三男について注釈をつけておく。年少児でありながら、しゃべったことばは年長児よりも多い。（第 1 部に全用例出）このような幼児なので、三男しか使えない構造は、年少では使えないかあるいはほとんど使えないとみてもよいのではなかろうか。佐男も複雑な用例のときにあがる幼児である。

遠い修飾語の部分が二語よりなる構造もある。副詞+名詞、名詞+名詞、こそあど+名詞で、前者の例、たとえば「モウ セン」と「フルイ」は似た意味をもっているものだし、年少の例「ジャイアント ロボン トコノ」は「トコ」が不用で遠い修飾語が「ジャイアント ロボノ」の一つとみてもよいものである。こそあどの例「コノ オハナシノ……」は年長にしかない。ともに語彙使用の未熟さがめだち、修飾語の部分を三語以上話すことが少ないことを示している。

1.3 も同じ構造であるが、被修飾語に近い修飾語が形容詞か、名詞でも形容詞的な性質をもっているものである。すなわち、「オモチャノ プラモデルノ センシャ」は「おもちゃの戦車はプラモデル製だ」と言えるし、「オネエサンノ キレイナ ヨウフク」は「お姉さんの洋服はきれいだ」という文の変換とみられるものである。遠い修飾語には名詞、こそあど、および二語よりなるものがある。この構造は例にあげただけで少ない。年少、年中では形容動詞が十分に使えないで、わずかな形容詞で話しているからでもあろうか。また、近い修飾語、遠い修飾語の部分が二語のものが年長にあるが、年中、年少にはない。その二語も、こそあどとか、名詞も「アパートノ トコ」（「トコ」は幼児がよく使用する形式的なもの）のような言い方だったりする。

## 2 $\square \rightarrow \square \rightarrow N$ の構造

これは修飾語の部分が二語以上からなり、1 とちがって、この二語以上の部分が全体で修飾語となる構造である。

$N \rightarrow N \rightarrow [N]$  の構造のうち、修飾語の部分の  $N \rightarrow N$  が一語的な形式は年少児にない。これは一語的と述べたが、子どもと大人の区別を意識したり、男と女を区別してことばで示しているので、むしろ発達であろう。前にも例があった。

その他、修飾の部分の構造が、 $K \rightarrow N$ ,  $A \rightarrow N$ ,  $Ad \rightarrow N$ ,  $Ad \rightarrow A$ ,  $V \rightarrow N$  とあり、年長、年中、年少を問わず非常に多く使っている。特に  $N \rightarrow N$ ,  $K \rightarrow N$ ,  $Ad \rightarrow N$  の構造は多い。 $A \rightarrow N$  の

構造もわりに使用しているが、年少の場合は形式名詞を修飾する構造（形式名詞を修飾する構造がいずれの場合も多い。この構造が先に出るようである。）で、村女ひとりのみ。V→Nの構造は、年長のみ三例で、年中、年少は使用していない。動詞連体形の使用は一語の修飾語の場合も少なかったが、そこでは年少も使用していた。

前の部分が三語からなっている構造「オトウサンノ オトモダチノ オジサンノ ジドウシャ」などは、年長、年中、年少でも使用しているが、用例は採集したのが全部である。年長はわりに使っている。年少では二人。そのうちひとりの例はおかしい。

### 3 Cをもつ構造

これは、節（文の一部分で、しかも、それ自ら（主）述をもっているもの）とか、「～っていう」という慣用的言い方などを修飾部分とする（それをCと名づけた）構造をもつ形式である。

3.1 C→N —— これは節が名詞を修飾する構造で(i)C=～という、(ii)C=单文よりなる、(iii)C=複文よりなる、という三つの構造がある。(ii)には、(イ)主述のととのっているもの、(ロ)その他のもの、(この各々を、(a)動詞文、(b)形容詞文に分けた) (ア)複雑な形式のもの、がある。(iii)には、(イ)ただ一つの接続助詞をもつもの、(ロ)二つ以上の接続助詞をもつもの、(ア)たり～たりの形式をもつもの、がある。このように分類してみると、(i)の形式と(ii)の(イ)(ロ)のものは年齢を問わず非常に多く使用している。(ロ)のうち述語の部分が動詞のものと形容詞のものとがあるが、動詞のものが非常に多い。形容詞のものは数が少ないので用例を全部あげておいた。年長2例、年中1例、年少には見られなかった。(ア)の複雑な構造は年長児にしかみられなかった。用例を全部あげた。(iii)の複文の構造をもつ形式は、採集用例を全部あげた。(イ)の一つの接続助詞をもつものはわりに使っているが、年少児の例にはおかしいのもある。(ロ)二つ以上の接続助詞をもつもの、(ア)のたり～たり形式をもつものは、補助資料の例のみ。それも形式名詞の修飾が多い。年少児には用例がない。

3.2 C→□→N —— この構造は□の部分がNとAの場合がある。年長はわりに使っているが、年中、年少は少ない。C→N→N構造を年中では「男、年少では三男が使っている。あと部分がA→Nは年中、年少は使用していない。あと部分が二語以上よりなるという構造はむずかしいようである。たとえば「ミンナノネ ハイッテルネ アタラシイ オウチ」。Cの部分が形容詞述語文の例は少ない。年少の三男、渡女にみられた。

3.3 C→□→N —— この構造には(1)C→N→Nと(2)C→A→Nがある。(1)には(i)Cが单文よりなるもの(ii)複文よりなるものの二種がある。(i)は年中児にもみられ年長も多く使っているが(ii)は年長児のみ。ともに補助資料に多い。年少には使用例がない。(2)の形式は年少補助資料に一例あった。複文をもつ修飾語はむずかしいからだろう。

3.4 被修飾語の部分が節をもつもの——この構造は少ない。年長二例、年少一例。近い修飾語の部分、あるいは被修飾語の部分が二語以上の構造はむずかしいようである。

4 並立関係をなす二単語が(1)被修飾語の部分になるものと(2)修飾語となる部分をなすものの二つの構造がある。(1)の形式は、年少では三男と金男が使っている。あと部分の重い言い方は前にも出たがむずかしいのだろうか。(2)のほうは年齢を問わずある。

#### 4.1-3 まとめ

以上を大ざっぱにまとめてみると、①四語以上の名詞よりなる修飾語をもつ構造は年中、年少に少ない。②あと部分（被修飾語に近いところ）に修飾語をもち、その全体を前部分（修飾語に遠いところ）が修飾する構造（1の例）は、前部分が重い修飾語（2の例）の構造よりもむずかしいようである。1より2の構造を年少児がよく使っていることからも類推される。3の節をもつ構造についてもこのことがいえる。③章末の表に印をつけた用例のその部分は、意味がはっきりしないので、かかり方があいまいであるが、ともかく分類をしてみたものである。備考をつけておいた。年中、年少に多い。たとえば「カゼデ アタッテネ コワレナイ」の下線の部分は否定形で結ぶとき助詞は「ても」になるが、この接続助詞が使えないために「て」と使用したのだろうか。また、「カゼデ」の「デ」は「ニ」でなければおかしい。助詞の誤りも多い。その他「ムコウノ トオイ トコロ」などは「ムコウ」と「トオイ」は同一の意味を重ねて表現したとも取れそう。「ヤマノサ チョット テッペン」の「チョット」の意味は何かわからない、など。まだ、十分にことばが駆使できないためであろう。年長にも年少、年中よりは少ないがある。④Cが複文とかあるいは単文でも複雑な形式のものは、年長、年中にあるが数が少ない。年少には特に少ない。⑤子どもからみていくと、文節数の多いもの、すなわちよくしゃべった子どもが、複雑な構造の連体修飾語を使っているようで、その間に関連が深そうである。（これだけの用例では確信をもっていえないが推察される。）⑥いわゆる準体助詞「の」を修飾する構造はここで省いたが多い。たとえば補助資料の例であるが（補助資料のほうに複雑な構造のものが多かった）「オリョウリ ツクッタリ スルノヲ～（赤ー0女6:1-2）」とか、「ソノ ツギニ オモシロカッタハ～（赤ーD男5:11-5）」などである。これも分析調査する必要のある課題である。⑦ここでは文の中から連体修飾語の部分を取り出して研究対象にしたが、その連体修飾語が文の成分の中の主語の修飾であるか、補語の修飾であるか、述語の修飾であるか、また、幼児の場合はどの成分に修飾語がつくのが多い（補語修飾が多い）か、などについては分析を試みなかった。残された課題である。

#### 4.2 連体修飾語の修飾、被修飾の意味的関係

これまで、形式から連体修飾語の構造をみてきたが、ここでは、連体修飾語のうち名詞と名詞のくみあわせの場合、幼児はどのような語のくみあわせをよく使うか、どのような語のくみあわせは苦手かをみていくことにする。4.1でもみたように名詞→名詞の関係のくみあわせが多いので、その中を分析してみた。連体修飾語の構造でなく、用法である。

文構造の範囲からはみだし、語彙的なものにも近いが、この面からの幼児の傾向がみられるので、軽く扱ってみることにする。軽くと書いたが、語の意味がかかわってくるので問題が多い。今後の課題にしたい。大きく五つに分けた。章末の用例を見られたい。

（注）

（注） 鈴木康之「名詞と名詞のくみあわせ」（東京成徳短期大学紀要2 1968）ここでは大人の場合をみている。大きく1属性の規定、2所属の指定、3関係の基準の指定、4主体の指定、5対象の指定、6内容の規定、7状況の指定と分け、下位分類を試みている。資料は文学作品である。

#### 4.2-1 修飾語が被修飾語の所有者あるいは所属を規定する

これは修飾、被修飾の関係を転換した場合「のだ」という関係になる類である。たとえば「パパノ オクツ」という場合は「そのお靴はパパのものだ」となる所有、所属をあらわす類である。この類は幼児が一番多く使用している。八つに下位分類した。

1.1 関係を規定する	1.4 用途を規定する
1.2 所有者を規定する	1.5 作品の内容を規定する
1.2-1 具体物の所有者	1.6 場所を規定する
1.2-2 空間の所有者	1.6-1 生物の所属する場所
1.2-3 現象の所有者	1.6-2 具体物の所属する場所
1.3 所属を規定する	1.6-3 空間の所属する場所
1.3-1 生物の所属	1.6-4 現象の所属する場所
1.3-2 具体物の所属	1.7 本体を規定する
1.3-3 空間その他の所属	1.7-1 所属する本体
1.3-4 行為の所属	1.7-2 部分の所属する本体
1.3-5 言語作品の所属	1.7-3 現象の所属する本体
1.3-6 その他の所属	1.8 所属する職業、職場などの種類を規定する

このうち、生物には人間、動物などがはいるが、それでは怪獣やロボットは生物かということになると、簡単に分類できない。「会社」ということになると、事務をとる場所であるとともに、むずかしくいうと、企業体でもあるわけで、語のどの面を分類の対象にしてよいか迷う。語の意味分類のむずかしさである。とともに、これは大人の感覚で、幼児はどうなのかとなると、類推する以外にない。それでは全く分類できないかというとそうでもない場合もある。この下位分類には、いろいろと問題が残っている。

#### 4.2-2 修飾語が被修飾語の位置や時間、順序、数量を規定する

この関係のものは、年少においては、この種の語彙、すなわち、時、順序、数量に関する語彙が少ないことから、それにともなって、この用法は少なくなる。五つに下位分類した。

2.1 ものや場所の位置関係の規定	2.4-2 具体物の数の規定
2.2 ものの時の規定	2.4-3 空間の数の規定
2.3 ものの順序の規定	2.4-4 その他の数の規定
2.4 数の規定	2.5 量の規定
2.4-1 生物の数の規定	

#### 4.2-3 修飾語が被修飾語の属性を規定する

これは修飾、被修飾の関係を転換したばあい、修飾語の部分が「だ」になる類で、修飾語の性質が形容詞的なものである。「ダイダイイロノ テツ」は「その鉄はだいだい色だ」となる。属性を述べる表現は（所有している語彙も少ないこともあって）用例が少ない。三つに下位分類した。

3.1 種類を規定する	3.1-3 空間の種類
3.1-1 生物の種類	3.1-4 その他の種類
3.1-2 具体物の種類	3.2 材料を規定する

3.3 属性を規定する

3.3-1 生物の属性

3.3-2 具体物の属性

3.3-3 その他の属性

#### 4.2-4 修飾語が被修飾語の成立に関与する度合の強いもの

これは被修飾語に形式名詞も含まれているが、修飾語がないと意味がとれない場合である。連体修飾語がどうしても必要なため、年少、年中、年長を問わずこのくみあわせはよく使われる。七つに下位分類した。ここでも数量とか抽象的なことばとのくみあわせの場合は用例が少なくなっている。

4.1 位置関係の成立に関係する

4.2 時間関係の成立に関係する

4.3 順序関係の成立に関係する

4.4 数量関係の成立に関係する

4.5 抽象的なことばの成立に関係する

4.6 形式名詞の成立に関係する

4.6-1 とこ

4.6-2 とき

4.6-3 ほう、他

4.7 行為の対象を示して成立に関係する

このうち4.1~4.6までの部分は、前の分類の1.7-1, 2.1, 2.2の項にもはいる用例がある。

#### 4.2-5 修飾語と被修飾語が同格の関係になっているもの

この使用例は少ないが、年少、年中、年長とも使用している。

#### 4.2-6 まとめ

以上のように分類してみた結果を述べまとめにかえる。章末用例からいえることは、1の所有者あるいは所属を規定する修飾語が他のものに比べて多い。この中で、年齢を問わずよく使用しているのは「具体物の所有者」とか、「生物や具体物の所属を規定する修飾語」である。(注) 調査の質問内容にもよるが、「言語作品の所属を規定する修飾語」や「作品の内容を規定する修飾語」もよく使っている。また、「生物や具体物の所属する場所」をあらわしたり、「所属する本体」を規定する形式もよく使用している。使用の少ないものは、「空間とか現象の所有者あるいは所属の規定」で、これらは、空間や現象に属する語彙が幼児の身近かにないか、あるいは抽象的な語彙なので所有している数が乏しいからだろう。「用途を規定する」修飾語が少なかったが、調査法によるためかもしれない。幼児がよく使う修飾語の形式には、これもやはり語彙不足のあらわれと思うが、名詞一語であらわせるところを、修飾語+名詞であらわすのがある。たとえば、ワンコノ オウチ（犬小舎）、ジドウシャドウロノ ミチ（車道）、キンギョノ イレモノ（金魚鉢）、とともに年少、フネノ オジサン（船長）これは年長、など。かっこの中のことばを知らないからだろう。その他、二語以上からなる修飾語も年長にみられた。たとえば、「ウチノ トウサンノ イトコ」とか、「オトウサンノ オトモダチノ オジサンノ ジドウシャ」など。

2の位置や時間、順序、数量を規定する修飾語では、「場所の位置の規定」は年少にもみられるが、その他は年少からはほとんど採集できなかった。「キノウノ ヨル」という時の規定が補助資料から一例みられたのみである。順序とか数をあらわす語彙がこの年齢の幼児では十分に使えないのだから当然である。量についての用例は年齢を問わずなかった。

(注) 一幼児を調査したものからも所有関係がまず最初にあらわれることが出ている。前出（153頁）

3 属性を規定する修飾語は、形容詞、形容動詞によっても修飾されているが、それらも名詞に比較すると非常に少なかった。それでは名詞による属性規定はどうであろうか。「種類を規定」する中では、「具体物の種類」が年齢を問わざわりに多くみられたが、「生物の種類」とか「空間の種類」を規定する修飾語は少なく、年少ではみられなかった。「材料を規定する」修飾語は少ないがどの年齢にもあった。「属性を規定する」修飾語では、生物、具体物の属性規定についてはいくらかあった。しかし、全体に言えることは、採集例が少ない。語彙の不足によるためであろう。

4 被修飾語の成立に修飾語が関与する度合の強いものでは、どうしてもなければならない「位置関係の成立に関するもの」とか、「形式名詞につくもの」がもっとも多い。形式名詞では、意味もなく「こと」「とこ」「とき」をつける言い方を愛用していた。たとえば次のようなものがある。

「シマウマガ イテ トラン トコニ カカッテ キタカラ～」これは「虎に」でもよいわけである。その他「オジイチャンノ コト ブッタラ～」「ムカシノ トキニ カワガ アッテ～」これは「おじいちゃん」「昔」でよいのである。

この中でも、「順序」「数量」「抽象的なことば」の成立に関係する形式は少なく、「数量」については年中、年少では採集できなかった。年長には、「行為の対象を示す」修飾語、すなわち「ママノ オテツダイ」「ミンナノ セワ」などの言い方がわりに多く見られた。年少は少ない。

5 修飾語と被修飾語が同格の関係にある言い方も少ないが見られた。

全体にいえることは、この五種類の関係を幼児は使用しているのであるが、幼稚な表現が多いということである。\*印で示し、かぎかっこで注をつけた部分である。

連体修飾語の修飾、被修飾の意味的関係を見るには、名詞と名詞のくみあわせをみるだけでは片手落ちであるが試みてみた結果である。

#### 4.1-2 二語以上よりなる連体修飾語の構造使用例

(注1) ○=年中、年長同一効果、年少は神谷、小川 ●=補助資料例

(注2) N=名詞など体言

K=こそあど

A=形容詞、形容動詞他

Ad=副詞

V=動詞

C=節

(注3) \* =備考に注があること

構 造	年 齢	長	年	中	年	少	備 考
-----	-----	---	---	---	---	---	-----

1□→□→N

\*□の中には  
名詞・形容  
詞・副詞他  
が含まれる

1.1 N→N→N	* ○ヒトリノネ 11-29)	○オトコノコ ルニシーシュウノ -A女6:5-24)	○オトコノコ オシナノヒト -A女6:5-24)	○オトコノコ オシナノヒト -A女6:5-24)	○アソヨノネ 4:0-29)	○エイゴノカイ (神-三男 * 英語塾か。 * 絵本の意。	* N→N =一語的 * 一語とみ た。
1.2 N→N→N	●オニイチャンノ チ】(自-a男5:11-7)	●シンドレラノ ガッコウノ オトモダ	●シンドレラノ ガッコウノ オネエサンタチ (小-雀女4:8-19)	○オハナヤ （神-鈴男3:6-6）			
N→K→N	○ガラスノ	○コウイウトコ	○イナガノホウ (自-s男4:10-5)	○カミヤコウエンノ アノミチ (神-三			

8-20)	K → N → N	◎ <u>アソコノ*</u> <u>ムコウノホウ</u> (赤-i 男6: 2-10) ◎ <u>コウイウ</u> <u>クサリノトコ</u> (赤-K 女5: 8-19) ◎ <u>ソウイウ</u> <u>オウチノネ カタチ</u> (赤-m 女6:3-2)	◎ <u>アソコノ</u> <u>ココントコ</u> (赤-K 女5:8-9) ○ <u>トウキョウタワー</u> <u>アカイトコロ</u> (自-h 女5:7-5) ◎ <u>マシガノ</u> <u>イロイロノモノ</u> (自-p 女6: 1-13)	◎ <u>コシナ</u> <u>デッカイハッタ</u> (自-K 男5: 8-11) ◎ <u>アンナ</u> <u>アツイホン</u> (赤-f 男6:3-6) ◎ <u>コウイウ</u> <u>シカクイモン(門)</u> (赤-K 女5:8-6)	◎ <u>アソコノ</u> <u>ムコウカサン</u> (赤-i 男6: 2-10) ◎ <u>コウイウ</u> <u>クサリカサン</u> (赤-K 女5: 8-19) ◎ <u>ソウイウ</u> <u>オウチカサン</u> (赤-m 女6:3-2)	◎ <u>アソコノ</u> <u>ムコウカサン</u> (赤-i 男6: 2-10) ◎ <u>コウイウ</u> <u>クサリカサン</u> (赤-K 女5: 8-19) ◎ <u>ソウイウ</u> <u>オウチカサン</u> (赤-m 女6:3-2)
	K → K → N	○ <u>コノ</u> <u>コノジ[字]</u> (神-增女4:11-5) ○ <u>コノ</u> <u>コサイカベ</u> (自-t 男5:3-12) ○ <u>ムコウ</u> * <u>トオイトコロ</u> (自-s 男4: 10-5)	○ <u>コッチ</u> <u>コノジ[字]</u> (神-增女4:11-5) ○ <u>コノ</u> <u>コサイカベ</u> (自-t 男5:3-12) ○ <u>ムコウ</u> * <u>トオイトコロ</u> (自-s 男4: 10-5)	○ <u>コシナ</u> <u>チッチャイ クルマ</u> (小-成男 4:3-15) ○ <u>コウ</u> * <u>ヘンナ カオ</u> (自-t 男5:3-8) ○ <u>コウイウ</u> <u>ホソイ カイダン</u> (自-t 男 5:3-4)	○ <u>コシナ</u> <u>チコウイウ</u> <u>ユリカゴミミタナイ ブランコ</u> (神-二男4:0-7)	○ <u>カミヤ</u> <u>コウエン</u> / <u>モットサキ</u> (神 -三男4:0-8)
	N → A → N	○ <u>ヤマノサ</u> <u>チヨット* テッペン</u> (赤-f 女4:10-11) ● <u>ホドウ</u> <u>ツグマエ</u> (神-桑女4:10- 12)	○ <u>ヤマノサ</u> <u>チヨット* テッペン</u> (赤-f 女4:10-11) ● <u>ホドウ</u> <u>ツグマエ</u> (神-桑女4:10- 12)	○ <u>カワノ</u> <u>スグソバ</u> (赤-w 男6:3-15) ○ <u>ヨウチエン</u> <u>スグチカク</u> (赤-d 男 6:4-6)	○ <u>カワノ</u> <u>スグソバ</u> (赤-w 男6:3-15) ○ <u>ヨウチエン</u> <u>スグチカク</u> (赤-d 男 6:4-6)	○ <u>カミヤ</u> <u>コウエン</u> / <u>モットサキ</u> (神 -三男4:0-8)
	K → Ad → N	● <u>ソコノ</u> <u>チヨウドマンナカ</u> (赤-f 男 6:3-12)	● <u>ソコノ</u> <u>マタムコウ</u> (自-u 女5:5-5)			

<p>○ <u>ヨツチノ</u> <u>ズーツト*</u>マガリカド (自-b 男6:0-13)</p> <p>● <u>ママノ</u> <u>ズット・マエノ</u>オトモダチ (赤-q 男5:11-4)</p>	<p>K → <u>A→A→N</u></p> <p>N → <u>N→N→N</u></p> <p>Ad → <u>N→</u> <u>A→N</u></p>	<p>* 「ズーツト」はおかしい。</p> <p>* 準体助詞の例。</p>	<p>○ <u>コウイウ</u> <u>マルイヒヨウタンミタイノ*</u> (自-1 男5:7-15)</p> <p>○ <u>ジヤイアントロボン</u> <u>トコノ*</u>コウイウ (マルイトヨ) (小-佐男4:3-17)</p>	<p>* 「トコ」は不用。</p>	<p>* 「モウセン」と「フライ」は同じ意か。</p>	<p>* 「モウセン」と「フライ」は同じ意か。</p>
<p>○ <u>モウセシノネ</u> <u>フルイ*オヒサマグミ*</u> (赤-h 女5:4-9)</p> <p>○ <u>ドロン</u> <u>トコ*</u> <u>スグソバ</u>(自-1 男5:7-31)</p> <p>○ <u>ヨノ</u> <u>オハナシノ</u> <u>イチハシ サイシヨ</u> (赤-s 男6:6-19)</p>	<p>○ <u>イチハシ</u> <u>ウエノ</u> <u>-h</u> (赤女5:11-19)</p> <p>○ <u>カワイイ</u> <u>マンマルイラシイ*コドモ</u> (赤-E 女5:8-19)</p> <p>○ <u>ヤキユウヒヨウミタイナ</u> <u>ヒロイトヨ</u> (自-s 女6:3-1)</p>	<p>* 不十分な言い方。「丸く太った」が「丸い瀬」か。</p>	<p>○ <u>ズット</u> <u>モウセシ</u> (自-w 女6:5-9)</p> <p>○ <u>アサクサノ</u> <u>オマリスル*トヨ</u> (赤-k 女6:2-7)</p> <p>○ <u>ツギノ</u> <u>マケタシト</u>(赤-1 女5:8-28)</p>	<p>* 「お寺」のことか。</p>	<p>* 「別の」という意味。保育園が二個所にある。</p>	<p>* 「お寺」のことか。</p>

K → [V → N]		O ソノ [アガツタトチユウ] (神-三男4: 0-30)	
1.3 N → [N → N]	○オモチヤノ [アラモチルノ センシャ] (自-b 男6:0-11)	○カイジュウノ* [チカラモチノ ジエット] (神-三男4:0-34)	* はつきりわ からない。
N → [A → N]	○オネイサンノ [キレイナ ヨウフク] (赤 -p 女6:2-14) ●コックノ [クイシンボウナ ハカセ] (自 -m 女6:4-15) ○サンニシノ [カワイイ オンナノコ] (自 -u 女6:5-22)	○ヨウチエンノ [タノシイ ホン] (赤-k 女5:3-10) ●カイブツクシノ [オオキイ テ] (小-海 男4:3-13)	
K → [A → N]	○アソコノ [シロイ セン] (赤-h 女6:4-7) ●ヨノ [アタラシイイエ] (赤-u 女5:11 -14) ○ヨノ [ショウジキナ オジイサン] (赤- w 男6:3-21)	○ヨノ [チイサイ ライオン] (赤-i 男4: 2-11)	
N → [Ad → A → N]	●コバルトノ [イチバン オオキイ ニイサ シ] (赤-h 女6:6-7)		
N → [A → V → N]	●オコメノ [オオキイ サゲルノ* フクロ]	* 「名詞+ ノ」の形に ひかれてか 「動詞+ノ」 とまちがえ ている。	
N → [A → N → A → N]	●アハートノ [トコノ* チッチャイ コ] (赤-p 男5:11-7)	* 「トコ」前 出。	
K → N → [A → N]	●ソコノ コウエンノ [チッチャイ テツ ボウ] (赤-x 女5:7-4)		



<p>ネ* オウチノ トコロ(赤-N 女5:7-8)</p> <p>● ゴジエウゴウカシノ コッチャガワノ 上</p> <p>ナリノ* [オウチ] (赤-r 男6:3-7)</p> <p>● イロンナ ゴハン ユウゴハシノネ [オ</p> <p>シタク] (赤-q 男5:11-3)</p> <p>● オトワサンノ オトモダチノ オジサン</p> <p>ノ [ジドウシャ] (赤-E 女5:8-32)</p>	<p>* 「トコロ ノ」は不用。</p> <p>* 「てまえ」 とか「右ど なり」と大 人ならいう ところ。</p>	<p>* 「トコロ ノ」は不用。</p> <p>* 「てまえ」 とか「右ど なり」と大 人ならいう ところ。</p>
<p>○ ソコノ ヘイキショウノ ヘエノ [トコ] (神- (自-g 女5:11-14)</p> <p>● ココン トコロノ ホッペタノ [ナガガ ワ] (赤-m 女6:3-12)</p> <p>○ ソノ キュウチャンノ ハナシノ [マエ (自-g 女5:11-21)</p> <p>○ ソノ カワノ ムコウノ [ホウ] (赤-o 女6:1-11)</p> <p>● ソノ ウンドウカイン トキノ [ママ ト] (赤-j 女6:6-16)</p> <p>● コノ ヨウチエンノネ リスクミノネ オトモダチ (赤-K 女5:8-4)</p>	<p>● アノ コンポン* トコノネ [カラ] (神- 大女4:6-7)</p> <p>○ コノネ イチバン シタノネ* ニクミ ネ [アソコ] (赤-x 女5:2-8)</p> <p>○ アア イウネ イロノネ ミチノ [トコ] (赤-k 女5:3-8)</p>	<p>* 会社の略 称。</p> <p>* よくわか らない。</p>
<p>K → N → N → [N]</p>	<p>● ソコノ ソノ ショクインシツノ [ト王 ワ] (小-イ女4:7-9)</p> <p>● アカイ イロノ [クサ] (神-鏡女4:5- 21)</p> <p>○ イジワル オカアサンノ [オシゴト]</p> <p>● シカクイ ガラスノ [ウエ] (赤-m 女5: 3-12)</p> <p>● イロシナ イロノ [ハッハ] (赤-c 男5: 10-10)</p>	<p>○ チイチヤイ キノ トコロ (神-村女3: 6-8)</p> <p>○ キレイナ ピカビカノ [ク] (赤-p 女5: 2-13)</p>
<p>A → N → N → [N]</p>	<p>○ アツイ クニノ [オバケ] (赤-o 女6:1 -17)</p> <p>○ アマイ ミズシ [トコ] (自-s 男5:9-5)</p> <p>● シカクイ ガラスノ [ウエ] (赤-m 女5: 3-12)</p>	<p>○ アカイ イロノ [クサ] (神-鏡女4:5- 21)</p> <p>○ イジワル オカアサンノ [オシゴト]</p> <p>(赤-p 女5:2-10)</p> <p>○ キレイナ ピカビカノ [ク] (赤-p 女5: 2-13)</p>

<u>N → A → N</u> → [N]	○イチバン タカイ ヤマノ ホウ (赤 -o 女6:1-28) ●ハイエルノ キイロイ ホシノ ナナシ ユゴバン (赤-m 女6:3-7)	○モウ ヒトリノ ヘンデル (赤-e 女4: 9-10) ●イチバン ウエノ オホエ * (自-q 男5: 4-2) ●イチバン ウシロノネ シマウマ (自- p 女6:1-18)	●モウ ヒトリノ ヘンデル (赤-e 女4: 9-10) ○イチバン チビヤギノ * ガラガラドン (神-古男4:5-24) ○モウ シュグノ * オニイチヤン (神-寺 男4:4-2) ●イチバン ウエノ ホウ (赤-o 男4:2 -8) ○イチバン チサイ モンノ * ヤギ (神-狗女4:3-14)	* ヒトリ = 一頭 * お姉さん。 * 兄が二人 以上いて、 一番すぐ上 の兄の意 か。 * おかし い。不用。
<u>Ad → N → N</u> → [N]	○モウ ヒトリノ ライオン (自-k 男5: 8-22) ○ズニット ムコウノ パシヤサシ (自- a 男5:8-11) ●イチバン ウシロノネ シマウマ (自- p 女6:1-18)	○モウ ヒトリノ ヘンデル (赤-e 女4: 9-10) ●イチバン ウエノ オホエ * (自-q 男5: 4-2) ●イチバン ウエノ ホウ (赤-o 男4:2 -8) ○イチバン チサイ モンノ * ヤギ (神-狗女4:3-14)	○モウ ヒトリノ ライオン (赤-e 女4: 9-10) ●イチバン チビヤギノ * ガラガラドン (神-古男4:5-24) ○モウ シュグノ * オニイチヤン (神-寺 男4:4-2) ●イチバン ウエノ ホウ (赤-o 男4:2 -8) ○イチバン チサイ モンノ * ヤギ (神-狗女4:3-14)	* ヒトリ = 一頭 * お姉さん。 * 兄が二人 以上いて、 一番すぐ上 の兄の意 か。 * おかし い。不用。
<u>Ad → N → N</u> → [N]	○ヨウチエシノ ズット ムコウノ ホウ (自-p 女6:1-8)	○スゴイ オオキイ ユ (赤-E 女5:8- 20)	○スコシ チイチャイ ミチ (自-u 女5: 5-5) ○イチバン セエタカノツボノ オニイチ シ (赤-1 男6:3-5) ●スコシ オモシロクナ1 トコロ (赤- O 女6:1-15)	○イチバン フカイ トコ (神-狗女4:3 -4) ○モツト タカイ トコ (神-秋男3:11- 14) ○サツキ ユツタミタイナ ユメ (神-秋 男3:11-7) ●チヨツト チイチャイ マル (赤-e 男 4:1-6)
<u>A → A → N</u> → [N]	○トッテモ オモシロイ コト (赤-r 女 5:10-6) ●イチバン セエタカノツボノ オニイチ シ (赤-1 男6:3-5) ●スコシ オモシロクナ1 トコロ (赤- O 女6:1-15)			* 一頭的。
<u>Ad → A → N</u> → [N]				

V → N → <u>N</u>	○ネル トキノ ヨウフク (自-p男5:6 -5) ●チガウ シトノ* オウチ (赤-N女5:7 -8) ●ナラブ ジュンパンノ ヨト (自-v女 5:10-2)
------------------	--

### 3 Cの形式をもつもの

3.1 C → <u>N</u>	(i) C = ~と いう
	●ジュンコチャシッテ イウ オンナノ ヨ (自-A女6:5-10) ●ウシト カエルッテ イウ モノガタリ (赤-j女6:6-20) ○ドッヂガ ハヤクネ ツクカッテ イウ キヨウソウ (自-g女5:11-22) ○ユウセイカカメンテ イウ ソウイウ* マンガ (赤-m男5:10-18)

(ii) C = 单文  
よりなる  
(i) 主述のこと  
のつている  
もの

(a)動詞文	○ママト ヨウコガネ オデカケシタ カ エリ (赤-p女6:2-18) ●ハカセガ ハツメイシタ ロボット
	(赤-f男6:3-8) ●ジブンネ タベタ シヨウキ (赤-1 女5:8-3)

(b)形容詞文	●オハナガ オッキイネ ハカセ (赤-K 女5:8-11)
	●アタシガ チイチャイ ヨウキ (小-野女 4:9-11)

V → N → <u>N</u>	○ネル トキノ ヨウフク (自-p男5:6 -5) ●チガウ シトノ* オウチ (赤-N女5:7 -8) ●ナラブ ジュンパンノ ヨト (自-v女 5:10-2)	* シト = ヒ ト
3 Cの形式をもつもの		
3.1 C → <u>N</u>		
(i) C = ~と いう	○テルミチャンテ イウ ヨ (自-h女4: 7-2) ●サブーッテ イウ ムモノ* (小-山 中女5:0-24) ●(イシイ)サンニ ハイタツ タノムツテ イウ ヨト (小-久女4:7-3) ○ユウセイカカメンテ イウ ソウイウ* マンガ (赤-m男5:10-18)	○チバッテ イウ イナカ (神-村男4:3 -12) ○カッコ イイッテ イウ ヨト (小-佐 男4:3-16)
		* 一語的 N とすべき か。
3 Cの形式をもつもの		
3.1 C → <u>N</u>		
(i) C = ~と いう	○テルミチャンテ イウ ヨ (自-h女4: 7-2) ●サブーッテ イウ ムモノ* (小-山 中女5:0-24) ●(イシイ)サンニ ハイタツ タノムツテ イウ ヨト (小-久女4:7-3) ○ユウセイカカメンテ イウ ソウイウ* マンガ (赤-m男5:10-18)	○チバッテ イウ イナカ (神-村男4:3 -12) ○カッコ イイッテ イウ ヨト (小-佐 男4:3-16)
		* 一語的 N とすべき か。
3 Cの形式をもつもの		
3.1 C → <u>N</u>		
(i) C = ~と いう	○ママト ヨウコガネ オデカケシタ カ エリ (赤-p女6:2-18) ●ハカセガ ハツメイシタ ロボット	○オバサシガ イル オオダンボドウ (小-篠男5:1-10) ●アメ フッテ ナイ ヨウ ヤツテ シゲット (テ) イル ヨト (神-陽男3:10-6)
		* 一語的 N とすべき か。
3 Cの形式をもつもの		
3.1 C → <u>N</u>		
(i) C = ~と いう	○ママト ヨウコガネ オデカケシタ カ エリ (赤-p女6:2-18) ●ハカセガ ハツメイシタ ロボット	○オバサシガ イル オオダンボドウ (小-篠男5:1-10) ●アメ フッテ ナイ ヨウ ヤツテ シゲット (テ) イル ヨト (神-陽男3:10-6)
		* 一語的 N とすべき か。

<p>●テンキガ イイ 〔ヒ〕(自-q 女6:1-17) ○オテンキノ イイ 〔ヒ〕 (赤-p 女5:2-16) ○オテンキノ イイ 〔アサ〕(赤-s 男6:6-20) ○ネズミガ タクサン イソウナ 〔キ(気)〕(赤-m 女6:3-17)</p>	<p>(口)その他 (a)動詞文</p>	<p>○ウミニ アルネ 〔アブライレタシカ〕(赤-a 男5:11-8) ○ヨウフクヲ ヌウ 〔オシゴト〕(自-s 男5:9-3) ○アミモノ セイトサンニネ アミモノ(ヲ) オシエル 〔トキ〕(自-A 女6:5-9) ○テンチデ ウゴク 〔ミニチユアカ〕(赤-r 男6:3-2) ○アタシク カッタ 〔ゴホシ〕(自-o 女6:1-10) ○ムカシ イタ 〔ドウブツ〕(赤-d 男6:4-4) ○ソレ カエシニネ ニッボンニ キテル オハナシ(自-A 女6:5-23)</p>	<p>○オテンキノ イイ 〔ヒ〕(自-p 女5:2-16) ○オカネ ナイ 〔ヒト〕(自-t 男5:3-12) ○ネズミガ タクサン イソウナ 〔キ(気)〕(赤-m 女6:3-17)</p>
			<p>(b)形容詞文</p>
<p>(b)形容詞文</p>	<p>(i)複雑な形式 のもの</p>	<p>○ソレヨリ チッチャイ 〔トリ〕(赤-w 男6:3-26) ○ウチヨリ スゴイ オオキイ 〔イヌ〕(赤-w 男6:3-19)</p>	<p>○オムコウノ トノ アノネ* テレビノ 〔ル〕(赤-ai ガワノ レコードカ アルホウ〕(赤-a 男5:11-18) ○オナガヤマッテ イウネ オナガガワノ</p>
			<p>* 間接詞を 入れておい た。</p>

トナリニ アル マンナカニ アル ハ  
ジッコノ ホウニ アル\* トウツツ

(赤-m女6:3-21)

(iii) C = 複文

よりなる

(i) 一つの接続助詞をもつもの

- ジュウエン イレルト シタガ ミエル  
〔ボウエンキョウ〕(自-e男6:1-5)  
ウサギサンガネ メヲ サマシテネ イ  
ツタ 〔オハナシ〕(赤-c男5:10-26)  
○ イワツキニ イツテネ セミガ イッポ  
ンノ キニネ ゴヒキモ トマッテタ  
コト 〔赤-w男6:3-8)  
タオシテネ リッペニ カイッテ キタ  
ツテ コト 〔赤-l女5:9-25)  
● ポハイガネ ホウレンソウ タベテネ  
ヤツケル 〔トヨ〕〔赤-l女5:9-20)  
● ポハイガネ ホーレンソウ タベルト  
ツヨクナル 〔オハナシ〕(赤-l女5:9-  
19)  
● オナガガワツテ イウネ トッテモ フ  
カイ ウキワガ アッテモ ウカバナイ  
エ 〔カワ〕(赤-m女6:3-18)  
ソコヲ マッスグ イツテ マタ マガ  
ツテ イク 〔トコロ〕(自-y男6:0-7)
- ウサギネ ドウロニ カケダシタカラ  
ネ クマモネ カケダシテ イッタ コ  
ト 〔赤-k女5:3-16)  
● オウチガ ヒニ モエチャツタラ\* カイ  
ジユウガ キタッテ イウ 〔コト〕〔小  
久女4:7-13)  
● ワルモノガ テテ キテ オド(カ)サレ  
チャウ 〔オハナシ〕(小-寛女4:7-18)  
● タオルモ キッキッテ ヒトリテ  
ニネ ミズガ デテ シボッテ (イル)  
ユメ 〔小-雅女4:8-17)  
● ガッコウノ オベンキヨウネ サボッテ  
アンデル 〔トキ〕〔小-雀女4:8-5)  
ト〔そ〕レデネ ケガチテ チ〔し〕シダ  
〔コ〕(神-永男4:1-23)  
● ウゴイテネ ケムリガ テタ 〔トコ  
〔小-寛女4:7-21)  
● ビヨウキン ナツテネ シュジユツシタ  
トコロ 〔小-小島女4:2-9)
- ウミヘ イツテ イナカヘ イツテネ  
ハクツカシニ イッタ 〔コト〕(赤-d  
男6:4-6)  
● オネエサンガネ キノ エダニネ スワ  
ツテ ネテ オキタ 〔トコ〕(赤-1女5:  
8-36)

トナリニ アル マンナカニ アル ハ  
ジッコノ ホウニ アル\* トビダシタラ アブナイ 〔コト  
(神-佐女3:7-12)

\* 訂正か、  
正確に説明  
しようとして  
いるの  
か。

(ii) 二つ以上の接続助詞をもつもの

- ウサギ\* トビダシタラ アブナイ 〔コト  
(神-佐女3:7-12)
- ウサギガネ ドウロニ カケダシテ イッタ コ  
ト 〔赤-k女5:3-16)  
● オウチガ ヒニ モエチャツタラ\* カイ  
ジユウガ キタッテ イウ 〔コト〕〔小  
久女4:7-13)  
● オカゼテ アッタッテネ\* コワレナイ  
〔オウチ〕(小-矢女4:0-16)  
● ライヨンガ ドッカ イッチャツタカラ  
コツ(チ) ウマサンガ 「コッチデヨウ」  
ツテ ユツテタン\* 〔トコ〕(赤-f女4:2  
-12)  
● ガッコウノ オベンキヨウネ サボッテ  
アンデル 〔トキ〕〔小-雀女4:8-5)  
ト〔そ〕レデネ ケガチテ チ〔し〕シダ  
〔コ〕(神-永男4:1-23)  
● ウゴイテネ ケムリガ テタ 〔トコ  
〔小-寛女4:7-21)  
● ビヨウキン ナツテネ シュジユツシタ  
トコロ 〔小-小島女4:2-9)
- ケガチ〔し〕テ 「イタタターッ」  
ウイシヘ イッタ 〔チ〔ひ〕〕(神-永  
男4:1-23)

\* 助詞「が」  
の矢。

\* 助詞「が」  
かかってい  
る助詞の誤  
用。「カゼニ  
アタッテ  
モ」

\* 否定形に  
かかってい  
る助詞の誤  
用。「カゼニ  
アタッテ  
モ」

\* ことば足  
らざでおか  
しい。「ン」  
不用。

\* ことば足  
らざでおか  
しい。「ン」  
不用。

\* 説明  
しない。

\* 否定形に  
かかってい  
る助詞の誤  
用。「カゼニ  
アタッテ  
モ」

● イヌ サル キジトネ ツレテッテネ  
オニセイバツニ イッテ デネ オカネ  
ヲ エイ ヤートネ タイジシテ オカ  
ネヲ モドシテ キタッテ イウ ハナシ  
(赤-1女5:9-14)

(り)たりーたり  
の形式をも  
つもの

● オトモダチト アソンダリネ オウチヂ  
アカチャント アソンダリシタ トコ  
(赤-1女5:8-5)

3.2  
 $C \rightarrow \boxed{\square} \rightarrow N$   
 $C \rightarrow N \rightarrow \boxed{N}$

○ ドロンハッテ イウネ アメリカノ オ  
バケ (赤-0女6:1-17)  
○ シンチヤンテ イウネ アノネ\* シヨウ  
チャンノ オニイサン (赤-f女5:9-9)  
○ ソレヲ ミタネ トナリノネ オジイサ  
シ (赤-w男6:3-23)  
○ カワノ アルネ イシノ トコロ (自-  
d女5:11-7)  
● ママノ ズーツト マエノネ オトモダ  
チダッタネ ソノ\* シト (赤-q男5:11  
-4)  
● 「ミツカッタラ ゴメンヨ」ツテ イウ  
ネー オナマエ(ガ) ツイテルネー ハ  
ドウシヤノ サンケエ (赤-K女5:8-14)

○ オニイチヤンガ イルネ アジパンヤサ  
シトコ (神-三男4:0-4)  
○ オニイチヤンガ イッテルネ アソコノ  
フジパンヤサン (神-三男4:0-11)

\* 間接詞  
か  
はいる。(前  
出)

○ ニンダンガ カブツタ ライオンノ カワ  
(自-t男5:3-18)

○ オテンキガ イイ オヤスマントキ  
(神-三男4:0-5)  
○ マリノ スキナネ ウントネ\* ナンカ  
イイモノ (神-渡女3:10-2)

\* 間接詞

\*語順のちがい  
うもの

○マチントコロノネニシゲンガトオ  
ルミチ(赤-o女6:1-31)  
モウイツビキノネサッキヤラレタ  
ヌシマウマ(赤-c男5:10-24)

C→A→N

○チャッピーッテイウネチッチャイ  
デジ(赤-c男5:6-10)  
○イツブエバナシッテイウネアノ  
イロシナオモシロイハナジ(赤-j女  
6:6-14)  
○ミンナノネハイツテルネアタラシイ  
オウチ(赤-u女5:11-15)

3.3

C→□→N  
(1) C→N  
→□

(i) C=単文  
よりなる

○イズモサンテイウオウチノトナリ  
(自-s女6:3-7)  
○ニホンシャナイクニノシト(自-g  
女5:11-16)  
○モウオマエハクビダッテイワレタ  
ヒトノナマエ(赤-e男5:10-13)  
○ワスレモノヲシタトキノエメ  
(赤-c男5:6-17)  
○イツショニガツコウヘイクトキノ  
ヒト(赤-E女5:8-36)  
○ニシゲンガアルクミチノトコロ  
(赤-o女6:1-30)  
○ボクガシツテルウチノソノ\*シヨ  
ヨ(自-b男6:0-8)

○コウテイニイクトキノアノカイ  
ダン(小-久女4:7-10)

○ママガチッチャイトキノオハナシ  
(小-押女5:1-17)

○ゲツヨウビノ(ニ)ヤルトキノサリ  
二(小-山中女5:0-11)

\*「ソノ」  
(前出)

(ii) C = 複文  
よりなる

● クマニ ノッテ トリイヲ ワタツテ  
ハチマンサマニ オマイリシタ トキノ  
オハナシ (赤-h 女6:6-8)

(2) C → A  
→ N

3.4

□ → C → N  
N → C → N

○ オトモダチノ テッチャンティウヒト  
(赤-f 女5:9-9)

K → C → N

○ コシナ マワル(マド)(神-三男4:0-7)

● コツチガワノ ジドウシヤ トオルトヨ  
ロノ ミチ (自-i 男6:5-4)

● アタラシク ハイツタ ピピッテ イウ  
ヤツ (赤-e 男5:10-10)

● キンタロウッテ カイテアルネ オナカ  
ガエナリヨウナ ハラマキ (赤-h 女  
6:6-9)

4 並立関係をもつもの

4.1

○ オハキユウノ オトウサンモ オカアサ  
シモ (赤-u 男6:5-24)

○ ガッコノ センセエトカ セエト (赤-s 男6:6-11)

● ウチノ オトウチャントネ オニイチヤ  
ント (自-p 女6:1-3)

● ハタグミノネ カジクント ユミチャシ  
ト (自-c 男5:11-6)

○ オウジノ オジイチャントネ オバアチ  
ヤント ボクトネ (神-三男4:0-4)

○ チシユクノ オバアチャント (ミズ

エ) チヤン (小-金男 4:1-1)

\* 幼児音

4.2 N+N→[N]	● オソマツクンノ オカアサンヤ オトワ サンヤ (赤-J 女5:8-16)	○ オトワント オカアサン トコ (赤- c 男6:3-11) ○ ニンギョウトカ フジサンノ エ (赤- k 女6:2-12) ○ ウシワカマルト デンシャノ エボン (自-n 男6:5-13) ● キイロトカ ミドリノ ボウ (赤-e 男 5:10-4) ● ミツカ ヨツシソ トキ (赤-k 女5: 8-12)	○ カメト ウサギノ オハナシ (赤-r 女 4:10-9) ● カメト ウサギノ オハナシ (赤-s 女 4:10-22)	○ カメタント* ウタギノ オハナチ (神- * 幼児音 大男3:11-11) ○ へビトカ カイジュウノ ユメ (神-寺 男4:4-14) ● ウマシラロウトネ ソレカラ オヒメ サマノ ホシ (赤-a 女3:10-14)
	4.2 連体修飾語の修飾、被修飾の意味的関係 ——名詞と名詞のくみあわせの場合の使用例	○ キエウチヤンノ オトウサン (自-h 女5: 7-8) ○ ハバハノネ シャチャウ (赤-m 男5:10 ● ウチノ トウサンノ イトコ (自-d 男6: 1-8)	○ ハビーン ナカマ (赤-f 女4:10-6) ○ オトモダチノ オカアサン (赤-u 男5:6 -5) ○ ボクノネー イモウト (自-c 男4:7-2)	○ シマウマノ ナカマ (小-佐男4:3-20) ○ クマサンノ コドモ (赤-e 男4:1-9) ● エウチヤンノ アカチャン (自-a 男4: 10-7)
1.1 関係を規定する	1.1.2 所有者を規定する	○ ハシミノ オクツ (赤-t 男6:0-4) ○ ハルチヤンノネー ヨウフク (自-t 男6: 2-7) ● オトワサンノ オトモダチノ オジサン	○ オネエサンノ タンス (赤-p 女5:2-11) ○ ボクノ フユズボン (自-s 男4:10-14) ● オトモサンノ ジテンシャ (神-正男4:10 -8)	○ オバチヤンノ ユビワ (小-原女3:7-26) ○ オバアチヤンノ メガネ (神-狗女4:3 -7) ● ジブンノ ホン (赤-v 女4:0-6)
	1.2.1 具体物の所有者	○ ハルチヤンノネー ヨウフク (自-t 男6: 2-7)	○ オトモサンノ ジテンシャ (神-正男4:10 -8)	(多し)

1.2-2 空間の所有者(注)	ジドウシャ (赤-E女5:8-32)	● <u>テジナシノネ</u> ドウクツ (自-i 男6:5 (自-1女5:7-7))	● <u>ママ</u> オミセ (神-堀女4:1-2)
1.2-3 現象の所有者	アトムノ エネルトギー〔エネルギー〕 ● <u>ボウヤノネ</u> ビヨウキ (赤-h女6:6-17) ● <u>バピーン</u> イリヨク (自-i 男5:7-14)	○ <u>マホウッカイノ</u> コエ (自-h女4:7-9)	● <u>ボクノ</u> コエ (赤-d男4:2-9)
1.3 所属を規定する生物の所属	ガッコウノ ヒト (赤-k女6:2-23) ○ フネノネ オジサン*〔船長のこと〕(赤-o女6:1-21) ○ 「オクサマハ マジョ」ノ トモダチノ コドモ (自-b男6:0-23)	○ <u>オウサマグミノ</u> フミチャン (自-r女4: 8-19) ○ <u>ボクンチノ</u> *〔ぼくのと同じ意か〕オカア サン (自-b男5:1-9) ● <u>キヨジンノ</u> ホシノ コドモ(神-親男4: 6-12)	○ <u>ウチノ</u> オバアチャン (小-神女4:1-10) ● <u>ボクンチノ</u> オジイチヤン (神-三男4:0 -18) ○ <u>ヨソノ</u> オネエチヤン (神-佐女3:7-18) ● <u>ジドウシャノ</u> オジサン (赤-p男3:7 -4), ○ <u>ボクンチノ</u> ジドウシャ (神-古男4:5 -10) ○ <u>ウンヨノ</u> オウチ (小-長男3:5-13) (注)
1.3-2 具体物の所属	テキノネ ヒコウキ (赤-m男5:10-15) ○ センスイカンノ ギョライ (自-b男6:0 -5)	○ <u>ハイシヤサンノ</u> ハコ (自-l男5:1-5) ○ <u>ウチノ</u> ジドウシャ (赤-t男5:1-5) ○ <u>ナツノ</u> ポウシ (自-s男4:10-14) ○ <u>イットウシヨウノ</u> ハタ (赤-m男4:10 -9)	● <u>ウチノ*</u> 〔で行く〕 テンペート (赤-a女3: 10-9)
1.3-3 空間その他の所属	ヨウチエンノ コウエン*〔庭の意〕か側に ある公園か) (赤-a男5:11-11)	○ <u>ボクンチノ</u> カイシャ (自-t男5:3-5) ● <u>ヨウチエンノ</u> ウンドウジョウ (小-観女 4:7-11)	(注)空間は場所も含む。

○ <u>オトウサン</u> オシゴト (自-v 男5:7 -11)	○ <u>オトウサン</u> オシゴト (赤-i 女5:3-2)
● <u>wandu kai</u> カケコ (赤-k 女5:8 -3)	● <u>チャッピー</u> オドリ (小-村男4:9-14)
○ <u>オトナ</u> バングミ (自-f 女5:8-8)	○ <u>イチガツゴウノネ</u> アンデルセン(赤-s 男5:6-12)
○ <u>コドモ</u> ニュース (赤-t 男6:0-17)	● <u>オトナ</u> マンガ (神-永男4:1-21) ● <u>オトコ</u> ヨノ* (むきの) マンガ (小 -猿女4:8-27)
○ <u>オトウト</u> オタンジョウビ(赤-f 女5: 9-7)	● <u>コドモ</u> エイガ (小-成男4:3-20) ● <u>օջաշն</u> オミヤケ (赤-1 男4:8 -8)
○ <u>オヤツ</u> メロン (自-d 女5:11-10)	● <u>センセエ</u> ゴメイレイ (小-野女4:9 -4)
○ <u>クスリ</u> ピン (赤-I 女5:8-32)	● <u>オシロ</u> パーテイ (小-津女4:8-11) ○ <u>օկան</u> * (になる) シゴト (白-n 男5: 5-1)
○ <u>アミモ</u> キカイ (赤-J 女5:8-3)	○ <u>オベンキョウ</u> ドウグ (小-佐男4:3 -13)
○ <u>ムシ</u> ホン (自-s 男5:9-10)	○ <u>ケンドウ</u> カブルモノ (小-神女4:1 -8)
○ <u>キカイ</u> ズメン (赤-a 男5:11-1)	○ <u>ジドウシャドウロ</u> * ミチ [車道のこと] (小-新男3:10-7)
○ <u>イナカ</u> オハナシ (自-k 男5:8-15 -21)	● <u>キンギョ</u> イレモン* (金魚鉢) (赤-a 女3:10-10)
○ <u>ウォール</u> テズニー エエガ(赤-F 男 5:9-12)	○ <u>ムシ</u> ズカシ (自-t 男5:3-20) ○ <u>オバケ</u> ハナシ (自-e 女4:8-1) ○ <u>ビックエックス</u> ホン (自-s 男4:10 -21)
	○ <u>ウサギ</u> オハナシ (神-陽男3:10-13) ○ <u>アイウエオ</u> ホン (小-矢女4:0-9) ○ <u>カイジュウ</u> ユメ (小-相男4:4-8)
	● <u>օյամա</u> エ (自-d 男3:10-1)

1.6 場所を規定する

1.6-1 生物の所属する場所

○ムラノニー ヒトビトタチ(赤-o 女6:1  
-20)  
○ヨンジュウニゴウカシノ コ(赤-w 男6:  
3-9)

○ドコカノ クニノ オマワリサン(赤-s  
男 6:6-15)

○サンジョウノ テレビ(赤-d 男6:4-13)

○ウミノ カイガラ(自-B 男5:7-7)

○ハズレノ ホウノ ニカイノ マンナカ  
ノ オウチ(赤-n 男6:2-8)

○オオテマチノ サイムキヨク(注)(赤-v  
男 6:5-3)

○ナゴヤノ エキ(赤-e 男5:10-9)

○シゲミノ ミズ(注)(自-t 女 6:4-3)

1.7 本体を規定する

1.7-1 所属する本体

○タクシードア(赤-p 女6:2-18)  
○マチノ ヒロバ(赤-m 女6:3-17)  
○キシャノ ヤネ(赤-a 男5:9-10)  
○ヘエキシヨウノ ミチ(自-x 男6:1-9)

○ヒトノ カオ(自-d 女5:11-11)  
○テレビノ スイッチ(自-w 女6:5-7)

1.6-2 具体物の所属する場所	1.6-3 空間の所属する場所	1.6-4 現象の所属する場所	○イナカノ エッチャン(自-a 男4:9-6) ●エ〔v〕ナカノ オカアサン(神-桑女: 10-26)	○オウジノ オジイチャント オバアチャ ント ボク(神-三男4:0-4) ●イナカノ カッチャン(赤-p 男3:7-6)	(補助資料 のみ)
			○ロウカノ オスベリダイ(自-有男4: 7-4) ●オニワノ テツボウ(神-井男5:0-3)	○ヨコハマノ ドウブッエン(自-s 男4: 10-4) ●ウミノ オウチ(自-押女5:1-6)	
			○イナカノ オウチ(神-三男4:0-18) ○ギンジヤ〔ざ〕ノ テバート(小-加男4: 1-3)	○ウミノ オウチ(小-押女5:1-6) ●ハネダクウコウノネ シバフ(小-川男4: 10-5)	

(注)水を現象としたが問題がござる。

○オシロノ マド(赤-p 女5:2-12)	○コウエシノ ミチ(神-玉男4:0-4)
○トラックノ ココ(自-a 男4:9-13) ●テレートノ オクショウ(小-川男 4:10 -8)	○オウチノ ヘヤ(小-原女3:7-25)
○マッチノ ボウ(赤-s 男5:6-7) ●アカチャンノ ケ(小-雀女4:8-1)	○オオカミノ シップ(小-神女4:1-13) ○ボクノ アシ(小-佐男4:3-13)

1.7-3 現象の所属する本体	● カイノ カケラ (赤-m 女6:3-6)	● カイジュウノネ ギザギザ (1.73 とも) (神-規男 4:6-17)	○ エントツノ アナ (小-竹男 4:1-10)
	○ エンパンシノ ヒカリ (赤-c 男6:3-12) ○ タキノ ミズ (赤-w 男6:3-14)	○ ウシノ チチ (自-r 女4:8-14)	○ カイジュウノ オト (小-長男 3:5-7) ○ コブタノ ワン (コ) (小-加男 4:1-10)
1.8 所属する職業、職場などの種類を規定する	○ ヒコウキノネ バイロット (赤-u 男6:5-26) ○ チョウトッキュウノ ウンテンシュ (自-n 男6:5-5) ● ビヨウインノ カンゴフサン (自-p 女6:1-4) ● オリヨウリノネ (食堂) レジイー (赤-w 女6:2-2)	○ ヨウチエンノネ センセイ (赤-x 女5:2-4) ● バスノ シャショウワサン (赤-q 女5:2-8) ● ショクトウノ オネエサン (赤-e 女4:9-12)	○ チカテツノ シャショウワ (小-竹男 4:1-4) ○ バスノ シャショウワサン (神-三男 4:0-26) ● ヒタリガワノ ミル (赤-i 女3:10-23) (注) 4.2.0
2.1 ものや場所の位置関係の規定	○ ニカイノサ ベッド (自-1 男6:0-7) ○ ムコウノ ヤマ (赤-u 男6:5-17) ● ハジッコノ カイダン (赤-m 女6:3-8)	○ カタホウ (の) ヒザ (赤-w 男5:3-8) ● マエノ ヘヤ (自-c 男4:7-11)	○ マエノ オニイチャン (神-三男 4:0-20) ○ カドノ ウチ (小-佐男 4:3-14) ○ トナリノ オウチ (神-鈴男 3:6-6) ● ヒタリガワノ ミル (赤-i 女3:10-23) (注) 4.2.0
2.2 ものの時の規定	○ マエノ アサガオグミ (自-d 女5:11-19) ○ ムカシノ オハナシ (赤-o 女6:1-21) ● ウンドウカイノ トキノネ ハナビ (赤-q 男5:11-10) ● オトトイノ ニュース (赤-c 男5:10-21) ● モクヨウビノ ロクハサン (赤-p 男5:11-13)	○ コンドノ ニチヨウビ (自-j 女4:7-10) ○ ジュウニジノ カネ (赤-p 女5:2-12) ○ ムカシノ ハナシ (自-p 男4:7-11) ○ ボクノ オニイサン トキノ ホン (自-s 男4:10-20)	○ カタホウ (の) ヒザ (赤-w 男5:3-8) ● マエノ ヘヤ (自-c 男4:7-11) ○ コンドノ ニチヨウビ (自-j 女4:7-10) ○ ジュウニジノ カネ (赤-p 女5:2-12) ○ ムカシノ ハナシ (自-p 男4:7-11) ● ヒタリガワノ ミル (赤-i 女3:10-23) (注) 4.2.0
2.3 ものの順序の規定	○ ツギノ アサ (自-h 女5:7-14) ○ アトノ ゼンブ (赤-o 女6:1-17)	○ ツギノ ページ (赤-p 女5:2-11) ○ シタノネ イモ (ウ) ト (赤-t 男5:1-1)	

2.4 数の規定	2.4-1 生物の数の規定	● <u>ニバンメノネ</u> オニイサン (赤-u 女5:11-11) ○ <u>ゴカイノサ</u> ヨンバンメ (赤-o 女5:1-6)	○ <u>ヒトリノ</u> オヒメサマ (赤-p 女6:2-12) ○ <u>サンニシノ</u> コドモ (赤-n 男5:2-6)	○ <u>フタリノ</u> オウジョ (自-j 女4:7-17) ○ <u>サンニシノ</u> コドモ (赤-n 男5:2-6)	○ <u>ヒトリ*</u> [一匹の] (注) シマウマ (赤-c 男5:10-24) ○ <u>ゴジエッセンチノ</u> アカチヤン (神-桑女4:10-15)	
		● <u>サイショノ</u> オハナシ (赤-L 女5:9-21)	● <u>ニヒキノ</u> ネコ (赤-j 女6:6-14)	● <u>ヒトリ*</u> [一匹の] (注) シマウマ (赤-c 男5:10-24)	(注) 助数詞の使いわけのできない、幼児もいる。	
2.4-2 具体物の数の規定	2.4-3 空間の数の規定	● <u>フタノネ</u> キヤラメル (自-f 男5:5-1)	○ <u>イッポンノネ*</u> [一足の] クチュ (自-j 女4:7-15)	○ <u>イッポンノネ*</u> [一足の] クチュ (自-j 女4:7-15)	○ <u>ミツツノ</u> メ (小-襟男4:9-11)	
		○ <u>イッケンノ</u> イエ (自-d 女5:11-20)	● <u>ヒトツノ</u> (ii) 5 ドウツエン (神-規男4:6-5)	● <u>ヒトツノ</u> (ii) 5 ドウツエン (神-規男4:6-5)	(注) おかしい。	
2.4-4 その他の数の規定	2.5 量の規定	○ <u>シユウノ</u> ヴチ [中] (自-i 女5:7-5)	● <u>ヒヤクノ</u> ヴエ (小-伊男4:3-7)	● <u>ヒヤクノ</u> ヴエ (小-伊男4:3-7)	(なし)	
3 修飾語が被修飾語の属性を規定する						
3.1 種類を規定する						
3.1-1 生物の種類	3.1-2 具体物の種類	○ <u>カキノ</u> キ (自-s 男5:9-6)	○ <u>バラン</u> ハナ (赤-t 男5:1-5)	○ <u>バラン</u> ハナ (赤-t 男5:1-5)	○ <u>オモチヤノ</u> テレビ (神-坂女4:0-6)	
		○ <u>ヒトツメコゾウノ</u> オバケ (赤-w 男6:3-19)	● <u>カキノ</u> ミ (神-桑女4:10-17)	● <u>カキノ</u> ミ (神-桑女4:10-17)	○ <u>クマサンノ</u> オモチヤ (小-新男3:10-3)	
3.1-2 具体物の種類		● <u>ヒマワリノ</u> ハナ (赤-u 女5:11-19)	● <u>オサルノ</u> オヤアン (小-村男4:9-6)	● <u>オサルノ</u> オヤアン (小-村男4:9-6)	○ <u>ヤキエウノ</u> オヨウフク (小-村男4:9-5)	
		○ <u>オモチヤノ</u> ボーリング (赤-p 女6:2-4)	● <u>キツネノ</u> ユウレイ (小-篠男5:1-11)	● <u>キツネノ</u> ユウレイ (小-篠男5:1-11)		

<p>3.1-3 空間の種類</p>	<p>○ウサギノ クニ (赤- o 女6: 1-11) ○シオミズノ プール (赤- D 男5: 11-9) ○ハタズ〔(ぐ)ミノ オヘヤ (自- a 男4: 9-1)</p>	<p>3.1-4 その他の種類</p>	<p>○ナマエノ* [文字の意] ツミキ (小- 山中女5: 0-17) ○クマノ ヨウチエン (赤- i 女5: 3-12) ○ハタズ〔(ぐ)ミノ オヘヤ (自- a 男4: 9-1) ○キユウショクノ オトウバン (神- 井男5: 0-4) ○ワラビノ* (行き) バス (小- 弘女5: 1-6) ○ハッパン フネ (自- j 女4: 7-19) ○デンキノ デンシャ (自- n 男5: 5-11) ○ギンノ カタナ (赤- v 男5: 1-2)</p>	<p>3.2 材料を規定する</p>	<p>○カゴノ ワナ (自- s 男5: 9-9) ○カミノ コンチャ (赤- r 男6: 3-5) ○ハッパン ハ (赤- n 男6: 2-12)</p>	<p>3.3 属性を規定する</p>	<p>○ポンモノノ オカアサン (赤- s 男6: 6-15) ○オナンノ コ (自- g 女5: 11-12) ○フルモンノ ハカセ (自- l 男5: 7-13) ○オデブチシノ オカアサン (自- o 女6: 1-4)</p>	<p>3.3-1 生物の属性</p>	<p>○オナンノ コ (自- n 男5: 5-15) ○オトコノ コ (赤- q 女5: 2-16) ○ミドリノ ヒコウキ (小- 永男4: 4-13) ○ピンクイロノ クサ (神- 錦女4: 5-21)</p>	<p>3.3-2 具体物の属性</p>	<p>○ビンクイロノ レッシャ (自- n 男5: 5-11) ○ミドリノ ヒコウキ (小- 永男4: 4-13) ○ピンクイロノ クサ (神- 錦女4: 5-21)</p>	<p>3.3-3 その他の属性</p>	<p>○ホントノ フエ (小- 佐男4: 3-15) ○アカノ クレヨン (赤- a 女3: 10-16) ○ホントノ フエ (小- 佐男4: 3-15) ○アカノ クレヨン (赤- a 女3: 10-16)</p>
<p>3.1-4 その他の属性</p>	<p>○ウサギノ クニ (赤- o 女6: 1-11) ○シオミズノ プール (赤- D 男5: 11-9) ○ハタズ〔(ぐ)ミノ オヘヤ (自- a 男4: 9-1)</p>	<p>3.2 材料を規定する</p>	<p>○カゴノ ワナ (自- s 男5: 9-9) ○カミノ コンチャ (赤- r 男6: 3-5) ○ハッパン ハ (赤- n 男6: 2-12)</p>	<p>3.3 属性を規定する</p>	<p>○ポンモノノ オカアサン (赤- s 男6: 6-15) ○オナンノ コ (自- g 女5: 11-12) ○フルモンノ ハカセ (自- l 男5: 7-13) ○オデブチシノ オカアサン (自- o 女6: 1-4)</p>	<p>3.3-1 生物の属性</p>	<p>○オナンノ コ (自- n 男5: 5-15) ○オトコノ コ (赤- q 女5: 2-16) ○ミドリノ ヒコウキ (小- 永男4: 4-13) ○ピンクイロノ クサ (神- 錦女4: 5-21)</p>	<p>3.3-2 具体物の属性</p>	<p>○ビンクイロノ レッシャ (自- n 男5: 5-11) ○ミドリノ ヒコウキ (小- 永男4: 4-13) ○ピンクイロノ クサ (神- 錦女4: 5-21)</p>	<p>3.3-3 その他の属性</p>	<p>○ホントノ フエ (小- 佐男4: 3-15) ○アカノ クレヨン (赤- a 女3: 10-16) ○ホントノ フエ (小- 佐男4: 3-15) ○アカノ クレヨン (赤- a 女3: 10-16)</p>		
<p>3.1-5 人物の属性</p>	<p>○ウソコノ ゴハーン (赤- g 女4: 8-3) ○オヒル (自- 1 男5: 7-7) ○マンガ (赤- k 男5: 11-19)</p>	<p>3.2 材料を規定する</p>	<p>○ナマエノ* [文字の意] ツミキ (小- 山中女5: 0-17) ○クマノ ヨウチエン (赤- i 女5: 3-12) ○ハタズ〔(ぐ)ミノ オヘヤ (自- a 男4: 9-1)</p>	<p>3.3 属性を規定する</p>	<p>○ウソコノ ゴハーン (赤- g 女4: 8-3) ○オヒル (自- 1 男5: 7-7) ○マンガ (赤- k 男5: 11-19)</p>	<p>3.3-1 生物の属性</p>	<p>○オナンノ コ (自- n 男5: 5-15) ○オトコノ コ (赤- q 女5: 2-16) ○ミドリノ ヒコウキ (小- 永男4: 4-13) ○ピンクイロノ クサ (神- 錦女4: 5-21)</p>	<p>3.3-2 具体物の属性</p>	<p>○ビンクイロノ レッシャ (自- n 男5: 5-11) ○ミドリノ ヒコウキ (小- 永男4: 4-13) ○ピンクイロノ クサ (神- 錦女4: 5-21)</p>	<p>3.3-3 その他の属性</p>	<p>○ホントノ フエ (小- 佐男4: 3-15) ○アカノ クレヨン (赤- a 女3: 10-16) ○ホントノ フエ (小- 佐男4: 3-15) ○アカノ クレヨン (赤- a 女3: 10-16)</p>		

(注)4.2 とも  
\* 絵の話が  
前に出てい  
るので。  
(注)形動と  
も

#### 4 修飾語が被修飾語の成立に関与する度合の強いものの

4.1 位置関係の成立に関する	○ヤマノ チョウジヨウ (自-0 男6:3-12) ○スイチュウメガネン (赤-u 男6:5-22)	○キノ カゲ (赤-p 女5:2-9) ○タクシーノ シタジキ (自-t 男5:3-15) -9)	○オウチノ マワリ (神-三男4:0-9) ○ヨウチエシノ トナリ (神-佐女3:7-8)	(年長、年中、年少とも多し)
	○オニワノネ ワラ (自-d 女5:11-13) ●テンキノ テンセシノ クモノスノ ウエ (自-i 男6:5-15) ●イズモサンテ イウ オウチノ トナリ (自-s 女6:3-7)	●ショウテンガイノネ ウエ (赤-q 女5:2) ●ヒマワリグミノ ソバ (神-伊男4:1-25) ●ヤマノ テッペン (小-岡女4:8-24) (注)	○キノ ヴエ (小-佐男4:3-21) ●カゴノ ナカ (赤-o 男4:2-4) ●ヤツツノ ジカン (自-k 男3:4-2)	(注)1.7-1とも
4.2 時間関係の成立に関する	○ナツヤスマニノ オワリコロ (赤-o 女6:1-7) ●キエウショクノ ジカン (赤-m 女6:3-11) ●オマツリノ ヒ (自-a 男5:11-6)	●オトナノ ジカン (小-永男4:4-7) ●ヤスマニノ ヒ (小-伊男4:3-4) ●オヤツツノ ジカン (自-k 男3:4-2)	○オヤシユミノ ヒ (神-高男4:4-3) ○ヨルノ (ウチ) (神-古男4:5-7)	(注)2.2とも
	○ドヨウビノ ツギ (赤-s 男6:6-16) ○オバケノ キュウタロウノ アト (自-b 男6:0-19) ●セノ ジュンバン (赤-m 女6:3-20) ●サイゴン トコ (赤-j 女6:6-10) (注)	○アナタノ バン (赤-p 女5:2-13) ●ショウガッコウノ アト (赤-b 男5:6-6) ●アイウエオノ ジュン (小-久女4:7-27)	●ヒバリサンノ* (ひばり組の) ツギ (赤-u 女3:7-3) ●ウサギサンノ アト (赤-i 男4:2-8)	(注)4.6とも
4.3 順序関係の成立に関する	○オトナノネ コノクライ (自-k 男5:8-18) ●バイエルノ キイロイ ホンノ ナナジュウゴバン (赤-m 女6:3-7) ●アッチノ ホウノネ ゴジュウヨンバンチノネ ニケンメ (自-v 女5:10-6)			
4.4 数量関係の成立に関する				

4.5 抽象的な  
ことばの成  
立に関係す  
る

4.6 形式名詞  
の成立に關  
係する

○テッポウノ カタチ (自-b男5:9-3)  
○オバケノ ャク (自-g男5:8-6)  
○オトウバンノ シルシ (自-D女5:11-1)  
○ママノ カワリ (赤-j女6:6-13)

4.6-1 とこ  
(注)  
の成立に關  
係する

○タイラン トコ (自-k男5:8-8)  
○バーテイノ トコロ (赤-w男6:3-17)  
○エンチョウセンセイノ ウチノ トコ  
(自-j男5:7-3)

4.6-2 こと  
(注)

○ダイタイノ コト (自-g女5:11-8)  
○ネズミノ コト\* (赤-v男6:1-13)  
○ヒコウキノ コト\* (赤-y男5:7-4)

4.6-3 とき  
(注)

○ムカシノ トキ\*〔昔〕 (赤-o女6:1-11)  
○ゴハシノ トキ (自-g女5:11-4)  
○タイフウノ トキ (自-b男5:9-3)  
○ミツツカ ヨツツン トキ (赤-k女5:8-12)

4.6-4 ほう、  
他

○ウサギノ ホウ (自-g男5:8-21)  
○ガイシャノ ナマエノ ホウ (赤-t男6:0-3)  
○ミギノ ホウ (自-t女6:4-8)

○オトウバンノ チ〔シ〕ルシ (自-r女4:8-13)

(注)「ママ」  
は形式名詞  
として4.  
6-4に入れ  
てもよい。

○アシノ マン (マ) (赤-t男5:1-9)  
○モトノ スガタ (小-濯女4:8-20)  
○モトノ トオリ (神-大女4:6-20)

○オウダンホドウノ トコ (赤-r女4:10-6)  
○トラン トコ\* (自-b男5:1-10)  
○ウシロノ トコ\* (自-n男5:5-16)  
○サッキン トコ (赤-k女5:3-8)  
○トナリノ シタノ トコ (自-c男4:7-11)  
○オジイチャンノ コト\* (自-t男5:3-8)  
○ジエットノ コト\* (赤-k女5:3-11)

○ダイタイノ コト (自-g女5:11-8)  
○ネズミノ コト\* (赤-v男6:1-13)  
○ヒコウキノ コト\* (赤-y男5:7-4)

○ニチヨウノ トキ\*〔日曜日〕 (赤-k女5:3-5)  
○オマツリノ トキ\*〔お祭〕 (自-j女4:7-1)

○カメノ ホウ (自-b男5:1-11)  
○アラカワノ ホウ (自-t男5:3-4)

○ドウアツツノ (ナマエ) (赤-p男3:7-10)  
○シヨウジン トコ (小-藤女3:10-10)  
○サッキン トコ (小-福男4:2-15)  
○ナツヤスミノ トコ (ことの意) (神-三男4:0-22)

○ウチヤギノ コト\* (神-村女3:6-7)  
○オカアサンノ コト\* (神-古男4:5-29)  
○クジャクノ コト\* (赤-i男4:2-9)

○アカチャンノ トキ (神-高男4:4-10)  
○ヨン〔る〕トキ\*〔夜〕 (神-寺男4:4-3)  
○ナツヤスミノネ トキ\*〔夏休み〕 (神-三男4:0-22)

○オツカイノ\*〔にい、く〕 ホウ (神-鈴男3:6-6)  
○マエノ ホウ (神-佐女3:7-15)  
○サカノ ホウ (赤-1男4:3-3)

4.7 行為の対象を示して成立に關係する

○オニンギョウノ	キセカエ (赤-r 女5:10-5)	○ヤマノボリノ	キヨウソウ (自-h 女4:7-13)	○カズノ	オベンキヨウ (小-佐男4:3-8)	(年長多し)
○ムシノ	カンサツ (赤-m 男5:10-8)	○ネズミノ	マネ (自-v 男4:7-11)	●ゴハシノ	ゴヨウ (赤-u 女3:7-1)	
○ママン	オツツダイ (赤-p 女6:2-8)	○ナツヤスミノ	ベンキヨウ (赤-d 男5:4-4)	●スポツカーノ	レンシェウ (赤-d 男4:2-7)	
●ミンナノ	セワ (赤-a 男5:9-4)	●ヤクルトノ	ハイタチユ (袖-渡男4:6-2)	●オトウサンノ	オテツダイ (赤-s 女4:3-1)	
●アジャババノ	マネ (赤-f 男6:3-8)	●チノ	ケンサ (小-川男4:10-13)			

5 修飾語と被修飾語が同格の關係になっているもの

○オトモダチノ	テッチャンテ イウヒ	●オトモダチノ	トモチャン (神-桑女4:10-2)	○オニンギョウノ	サンダーバード (神-渡女3:10-3)
ト (赤-f 女5:9-9)		●トッキュウノ	ヒカリゴウ (小-土男4:7-10)	○ヤキュウノ*	[選手の] ヒューマクン (神-三男4:0-32)
○ニホンノ	オバケノ	キユウチャン (赤-o 女6:1-9)			
●ネコノ	クック (自-o 女6:1-26)	●セカエニンギョウノ	バービーチャン (赤-L 女5:9-5)		

## 第5章 文末の形式と用法

日本語の文では文末まで話（文）がすすまないと、話し手（書き手）の言わんとすることが通じないと言わわれているように、文末の機能は、文の陳述面に重要な役目を果している。文の陳述をあらわす文末の部分をどこからにするかには、説が分かれているが、ここでは述語の自立語の部分からあとということに一応しておく。そして、動詞述語文、形容詞（形容動詞）述語文、名詞述語文のうち、動詞、形容詞（形容動詞）、名詞の自立語を除いた部分をここでは主として取り扱うこととする。

これまでにあげた幼児の資料を使って、幼児がどのような文末で話しているかをみていくことにする。

この調査の資料は調査者と被調査者の問答形式なので、平叙文が大部分で、疑問文、命令文は（注）

（注） 国立国語研究所報告 18『話しことばの文型(1)——対話資料による研究』(1960)のうち、宮地裕担当の部分によると、文末に話し手の表現意図があらわるとして、その表現意図を以下のように分類している。



平叙文はこのうち、判叙表現のうちの判断既定の表現をあらわす文末をもつ文と一致するし、疑問文は判断未定の表現と要求表現のうち、未分化的表現、質問的表現をあらわす文末をもつ文と一致している。また、命令文は命令的表現を文末にもつ文と一致するし、感嘆文は、詠嘆表現と応答表現を文末にもつ文と一致している。『話しことばの文型(1)』は大人の文末形式が調べてあるので、幼児の文末をみる場合の参考になる。

直接話法の中に出でてくる用例はか多少あるが少ない。感嘆文としては、「あ！」などの驚きの表現その他あるが、主として「うん」「そう」などの応答形式であるので、ここでは取りあげない。また、あらたまつた場面なので平叙文には相当複雑な形式がみられるが、日常会話に比べると、文の種類が少ないと思われることなどによって、自由の場での調査資料を補充した。「自由の場」での調査の幼児については前にも述べたが、W男は5歳2～3か月で年長児相当、I女は4歳0～5か月で年中児相当、M女は3歳1～4か月で年少児相当である。自由の場といつても、これら幼児の母親に委託してことばを採集したので、同一の遊びの場での録音ではないし、問答形式のやり方もまざついて、任意のものである。以下「自由の場」と呼び使用する。なお、文末が補足形式になっているものについては「補足文の構造と用法」として、付録で扱う。

## 5.1 平叙文の文末形式

平叙文の中で一番よく使用している文末は（文というべきか）、いわゆる一語文である。たとえば、「ニュース」「オニイシャン」「オミセ」「オリガミ」「カケッコ」「ボク」「イツツ」などのような名詞、代名詞、数詞などの一語からなるものである。この体言一語からなるものと、体言一語相応とここでは見なしている並立関係をもつもの、連体修飾語をもつものと、これら体言に助詞のついた省略文、すなわち、助詞「とか」「に」「も」「だけ」「まで」などが文末にきている形式を省くと、幼児の平叙文の文末形式には次のものがある。

- (1) 肯定形、否定形——ワカル、ワカラナイの類。
- (2) 現在形、過去形——アル、アッタの類。(1)(2)が以下の活用の部分につくのはいうまでもない。のちに例示する。
- (3) 動詞、形容詞、形容動詞、体言一語からなるもの。——ミル、タノシイ、スキ、花の類。
- (4) (3)に文末助詞のついた形式——アソブノ、カワイイカラ、キレイネ、花ヨの類。
- (5) (3)に助動詞のついた形式——タノシソウダ、イルンデス、スキナンダ、花ダの類。
- (6) (3)に助動詞と文末助詞のついた形式——アルクンダヨ、ヒカレチャッタンドヨ、オンナジダナ、花ダヨの類。
- (7) 動詞に補助動詞のついた形式——補助動詞としては次のようなものがある。
  - ① て(い)る、てある、ちゃう(てしまう)、てくる、ていく、ておく(とく)、てみる
  - ② てくれる、てあげる、てやる、てもらう
- (8) (7)に助動詞のついた形式——オシエテモラウンダ、オソクナッチャッタンド、カレチャウンデス、オボエテマセン。(注)
- (9) (7)や(8)に文末助詞のついた形式——モッテルヨ、ウタッテクレルノ、ハイッテッタヨ、カッテクレナインダモノの類。
- (10) 特殊な文末表現形式のもの——
  - ① 受身、可能、使役、希望の助動詞——ホメラレル、カゾエラレル、ツケサセル、ナリタイ

(注) 鈴木重幸『日本語文法・形態論』麦書房(1972)(373ペ~)によると、すがた——~ている、~てしまう、~てある もくろみ——~てみる、~てみせる、~ておく やりもらい——~てやる、~てもらう、~てくれる、と三種の命名のもとに分けている。

などの類。

②補助動詞の複合した形式——イレテキチャウ, アゲテミテル, ツレテイッテクレル, モラッテルの類。

③「なる」のついた形式——形(形動) +なる, こと・よう・そう+なる, 動否+なる——オオキクナル, ヨマナクナル, ジョウブニナル, オモシロイコトニナルの類。

④～たりする, ～たりして～——シマッタリスル, ツクッタリシテアソブの類。

⑤～とする, ～と言う, ～と思う——タベヨウツスル, イイナートオモウの類。

⑥とき・とこ・こと+ある, ～こと<sup>(も)</sup><sub>(が)</sub>できる——ネボケタトキアル, キエルコトモデキルの類。

⑦～てもいい, ～ばいい, ～ほうがいい——アソンデイテモイイ, マガレバライ, ツクッタホウガイイの類。

⑧その他

(11) (10)に文末助詞のついた形式

(12) 文末助詞——使用数の多いものからあげると, 次のようになる。の(ん), よ, から, もの(もん), けど, ね, わ, よね, って, っけ, さなど。

このような観点からみていくと, 章末の, 「平叙文の文末形式」(1)の用例のようになる。これらは使用例のほんの一部である。以下に表の解説もかねて幼児がどのような文末を使用しているかを述べてみる。

### 5.1-1 平叙文の文末形式(1)

動詞述語文では, 動詞一語からなる形式を幼児は使うが, 中では現在形文末をよく使う。年長では「シラナイ」「ワカラナイ」の否定文を肯定文よりよく使っている。問答形式の調査によるのだろう。しかし, 年少は否定文は少ない。一語以上よりなる肯定文では, 現在形が年齢を問わず多く, 中でも年長に多い。現在形, 過去形ともに助詞なしの文末形式より, 終助詞「の」のついた形式が多い。特に過去形文末に「の」のつくものをもっと多く使っている。年中, 年長共にそうだが, 年少では現在形に「の」のつく文末形式を多く使っている。「自由の場」の調査でも, 「の」のつく形式が多いのは変わらないが, 文末に「よ」のつく形式が問答形式の場合より多くなっているのが年齢を問わずきわだってめだっている。会話の部分が多いからだろうか。特に女児が多い。(文末の形式のみでなく, 「問答形式」と「自由の場」の場面のちがいとことばの関係を調査することも今後に残された課題である。)

補助動詞のついた形式では「～て(い)る」というものごとの継続を示す文末がよく使用されているが, これは現在形に終助詞「の」のついた形式が年齢を問わず多く, 過去形は少ない。ついで完了をあらわす文末の「～てしまう」の東京方言では「～ちゃう」という文末が多く使われている。これは年齢を問わず終助詞「の」が過去形についた形式「～ちゃったの」をよく使っている。「～てある」という結果が残っている状態をあらわす文末や「～ておく」「～てみる」という試みをあらわす文末は全体に少ない。「～てある」は現在形, 過去形とも年中, 年長で二例ずつ, 年少は補助資料に一例。「～てみる」は年長三例, 年少一例, 年中は補助資料にあった。「～ておく, ～とく」も年齢を問わず少ない。「自由の場」でのほうがこれらはよく使われている。しかし,

「～てみる」は少ない。移行をあらわす「～ていく」「～てくる」は過去形が多く、助詞「の」のついた形で文末に使っている。「～てきたの」のほうを「～ていったの」よりもよく使っている。「自由の場」では「～ていく」は現在形が多く、「～てくる」は過去形、現在形とも同じくらい使われていた。

他人に何かをしてあげたり、他人から何かをしてもらう「やりもらい」の関係を示す補助動詞では、「～てくれる」の形式を現在形で使っている。終助詞「の」のつく形式もある。「～てもらう」の形式は過去形+「の」でいくらか使っているが多くない。しかし年齢を問わず使っている。「～てあげる」「～てやる」は用例が少ない。「自由の場」では逆に「～てあげる」「～てやる」がこれらの中ではいちらか多い。

助動詞では現在形「の(ん)だ」に助詞「よ」とか「もの(ん)」のついた形式と、助詞のない形式、過去形「たんだ」に助詞「よ」と「って」のつく形式とか、ていねい体「ます」、過去形の「ました」のつく文末形式が年齢を問わずある。「自由の場」では「んだ」の現在形が多い。「ます」「ました」もよく使っている。

形容詞では一語の形式と一語以上よりなる文の形式のうち、助詞のつかない形式が多く、現在形では助詞のつく形式がめだち、中では「の」が多い。また「～がいい」という形式もある。形容詞の否定形は現在形では「ない」があるが、年少では過去の否定形はみられなかった。形容詞に助動詞「んだ」のついた文末もある。

形容動詞は現在形で語幹止のもの(スキ、ダイジョウブ)が多く、終助詞「の」、助動詞「だ」のつく形式もある。「で～」の過去形の「でした」のつく文末が年長に一例あった。「ダイキライデシタ。」

体言に助動詞のつく形式では、一語に助詞「の」「よ」のつく形式の「だの」「だよ」「なの」の文末がいくらかあった。ていねい体の「です」は少ない。過去形では「だった」がいくらかあった。

助動詞文末では推量、推定の助動詞の「～だろう」「～らしい」があるが非常に少ない。「らしい」は年長児に一例見られたに過ぎない。意志を表わす文末「～う」も少ないが見られた。

受身、可能、使役の文末表現は、『話しことばの文型(1)』で言われていることと似ている。つまり「～案外に少なく、使役の表現のごときはまったくあらわれなかった。～受身では、いわゆる「迷惑の受身」(「なぐられる」「おこられる」の類)がほとんどであり、また受身にくらべれば可能表現の数のほうがずっと多かった～」ということである。幼児の場合は可能表現の数のほうがずっと多いとはいはず、どちらかというと「迷惑の受身」のほうが多かった。「せる」「させる」の使役の助動詞の使用はむずかしいようである。文中にも使われている場合があるので、文末にあらわれなかったから幼児は使用できないとは必ずしもいえないが、少なく誤った使用をしている。使役動詞は使っている。

可能の表現には動詞「できる」とか可能動詞「読める」などによる表現もあるが、ここではとりあげていない。のちに「～こともできる」の例をあげておいた。希望の助動詞「～たい」の文末もある。

## 5.1-2 平叙文の文末形式(2)

平叙文の文末形式(1)では、補助動詞や助動詞からなる文末について述べた。終助詞のつく形式としては、主として断定の気持を軽く表現すると言われ、非常によく使う「の」のついた用例をあげており、接続助詞が文末につく形式などはとりあげなかった。そこで、ここでは、(1)で述べられなかったより細かく言いわける文末形式を取りあげ、幼児がどのようにこれら陳述形式を使用しているかをみていくことにする。章末「平叙文の文末形式(2)」に使用例の一部をあげておいた。

こちらは以下のように意味で分けてみた。  
(注)

### (1)原因・理由の意をあらわす文末

終助詞の「～から」「～もの」「～けど」「～のに」のつく形式がある。この中では動詞、形容詞、名詞述語文に「から」の文末のつく形式、「～もの」のつく形式が多い。「～もの」のつく形式は文頭に「だって」「でも」「どうしても」がついて文末と呼応している。「～のに」の文末は少ない。「自由の場」に一例。

### (2)推定の意をあらわす文末

「～だろう」「～らしい」「～そうだ」という推定の助動詞とか、「かもしれない」という連語などからなっている。助動詞については(1)で述べた。これらの使用は非常に少ない。補助資料で補って種類はふえたが一、二例である。年少・年中では使えない文末形式もある。「～きがする」「～ようとする」「～と思う」という文末形式は中ではわりに使っている。

### (3)意志の意をあらわす文末

意志の意をあらわす言い方としては、動詞のままで、たとえば「行く」「あそぶ」あるいは助詞をつけて「行くぞ」などを、イントネーションで文末を強めて言うことによって成立するが、ここではそれはとりあげなかった。助動詞「～う」のつく形式は(1)で述べた。その他の文末としては「～いい」のつく消極的意志表現形式がある。「～ればいい」「～てもいい」「～のがいい」など。この形式は年少ではほとんど使っていない。

### (4)断定の意をあらわす文末

平叙文の文末形式(1)のところに助動詞の例をあげておいた。ここには主として連語から成っている断定の意をあらわす文末形式をあげる。たとえば、「～なければならない」「～しょうがない」「～ことがある」これらもやはり表現が微細になってくるので、使用している幼児は少なくなる。

### (5)伝聞の意をあらわす文末

助動詞「そうだ」であらわす形式は見当らなかった。「～だって」という他のことを伝える形式は年少ではあまり使わず、年長に多かった。直接話法の入る「～」ッテ ユッタンダッテ」という言い方も年長には多かった。この言い方は女児に多く、よく使う話しぐせの幼児もいた。ていねいな「～ですって」の形式を使用した幼児は採集例のうち、用例にあげた(赤一p女)のみであった。

### (6)変化の意を表わす文末

(注) 『話しことばの文型(1)』(前出) および、「小説会話文における表現類型形式用例集」(話しことば研究室資料・謄写印刷)を参考にし、適宜つけ加えた。

これには「なる」のつく文末をあげた。年少には形容動詞につく「キレイニ ナリマシタ」という文末形式が少ない。形容動詞の少ないことは前に述べた。否定形+なるの形式は年少には補助資料の用例一例であった。その他用例は少ないが、「～ことになる」「～のようになる」「～そうになる」の例をあげておいた。ともに使用例が少ない。

#### (7)その他

一つの動作をあげて、他のものを言外に暗示する言い方「～たりする」文末はよく使っている。しかし、そのあとに動詞のつく、たとえば、「オヤマツクッタリ シテ アソンダ」という言い方は年長にしか見られなかった。

可能の意をあらわす「～こともできる」の言い方は、年長、年中では補助資料にみられたが、年少では使っていない。

## 5.2 疑問文の文末形式

疑問文の文末や命令文の文末をみると、イントネーションが重大な役目をしているので、それを記録しなければ調査したことにならないが、疑問文文末には?印をつけ、命令文文末はそのままにして取り扱った。問題の残るところである。

そのようにして見た疑問文の文末形式を章末に幼児の使用例としてあげるが、以下の形式を使用している。

#### (1)説明を求める質問形式

これは疑問詞を使う質問形式であるが、疑問詞「どうして?」「だれ?」の形式から、それに助詞のつく形式もある。その他、「なに?」という意味で、ぞんざいな言い方「ん?」「え?」などの形式もある。これらは用例にあげなかった。用言の現在形、過去形が文末になっていて昇調の形式、終助詞「の」の昇調の形式、いわゆる疑問詞の「か」、その他「だ」「だい」「いい?」などのつく形式がある。「の」の昇調の形式を一番よく使っている。

#### (2) yesかnoの判定を求める質問形式

これは疑問詞を使わないで、主として「そうだ」とか「そうでない」とかの答えを求める質問形式である。「の」の昇調の形式が多い。その他、ここではあげていないが、体言の昇調の形式、体言に格助詞その他の助詞のついた形式がある。すなわち「やま?」とか「いなかで?」「ひるやすみだけ?」。その他、副詞、形容詞、接続詞の昇調の形式、「ずっと?」「これ 大きい?」「それから?」などの形式もある。これらは省略文とも言えるが、疑問文の文末の一種でもある。「～か?」の形式が少なく、あっても直接話法で使用しているのは問答形式の調査のためである。

#### (3)自問自答的質問形式

これは自分で自分に問い合わせている形式の自問的質問形式と、自分で自問自答している形式と、自問的間投詞的形式の三種の形式がある。

3.1 自問的質問形式には(1)疑問詞のつくものと(2)つかないものとがある。疑問詞に推量の助動詞「だろう」のついた文末形式は年少にはみられなかった。「～かな」の形式がこの種の形式の中ではどちらかというとよく使われている。年少は使えないわけではないが用例は少ない。その他「～っけ」「～かしら」があるがともに少ない。「～かしら」は年少にはない。(2)疑問詞のつかぬ

ものでは、やはり「～かな」がどちらかというと多い。「～かしら」は女児のみである。やはり年少ではない。

3.2 自答的質問形式では、「～か」「～のか」が用いられているが、知っている答を質問形式でいう言い方で、一ひねりした表現なので使用例は少ない。

3.3 自問的間投詞的形式では「～なんだっけ」がある。次に話すことを考えている場合もあるが、「あのね」「うんとね」などと同じように話しぐせの場合もある。年少では使用する幼児が少ない。「なんだっけ」を話の間に入れるには、いくらかのゆとりが必要なのだろうか。

#### (4)念押し文末形式

「～でしょ」「～だろう」「～じゃない」の昇調の文末形式である。「～でしょ？」の言い方が多い。これもやはり話しぐせの幼児がいる。話す場合倒置形の文を好む幼児がいるのと似て、「～でしょ？」を口ぐせ的に使う幼児がいるのである。疑問形の「？」印をつけるより昇調の「↗」印でも使用したほうがいいように、質問をするわけではなく、自己の知っていることを念押しの形で話の中で述べるという形式である。時には自分の話を理解してくれないのをなじる調子も「～じゃない」のほうには含まれている。「じゃない」の形式はどちらかというと年長のほうがよく使用する。

#### (5)選択の文末形式

この形式はこんどの調査では、「問答形式」で一例、「自由の場」で一例しか採集できなかった。幼児が使用しないのか、この形式を使用する場面が少なかったのか、これだけではわからない。

#### (6)その他

6.1 さそいの表現の文末形式としては、「～か」 6.2 すすめの表現文末としては「～ないか」「～かい」「～ないかい」の形式があったが、すすめの表現文末は年少児からは採集できなかった。否定形を使ってのひねった表現はむずかしいのだろう。

### 5.3 命令文の文末形式

幼児の命令文の文末形式としては、次のようなものがある。章末に用例をあげておいた。

#### (1)命令形

動詞の命令形とそれに終助詞のついた形式である。調査が問答形式のため直接話法の場合にしか出ていない。年少児は直接話法の形が少ないので採集例がない。「自由の場」では年齢に関係なく多い。

#### (2)たのみ表現

「～して」「～してくれ」とていねいな「～してください」などの文末形式を使用している。消極的なたのみの表現「～してくれない」とか「～しないで」の否定形をもった言い方は年少に少ない。疑問形の文末と同じである。たのみ表現としては、「ちょうどい」「ください」などの表現もあったり、動詞に「～たら」のついた「待ってったら」などの言い方もあるがこの調査では少なかったし、用例としてあげなかった。

#### (3)さそい表現

助動詞「～う」、ていねいの形式の「ましょう」「～ばいい」その他たとえば「泊っていけば」

の「ば」などの文末の言い方もあるが少ない。

#### (4) すすめ表現

「～ていらっしゃい」「～なさい」「～てごらん」「～ておいで」などの形式があるがこの調査では直接話法の場合以外では使われていないので少ない。「～なさい」「～ごらん」以外は女児のみ使っている。

### 5.4 まとめ

以上をまとめてみると、幼児は幼稚園年齢の時期には、基礎的な文末形式が使えるようになってきていることがわかる。ただ、より細かく言いわける種々の文末表現については、まだ不十分であり、幼児により差がある。<sup>(注)</sup>また、大人と比べてみると、たとえば、次のような文末が幼児に出てこなかった。場面にもよるので、使えないと言い切ってよいか疑問ではあるが。

はじめる しつづける しあげる してみせる しかける しかかる べきだ きまつてい  
る はずだ わけだ など。

また、文末は述語の部分であるが、主語との対応ができていなかったり、使役形、可能形、自動詞、他動詞のまちがいがあつたりする例もみられた。以下に気づいた例をあげる。(陳述副詞のまちがい、「あげる」「くれる」「もらう」のまちがいは「単文の構造と用法」の章にあげた)

#### 1) 受身形・使役形をまちがえる

○オオカミガネ アカズキンチャン 「アワー」ッテ タベラレチャウノ。(小少一原女3:7-29)「食べちゃう」の意。

○シカレタ コト ナイ。(神中一遠男5:1-8)  
「叱られた」の意。

○コッカラ カケテネ ソイデ コッカラ シ[ひ]カラレチャッタノ。(小少一竹男4:1-8)  
「引かれちゃった」というところ。

○ママネ ヨルネ オソトニネ オバアチャンニー オイダシタ。(自長-h女5:7-9)  
「追い出された」の意。

○ライオンガネ オナカ スガ スイテネ アルイテ キタノ。ソシテ オナカガ スイテ アル  
イテ キタラネ シマウマガ イタカラ 「コリヤ オレサマノネ オヒルゴハンニ イイ  
ヤ」ッテ オイカケタノ。(赤長-m女6:3-24)

お腹を「空かせて」の意。

○ソウシタラネ モウネ フルイ オウチデネ スンダ ホウガ イイナト オモッテネ ミン  
ナデネ イッショニ クラセラレタノ。(赤長-u女5:11-15)  
「暮らしたの」の意。

#### 2) 可能形をまちがえる

(注) 大久保愛『幼児言語の発達』(前出)に、一幼児の発達であるが、助動詞、助詞の初出時期が述べてある。それによると、ここで述べた助詞、助動詞は、3歳過ぎには一部分を除き、使用まちがいは問題にしないとすると、もう十分に使用できているのである。助動詞でおくれるのは、「らしい」4歳、「ぬ」4歳2、「ず」5歳3、「べし」6歳などである。誤用についても述べてある。

「れる」「られる」がついて可能形になる。それにひかれて動詞の可能形「よめる」「いける」ですむところをまちがえる。

○ヨメラレナイ。(小中一関男5:0-7)

○パンヤサンノ トコヲネ マガッテネ イケライル トコロ。(自長-d女5:11-13)

可能形を使うとよいと思うところに使わない例もある。

○ヒヤクサンジュウイチマデ カゾエルノヨ。(小中一伊男4:3-7)

「数えられる」の意。

### 3) 自他の使用をまちがえる

○チビッチャイ ネコ オリランナイノ。ヒトリデ；ダカラネー オッキイ ネコガ オリラシテ アゲルンダヨ。(神中一渡男4:6-13)

前の「降りられない」にひかれて「おりる」(自動詞)を使役形にしようとしてまちがえている。他動詞の「降ろす」にするところ。

○ウルトラマンガネ ココカラ ムネニ マリイノナンカ ツイテンノネ。(神中一遠男5:1-19)

他動詞の「つけてる」となるところ。

### 4) 形容詞活用のまちがい

(a)○アマイーク ナイ。(神少一古男4:5-6)

○トオイク ナイヨ。(小中一藤男4:9-9)

(b)○タカ一イカッタヨ。(神少一狗女4:3-5)

○ウンドウカイガ タノシイ一カッタ (赤中-x女5:2-3)

(c)○イナカノ オバチャンチハ トオクイノ。(神少一佐女3:7-5)

○カンジガ トオクイト オモッチャウ。(神少一三男4:0-32)

など。興味深い使用をしている。

(注)

---

(注) 高橋太郎が「動詞の形態」「形容詞の形態」というテーマで研究している。そこでは文末以外のそれらの形態も調査の対象になっている。『国立国語研究所年報19』(1968)に中間報告がある。

### 5.1-1 平叙文の文末形式(1)の使用例

(注) [ ] = 「自由の場」の幼児の例

文末形式	用			例			備考
	年	長	中	年	少		
補助動詞が文末にいる状態。	[~て(いる)]	○コッヂニモ タイヨウ テンム。(自-f 女5:8-11)	○~ヨウサイノ フクヲ ヌッテル。(赤-p 女5:2-2)	○~ヤキガ クチャ タベテル。(神-坂女4:0-9)	○~ヤキガ クチャ タベテル。(神-坂女4:0-9)	肯定形	
		○ボクハ アンマリ ミテナイ。(自-b 男6:0-21)	○マダ ヨンデ ナイ。(自-d 女4:11 -12)	○ナンニモ ミテナイ。(神-勝男3:7 -6)	○ナンニモ ミテナイ。(神-勝男3:7 -6)	否定形	
	[アンナ コト シテ タベテル。](W男-41-272)]	【アラー コビトサンガ ソンナ トコ ロテ オスワリ シテル。(1 女-21 -598)】	【オトウサンモ オトウサンモ ミテル。(M女-51-376)】				
	[~ちやう] 動作の完了をあらわす。	○ソレ ツカマエヨウト オモッタラ ニケチャッタノネ。(赤-o 女6:1-14)	○ジドウシャト コノ クマガ ブツ カッチャッタ。(赤-a 男4:11-10)	○タイソウガ ハジマッチャッタヨ。(神-場男3:10-11)	○タイソウガ ハジマッチャッタヨ。(神-場男3:10-11)	(過去形多 し)	
		【テツノ タカラ ミンナ イレチヤウ ズ。(W男-31-207)】	【キヤボッポ コワレチ チヤウヨー。(1 女-32-461)】	【テッポウデネ オトウサン ウッチャ ウノ。(M女-41-308)】			
	[~てある] 動作がのつている状態。	○ホシニ カイテ アル。(赤-c 男6:3 -17)	○ウラニハ フネガ イッパイ オイアン。(自-t 男5:3-5)	【ココモ アカチャン オフロッテ カイ、 カイテ アルカラネ。(M女-31 -191)】			
		【ジドウシャハネ メノ マエニ オイ テ アルノ。(W男-42-330)】	【チャント ソケテ アルワヨー。(1 女-12-69)】				
	[~ていいく] 動作の移行の状態。	○ヨウチエン ツレテ イクノ。(自-f 女5:8-3)	○~カメノ ホウガ ジーット ヨソミ シナガラ ノボッテッタノ。(赤-b 男5:6-11)	○ドウロヲ ワタッテ イクノ。(小-矢女4:0-7)			
		●ネコハ ツレテ イカナイモン。(赤-i 男6:2-8)	●モッテ イカナカッタノ。(小-山女4:5-18)				
	[ジドウシャニ ツンデ イクノ。](W男-51-366)]	【~ワタシノ ホウヘ モッテ イクノ。(1 女-42-361)】	【~アルイテ イクノ。(M女-31-178)】				
動作の移行の状態。	[~てくる] 動作の移行の状態。	○ミズ アゲレバネ ノビテ クンノ。(自-r 女5:7-18)	○~ベンキヨウトカネ ャッテ ヨレニ カエッテ クルノ。(赤-f 女4:10-1)	○~エイガカンニ イッテネ クマサン ヤナンカ ミテ キタ。(神-三男40-22)	○~カイシャニ イッテ カエッテ コナカッタ。(自-r		

ナイ。(赤-b 男6:5-2)	女4:8-1)	【テンセンノアレガ ナガレテ クン ノ。(W男-52-436)】	○～ナンニモ デテ コナイン。 (神-寺 男4:4-10)	○～ナンニモ デテ コナイン。 (神-寺 男4:4-10)
〔～おく、と く〕 試みをする状 態。	○ソウイウノアツメテネ ハコン ナ カニ イレトクノ。(赤-u 男6:5-7)	○オカネガネ タマンナイ ヒトニネ コノコウ イウ ハネネ ココニネ ツデ [(け)トクノ。(自-t 男5:3-12)]	【ジャ イッテ クル。(1女-21-136)】	【ジャ ロウカノ トコニ オイテ ク ルネ。(M女-51-391)】
	【～テンチ テツラ チョット カタメ テ オクノ。(W男-51-389) ○ヨンデ ミル。(自-b 男6:0-27)	【ナミガ キタラ スク オクチ エテ オクノ。(1女-51-398)】	○ツツカラナイヨウニ ハンドル ツケ テ オクノ。(M女-22-149)】	○ノコリハネ ノコシテ オクノ。(神 -高男4:4-2)
〔～みる〕 試みる気持 ち。	○ボクガ ャッテ ミルヨ。(W男-42 -342)】	○ボクガ ャッテ クレルカラ。(自 -f 女5:8-2) ○ヤスマシン トキハ ャッテ クレナイ ノ。(赤-w 男6:3-11)	○ゴボンモ ャッパリ ヨンデ クレ ル。(赤-f 女4:10-9) ○～ガムカネ アメカネー ソレシカ ネー カッテ クレナイ。(赤-x 女5: 2-9)	○～ゴボンダケ ヨンデ クレル。(神 -寺男4:4-16)
	〔～くれる〕 話し手が主語 となる主体か ら何かをうけ ること。	【イレテ クレナイノ。(W男-41-277) ○トキネ オカエリニ ゴボン ンデ クダサッタリ スル。(赤-p 女6 : 2-5)】	【キシャボッポ ミニ オジーチャン ツレッテ クレル(カラ-)ラ。(1 女-32-476)】	○ヨルネ オジイチャンジヤ ナクッ チャ オハナシシテ クレナイ。(神 -三男4:0-35)
〔～もらう〕 他のものから 何かの利益を うけること。 〔～やる〕 主語となる主 体が他のもの に何かをする こと。	○セセンセイニネー イロイロ オシエ テ モラウノ。(赤-o 女6:1-6)	○ママニネ ツケテ モラッタノ。(自 -r 女4:8-20) ○カッテ モラワナイ。(自-h 女4:7-1)	○～カズ カゾエレ, レナイケドネ ュ ウコ オネエチャンニネ カゾエテ モラウノ。(神-折女4:3-8)】	○～カズ カゾエレ, レナイケドネ ュ ウコ オネエチャンニネ カゾエテ モラウノ。(神-折女4:3-8)】
	○ソノ コラネ オウチデネ カッテ ヤッタノネ。(赤-s 男6:6-16) 【アンナグッテ ヤルゾ。(W男-12-94)】	○～ナンカ カッテ イッテ (ア)ル ノ。(自-n 男5:5-3)	○～コンド モッテッテ ヤル。(小-金 男4:1-7)】	○～コンド モッテッテ ヤル。(小-金 男4:1-7)】

<p>〔～あげる〕 ●～アタシガネ イツモ ネカシ ネカシテ アゲルノネ。(赤-E女5:8-35)</p> <p>〔～あげる〕 主語となる主体が他人に何か役に立つことをする。〔やる〕より〔やる〕よりもいいな言い方。</p>	<p>〔～んだ〕 断定の意をあらわす。</p> <p>〔～んです〕 断定の意をあらわす。〔やる〕より〔やる〕よりもいいな表現。</p>	<p>〔～〕 シテ アゲル。(赤-n男5:5-12)</p> <p>〔～〕 ナオシテ アゲル。(W男-11)</p> <p>〔～〕 -22)】</p> <p>〔～〕 ナオシテ アゲル。(W男-51)</p> <p>〔～〕 -434)】</p> <p>〔～〕 ナオシテ アゲル。(M女-51)</p> <p>〔～〕 -51-389)】</p>	<p>○ガッコウノ ホン カッテ アゲタ ノ。(自-n男5:5-12)</p> <p>○オシエテ アゲル。(M女-4:1-4)</p> <p>○オシエテ アゲナイ。(小-長男3:5-10)</p> <p>【ワタシガ ダッコ シタゲルワ。(M女-51-389)】</p>	<p>○ジャ コンド ウチニ クル トキニ ハ オシエテ アゲル。(小-神女4:1-4)</p> <p>○オシエテ アゲナイ。(小-長男3:5-10)</p> <p>【ワタシガ シタゲルワ。(M女-51-389)】</p>
<p>2 助動詞</p> <p>からなる文末</p>	<p>〔～〕 ナガイカラ マガルン ダヨ。(W男-11-4)】</p> <p>○カアトムシガ キノ ウエニ イルシ デス。(自-s男5:9-4)</p> <p>〔～〕 フクロガ アルンデス。</p> <p>〔～〕 (W男-22-162)】</p> <p>○カメハ ノロイケド ウサギハ ピヨ ンピヨン ハネマス。(赤-s男6:6-19)</p> <p>○ゼンブハ、オボエテマセシ。(赤-s男 6:6-14)</p> <p>〔～〕 コワレマシタカラ、チヨット ナオシマス。(W男-51-397)】</p>	<p>〔～〕 ナガイカラ マガルン ダヨ。(W男-11-4)】</p> <p>○カアトムシガ キノ ウエニ イルシ デス。(自-s男5:9-4)</p> <p>〔～〕 フクロガ アルンデス。</p> <p>〔～〕 (W男-22-162)】</p> <p>○カメハ ノロイケド ウサギハ ピヨ ンピヨン ハネマス。(赤-s男6:6-19)</p> <p>○ゼンブハ、オボエテマセシ。(赤-s男 6:6-14)</p> <p>〔～〕 コワレマシタカラ、チヨット ナオシマス。(W男-51-397)】</p>	<p>○～モスコシ オッキク ナッタラサー オコズカイ タメルンダ。(自-f女4: 9-7)</p> <p>○～ナンノ マンガ〔で〕 モ シラナイ ンダ。(自-r女4:8-11)</p> <p>○イ (イ) ンダヨ。(赤-m男4:10-5)</p> <p>【コノネー コッカラネー クーキ ヤアケルンダヨネ。(1女-22-172)】</p> <p>○オニンギヨウデネー オカアサンゴッ コデネ アソアンデス。(赤-x女5:2 -3)</p> <p>【ワタシガ ヤルンデスヨー。(1女-21 -126)】</p> <p>○ハッパト ママト オニイチャン [が] イマス。(赤-p女5:2-1)</p> <p>○～ツバメヲ トリニ イキマシタラ ハシゴ、ヲ カケマシタガ トドキマ セシ。(神-桑女4:10-17)</p> <p>【アカイ ジドウシャニ ノリマス。(1 女-12-78)】</p>	<p>○ウチニネー オカシ アルンダ。(小 -神女4:1-4)</p> <p>○オニイチャン フジバシヤサン イッ テ コンドハ ピット コナイン ダ。(神-三男4:0-4)</p> <p>●～ ウマハネ ツヨインダヨ。(赤-b 男4:0-15)</p> <p>【チツチャイ オネエサンガ イルンダ ヨ。(M女-22-160)】</p> <p>○～「マダ ヨウジュ」 ジヤナクテ 「マ ダヨウズ」 ト ナルンデス。(小-原女 3:7-17)</p> <p>○アラガ (ミテ) カラ〔はつきりしな い〕 オウチニ イレマス。(神-玉男4: 0-8)</p> <p>○サッキノー ヤギノ コエジャ一 アリマシエン。(神-古男4:5-25)</p> <p>【セツケン オカリシマスヨ。(M女- 31-195)】</p>

〔へだろう〕	●「ン……スコシハ ワカルダロウヨ。(赤 -g 男5:10-19)	○「ユウガタマテ カカルダロ。」(赤-s 男5:6-16)	●「ウシロムキニ ナッサンダロ。」(赤-d 男4:2-8)
〔へらしい〕	○ヨク ワカシナカッタラシイ。(赤-d 男6:4-3)		ほとんど使 わない。
〔受身〕	●マチガエテモ イイカラ ユッチャオ ウ。 (赤-g 男5:10-19)	○「イカセテ アゲヨウ。」(赤-p 女5:2 -12)	○ジャ モウ レコード カケ(ヨ)。(小 -原女3:7-24)
〔主体(主語に なるもの)が 他からある動 作をうけるこ と。〕	【ボクモ イコウ。 (W男-21-131)】	【コレ ヨコニ シテ ミヨウヨ。 (1 女 -42-340)】	【ndon バイキン ツケチャオウ。 (M女-32-261)】
〔可能〕	○イタズラ シタ トキハ シカラレ ル。 (赤-c 男6:3-3)	○ナンカネ モツトネ スグ ホメラレ ル。 (赤-m 男5:10-3)	○マタネ オウチ ツクロウト オモツ タラネ トバサレチャックノ。 (小-神 女4:1-14)
〔主体が何かを 「する」ことが できること。〕	○イッパイニ ナル クスリ ノマセヨ レチャッタ。 (自-b 男6:0-2)	○ホイクエンニ キテテ ハネラレ チャッタノ。 (自-r 女4:8-20)	●アタシガ ゴハシ コボス トキ オ コラレルヨ。 (赤-a 女3:10-11)
〔使役〕	【ジドウシヤ オキバマテ ハコバレタ ル。 (W男-52-431)】	○ブッタッテネ オコラエナイヨ。 (自 -t 男5:3-8)	○ソイデ ミ ミランナクッタ、 ミラン ナカッタノ。 (神-三男4:0-12)
〔主語になる主 体が動作を他 人にさせること。〕	○カズハネー ヒヤクマテ カゾエラレ ル。 (赤-w 男6:3-18)	○カベ ヌケラレルヨ。 (赤-d 男5:4 -11)	可能動詞の 例はあげな い。
	●～シマウマガタクサン イルカラ ネー オッカケランナイノ。 (自-r 女 5:8-13)		
	【ボク ナンカ カンタンニ ツケラレ ル。 (W男-32-265)】		
	●～ジャックノ コトネ 「カクレナサ イ」 ッテ イッテ カクレサシタノ。 ( 赤-y 男5:7-9)		便役動詞の 例はあげな い。
	○オカネ イッパイ ツカワシテ クレ ルカラ。 (自-r 女5:7-2)		
	【ソレトモ マタ ツケサセルヨ。 (W男		

-41-291)]

[希 望]

- オーキク ナッタラ オマワリサン  
ナリタイ。(自-s 男5:9-12)
- オライツテ ワケジヤナインダケド  
ネ オリタクナカッタノ。(自-g 女5:11-6)
- 【ソト イキタイナー。(W男-31-200)】

[希 望]

- ハットロールカーノ ウンテンシュニ  
ナリタイ。(赤-c 男5:3-4)
- 【オネエチャンノ ナカマニ ハイリタ  
イ。(M女-32-243)】

### 5.1.2 平綴文の文末形式(2)の使用例

文末形式	用			例			備考
	年	長	中	年	年	少	
[～から]	○オニイチャント スグ ケンカシチャ ウカラ。(赤-m 男5:10-3)	○ハシベネ ニチヨウビネ ガムナンカ カッテ クレルカラ。(赤-t 男5:1-1)	○ヤサシイカラ。(神-古男4:5-1)	○ヤサシイカラ。(神-古男4:5-1)	○ダッテネー コレガ アルカラ。(自 レ)	○ママ ヤサシイカラ。(赤-o 女5:1-1)	○マタ 多
1 原因・理由の意 をあらわす文末	○ボク アシガ ハヤイカラ。(赤-c 男 6:3-4)	○ママ サシイカラ。(赤-o 女5:1-1)	○ミズ アゲテ ナカッタカラ。(赤-1 男4:3-5)	○ドロボウ ミタ コト ナイカラ。(赤 -s 男5:6-5)	【オナベガ アルカラ。(M女-31-193)】	○アノネ ウマガ スキダカラ。(赤-b 男4:0-7)	
[～だから]	○クサガ ダイスキダカラ。(自-s 男5: 9-8)	○ニユースバッカラリタカラ。(自-p 男 6-10)	○テンキヤダカラ。(自-e 女4:8-12)	○ウチノ オハバアチャン トショリタカ リ。(小-神女4:1-10)	○キレイダカラ。(赤-p 女5:2-5)	○アノネ ウマガ スキダカラ。(赤-b 男4:0-7)	(名詞多し)
[～のだから]	●セセンマデ クロウシテ タメシ ダカラ。(自-y 男6:0-10)	●シャリン シャリンガ アルカラ シヤハ ウゴクンダカラ。(神-村男4: 3-27)	○ブー(ユ)ガネ オワッタ トキ コウエン イッハーハーイ アソンデ キチャウンダカラ。(神-場男3:10-7)				

〔～だるもの〕	○アールモ アル トコロダモン。(自 -v 男5:7-5)	○ダッテ オミセダモン。(自 -u 女5:5)	○オバアチャンナンテ トショリダモ ン。(小-神女4:1-10)	不満の意を こめて體由 を述べる。
	○ダッテ カイアツダッテ ポク スキ ダモン。(小-w 男6:3-15)	○アタイ スキダモン。(赤-j 女4:7-1)	●～ボクサ チャント ハンドル ギュット モッテルカラ ヘエキダモ ン。(赤-d 男4:2-7)	甘え訴える 気持もある。
〔～のだもの〕	○～ナニカ ゴハシ タベナイト スグ オコルンダモン。(自-b 男6:0-8)	○ダッテ フサケッコ シン [するの] ダモン。(自-k 男4:8-3)	○ウルトラセブンニ ナッテ カイジュ ウ ヤツツケリュンダモン。(小-金男 4:1-6)	口ぐせの子 多し。
	〔～つて言う のだもの〕	●「ヨウチエンデハ、ヨマナイデ」ッテ イウンダモン。(小-M 男5:8-17)	●ダカラ ヤッパシ チガウ! オモッ テンダケドネ。(赤-q 女5:2-12)	はっきりい ってしまわ ない。 不満の気持。
〔～だけど のだもの〕	〔～はずなの に〕	【 キ (木) カ アル ハズナノニナ。(W 男-11-12)】	●ソレハ シラサレナイ [書きない] シ ダケドナ。(赤-d 男4:2-5)	(少ない)
	〔～かもしれ ない〕	〔～か もしれ ない〕	●大きくなつた選手になるのかな? ソウカシレナイ。(赤-t 女4:4-7)	
〔～きがする〕	○ナシカ ドキドキッテ イウ キガ スル。(赤-m 男5:10-19)	○ナイケドネ オモッタ コト アルカ モ シレナイ。(小-鏡女4:7-10)	【ジシンノ オトカモシレナイ。(M女-41 -318)】	(少ない)
	○ネンド ナンカガ イチバン オモシ ロイト オモウナ。(赤-a 男5:11-11)	○ノリタイ キモチガ シタ。(小-押女 5:1-17)	○クマガ ネジュミヲ タベヨウト オ モッタノ。(神-宮男3:8-11)	(いくらか ある)
〔～と思う〕	○ロボットヲ ツクッテ ソウシテ ビー ヤツツケヨウト シタ。(自-1 男5:7-18)	○カワイイト オモウ。(赤-j 女4:7-8)	○オニガ キテネ オバアチャンヲネ ・タベヨウト シテンノ。(自-e 女4:8 -12)	動作、作用 が実現の寸 前にあるさ ま。
	〔～ようとす る〕	2 推量の意をあ らわす文末		

〔～そうだ〕	●シマウマヲ コロソウト シマシタ。 (赤-K男5:11-22)	○モウ スコシテ シ〔ひ〕カレソウダッタノ。(自-s男4:10-26) 6:1-20)	○ココノ (ハシ) ハ ワタシナケレバ ナリマセシ。〔物語〕(神-玉男4:0-6) 【シメテカナキヤーネ。(M女-31-205)】	許可の意を もつ消極的 意志表現。
	●ドウロニ デラネ トラックガ キ テネ ブッカリソウダッタ。(赤-G男 6:1-20)			
〔～(がいいい) (でもいいい) と思う〕	○ヨウチエンノ ホウガ イイト オモ ウナ。(赤-W男6:3-11)	○ココハ キレイニ セイリシテ オ カナキヤ。(W男-42-327)】	【ダカラ チャント ポタン ハメナ キヤ。(1女-12-60)】	○ゴハシ (アス) ハ ワタシナケレバ ナリマセシ。〔物語〕(神-玉男4:0-6) 【シメテカナキヤーネ。(M女-31-205)】
	●ドッヂモ イイト オモウ。(赤-G 男6:1-7)			
〔～(れ(ば)い い)〕	○キヨウハ キカナキヤ。(自-p男5:6 -10)	○コレ シッポ ツカマエレバ イイノ ニ。(小-有男4:7-15)	○ゴハシ (アス) ハ ワタシナケレバ ナリマセシ。〔物語〕(神-玉男4:0-6) 【シメテカナキヤーネ。(M女-31-205)】	許可の意を もつ消極的 意志表現。
	●～ミギ マワンナイデ コッチ マー スグ イケバ イイノ。(赤-o男6:2 -12)			
〔～(ても)い い〕	●～フツツ ダシテモ イイシネ ロク ネ ススメテモ イイ。(赤-J女5:8 -28)	○ゴハシ ナルマテ アソンデ イテモ イイノ。(自-r女4:8-13)	○アカチャンノガ イイヤ。(自-2男 5.8-10)	比較の意を もつ消極的 意志表現。
	●ウルトラマンノガ イイヤ。(自-2男 5.8-10)			

3 意志の意をあらわす文末

〔～ほうが〕	○オカアサンノ ホウガ <u>イイ。</u> (赤-w イモン。 (小-仔男4:7-5))	●ダッテサ オニイサンノ ホウガ <u>イ</u>	○テンショウラン イナカノ <u>(フ) クシ</u> マケンノ イナカノ ホウガ <u>イイ</u>	比較の意を もつ消極的 意志表現。 〃
〔～とこが〕	○ナニカ カッテ クレル トコロガ <u>イイ。</u> (赤-d 男6:4-2)	○コレダケシカ <u>ナイ。</u> (赤-a 男4:11 -5)	●アト ナイノ。コイダケツカ <u>ナイノ。</u> (赤-f 女4:2-6)	
4 〔～なければ いけない〕 〔～(て)しよ うがない〕 断定の意をあら わす文末	○チビタハネ ハケボウズテ イッポン シカ ケガ <u>ナイノ。</u> (白-t 男6:2 -17)	○コレダケシカ <u>ナイ。</u> (赤-a 男4:11 -5)	【カエラナケレバナリマセシ。 (M女-51 -354)】	
〔～ことがあ る〕	〔モウ キチャッタカラ ショウガナイ ヤ。 (W男-52-435)】	○コレハネ オハナニ ミズ ヤロウ トオモツタラネ キニ カレ チャッタカラネ ショウガナインダッ タノ。〔しょうがなかったの〕 (赤-j 女 4:7-9)	【～オカオダッテ ツケタッテ ショウ ガナイヨ。 (M女-11-10)】	
	●ソウスルト チガウ カジユウネ アバレダス コトモ <u>アンダ。</u> (赤-F 男5:9-10)	●イナカノ オバアチャント イナカ ノ オバチャン キタ コト アルン ダヨ。 (赤-a 女3:10-3)	●モット モット <u>(キチエ)ーク</u> ナツ チヤウ。 (白-b 女3:10-13)	
〔～になって しまう〕	●～オキヤクサンガネ ハハア ムカエ ルカラネ オチャ ノンダリネ ゴハ ンタベタリ オフロ ハイッタリシ テ クルカラネ オソクナッチャウ ノ。 (赤-1 女5:8-30)	○イヤン <u>ナッチャウ。</u> (白-k 男4:8-8)	●ウチノ オカアサンネーエ キッサテ ンネ ヒラクンダッテ。 (赤-q 女5:2 ダッテ。 (白-b 女3:10-7))	当然だとい う気持。
〔～する)も んだ〕	【アカチャンガ ツカ <u>(イ)</u> モンダ。 <u>コ</u> ンナノハ; (W男-21-112)】		●ソレデネ モッテ キテ クレタニ 他のことを見 紹介する。	

5 伝聞の意をあらわす文末	<p>○タカラ ツレテ コレナガッタンダ<sub>ー</sub> テ。 (自-8 女5:11-12)</p> <p>○オキカラ カケンノガ オソカ<sub>ー</sub> タンダ<sub>ー</sub>。 (自-d 女5:11-30)</p> <p>●「ナニヲ ソンニニネ カンガエテネ イルノ」<sub>ー</sub>テ ユ<sub>ー</sub>タンダ<sub>ー</sub>。 (自-1 女6:4-4)</p> <p>〔～って言っ たんだって〕</p> <p>〔～のですっ て〕</p>	<p>○モモタロウ ッテ ナヲ ツケタ<sub>ー</sub> ダ<sub>ー</sub>。 (ホ-1 男4:8-8)</p> <p>○「ヒトノミ シテ ヤエゾー」<sub>ー</sub> ンダ<sub>ー</sub>。 (神-狗女4:3-15) [物語]</p> <p>○フクヲネ ヒロゲテ ミテ ナキタシ チヤ<sub>ー</sub>タンデス<sub>ー</sub>。 (ホ-p 女5:2 -11)</p>	<p>「だつて」が 口ぐせのす もいる。女 児がよく使 う。</p> <p>直接語法の はいふ言い 方。年長の ほうが多い。 赤中 p 女の みがでいね い体。</p>
〔形容詞(形 動) + なる〕	<p>●ココマテ クルトネ トオク ナル。 (自-u 女6:3-5)</p> <p>○ミズ カケタラネ ウント ハナガネ ントネ ナガク ナ<sub>ー</sub>タノ。 (自-0 男6:3-13)</p> <p>○マッスニ ナ<sub>ー</sub>テ キレイニ ナリ マシタ。 (ホ-p 女6:2-16)</p> <p>〔否定形+な る〕</p> <p>●ツキニ カエレナク ナ<sub>ー</sub>チヤウ。 (自 -B 男5:7-14)</p> <p>○モウ ハインナク ナ<sub>ー</sub>チヤ<sub>ー</sub>タノ。</p>	<p>○ソシテネ オオキク ナンノ。 (神-秋 男3:11-6)</p> <p>○ソシテネー オッキク ナ<sub>ー</sub>タノ。 (神 -狗女4:3-17)</p> <p>○ソイテ マタ チイチャク ナ<sub>ー</sub>タ ノ。 (自-u 女5:5-11)</p> <p>●オテンキガ キレイニ ナ<sub>ー</sub>タノ。 (ホ 1 男4:8-13)</p> <p>○~イ<sub>ー</sub>タ コト ナイカ(ヲ) ワカシ ナク ナ<sub>ー</sub>タ。 (自-e 女4:8-6)</p> <p>○モウ ハインナク ナ<sub>ー</sub>チヤ<sub>ー</sub>タノ。</p>	<p>〔～つて言っ たんだって〕</p> <p>〔～のですっ て〕</p> <p>〔～ことにな る〕</p>
6 変化の意をあらわす文末	<p>●ママモネ オニイチヤンモネ オト ウサンガ〔も〕 イナク ナ<sub>ー</sub>タノ。 (赤 -t 女4:4-15)</p> <p>●オモシロイ コトニ ナル。 (自-a 男 5:11-18)</p>	<p>○ソイテネ オオキク ナンノ。 (神-秋 男3:11-6)</p> <p>○ソシテネー オッキク ナ<sub>ー</sub>タノ。 (神 -狗女4:3-17)</p> <p>○ソイテ マタ チイチャク ナ<sub>ー</sub>タ ノ。 (自-u 女5:5-11)</p> <p>●オテンキガ キレイニ ナ<sub>ー</sub>タノ。 (ホ 1 男4:8-13)</p> <p>○~イ<sub>ー</sub>タ コト ナイカ(ヲ) ワカシ ナク ナ<sub>ー</sub>タ。 (自-e 女4:8-6)</p> <p>○モウ ハインナク ナ<sub>ー</sub>チヤ<sub>ー</sub>タノ。</p>	<p>〔～つて言っ たんだって〕</p> <p>〔～のですっ て〕</p> <p>〔～ことにな る〕</p>

〔～ようになる〕	〔～オミズヲ アケタラ マタ モトノヨウニ ナッタノ。(赤- j 女6:6-19)	〔～オキク ナッテネ ハタラクヨウニ ナッタノ。(赤- 1 男4:8-8)〕
	〔～そぞうになる〕	〔～トラックガ デテ ヒカレ ソウニ ナッチャッタノ。(赤-R 男5:11-16)〕
〔～たる〕	〔～たりする〕	〔～オトウトト オニゴッコ シタリスルヨ。(赤-a 男5:11-6)〕
	並立の意をあらわす。	〔～ガム モラッタリ シタノ。(自-m 男6:4-3)〕
〔～ことでも起きる〕	〔～オバケダカラ スーッテ スケダシテ イッチャウノ。ケエル コトモデキルノ。(赤-k 女5:8-15)〕	〔～オヤスマニダッタラネー ドッカヘイッタリ シンノ。(赤-k 女5:3-4)〕
	可能の意をあらわす。	〔～ウチデモ ナラッタリ シタノ。(赤-b 男5:6-5)〕
〔～の〕	〔～の〕	〔～ミズノ ナカヘ、ネ モグル コトモ デキルノ。(神-規男4:6-11)〕
	説明を求める質問形式	〔～ナシテ ノカレ ナンダカ ワカル? (I 女-12-86)〕
5.2 疑問文の文末形式使用例		
文末形式	用	例
年	長	年 中
1 (～用言)	〔～マグマタイシ ドコニ スンデルト オモウ? (赤-F 男5:9-14) 〔カギ ドウシタ? (W男-52-445)〕	〔～ナシテ ノカレ シッテル? (自- r 女4:8-8) 〔～コレハ ナンダカ ワカル? (I 女-12-86)〕
〔～の〕	〔～センセイネ イツ ウマレタノ? (赤-u 男6:5-20) 〔ナシテ ウソツクノ? (W男-32-245)〕	〔～ドウシテ カイテ ココ サンッテ カイテ アルノ? (赤-d 男5:4-16) 〔～ドウシテ センセイサ キク ヤクナノ? (神-ヰ男5:0-28) 〔ドンナ ツミキガ アンノ? (I 女-41-296)〕

〔～か〕	〔～のか〕	○「ドウイウ ナマエニ シマスカ？」 (自- <u>u</u> 女6:5-18)	●「モモタロウサン ドコニ イクンデ」 スカ？」(赤- <u>e</u> 女4:9-7)	○「ダレデスカ？」(小-矢女4:0-15)
		【デンキハ ドウ シマシタカ？ (W男 -51-377)】	●「ドウヤッテ ハイルノカ」(赤-i 女 5:3-7)	○「ナンダ？」(小-千女4:2-8)
〔～た〕	〔～いい～〕	●「ドコマデ ッツイテンダヨ？ (赤-M男 5:8-14)	○コレ ナンダ？ (赤-m男4:10-8)	●コレ ナンテ イウ ジダ？ (赤-d 男 (小-柳男4:8-8))
		【コレハ ドコダ？ (1女-21-565)】	○ソレカラ ドウ イケハ イーンダ？ (赤-m男4:10-8)	○「ダレダイ？」(神-佐女3:7-21)
〔～か〕	〔～の〕	〔～だい〕	【ドウヤッタラ イイノ？ (1女-31- 203)】	○ナンチュ イエバ イイノ？ (神-三男 4:0-37)
		〔～の〕	●「ナンダッテ イイ？」(11-m女6:4 -14)	○ドッカラデモ イイノ？ (赤-p女5:2 -8)
2 yes か no	〔～な〕	〔～の〕	●ミタ コト ナイ？ (赤-i 男6:3 -11)	○ボクンチノ オカアサンニ イウノ？ (自-b 男5:1-9)
		〔～な〕	【ハシゲタブヒン モウ イッコ ナイ ノ？ (W男-11-7)】	●コレ オトモダチダッタノ？ (神-永 男 4:1-15)
〔～か〕	〔～かい〕	〔～の〕	○コッカラナノ？ (赤-r 女5:10-10)	●イチ ニ サンナノ？ (小-伊 男4:3 -21)
		〔～か〕	【デンワガ コワレタンデスカ？ (W男 -42-357)】	●「コノ グライカイ？」(赤-j 女6:6 -20)

[~いい]	<p>●イロンナ オハナシ デモ イイ ? ○[ヤーババシ ツカッテ イイ ?] (自-b)</p> <p>(ホ~a 男5.9-19)</p>	<p>●[イッショニ イッテモ イイデスカ ?] (赤-e 女4:9-7)</p> <p>【タシチ イッテ イイ ? (1女-32-246)】</p>	<p>【タベテ イイ ? (M女-21-113)】</p> <p>【スイカ オカワリシテモ イイデシヨ ? (M女-21-116)】</p> <p>【サキニ タベテモ, イイタロウ ? (M女-12-67)】</p>	<p>消極的質問。 ていねい体 全体に少な い。</p>
[コシナ イーバイ タシテ イイノ ? (W男-11-6)】	<p>●[ミッチャン シンテモ イイノカ ?] (ホ~x 女5:6-1)</p>	<p>【ママ ソトヘ イッテ イイデシヨ ? (W男-12-89)】</p>		
[~いいのか] [~いいの?]				
[~いいで しょ]				

[疑問詞のつ くもの [~だざろう]]	<p>●「ナニ ハイテンダロウ ?」(ホ~o 男 6:2-15)</p>	<p>●アレ ドカカラ キタンダロウ ? (ホ ~b 男4:7-12)</p>	<p>●カメ ドウシタンダロウ ? (ホ~ホ 4:10)</p>	<p>【ドシテ コッカラ テテ クルンダ ロ ? (W男-11-13)】</p> <p>○アト ソレカラ ナニカ テテクルカ ナ ? (ホ~t 男6:2-18)</p> <p>●ドウ ヤルノカナ ? (赤-r 男6:3-12)</p> <p>【ドレガ イチバンカナ ? (1女-21 -571)】</p> <p>○ドノミチ トオッテ イクノカナ ? (ホ~ホ 男4:8-6)</p> <p>【ミチャント ダレニ シヨウカナ ? (M女-11-23)】</p>
3 自問 自答 [~のかな]	<p>●「ナニ カナ ? (ホ ~ホ 男 3-12)</p>	<p>●ドウヤルノカナ ? (赤-r 男6:3-12)</p> <p>●シマウマガ ナンカ ユッテンノカ ナ ? (ホ~t 女6:4-20)</p> <p>【ドレ ドウ ナッテンノカナ ? (W男 -52-441)】</p>		
[~のかな] [自問 自答 的質問 形式]				

〔～のかな〕	○「 <u>ナニ</u> ャッテンノカネ？」(自-b 男 6:0-25)	○テ <u>ナンカ</u> カッタンダッタッタ？ (自-n 男5:5-12) 【 <u>ドコ</u> イクンダッタッタ？ (1 女-32 -259)】	● <u>ナニ</u> シタッタ？ (赤-d 男4:2-4)
	〔～だっけ〕	○～ <u>ナニ</u> カイシユウダッタ？(自-n 男6:5-11) 【ホウチヨウハ、ドレダッタ？ (W男-21 -147)】	● <u>ナニ</u> オハナシタッタ？(小-市男 4:5-5) ●ドウイウンダッタ？(小-久女4:7 -25) 【 <u>ドコ</u> へ イッタノカシラ？ (1 女-32 -256)】
〔～かしちら〕	(2)疑問詞の～ かぬもの 〔～かな〕	○クマガネ、ネズミカナ？(自-u 女6: 5-27) 【カギ ボケットニ イレテ アルカ ナ？ (W男-52-444)】	○アルイテル トコカナ？(赤-s 男5:6 -14) 【シロイトガ ナイカナ？ (1 女-42- 362)】
	〔～のかな〕	●オナカガ スイテタノカナ？(赤-g 男 5:10-16) 【ミツ スッタカラ シンジヤッタノカ ナ？ (W男-42-336)】	○ユッチャラ ヤルノカナ？(赤-m 男4 :10-9) 【マタ チガウ エキニ ツイテ トマ ンナイノカナ？ (1 女-42-390)】
〔～かね〕	(～かね)	○キンヨウビモ アッタッケ？(赤-a 男 5:9-11)	【ソウスレバ アレハ シヨクドウカネ (M女-21-120)】 【コウヤル モノダッタッケ？ (M女 -12-52)】
	〔～だっけ〕	○トチュウデネ サルニ アッタ (シ ダッケ？ (自-u 女6:5-19)	●マイカケ シテルンダッケ？(小-足男 5:0-2)
〔～のかな〕	○「 <u>ナニ</u> ャッテンノカネ？」(自-b 男 6:0-25)	● <u>ナニ</u> シタッタ？ (赤-e 女3:9-2)	●ココデ オハナシ スルンダッケ？(赤 -d 男4:2-2)
	〔～だっけ〕	○テ <u>ナンカ</u> カッタンダッタッタ？ (赤-n 男5:5-12) 【 <u>ドコ</u> イクンダッタッタ？ (1 女-32 -259)】	● <u>ナニ</u> シテ アソンダンダッケナ？ (赤-e 女3:9-2)

〔～かしちら〕	○レントゲンダケカシラ？(赤-x女6:2 -8)	●ラ、ソノツギハ、コ〔文字〕ダッケ？ (小-横男4:4-19)	【コレテ ヤルンダッケネ？(M女-12 -53)】
		○ソウネニカイグライシカヨンデナ イカシラ？(赤-p女5:2-14) 【ジドウシャノクニカシラ？(1女-41 -269)】	○ソウネニカイグライシカヨンデナ イカシラ？(赤-p女5:2-14) 【ジドウシャノクニカシラ？(1女-41 -269)】
3 2	〔～のか〕 自答的質問形式	○ソノエクマカ？(自-i男6:4-18) 【ホネガオレテルカブトカ？(W男 -42-343)】	○アレカ？(自-o男5:4-6) 【ワタシノバショカ？(1女-52-501)】
		○「ユメダッタノカ？」(赤-m男5:10 -20) 【イッパイイレナイノカ？(W男-41 -294)】	○ヨシ(コウイウイクンカ)？(赤 -m男4:10-8) 【チャイロツカッテルノカ？(1女-52 -522)】
3 3	〔なんだけ〕 自問的間接的 〔なんだけ かな〕	○～ユウギトネバーラガサイタトネ アトナンダッケ？(赤-u男6:5-3) ○ン～ナンダッケ？(赤-n男6:2-6)	○ソレカラネコレハナンダッケ？(小 -徳男4:5-9) ○ン…ナンダッケナンダッケ？(小 -海男4:3-3)
		○イチバンオモシロイノハナンダ ッケナ？(赤-m男5:10-13) ○ナシタッケカナ？(自-t女6:4-11)	○エート(アレ)ナンダッケナ？(小 -市男4:5-10)
〔～でしょ〕	○ソレカラネ一 ヘルテ	〔なんだけ たつけ〕 〔なんだけ たけな〕	○ナントネスウントエート ナンダッタッケ？(神-正男4:10-2)
		○ソイデノロサンハノソリトイク ○ココニネアナガアイテルデショ？	○ソイデノロサンハノソリトイク ○ココニネアナガアイテルデショ？

<p>4 金押し (相手の確認をことばで求めるわけでもない)</p>	<p>ショウ? (赤-x 女6:2-2) 【オイシイノハ タラデショ? (W男-21-140)】</p> <p>〔～ないで ○ココマテ コラレナイデショ? (自-d 女5:11-27) しょ〕</p> <p>〔～でしょ〕</p> <p>〔～だろう〕</p> <p>〔～じゃない〕</p> <p>〔～じゃないの〕</p>	<p>デショ? (自-u 女5:5-12) 【コレハ ココデショ? (I女-21-571)】</p> <p>○アラカワノ ホウマテ イカナイデショ? (自-t 男5:3-4)</p> <p>コレ ウサギガ ネンネ シテンデシヨ? (赤-遠男5:1-28)</p> <p>【オトウサンガ イッシュヨニ ン クルンデショ? (I女-32-475)】</p> <p>○サンリソシャトサ イマ ユッタダロ? (小-永男4:4-4)</p> <p>○キヲ ツケナイカラジャナイ? (自-r 女4:8-20)</p> <p>○カタツムリ ガッコウニ アンジャナイ? (小-海男4:3-9)</p> <p>○ダッテサ アタマヤナンカ ヒックンデサ アレ ネラレルジャナイ? (小-海男4:3-17)</p> <p>○～シマウマ キタカラジャナイノ? (自-s 男4:10-23)</p> <p>【ホラ アレ ソレ キュー ハンタージャナノ? (I女-41-281)】</p> <p>【タイヘンナ コトニ ナッテルジャナイノ? (M女-11-47)】</p> <p>○キノウ ミタジャナイカ? (小-加男4:1-5)</p> <p>○ソリヤ タイガーマスクッテ イウカラ カブルンジャナイカ? (赤-d 男4:2-12)</p>
------------------------------------	---	--

<p>〔～じゃない でしょ〕</p> <p>〔～のじゃな い、〕</p> <p>5 選択</p>	<p>●オリガミ ツクルモノッテサ ホント ニサ ソノ ツクルモノニ ソックリ シャナイデショ? (自-h 男5:7-13)</p> <p>●アノ アタイノ ウエサ ナンカ ヤンシャナイ? (自-e 男6:1-2)</p>	<p>○コッち ズーット イッタンジヤナイ? (自-s 男4:10-23)</p>	<p>○ヘビ タベタラ ネズミ タベタラ ネズミ ナル? ナラナイ? (赤-d 男 5:4-6)</p>	<p>【オカアサン マダ タベチャ イケナ イノ? イノ? (M女-42:453)】</p>
<p>6 その他 (さそ いの 表現 は か)</p>	<p>〔～か〕</p>	<p>○「オニセイバッニ イクカ?」(自-0 男6:3-9)</p> <p>●カイジュウ デンノネ オシエテ ア ギョウカ? (自-y 男6:0-13)</p> <p>【コン ナカニ テンキ ハイツテル コトニ ショウカ? (W男-41:314)】</p>	<p>●「カケッコ ショウカ?」(赤-i 女5: 3-15)</p> <p>●イチバン イイ ヒコウキ モッテ コヨウカ? (小-水男4:4-1)</p> <p>【ハイナツブル アデマシヨウカ? (1 女-52:530)】</p>	<p>●ドウブツエンノ オハナシ シタギョ ウカ。 (赤-t 女4:4-16)</p> <p>【ジユース ツクッテ キテ ヤロウカ? (M女-12:68)】</p>
	<p>〔～かい〕</p>	<p>○「ソノ カワリ オニタイジ ユクカ イ?」(自-u 女6:5-21)</p>		<p>○「ボクト イッショニ キヨウソウ シナイカイ?」(赤-s 男5:6-16)</p>
	<p>〔～ない,かい〕</p>	<p>○「ウチへ コナイカイ?」(自-t 男6: 2-8)</p>		

### 5.3 命令文の文末形式使用例

文末形式	用				例	備考
	年	長	年	中		
1 命令形	●「カボチャヲ モッテ コイ。」(赤-f 女5:8-11)	○「タベナッ。」(白-j 女4:7-11)	○「ソシナラネ イマコロ タベチャイナ。」(白-j 女4:7-10)			
	●「ヤツツケチャイナ—。」(白-f 男5:5-7)	○「シトリウツ〔壳〕チャヘー。」(白-r 女4:8-15)				
	○「カッチャン オキロヨ。」(白-k 男5:8-8)	●「モヤシニ イ・テ クルカラ イチゴヲ ノコシトクノヨ。」(赤-i 女5:3-7)	【ソット カクレチャエ。(M女-51-388)】	【オカアサンモ ナンカ ツクリナヨ。(M女-51-362)】		
	●「イソイデ イクンデスヨ。」(赤-s 女5:8-13)	【カチャン オシエテ アケナヨ。(1女-51-410)】				
	【ボー ボウリヨクハ ヤメロ。(W男-31-222)】					
	[~て]	○「アシタモ マタ キテ オドッテ。」 (赤-w 男6:3-22)	○「マッテー。」(赤-f 女4:10-13)	○モット キカシテ。(小-原女3:7-22)		
2 たのみの表現	【ホラ ウシロ ムイテ。(W男-42-348)】	【コレ モッテッテ。】(1女-21-567)	【ダレカ キテ アゲテー。(M女-51-369)】			
	[~てよ]	【ソレハ オイドイテヨ。(W男-42-341)】	【キエウキエウシャ ョンデキテヨ。(1女-21-106)】	【シマツトイテヨ。(M女-11-34)】		
	[~てね]	○「チヨット マッテテネッ。」(白-e 女5:7-6)	○「オルスバシ シテネ。」(赤-p 女5:2-11)			
	[~ないで]	【アノ ハコニ デンキ ハイッテルカラコワサナイテヨ。(W男-42-351)】	【ハナビ ヤラナイデ。ワタシノ アンテ; (1女-42-352)】	【カギ シメテ イカナイデ。(M女-31-176)】		
	[~てくれ]					
		●「ハヤク オヒルヲ ツクッテ クレ。」(神-桑女4:10-2)	【ミンナ ゴハシ ツクッテ クレー。(1女-11-21)】			

[～てくれよ]	●「オーライ マッテ クレヨー。」(赤-N 女5:7-18)	○「「チャット マッテ クレヨ。」(神-古 男4:5-26)
	【トイテ クレイ。(W男-21-105)】	
[～てくれない]	【チャット カタクシテ クレナイ?(W 男-51-389)】	
[～てくんな]	○オチャ イレテ クンナ。(赤-f 女5: 9-11)	
[～てください]	○「ヒトツ ワタシニモ オドラシテ クダサイ」(赤-w 男6:3-22)	●「ニガシテ クダサイ。」(小-闇女4:8 -26)
[～ないでく ださい]	【スグ コワレマスカラ、ツカワナイデ クダサイ。(W男-42-357)】	【オキヤクサン マダ ハイラナイデ クダサイ。(1女-51-418)】
[～てちょう だい]	●「チョキット キッテ チョウタイ。 (赤-s 女5:8-16)	●「オサカナト モッテ キテ チョウ タイ」(小-野女4:9-10)
	【イレテ チョウタイ。(W男-41-277)】	【タカチャン ミテテ チョウタイ。(1 女-21-565)】
[～う)	○「オマツリ イコウヨ。」(自-u 女6:5 -5)	○「カケッコ ショウ。」(赤-r 女4:10 -9)
3 さ い, の の 表 現	【ゴコカラ アソボウネ。(W男-12-71)】	【ジヤ ミーンナ カクレヨウ。(1女-52 -538)】
		【オウチヘ ハイリマシヨウヨ。(1女-12 -75)】
[～ましよう]		【ゴチソウ シマシヨウヨ。(M女-21 -102)】
[～ぱいい)	●「ネムツテ イケバ イイ。」(赤-h 女 6:6-12)	

4 す す め の 表 現	〔～ていいらっしゃい〕	〔「アソンデ イラッシャイ。」(神-鎌女 4:5-5)〕	〔ミンナ デテラッシャーイ。 (M女-51 -380)〕
	〔～なさい〕	○「ダイドコロヲ キレイニ シナサイ。」(赤-p女6:2-13) 【テッダッテ アゲナサイヨ。 (W男-41 -308)】 〔～ておいで〕	●「アズカッテネ クレルカラネ ソノ オウチへ イキナサイ。」(赤-q女5:2 -5) 【フタリデ オネム シナサイヨ。 (M女 -22-156)】 ○「ツイテ オイデ。」(赤-e女4:9-8) 【ツナイテ ゴラン。 (1女-42-383)】 【モット モット タカク ツンデ ゴランナサイ。 (1女-41-313)】

## 第6章 接続詞の用法

接続詞は、第3章で述べた「複文の構造と用法」のところで重要な役目をした接続助詞とともに、話を展開発展する上で欠くことのできない成分である。

第2章で幼児が日本語の文を習得していく過程を述べたが、その中では、文と文をつないで文章を構成していく接続詞が一番習得がおくれ、他の成分よりのちに出ていた。それが、5、6歳児になったらどんなふうな実態を示すようになるだろうか。この章でみていくことにする。この一部は、「幼児の接続詞の用法」として、国立国語研究所年報22(1971)に中間報告をした。

### 6.1 接続詞の種類

最初に、幼児がどんな種類の接続詞を使用するかをみる。以下にあげたパーセントは前章などと同じく年中、年長同一幼児、年少は神谷、小川幼稚園の幼児を対象にしている。ここでは、道順について話した用例も含めた。

接続詞の種類による使用数(%)

接続詞	年長		年中		年少		備考
	%	順位	%	順位	%	順位	
それで	56.3	1	57.8	1	48.1	1	条件・確定・順接(展開)(Aのことが原因でB。 それだから、そういうわけで)
それから	13.9	2	8.8	3	11.5	3	列叙・添加・順接(並列・累加)(論理的関係よりも時間的継起としてとらえろ。そのうえに、それに加えて、その次に、AまたB)
そして	8.6	4	19.0	2	17.3	2	並立・添加(累加)(その次に その結果、一方、それに加えて、それなのに)
そしたら	9.5	3	4.8	4	5.8	5	条件・仮定・順接(展開)(するとに近い。)
だから	3.6	5	2.6	6	2.7	7	条件・確定・順接(展開)(それ故に、AのようなわけだからB)
だって	2.5	6	3.1	5	6.4	4	条件・確定・逆接(理由)(なぜなら、しかし、だからといって)
だけど	1.0	8	1.3	7	1.8	8	条件・確定・逆接(反対)(だが、ですけど)
でも	1.7	7	0.6	9	0.6	9	条件・逆接(反対)(そうであっても)
そうすると	0.8	9	0.7	8	0.2	10	条件・帰結(展開)(当然の結果)
その他							
じゃ	0.8	9	0.4	10	4.2	6	条件・順接(展開)(話題の転換)
それなら	0.2		0.2		0.9		条件・仮定(理由・展開)(AというわけならB)
そうすれば	0.2		0		0		条件・仮定(理由・展開)
他	0.9		0.9		0.6		(それに、それでもっこ、じゃなくて、それだから、それでもなど)

〔注〕備考欄の接続詞の意味は、「接続詞のすべて」雑誌「文法」(昭45.10)とか、『分類語彙表』『辞典類』から適宜引用、私見を加えた。

接続詞の種類名であるが、表の名は代表型である。話すことばなのでいろいろの言い方をしている。「それで」は「それで、で、そで、ほいで、ふんで」。「それから」は「そっから、から」。「そして」は「して」。「そしたら」は「そうしたら、したら、そいだら」。「だから」は「そ

うだから、そだから」。「それなら」は「そんなら」。

次に順位をみると、「それで」が年長、年中、年少を通じて一番よく使用され1位。ついで年長では「それから」「そしたら」「そして」の順、年中、年少では「そして」「それから」の順になっている。年中では、そのあと「そしたら」が使われているのに対して、年少では、「だって」「そしたら」の順である。

上位を占める接続詞は順接的意味をもつものである。逆接の意味の接続詞は使用数が少ない。その中の上位は「だって」「だけど」で「でも」は年長はともかく、年中、年少は使用数が少ない。また、「そしたら」が年長ではよく使われているのに対して年中、年少では少なくなっている。しかし、これだけの使用数からはなんともいえない。補助資料を加えて調べてみると、「それで」の1位はかわらないが、「それから」「そして」は年長ではほぼ同数で、「そしたら」「だから」「だって」「でも」と続き、年中は「そして」「それから」「そしたら」「だって」「だから」、年少は「それから」「そしたら」「だって」「そして」「だから」「じゃ」と続いている。(注)

接続詞の主な種類とそれを使用した人数(%)

種類	年齢		38人中		35人中	
	年	(人)	年	(人)	年	(人)
それで		92.1		68.4		71.4
で	15	39.5	19	50.0	7	20.0
計	36	94.7	31	81.6	25	71.4
それから	26	68.4	19	50.0	18	51.4
から	3	7.9	2	5.3	1	2.9
計	26	68.4	19	50.0	19	54.3
そして	20	52.6	17	44.7	14	40.0
して	1	2.6	5	14.2	1	2.9
計	20	52.6	19	50.0	14	40.0
そしたら	25	65.8	12	31.6	8	22.9
したら、たら	3	7.9	4	10.5	0	0
計	26	68.4	16	42.1	18	22.9
だから	12	31.6	10	26.3	9	25.7
だって	10	26.3	13	34.2	15	42.9
だけど	7	18.4	5	13.2	4	11.5
でも	9	23.7	3	7.9	1	2.9
そうすると	3	7.9	3	7.9	1	2.9

(注) 国立国語研究所報告8『談話語の実態』(秀英出版、1955年)には大人が話すことばで使用する接続詞の用法別使用数があがっている。(161ペ) 順位をみると「それで」「だから」「で」「それから」「でも」「じゃ(あ)」「だけど」「ですから」「そ(う)して」「だって」「そうすると」「そ(う)したら」「しかし」などとなっていて、「それで」の1位はかわらない。

## 接続詞の個人別の使用状況

名前	年 長 (赤羽幼稚園)	文節数	名前	年 中 (赤羽幼稚園)	文節数	名前	年 少 (神谷保育園)	文節数	文節数
o 女	ソレデ 42 ソシタラ 20 ダカラ 7 ソレカラ 2 デ 2 ソシテ 2 ソウスルト 1 ダケド 1	724	i 男	ソレデ 27 シタラ 2 ソレカラ 1 ソシテ 1 ダケド 1 デ 1	320	三男	ソレデ 40 ソレカラ 7 ダケド 6 カラ 4 ジヤ 3 ダッテ 3 デ 1	1,496	1,496
k 女	ソレデ 33 ソレカラ 15 ソシタラ 1	550	f 女	ソレデ 13 ソレカラ 6 ソシタラ 3 デモ 1	294	高男	ソシテ 33 ダッテ 6 ソレデ 5 ソラ 1 ソシタラ 1 ソレカラ 1 ナラ 2 ナラ 1 ナラ 2	605	605
w 男	ソレデ 14 デ 12 ソレカラ 4 ダッテ 4 ソシテ 3 デモ 1 ダカラ 1 カラ 1 ソイダラ 1	780	d 男	ソレデ 7 ソシタラ 5 ソウスルト 2 ソシテ 1 デ 1 ジヤ 1 ドウシテカッティウト 1	280	佐女	ソシタラ 22 ソシテ 16 ダカラ 1 ソシタラ 22 ソシテ 16 ダカラ 1	539	539
s 男	ソレカラ 16 ソレデ 8 デモ 2 ソシタラ 2 ジヤ 2 ダッテ 1 ソシテ 1	521	k 女	ソレデ 12 ソレカラ 2 ソシタラ 1 ダカラ 1	295	古男	ソレデ 28 ダッテ 2 ソレカラ 2 ジヤ 1 ダカラ 1 ソレデハ 1	727	727
x 女	ソシテ 12 ソレデ 4 ソレカラ 4 ソシタラ 4 ダカラ 2 デ 2 ダッテ 1 シテ 1	341	p 女	ソシテ 8 ソレデ 2 ダッテ 1 ダカラ 1 ダケド 1 デモ 1	420	大男	ソレデ 31 デ 1 カラ 1 ソレデ 31 デ 1 カラ 1	311	311
m 男	ソシテ 21 ソシタラ 3 ソレデ 2 デモ 2 ダッテ 1 ソレデ 25 ソシタラ 2 シタラ 1 タラ 1	550	s 男	ソシテ 8 ソレカラ 2 ソイデ 1 シテ 1 ソシテ 6 シテ 2 ソレカラ 2 ソイデ 1	277	折女	ソレデ 10 ソレカラ 3 ダカラ 3 シテ 1 ソシタラ 1 ソレデ 8 ソレナラ 2 ダカラ 1 ケド 1 ケドモ 1 デ 1 ソレジヤ 1	346	346
c 男	ソレデ 16 ソレカラ 4 ソシタラ 3 デモ 1 ソシタラ 2 シタラ 1 タラ 1	399	v 男	ソレデ 8 ソレカラ 2 ソシタラ 1 デモ 1	114	秋男	ソレデ 10 ソシテ 2 デ 1 ダッテ 1 ソレカラ 1 ソレカラ 1	386	386
f 女	ソレデ 16 ソレカラ 4 ソシタラ 3 ダカラ 1 ダケド 1 デモ 1	410	n 男	ソレデ 5 ソレカラ 3 デ 1 ンデ 1	191	鎗男	ソシテ 7 ソレカラ 3 ソレデ 1 ッテ 1 ソシタラ 1 ソレデ 8 ウンデ 1 ンデ 1 ダケド 1 ケド 1	259	259
u 男	ソシテ 11 ダッテ 6 ジヤナクテ 3 デモ 1 ソシタラ 1 ダッタラ 1	452	t 男	ソレデ 11 ソレカラ 2 ダカラ 2 デモ 2 ソウスルト 2 ソシテ 1 シタラ 1 ナラ 1	367	o 女	ソレデ 5 デ 3 ソシタラ 1 フンデ 1 ソレデ 5 デ 1	160	160
p 女	ソレデ 3 ソシテ 3 ソシタラ デ 7 ソレデ 3 ソシテ 3 ソシタラ	354	u 男	ソシテ 6 ソシタラ 2 ソレカラ 1	137	狗女	ソシテ 9 ジヤ 1 ホッタラ 1	374	374

d 男	3 ソレカラ3 タカラ2 テ12 ソレカラ3 ダッテ2 タカラ	322	r 女	ダッテ1 ソレデ5 ソレカラ1 ソウスルト1 ドシテッティウト1	157	宮男	ソレデ4 タッテ3 ソシタラ1
r 女	1 ソシタラ1 ソシタラ11 ソレデ3 ソシテ2 テ	309	x 女	ソシテ3 テ2 タカラ1	166	柿男	ダッテ6 ソシテ2
j 女	1 ダケド1 シャ1 ソレデ14 ソシタラ2 ソシテ1 ソ	212	m 男	ソレデ2 ソレカラ1 ソシテ1 ソ シタラ1 ダッテ1	141	坂女	ソレカラ3 ソレデ2 ソシテ1
a 男	ソレデ8 ソレカラ5 ソシタラ1 ソレデモ1 ソウスレバ4 テ1	488	j 女	ソレカラ4 ソレデ1	112	渡女	ソレカラ5
v 男	ソレデ3 ダケド2 ダッテ2	191	h 女	ソレデ3 ソレカラ1	133	玉男	ジャ1 ソシテ1
h 女	ソレデ2 ソシテ1 ソシタラ1	180	a 男	ソレデ1	113	村女	ソシテ1
n 男	ソシテ1	203	c 男	な し	75	勝男	ソレデ1
					126	新女	な し
					10	清女	な し

次に、接続詞の主な種類とそれを使用した人数をパーセントで示すと、表(213ペ)のようになる。年長、年中児では「それで」「それから」「そして」「そしたら」がベスト4位の中に入っていることなど順位においては前の使用数とそう変わらない。

しかし、このようなことを繰返して調べてみても、これ以上のものが出て来ないので、次に、幼児がこれら接続詞を、現実の話すことばの場ではどのように使用しているかを用例をみながら検討していくことにする。その前に個人別使用状況をしらべてみる。(別表参照)のちにも述べるように幼児はあやまつた使い方もしているので、このような傾向があるというに過ぎない。接続詞をたくさん使った幼児から並べる。一例という意味で年中、年長同一幼児のうち赤羽幼稚園のもの、年少として神谷保育園のものあげた。参考として質問者と話した分量(ここでは文節数)もあげておく。長くしゃべっている幼児が、接続詞をたくさん用いているとはいえないが、少なくしゃべっている幼児は接続詞を少ししか用いていないことはいえる。また、接続詞の使用回数は多くても、接続詞の種類の少ない幼児もいる。

幼児は接続詞を使う場合、複雑な意味内容で使用していないで、話しぐせもある。ある幼児は、文をつなぐ場合、「それで」で「そして」の代用をさせるとか、あるいは逆だと、「で」を間投詞的に使用するとか、「そしたら」が口ぐせだったり、「だって」が口ぐせだったりする。

## 6.2 接続詞使用の実態

これまで述べた接続詞を、幼児はどのように現実の話すことばの場で使用しているのだろうか。使用の実態をみることにする。幼児の話すことばはこれまでにもたびたび述べてきたが、一文が長くなればなるほど前後の因果関係が乱れて意味の把握ができなくなる。大人には、なんとなく理解できても、その説明はしにくい場合もあるし、全くわからない文などもある。そのような文章が非常に多いことをはじめに記しておく。そこで、文の意味のはっきりしているものの中から主として引用することになる。したがって、幼児の中でも高いレベルの幼児の例がとりあげられることが多くなるのである。

実例としては、まず一例をあげ、必要に応じて随時つけ加えることにした。○印のあとに書かれたものが対象幼児の例で、補充した例は●で示した。接続詞を使用の多いものから順に、以下のように分類した。章末の「幼児の接続詞の使用例」をみられたい。

### 1 発話のはじめ(話頭)

(注1)

1.1 間投詞的使用——質問者の質問に答えるとき、まず、接続詞をもってくる。その場合、幼児の頭の中には前に話した残像があって、その継続と思って接続詞でつなぐ場合もあるかもしれないが、客観的にみると無意味な接続詞なのである。次のことばが出ないので、中つなぎに「アノネ」「ウントネ」をもってくるのと同様な感じで接続詞を使っているとされるものである。

(注1) 大石初太郎「日常談話の接続詞」『話すことば論』(秀英出版・1971)所収によると、対話においての話し手のしゃべり出しにおかれる接続詞を「話頭」の分類に入れ、日常談話には「話頭」におかれる接続詞の形式が多いと言う。

(注2) 同じく大石氏は注1の書で、この類を「遊びことば」「場つなぎことば」と命名している人いると紹介して、おとの場合、日常談話では「で」が多く、ついで「それで」「だから」「でも」「だけど」「だって」であると述べている。

1.2 反復——質問者の間の接続詞をまず反復、模倣して、それから答える。

1.3 その他——質問者の発話がはさまるが、幼児の文がつながっていると思われるもの。質問者の発話は間でなくて感想的な言い方である。「困ったわね」「面白かったね」など。

## 2 発話中

2.1 文頭——文+文+文……と長い発話をするとき、二番目の文以下の文頭が接続詞で始まるもの。

2.1-1 間投詞的使用——話頭の場合と同様に、口ぐせなどもあって、「遊びことば」「場つなぎことば」的である。前文とのつながりについての意識は、文頭よりあるかもしれない。

2.1-2 正しく使用

2.1-3 他の意味のところに使用——誤用の一種である。

ここには「それから」「そして」「そしたら」「それで」「その他」の意味で使われているものが含まれている。

2.2 文中——接続助詞（て、から、たら、で、活用の中止形など）+接続詞の形式のものと、その他の場合（語順など）のものがある。文頭と同じく次のように分類される。

2.2-1 間投詞的使用——前文と関係なく「て、それで」で後文をつないでいる。

2.2-2 一応正しく使用——一応というのは、「て+それで」の形式のところは、接続助詞「ので」に変換しても文が成り立つし、「て」のところで「たの。」として文を切り、あとを「それで」ではじめることもできる言い方のところなので、「て、それで」でなければならないというわけではない。また、「他の意味に使用」のように「それで」の使い方がまちがっているわけではないので、「一応正しく使用」ということばを使ったのである。

2.2-3 他の意味のところに使用——これは文頭の場合と同じ。

文末——のちに文を続けるつもりだったのが中断したともみられるが、考文中ともとれる。ともかく文末に接続詞がきている形式である。

章末の「幼児の接続詞の使用例」の備考の欄に気づいたことを述べたが、ここでは、年齢によってどんなふうに使われているかを表の順に接続詞の種類別にみていく。

### 6.2-1 それで

これは、年長、年中、年少ともよく使用している。「発話のはじめ」、「発話中の文頭」などでの「間投詞的使用」が多い。「発話中の文頭」で正しく使用しているのも、年齢の別なく多い。「他の意味のところに誤って使用」する場合では、年少は「そして」の意味のところに「それで」を使用する例が多い。「それで」の接続詞は、前文が原因（条件）で、後文がおきるという意味があるのを厳密に意識して使っていないためだろう。年長にも多いが、年少には特にめだつ。「それから」「そしたら」の意味のところに「それで」を使う例は年長に多いが年少には補助資料以外にはない。また、「一方」とか、「それなのに」「だけど」の意味のところに「それで」を使う例は年少には全くなかった。このような文脈で話すことが少ないとめだらうか。

文中の「て+それで」の使用は年長、年中に多いが年少には少ない。文を長く続けて話すことが、年少児ではまだできないからだろう。「て+それで」以外の接続詞による「から、たら、で+それで」の形式も補助資料以外にはない。しかし年長には非常に多く、幼児が文を長く続けて話

す場合に愛用している。とはいっても、そのような文は前後の関係がはっきりしなかったり、主述の対応ができていなかったり、意味することが理解できなかったりする文が多いのである。3章の「複文の構造と用法」のところで、接続助詞について述べたが、接続助詞「ので」を年長になつても幼児はほとんど使用しない。それを、「て+それで」の形式ですませているように思われる。「ので」などで接続できる形式を習得するまでの過渡的現象だろうか。「から」は幼児はわりに使っている。しかし「て+それで」の影響か「から+それで」の形式もある。「それで」は不用の語である。この形式も年少はほとんど使っていない。小学校段階では「ので」の使用、「て+それで」の形式がどう展開していくか調べてみたい課題である。この形式については、次のようにも考えられる。幼児は前因果的思考をするため、原因、理由を示す「ので」を使用せず「て」ですませるというところがある。第3章でみた。そこで、「て+それで」というふうにまとめた形で考えないで、「て」を以上のように考え、「それで」は文をつなぐ形式として、ただつけ加えたに過ぎないとみることもできる。あるいは幼児は思考の時間のテンポが大人に比べてゆっくりしているので、「それで」で間をもたせて考えをすすめているのではないかなどというふうにも考えられるのである。ともに推察にすぎない。

発話中の文中では、やはり「間投詞的使用」が多い。「一応正しく使用」は年長に多い。「他の意味のところに使用」については、「そしたら」が年少では補助資料以外ではなく、年中は引用した例のみである。「その他」の例は年少には全くない。

「たら、から、で他+それで」は年少には補助資料以外にない。年中には一例のみである。

次のような補助資料が年中にみられた。「サクラ(人名) チッチャイデネ ソイデ サクラ オッキイヨッテ イッテンノ。」(小一谷男4:11-9) これは接続助詞「のに」の使用ができないためのようである。3章で述べたが接続助詞「のに」は使用数も少ない。幼児にとってはむずかしい表現らしい。

「文中の例」としては、文頭でなく、文中に語順が移動したもので、間投詞的用法と正しい使用のものがある。また、あとに話が続かないで、「それで」が文末の位置になった形式がある。これは、次に話すことばが出ないで、ここで中断したもので、年少にはない。

「で」を独立の接続詞とすべきかどうか問題は残るが、ここでは、「それで」の「それ」の省略されたものとして、あげておいた。年齢を問わず、「発話のはじめ」「発話中」の別なく「間投詞的用法」が多い。年長、年中では同一幼児が7回~12回も使っている。年少でもひとりで3回使っている幼児がいた。どうも話しぐせのようで、意味もなく、間投詞的に使っているのである。前に述べた『談話語の実態』によると大人の話しことばでは使用数の多い順に「それで」「だから」について第3位を占めている。しかし、幼児の場合、年少は、使用数も使用人数も少ない。

## 6.2-2 それから

「それで」に比べると使用数は約3割ほど少ない。これも「間投詞的用法」が多い。「発話中」の文頭、文中の別なく、「他の意味」のところに使用のものは少ない。使用するときにはほぼ正しく使用しているのである。年少には「それで」と使用する例はなかった。文中の場合は並列の意で使う。中でも語と語を接続する言い方が年齢を問わず多い。年長は特によく使っている。「て+それから」の使用例は年少には少ない。「他の意味」のところに使用では「そしたら」の意のとこ

ろに「それから」を使用している例が年長に一例みられた。「から+それから」の言い方も年長に一例みられた。

「それから」を略して「から」という言い方もあるが、使用数は少ない。

#### 6.2-3 そして

「発話のはじめ」に間投詞的に使う言い方が、年齢を問わず多いが、特に年中、年少に多い。「発話中」、文頭で「間投詞的」に使用する例は年長にも多い。「正しく」使用する例が少ないくらいである。「他の意味」のところに使用の例では、「それから」の意のところに「そして」を使っているのが年齢を問わずある。時間的経過の意識が幼児の場合おくれるということもあるが、「そして」と「それから」は意味が似ていて同じように使われているからもある。「そしたら」の意で「そして」を使っている例は年少には見られなかった。年中では「そして」と使用してのち、「そしたら」と訂正して、正しく使う例がみられた。年少にはこのような例はもちろんない。といつても年少で、接続詞「そしたら」が使えないというわけではない。12%の人が使っている。ただし、正しく使用しているのはもっと少ない。これらのことから、幼児に「そしたら」の接続詞の意識がよりはっきりして使えるようになるのは、平均的にではあるが年中を過ぎてからではないかと思われる。「他の意味」に使用では「そして」を「だけど、それなのに」の意味のところに使っている例が年中に二例みられた。「だけど」を使用している幼児は年中で5人に過ぎないので、「そして」で代用して使っている場合があるのだろう。「だけど」は年長で、7人、年中で5人、年少で4人の幼児しか使用していない。逆接の言い方は幼児にはむずかしいのであろう。「それで」の意に使う場合も年少では補助資料にみられたのみである。理由づけをすることも年少にはむずかしいようである。

文中の「て+そして」の言い方はどうであろう。年少はこれまでの接続詞と同様、この形式は少ない。「て+そして」の言い方は、「て」で文をつないでも間に合うところに同じ意味の「そして」が間投詞的に入っているとみられる例で、話の間をとっているのだろうか。年長に多い。「他の意味」に使用では、「それから」「そしたら」「それで」の意のところに使用するのが年長、年中ではみられるが、年少にはほとんどない。全体に少ないといえる。むしろ間投詞的使用が多いのである。

「たら、からその他+そして」の言い方は年齢を問わず使用しているが用例は少ない。

「そして」の使用を一言でいうと、間投詞的用法か並列の意である。

「そして」を略して「して」と使う言い方は少ない。

#### 6.2-4 そしたら

年長は使用している幼児が多い。ただし、「そして」「それで」の意味のところに使っている場合とか話しぐせもある。年少は使用する幼児が少ないが、使っている幼児は口ぐせのように使っていたりする。文中の「て+そしたら」の場合は年少にはない。年長、年中には「それから」の意で使う例があった。「たら+そしたら」の使用は年齢を問わずみられる。これは、「そしたら」がなくても「たら」で間に合う文である。幼児は、文をつなぐ場合、接続詞を必ず入れなければならないというふうに考えているのだろうか、接続助詞のみでつなげることのできるところにもこのように接続詞を用いている。接続詞を使用することによって間をもたせ、次の発話を考えて

いるのだろうか。文とは何かの意識が弱いからだろうか。前にも述べたが非常に興味深いところである。なお、「そしたら」については、6.2-3「そして」のところでも述べた。

「そしたら」を略して「したら」という言い方も少ないのである。

#### 6.2-5 だから

「AのようなわけだからB」という幼児には苦手な理由を述べる接続詞なので、使用数は年長、年中、年少とほぼ似ているが、年長のほうが正しく使用している数が多い。「て+だから」は年齢を問わずあるのだが、意味不明の例である。「て」と「だから」の結びつきがそもそもおかしいのである。「て+接続詞」の形を誤用しているのだろう。

「から+だから」は、接続助詞「から」で十分なところに、「だから」をつけ加えている。「だから」は不用である。年少に多く使われている。

#### 6.3-6 だって

これは理由（反対）の意味をもつ接続詞であるが、幼児は年齢を問わず発話のはじめに「間投詞的」に使用している。「どうして」の質問者の質問に対して、答えるときの話の文頭に口ぐせ的につく言い方で用いている。年少が特に多く使っている。

#### 6.2-7 だけど

これは反対の意味をもつ接続詞である。年齢を問わず少なかった。年長で7人、年中で5人、年少で4人の幼児のみが使用していた。幼児と質問者の問答という調査の形式によるのかもしれない。このような言い方が幼児には苦手であるかどうかを知るための調査を実験的にやってみる必要のある接続詞である。

「だけど」を略した「けど」の例が年少にみられた。

#### 6.2-8 でも

これも反対の意味の接続詞であるが、年少はこの幼児一人で、しかも間投詞的用法である。補助資料からは正しく使用の例もみられたが、ほとんど使っていないといえる。年中は3人で年長は9人である。

#### 6.2-9 そうすると

Aの当然の結果としてBになったという場合に使う接続詞であるが年長3人、年中3人、年少1人が使っていた。非常に少ない。

#### 6.2-10 その他

その他の中には、幼児があまり使用しなかった接続詞を一括入れた。接続詞は指示代名詞に助詞とか助動詞がついて派生してできた形式とか、接続助詞が転化した形式が多いが、それらがこの中にしている。いろいろの形式を使っているが、使っている幼児はそれに少ない。まちがった言い方もある。「それでも」というべきところを「それでも」、「それから」というところを「そしてから」あるいは「そしてっから」と。幼児はこのように言い誤まる傾向があるのである。

### 6.3 まとめ

全体を通していえることは、これまでにも述べてきたことであるが、まとめてみると次のようである。

(1)発話のはじめ、発話中の文頭に用いられる場合は間投詞的用法が多い。

(2)文中では「て」で前文を中止して、接続詞でつなぐ形式があるが、この形式は年少に少ない。年長のもの間投詞的用法が多い。

(3)「それから」「そして」「そしたら」の意味のところに「それで」を使ったり、「それで」「それから」の意味のところに「そして」を使ったり、「そして」の意味のところに「それで」「それから」「そしたら」を使うとか、「だけど」「一方」「それなのに」の意味のところに「それで」「そして」を使うという誤まりが年齢を問わずみられる。

(4)接続詞「そしたら」を使う幼児が年少に少ない。そのためか、年中、年長にみられた「そしたら」の意味のところに「それで」「それから」「そして」を用いる例が少ない。

(5)「だけど」「でも」などの反対をあらわす接続詞は年齢を問わず少ない。

(6)「その他」のところにも、いくらか使用例はあがっているが、幼児はさまざまな接続詞を使用せずに、日常よく使う接続詞ですませている。

(7)幼児全体をみると、よくしゃべる幼児が接続詞の種類も多いといえる。

(8)幼児によって好きな接続詞があり、それが話しぐせになって間投詞的に出てくるという現象もみられる。ある幼児は「それで」であり、別の幼児は「そしたら」というふうに。その他「それから」「そして」「だけど」「でも」などほとんど用いられている。

(9)大部分の幼児は、日常会話の場合、長い話をしないので、接続詞をあまり使わない。その点、話題を決めて話させた問答形式は成功であった。絵をみての話、道順、テレビ、物語について話した部分に間投詞的でない用例が、あやまった例もあるがみられた。

## 幼児の接続詞の使用例

接続詞	用			例			備考
	年	長	中	年	少		
1 それで							
1 無話のはじめ							
1.1 問接詞的	ほかにどんなことあった? ○ウント ネー <u>ソイテ</u> ガッショクデ ホリグ チクンタチ マクラデ ナンカ シテ タ。(自-1 男6:0-7)	ほかにもあるんでしょう。○ウント ネー ソウノ オスベリ [すべり台] ニモ ノッタンダヨ。(赤-f 女4:10 -9)	この絵を見ながらお話するの。○ソン デネ ウントネ コレ オドロイチャ ッタノ。(神-場男3:10-14)	○発話のはじめに、「ウントネ ー」「アノネー」などと同じよう に使用す。多い。			
1.2 反復	それで? ○ソイテネー ネチャッタ ノ。ウサギガ; (自-k 男5:8-23)	それで? ○ソイテ <u>シマウマ</u> が ワラッ タノ。(赤-h 女5:4-9)	それで? ○ソイテ <u>シカ</u> が イハイ キテ ナンカ ャッテル。(神-寺男4: 4-17)	○質問者の「それで」を繰返す。			
1.3 その他	～ソノマンマニ シトイタラ シン ジャッタノ。／かわいそうだつたわね ノ●ソイテ オハカ ツクッテ アゲ タノ。(赤-E 女5:8-33)			○発話のはじめと すべきか問題で ある。幼児の会 話中におとなな 感想文が入った という感じ。			
2 無話中							
2.1 文頭							○文頭多し
2.1-1 問接詞的	○オジイサント オバアサンガ イタン ダッテ。ソンデネー ソコ ワスレ チャッタ。(自-u 女6:5-17)	○～ナリタクテ ショウガナイデス。ソ イデネー ソーイテ .....ワカンナク ナッチャ。(自-t 男5:3-22)	○ヨルンナッテ ハナビ ミルンダ。ソ イデネー アメン トキモ ャッタ。 (神-寺男4:4-12)	○「ソイデネー」 「アノ ネー」「ア ノソイデネー」 の ウーントネ」の 言い方もある。			
2.1-2 正しく 使用	○ハナガ チボンジャッタノ。ソンデ ミズヲ ャッテ ナオッタノ。(赤-t 男6:0-21) ○ユウレイモ テテ キタノ。ソイテ ネー キャーッテ ミンナ ニケチャ ッタノ。(赤-j 女5:7-10)	○トラックガネー ハシッテル トキネ ヒトリデニネ ココガ アイチャッタ ノ。ソイデネー クマガネ ネズミノ マネシテネ トンテ イッチャッタ ノ。(自-v 男4:7-11)	○カザンッテ ヤマノ ドッカカラ バ クハッスルノ。ソレデ カザンッテ カイウノ。(小-福男4:2-9) ○コウ ャッテ ポーンテ ヤラレタノ。 ソレデネ プスッテ ヤラレタノ。(神 -秋男3:11-11)	多し			

ドロイテ ポント ニゲチャッタノ。  
ソイテ 「ワハッハッ」ト ワラッタ  
ノ。(赤-n 男5:2-9)

2.1-3 他の意味のところ  
に使用

2.1-3-1 「それから」の意  
2.1-3-2 「そして」の意  
2.1-3-3 「そしたら」の  
意

○ドッカ コヤガ アッタカラネ ト  
マッタノ。ソイテ マタ ドッカ  
イッタノ。(自-b 男6:0-24)

○アレテネ フネットカ ナンカネ ポク  
ツクッテンノ。ソイテ ウカベテ  
アソシンデンノ。(自-b 男6:0-27)

○シャシン トッタンドモノ。ソレテ  
ヤマデ オニギリ タベタノ。(自-g  
女5:11-6)

○オツキサマノ ハナシ ャッテ アゲタ  
ノ。ソンデ チュマンナイッテネ オ  
ヨイテ ドッカ イッチャッタノ。(自-  
z 男5:8-12)

○オオキイカラ カケンノガ オソカッ  
タンダッテ。ソイデネ ネズミハ  
チッチャイカラ チヨコチヨコ カケ  
テ イッタンダッテ。〔一方、そして〕  
(自-d 女5:11-30)

○カメハ オソイノ。ソイテ ウサギガ  
ネムツテル アイダニ カメガ ヤ  
マーン トコニ ノボッテッテ イット  
ウニ ナッタノ。〔だけど、それなのに〕

2.1-3 他の意 味のところ に使用	○オマツリネー ハグミマデネー イッ タノ。ソイデネー マタ ゴハン タ ベテ ソイテ カエッタノ。ウチ ニ; (自-k 男4:8-2)	●ダンチラネー〔の〕 ナカヲ トオッテ イクノ。ソイデネ サカヲ オリ(赤-b 男4:0-9)	○年少なし (補 助資料を除く 以下同じ)
2.1-3-1 「それ から」の意	○アタマガ マルクテ ケガ ナイノ。 ソイデネ アシガ アアッテ ソ テガ アルノ。(自-t 男5:3-17)	○～ツレテ イッテ モラウ コト ア ルヨ。ソレデ ミルク ノンダ コ トアルヨ。(神-宮男3:8-3)	○年少多し
2.1-3-2 「そ して」の意	○チョコレートヤサンニ イッタノ。ソ レテ タベテ キタノ。(自-j 女4:7 -4)	○～ダンガ ウルトラチエブンナンノ。 ソイデネ ヒコウキガ イッパイ ア ンノ。(神-大男3:11-8)	○年少なし
2.1-3-3 「そ したら」の 意	○ライオンガ サキネ ハラッパカラ デテ キタノ。ソイデネ シマウマ イタノ。(赤-n 男5:2-8)	●タイヨウノウトネ アメリカトネ コ イダケ ミタンダケド。ナカモハ イッタノ。ソイテ ナンカ アッタン ダヨ。(赤-f 女4:2-3)	○年少なし
2.1-3-4 「そ の他」の意	○テツジンガ ロボットヲ ャッチャ ンノ。ソイテ ショウタロウガ ショ ジユーキテ ヤルノ。〔一方、そして〕 (自-h 男5:5-8)	○ウシャギガ ハヤイノ。ソイテ カメガ イットウ ナッテ ウシャギガ ココ デ ネテンノ。(それなのに) (自-k 男 4:8-19)	

(自-i 男6:4-17)

● ジュット マエネ シンカンセンドン  
シャナンカ ツクッテタノ。ソンデ  
ヤメチャッテ カイシャニ イッテン  
ノ。〔それを、だけれど〕(自-2男5:8-4)

2.2 文中  
て、それでの  
場合

2.2-1 間接詞  
的

● コウイウネ カタチシタネ ノリモノ  
ノットネ ソレデネ ウントネ  
ウントネ ソノ ノリモノカネ ウ  
チュニ キチャウノ。(赤-C男5:6  
-9)

2.2-2 一応正  
しく使用

○ ライオング シマウマヲ オッカケタ  
ラ シマウマガ ミンナ イッパイ イ  
テ ソイデ ドレニ キメヨウカ ワ  
カンナイ。(自-b 男6:0-29)  
● 「コロシテ コイ」ッテ ユツテ キ  
タンダケドネ ケライハネ キノドク  
ニ ナッテネ ソイデネ (ポイ)シタ  
ママ カエッテ キチャッタシタッ  
テ。(赤-J女5:8-19)

2.2-3 他の意  
味のところ  
に使用  
2.2-3-1 「そ  
れから」の  
意

○ 年少、「て、それ  
で」の用例少な  
し。年長多し

○ ソレネ ウサギガ イットウ ナッ  
テネ ソイデネ ソイデ  
カケーッテ イッタカラネ ツカレ  
チャッテネ ヒトヤスミ シヨウト  
(オモッタノ)。(赤-r 女4:10-10)

○ カメが「アソコノ オヤママデ」ッテ  
ユッテ キヨウソウシタラ ウサギガ  
カッタカラ モウスグダカラ  
チャッテ ソレデ カメガ イットウ  
ンナッタノ。(赤-o 女5:1-10)

○ コッカラ カケテ ソイデ  
シ[ひ]カラレチャッタノ。(文意はつき  
りしない) (小-竹男4:1-8)  
○ コレガ オヒサマニ アタッテルカラ  
アツク ナッテ ソレデ  
(小-矢女4:0-13)

○ マタ ゴハン タベテ ソイデ カ  
エッタノ。ウチニ; (自-k 男4:8-2)  
〔に〕 ノッテ イクノ。(道順) (小-金  
男4:1-7)

2.2-3-2 「そこでキャクサンキタラチユウ[中]して」の意  
して〇オキヤクサンキタラチユウアゲテオカネヒヤクエンダッタラクレテソイデネカエストキハオカネトエンペツ。(自-e女5:7-2)

2.2-3-3 「そしたら」の意  
○～カメガ コナイ ウチ ヒトネムリ シテ ソイテ カメガ ドンドン オイコシテ イッテ イチバンニ ナッチャタ。(自-6男6 : 0-30)  
○ヨウチエンカラ モンテテ デ マッスグ イッテ ソイテ マガッテ イテ ヴイチャウノ。(道順)(赤-1女5:3-8)  
●マグマタイシッテ ハジメ カブッテナイ オトコガネ クチブエデユッテネ ソイテ デテ クンノ。(赤-4男4: 1-5)

## 2.2-3-4 「そ の他」の意

— 225 —

たら  
から  
で

○「それで」がなくても成立する文。

○ムコウイッテベンキヨウウシテ  
カネガナッタラソイデネカイツ  
テオトクサンチイッテソイデ  
オワリ。(自-t男6:2-8)

○オヒサマガアタッタラソイデ  
ンナナッチャッタノ。(自-k男4:8  
-21)

○ヨウチエンコハネテレビガネ  
チヨットネーヨルトキニネテカ  
ラサーソイデワカンナカッタンド  
ヨ。(文意はつきりしない)(赤-f女4:  
2-9)

○オキヤクサン キタラ チュウ〔中〕 ○ソレデ コンドハ タヌキヲ ミテ  
 ダッタラ チュウ アゲテ オカネ オサルニ オカシ ャッテ ソレデネ  
 ヒヤクエンダッタラ クレテ ソイテ ツキノワグマニモ ャッテ、オセンベ  
 ネ カエス トキハ オカネト エン エヲ；～（赤-f 女4:10-8）  
 ペツ。（自-e 女5:7-2）

○～カメガ コナイ ウチヒトネミリ  
シテ ソイテ カメガ ドンドンオ  
イコシテ イッテ イチバンニ ナッ  
チャッタ。(自-6男6:0-30)  
●ヨウチエンカラ モンテテ デ マッ  
スグ イッテ ソイテ マガッテ ソ  
イテ ツイチャウノ。(道順)(赤-1女  
5:3-8)

○ソイテ オセシタク オワッテ カ  
 エッテ キテ オウチニ イッエ シ  
イテ オジイサンガ ヤマカラ カ  
エッテ キテ ワロウト シタラ ア  
カンボウガ ウマレタノ。[一方] (自  
○ソイテ ウサギサンガ トットコ  
 トットコ イッチャッテ シイデネ  
 カメサン ココデ ノロノロ  
 ロ アルイッテ、~[一方、そして]  
(赤-1 男5:1-13)

モノウリバサナンニ バケテネ ドク  
ノ ハイッタネ リンゴヲネ ウリニ  
キテネ ソイネ タベチャッタ  
ダッテ。シラエキヒメ(ガ)；〔それを〕  
(赤) - [女5:8-20] (の)でとも

○～ムコウ イッテ ベンキヨウシテ  
カネガ ナツタラ ソイデネ カイツ  
テ オトクサンチ イッテ ソイデ  
オワリ。(自-t男6.2-8)  
●ダレニモ アワナカツタカラネ ソイ

○コレハ クマガ イテ ソイデネ チ  
イチーッテ ネズミガ イテ クマガ  
ネジミニヲ ミツカッタノ。[みつけた  
の] (神-太男[ミコトノタケル])

●マグマタイシッテ ハジメ ボウシ  
カバツテナイ オトコガネ クチブエデ  
ユッテネ ソイテ テテ クンノ。(赤  
-e 男4:1-5)

○ヨウチエン トコハネ テレビガネ  
チヨットネー ヨル トキニ ネテタカ  
ラサー ソイデ ワカンナカッタンダ  
ヨ。〔文意はつきりしない〕(赤-〔女4:  
2-9〕)

○「それで」が  
〈ても成立  
文。

デ シンデレラヒメニネ ハカシテ  
ミタラ アッタノ。(赤-B女5:8-13)

2.2-2 一応正しく使用  
○オウチガ ヨンジュウキユウゴウカ  
デネー ソレデネ ヨンジュウハチゴ  
ウカシノ マエ トオッテ サンジユ  
ウサンゴウカシノ マエヲ トオッテ  
クルノ。(赤-f女5:9-13)

2.2-3 その他の意味のと  
ころに使用

2.2-3-1 「それから」の意  
○シタカラ オトシテ ウーウーッテ  
マエニ ススマセネ, ソイデ ウエヲ  
ムイテカラ ヴッチャウ。(自-b男6:  
0-6) [そしてとも]

2.2-3-4 「それ」の意  
○フミチャン ヒトリト ソイカラ オ  
カアサン ヒトリデ ソイデネ ハル  
コチャンモ ヒトリデ ソイカラ オ  
バアチヤンモ ヒトリデ~[並列](自  
-e女5:7-1)

○ソノ トキ ソレデネ ワルイ コワ  
スノ エンバンニ ソノ オトコノ  
コト オトウサントツカマツチャッテ  
ソノ トキ マグマノ コドモガ イ  
タンダヨネ。(自-g女5:11  
-11)

○コナ チッチャイ コドモデネ コ  
ンナ オオキナ ソイデネ ントネ  
ヤキュウ ヤンノ。[間接詞的](自-t  
男5:3-21)  
○アト ソイデ シマウマガ トマツタ  
ラ コノ ライオンガ ツイテ キタ  
カラ ソイデ ツイテ キタノ。[間接  
詞的](赤-k女5:3-13)  
○アンチャントー ソイデ ミッチート  
ヤッタノサ。アト ソレデサ ホッペ

○接続助詞「のに」  
の使用は少ない。

○接続助詞「のに」  
の使用は少ない。

○語順のちがつた  
もの。

●サクラ チッチャイデネ ソイデ  
クラ 「オッキヨー」ッテ イッテン  
ノ。〔のに〕の意)(小-谷男4:11-9)

○コンナ チッチャイ コドモデネ コ  
ンナ オオキナ ソイデネ ントネ  
ヤキュウ ヤンノ。[間接詞的](自-t  
男5:3-21)  
○アト ソイデ シマウマガ トマツタ  
ラ コノ ライオンガ ツイテ キタ  
カラ ソイデ ツイテ キタノ。[間接  
詞的](赤-k女5:3-13)  
●アンチャントー ソイデ ミッチート

タヲ〔に〕サワッテ ミルト コアガ ナイシテ ヨロコンデ ウチニ カ エッテ キタノ。〔間接詞的〕(赤-w男 6:3-23)	○～ナッチャウ。ソイデ…〔考え方〕(白 -k 男5:8-16)	○～。ソイデ ライオンガ ソイデネ… 〔中断〕(白-v 男4:7-9)
---	------------------------------------	--

〈で(それでの階級)〉

1 発話のはじ  
め

1.1 間接詞的  
的  
どうやって来たの? ○テネー バー  
ティヂチュッテ シュースヤ イロンナ  
モノ タベタリ ノンダリ シテ ソ  
シテ オドリヤ セイブケキヤ  
タノ。(赤-w男6:3-16)

で? ●元 アトカラ オトナシク  
ナル。(赤-a 男5:9-2)

1.2 反復  
2 発話中

2.1 文頭  
2.1-1 間接詞  
的  
○ウン、ネルノ。テ  
ロクジニ オキル。(白-a 男5:8-13)

○～イッパイ シマウマガ イタノ。テ  
ネ ライオンサン ビックリシチャッ  
テ カエッチャッタノ。(白-v 男5:7  
-15)

2.1-2 正しく  
使用  
○コビトノ ウチマテ キチャッタノ。  
ナガサレテ; テ コビトガ ワルモン  
ト オモッテ ユワイチャッタノ。(赤  
-n 男5:2-7)

○年少にはない。

2.3 文末

○「それからどんなことがあつた? ○テ  
ネー テ ケキ ミタノ。(白-d 女4:  
11-1)

○ビジンナノ。 で? テネー (白-d  
女4:11-3)

2.1-1

○～ネヂュミ ニゲタノ。テ  
クマ ネジュミヲ オーカケテンノ。  
(白-n 男5:5-17)

2.1-2

○コビトノ ウチマテ キチャッタノ。  
ナガサレテ; テ コビトガ ワルモン  
ト オモッテ ユワイチャッタノ。(赤  
-n 男5:2-7)

○「で」を「それ  
で」の略とみる  
のは発生的に妥  
当でもいくらか  
疑問がのこる。

○アオイ ハコ。 テネ  
ケナー エート… (赤-t 女4:4-13)

○コビトノ ウチマテ キチャッタノ。  
ナガサレテ; テ コビトガ ワルモン  
ト オモッテ ユワイチャッタノ。(赤  
-n 男5:2-7)

2.1-3 他の意味のところ

に使用

2.1-3-2 「そしたら」の意  
して」の意  
意  
○コクテツ イッテンノ。テ キシヤ  
コワレル トコロ アッタラ ナオ  
シテンノ。〔そこでとも〕(赤-w 男6:3  
-3)

2.1-3-3 「そ  
の他」の意  
意  
○～ウサギガ ココデ サボッテ  
チャッタノネ。テ カメガ モウ  
ヤマノ テッペニ イタンデ ビック  
リシテ アワテテ オキタノ。(赤-w  
男6:3-29)

2.1-3-4 「そ  
の他」の意  
意  
○～ナミガ スゴイノ。テ  
ホウハ アンマリ スゴイ ナミ  
ジャナイノ。シズカナ ナミ バッカ  
リナノ。〔一方、だけど〕(自-d 女5:11  
-4)

2.2 文中  
で、の場合

2.2-1 間接詞的  
○オテガミガ キテ テネ 「セヒキテ  
クダサイ」ッタノ。(赤-p 女6:2-13)  
○タクシーノ ドアが アイテ  
マガ ノッテ ソレカラ アタシガ イ  
ルッテ コト シラナイカラ サキニ  
ノッテ イッチャッタノ。(赤-p 女6:  
2-18)

○アンネ シートネ ヒコウキガ アッ  
スグ イッテネ、 テ コッチ マタ  
イッテ ソイデ～ (自-u 女5:5-5)  
○～カメサンガネ ムコウノ オヤママ  
テ カケッコ シヨウッテ ュッテ  
エ カメサンニ スコシ ウサギサン  
ノ ホウノガ カッタケドネ トチュ  
ウデ ネチャッタカラ～イットウニ  
ナッタノ。(自-d 女4:11-11)

その他の場合 ○～ウチヨリ スゴイ オオキイ イヌ  
トカネ カラ ヒトツメコソウノオ  
バケダトカネ テネ エートネ ハツ  
トリクン チュウネ ャッテタノネ。  
〔間接詞的〕(赤-w男6:3-19)

2 それから  
1 発話のはじ  
め

1.1 間接詞的

何時に起きたの？ ○ソレカラ  
ニ オキル。(自-a男5:8-13)

どうむぎつてなーに？ ●ソレカラ  
ー  
アト イナカニ トウムギ サイテル  
デショ？(自-c男4:7-4)

○コアタノ ウンコ。／たたつそれだ  
け？／ ○ショイカラ  
オオカミガ  
オイカケテ クンノ。(小-加男4:1  
-10)

○「ソイカラネ  
アノネ ソイカ  
ラ」とか「ソレ  
カラネ ウント  
ウント」の言い  
方もある。多し  
は多くない。

1.2 反復  
2 発話中  
2.1 文頭  
2.1-1 間接詞  
的

○ハハハハ、ビヨウインニ イルデショ  
ウ。ソレカラ オイシャサンナノ。(赤  
-x女6:2-2)

●テツジンガ タタカイシテル トコテ  
エイトマンガネー トンテル トコ。  
ソレカラ アトムハネー ライケツコ  
ウ。〔はつきりしない〕(自-c男4:7-8)

○ウサギサンガ キノ ウエニ ノリマ  
シタ。ソイカラ カメサンモ ノロウ  
ト シマシタケド オッコッチャウ  
〔い〕マジタ。(小-佐男4:3-21)

○正しく使用わ  
りに多し。

2.1-2 正しく  
使用

○～カワヲ ワタリタカッタカラ ウソ  
ツイテタノ。ソレデネー ソレカラ  
ネー イチ ニイサン シイッテ  
アルイテタノ。(赤-0女6:1-11)

○トマッテ キタノ。ソレカラネー カ  
ショウ。ソレカラ マタ コッチャイ  
マガッテ コッチャイ マガッテ コウ  
イッテ～〔道順〕(赤-a男5:11-13)

○トマッテ キタ アトニハ ネチャッタ  
ノ。(自-s男4:10-6)

2.1-3 他の意味のところに使用

○ウサギハ ツカレタノテ~ ネテ シマイマシタ。ソレカラ カメガ ムコウノ ヤママテ イッテ シマイマシタ。(赤-P女6:2-15)

2.2 文中で、それから

の場合 2.2-1 間投詞的

○クマガ ネズミ オイカケテ ソレカラ オオドリマテ デチャッテ ダンプカーガ キテ ダンプカーニ ネズミ ブツカッチャッタノ。(11-m 男6:4-15)

2.2-2 正しく使用

○オジイチャントネ ワタアメ カッテ ネ ソレカラ オドリ ミテネ ソイ テ カエリニ ホン カッテネ ソレカラ カイッタノ。(白-d女4:11-1) ユチエンニ クルノ。(白-i男6:4-7)

○イチバン サイショハ キテカラ タイソウシテ ソレカラ オヘヤニ ハイッテ ミンナデ アッタ~(赤-s男6:6-5)

2.2-3 他の意味のところに使用

○フランスへ イキナサイッテ イッテ フランスへ イッテ ソイカラ フランスニ ママガ イテ シヤワセニ

○カメガ アルイテンノ。ソイカラ アシアトガ ツイテルノ。(赤-b男5:6-10)

○ジュウエン ヒトツ モッテ イップテ ソレカラ アイス カッテ( )  
ノ。(赤-坂女4:0-3)

○コウ ャッテ ハイッテ ソレカラ ヒン ナカヘ イレチャッタノ。〔入ったの意?〕(小佐男4:3-25)  
●~コンドハ ソイテネ コウエンノ トコロ イッテネ ソイカラ ニ イクノ。(赤-t女4:4-6)

●~チャント マッチャグ イッテネ オオダンホドウヲ トオッテネ ソシタラ〔?〕マタ オオダンホドウガ

<p>クラス コトガ デキタ~(赤-s 男6: 6-16)</p>	<p>から、それから の場合</p> <p>○～コンドハ ナンカイモ ニダンモ バクハツ シテカラ ソレカラネー ウミニ アル アブライレ タンカ ガ シズンジャッタリ シテ~(赤-a 男5:11-8)</p>	<p>並列の意の場 合</p> <p>○ツナヒキトカ ソレカラーネー バトシリ レートカ ソレカラーネー カケコトカ ナンカ オドッタリ シタリ。(赤-k 女6:2-10)</p> <p>○ツリニ イッタリ フミエチャンチニ イッタリ ソイカラネ ハルコチャン チニ イッタリ ソイカラネ ユウエ ンチニ イッタリ デパートニ イッ タリ シテタノ。(自-e 女5:7-4)</p> <p>○ゴハント ミルクヤ アト メロン ヤ…ソレカラ… [考え方] (自-t 男6: 2-10)</p>	<p>○アル トコヲネ トオッテネ ソレカ ラ アソコニネ モンガ アルデ ショ。アソコカラ; [道順] (赤-g 女4: 8-5)</p> <p>○キクノ ハナト ソレカラーネー バラ ノ ハナトカ ソウ イウ ハナ ツ ンダノ。(赤-t 男5:1-5)</p> <p>○ノボッチャッテ ノボッタリ ソレカ ラ ソレカラ アションダリ チョレ カラ… (神-朝男4:5-5)</p> <p>○オスナバデ アソンダリ シテ ソレ カラ… (赤-f 女4:10-3)</p>	<p>○多し ○カツノリクント ソレカラ ボクノ オカアント カツノリクンノ オバ アント タケノ プール イッタノ。 (神-秋男3:11-6)</p> <p>○「それから」は 不用。</p> <p>○クルマモ アンノ。 カラ ソイデネ カラネ テッジントカ パピート カラ。 [間接詞的] (自-i 男6:4-7) ○～スゴイ オオキイ イヌトカ カラ ヒトツメコゾウノ オバケダトカ。 [並 列の意] (赤-w 男6:3-19)</p>

### 3 そして 1 発話のはじ め

それからなにしたの？きのうは。○ソシテホー レーシング。(赤-x 女6:2-7)

そして？○ソシテネ ココニ エネルギーが アッテ ナンガ…(白-m男6:4-8)

2 発話中

2.1 文頭

○～ソバナンカタノンダンノ。ソシテネ ソシテー オワッタトキナ ナッチャッタデショウ。(赤-x 女6:2-11)

●ソレハネ クマガネ ネズミガ[を]ネ オイカケルノ。ソウシテネ クルマ ナンカ ハシッテル トコニネ シラナイデ デタカラネ ダンブカーニ アッカッチャッタノ。(白-t 女6:4-22)

2.1-2 正しく  
味のこところ  
に使用

○～カミサマニ オコラレタノ。ソシテネ オボウサンが トオッテ タスケテ グレテ ケライン ナッテ ソウシテ ワルモン ヤツケタリ シテ インドマデ イッタノ。(赤-u 男6:5)

その時のお話聞かせて？○ソウシテネー ネー ボクガ ミテタ トキ オッカナイカラ オウチイ スグ カイッタノ。(白-p 男4:7-5)

そして？○ソシテネ マタ ココカラスーット キタノ。(白-s 男4:10-23)

2 発話中

2.1-1 間接詞的

○～オニイシャンガネ コゴサネ オミジュ カケタノ。ソシテネー ママネサッキ カイシャイッタんだ。(自-p 男4:7-18)

○～マホウツカイノ コエガ キコエタノ。ソシテネー マホウツカイが「コッチ オイデ」ナンテ ユツタカラヘンデルト グレーテル イッタノ。(白-h 女4:7-9)

●オバアサンガ モッテ カエッタノネ。ソウシテネ オジイサンガ カエッテキテ キロウト シタラ ヒトリチニワレテ モモタロウガ デテ キタノ。(赤-e 女4:9-6)

もうないよ。これ。○ソシテネー コレ カミアツ アルジャナイ。(小-加男4:1-8)

そして？○ソウシテネ クモガ そうして？○ソウシテネー クモガ デテ キテ ニンゲン ヤツケンノ。(小-相男4:4-10)

○年中、年少特に多し

○「そして」「それから」の区別はつきりしないが一応ここに入れてみた。

2.1-3-3「そし  
たら」の意  
◎ソイデ  
ミズヲ  
マイタノ。ソシテ  
コンナ  
フウニ  
オッキク  
ナッタ  
ノ。(赤-p男5:11-17)  
◎「～ヒルゴハシニ  
イイヤ」ッテネ  
オイカケタノ。ソシテ  
キガ  
ツイタノ。(赤-m女6:3-24)

◎マッスグ  
イッテネ  
ズーット  
マッ  
スグ  
イクノ。ソシテ  
ヒツツ  
ワタ  
ンノ。〔道順〕(小-小島女4:2-10)  
○ウマガ  
イタカラ  
ライオンガ  
トビ  
コンジヤッタノ。ソシテネ  
コノ  
ウ  
マハ  
ニゲダシタノ。(自-p男4:7-16)  
○ズーット  
ムコウ  
イッテ  
コッチ  
ガワ  
マガルノ。ソシテネ  
スグ  
オ  
ウチ  
ツクノ。〔道順〕(赤-x女5:2-6)  
○ライオンガ  
オイカケタノ。ソウシテ  
ネ  
ハリノ  
トコダカラ  
ライオン  
サシタノ。(赤-u男5:6-9)  
○コレ  
ナニカ  
トラエタカラ(キ)テ  
オッカケンノ。ソウシテネ  
ソシタ  
ラネ  
ハントイニ  
コッチ  
オイカケ  
キ。〔訂正〕(赤-d男5:4-13)  
○カメガ  
カチニ  
ナッチャッタノ。ソ  
シテネ  
ソシタ  
ラ  
ウサギノ  
ホウガ  
カッテ  
チガ  
カッタノカ  
ワカンナイ。〔訂  
正〕(自-h女4:7-13)  
○イチュカネ  
オーワダニ  
イッタ  
ト  
キハネ  
カエル  
オッキイノ  
イタデ  
ショ。ソシテ  
ニケライチャッタノ。  
〔だけど〕(自-p男4:7-8)  
○カメサンガ  
ノソノソ  
キタノ。ソシ  
テ  
カメサンガ  
イットウ  
ナッテ  
ソレカラ  
キタ  
トキニハ  
カメサン  
ガ  
テッベンニ  
イタノ。〔だけど、そ  
れなのに、それでも〕(赤-w男5:3-10)

2.1-3-4「そし  
他」の意

2.1-3-5「それ で」の意	○ソシテ ウサチャンガ ココン トコ ロ ネチャッテネ サキ カメサシガ イッチャッタノ。ソシテ ウサチャン ガ オソクナッチャッタノ。(自-r女 5:7-17)	○～ライオンガ シマウマ オイカケテ ンノ。ソシテネー コドモタチ ミテ タノ。〔それを〕(自-a男4:9-10)	○ソシテ ネチャッタノ。ソシテ ケテ コウ イウ (赤-w男5:3-10)	○タヨウガ ココニ オシ[ひ]サン トコロニ キタノ。ソシテ ナガネ タオレタノ。(はつきりしな い) (自-k男3:4-7)	○指示代名詞を使 うところを「そ して」でませ ている。
2.2 文中 で、そしての 場合	2.2-1 間投詞 的	○ミズ マコウト シタラ カレテ シテネ マタ オミズ マイタラ レチャッタノ。〔「そしてまた」口ぐ せ。文意もおかしい〕(自-x男6:1-4)	○タベテ ソーシテネー ルノ。(神-柿男3:7-2)	○タベテ ソーシテ ミテタ レチャッタノ。(神-佐女3:7-15)	○間投詞的とも。 ○理由の意味の場 合年少なし。
2.2-2 一応正 しく使用	○ハーティダ チュッテ ジュースヤ ロンナ モノ タベタリ ノンダリ シテ ソシテネー オドリや セイア ゲキヤ ヤッタノ。(赤-w男6:3-16)	○ハビーッテ ココニ ベンダント サゲ テテ ソイデ コウ ャッテ カタホ ウノ アシ コウ アゲテ カタホウ ヒザ ツケテ ソシテネ コウ ット バケチャウ。(赤-w男5:3 -8)	○マエノ ホウ コウ ャッテ ミテタ ラ ブツカツチャッテ ソシテネ ヒロコガ タオレチャッタノ。〔文おかし い〕(神-佐女3:7-15)	○間投詞的とも。 ○理由の意味の場 合年少なし。	
2.2-3 他の意 味のところ に使用	○ニジュウヨンゴウカンテ イウトッカ ラ ソシテ コウ イッテ ソシテ マタ マガッテ ソシテ ココラヘン ヨウチエンダカラ スグニ ツイチャ ウノ。〔道順〕(赤-m男5:10-11)	○ソシテ ヤネハ チヨコレートダカラ ヤネノ チヨコレート タベテ テネ マホウツカイノ コエガ キコエタノ。(自-h女4:7-9)	○コウ イッテ ソシテサ ココニ コ ノ クライノ ミチ アルデシヨ。コ	○理由の意味の場 合年少なし。	

コカラ センセエト ナランテ クル  
ノ。(赤-w男5:3-6)  
◎ソウシタラ カゼガ フイテ キテ  
ソウシテ オウチ ハイッタノ。(神  
-師女4:11-10)

2.2-3-5「それ  
で」の意

○ダラネ ミライタトカ ガイコツダト  
カ カイブノ フネダトカ アッエ  
ソシテ ミンナ ミテ キタノ。〔それ  
を〕(赤-w男6:3-25)

たら そし  
から ての  
その他 場合

○ニジュウヨンゴウカンテ イウトッカ  
ラ ソシテ コウ イッテ ソシテ  
マタ マガッテ ソシテ ココラヘン  
ヨウチエンダカラ スグニ ツイチャ  
ウノ。〔道順〕(赤-m男5:10-11)  
○ナンカ エ カイタリ ソウシテネ  
アト ホン ヨンダリ アト ネンド  
テ ナンカ ツクッタリ スンノ。〔並  
列〕(赤-m男5:10-6)

○ヒダリガワニ ニザヨウト オモッタ  
ラ ソシテ ソシテ ツカッタノ。  
(神-佐女3:7-15)

○コノ オハナガ カレチャッテ ミ  
ジュ カケタラ ソシテ オテンキニ  
ナッテ ソシテ マッスグン ナッタ  
ノ。(自-s男4:10-26)

○ソシテ コゴ〔これ?〕ガ チュウシャ  
デ ソシテ〔て〕 コゴニ シロイ ク  
スリガ チイーット ハイッテテ ク  
ロイノガ チイーット ハイッテ ヤ  
ルト イタノ。(自-p男4:7-12)  
●エーカキトネ ソシテネ ツミキデ  
アソブノトネ シュウカイ。〔並列〕  
(神-村男4:3-10)

○ヒダリガワニ ニザヨウト オモッタ  
ラ ソシテ ソシテ ツカッタノ。  
(神-高男4:4-22)

○～オイシャサンナノ。ソシテネ…(赤  
-x女6:2-2)

〈して(そしての略)〉

2 発話中  
2.1 文頭

○～キバ フタツ アルノ。シテネ オ  
ハナガ ナガクテ ソシテ ミミガ  
オッキイノ。(自-s男4:10-3)  
●ボウヤダチガネ エンソクニ キテ  
ネー シテネー オウマガ イッハイ  
リかえし](神-高男4:4-22)

2.2 文中  
○ライオンガネ ヒトーリボッチニ  
ナッチャタネ シテネ ココマテ

アルイテ キテネ～〔間投詞的〕(赤-x 女6:2-17)  
 タノ。〔一方?〕(小-村男4:9-17)  
 〔〔略〕〕ッテ ユッテネ シテネ  
 「〔略〕」ッテ ユッテ 「〔略〕」ッテ イッタノ。〔それで、そしたら〕(神-鶴女5:0-21)

#### 4 そしたら 1 発話のはじめ

1.1 間投詞的  
 それで? ○ソシタラネ オッカケタ  
 ノ。(赤-r女5:10-10)

1.2 反復  
 そしたら? ○ソシタラネ ポウヤガ  
 ミズオハナニ アゲニ キタノ。(白-m男6:4-14)

1.3 その他  
 ○ヨウエンドカラ スケニ ツイチヤ  
 ウノ。／いいお近くて／○ソシタラ  
 ミンナデ ムシトカ ソウイウノ ツ  
 カマエニ イク。(赤-m男5:10-2)

#### 2 発話中

2.1-2 一応正  
 ○～ミンナ ナイタノ。ソシタラ ドロ  
 しく使用 ボウタチガ ピックリシテ コノ オ  
 ワチカラ ニケダシタノ。(自-d女5:  
 11-21)

○オジイサンガ キッタンダッテ。ソウ  
 シタラ カワイイ アカチャンガ ウ  
 マレタンドッテ。(自-u女6:5-18)

キテネ ライオンノ コト ャッツケ  
 タノ。〔一方?〕(小-村男4:9-17)  
 〔〔略〕〕ッテ ユッテネ シテネ  
 「〔略〕」ッテ ユッテ 「〔略〕」ッテ イッタノ。〔それで、そしたら〕(神-鶴女5:0-21)

#### 1.1 間投詞的 それから? ○ソシタラネ ゴハン タ ベサシテ ウエデ タベナイデ シタ テ タベタノ。(自-a男4:9-1)

そしたら? ○ソシタラネ ポウヤガ  
 ミズオハナニ アゲニ キタノ。(白-m男6:4-14)

○前文につづいて  
 いるのがはつき  
 りしているの  
 で、その他に入  
 れた。

○エントツノ アナガ〔から〕 ハイッテ  
 クルノ。ソシタラ アッチッチッチ  
 チ。(小-竹男4:1-10)

○バクダン? バクダンサー。ソシタラ  
 オイカケタノ。ソシタラ ダンブカ  
 シュゲ ニゲチャウモン。(神-高男4:  
 4-8)

(赤-u男5:6-10)

## 2.1-3 他の意 味のところ

二  
二  
二

## 2.1-3-2 「そして」の意

○シマウマガ アンナニ イタノ。ソシ  
タラネ コンド シマウマガ ワラツ  
テナノ。(はつきりしない) (赤一「女5  
10-10)

モモガ ナガレテ キタカラネ ヒ  
ロッテネ オバアサンハネ ウチニ  
カエッタノネ。ソシタラ モモタベ  
ヨウト シテネ ナカヲ ポタト ア  
ケタラ カワイイ アカチャン~(赤  
-L女5:9-11)

2.1-3-5 「それで」の意  
○～カエッテ キタノネ。ソシタテ 「オ  
ソカッタネー」 ッテ イッタテ 「ウ  
ン」 テ イッテ ソレデ ヨク ナ  
タラ モウ オワッチャッタノ。(赤  
-0 女6:1-22)

## 2.2 文中 で、そしたら

○ネズミガ イテ クマガ イタノネ。  
ソウシタラ クマガ ネズミノコト  
オイカケタノネ。(赤-0 女5:1-11)

○ウサギサンガ イットウ ハヤイデ  
シヨ。ソシタラ ウサギサン オヤマ  
ノ チョット テッペンマデ[で] ヒル  
ネシチャッタノ。(赤-文庫4-[10-1])

○～ミカラ デテ イッチャッテ ク  
ルマガ トオル ミチニ イッテ ソ  
シタラ トラックト クマガ プツ  
カッチャッテ ソレデ オオケガヲ  
シタ トコロ。(赤-0女6:1-31)  
○シマウマガ イッピキ イテ ライオ  
ンガ オイカケテ イッテ ソシタ  
アンマリ オオゼイニ ナッチャッタ  
リ シテ ピックリ シチャッタ。

③ヘトシテ ウサギガ サキニ ソイテ  
トチュウデ ナカナカ カメ コナイ  
ノデ ネチャッテ ソウシタラ カメ  
ガ サキニ イッテ カケテ イット  
ウショウニ ナッチャッタノ。(小久  
女4:7-29)

○～ヒトリデ イッタラ マイゴニ  
ナッチャウカラ ダメ。ソシタラ オ  
カアサン イッショニ イクノ。(神  
作女3:7-12)

○～ヒトリデ イッタラ マイゴニ  
ナッチャウカラ ダメ。ソシタラ オ  
カアサン イッショニ イクノ。(神  
作女3:7-12)

○～ヒトリデ イッタラ マイゴニ  
ナッチャウカラ ダメ。ソシタラ オ  
カアサン イッショニ イクノ。(神  
作女3:7-12)

○～ヒトリデ イッタラ マイゴニ  
ナッチャウカラ ダメ。ソシタラ オ  
カアサン イッショニ イクノ。(神  
作女3:7-12)

(自-j 女5:7-11)

2.3.3 他の意味のところ  
に使用

○ネテ アサニ ナツテカラ ゴハシヲ  
タベテ ソシタラ アタ〔さ〕 ハヲ  
ミガイテ タベタラ ソイテ ニコ  
トマツテ, [意味不明] (自-b 男6:0-2)

2.2.3-4 「そ  
の他」の意  
味から」の場  
合

●～チャント マッチュグ イッテネ  
オオダンホドウヲ トオッテ アノー  
ソシタラ マタ オオダンホドウガ  
アル トコヲ トオッテ ソレカラ  
アソコニ モンガ アルデシヨ。 (赤  
-g 女4:8-5)

●オバアサンノ トコロヘ オオキナ  
モモガ ナガレテ キテ ソウシタラ  
オバアサンガ ヒロッテ オウチへ  
モッテツテ～〔それで、それを〕(袖-師  
女4:11-7)

○「カイモノ イッタンダヨ」ッテ オ  
シエタラ ソシタラ オトウサンガ  
オコッテ キテ ソイテ ウマゴヤガ  
アラサレタノ。 [意味不明] (赤-0 女  
6:1-20)

たら | そした  
から | らの場  
て | 合

その他の場合

○～タイチョウガ 「ムコウ イッテ  
クダサイ」ッテ ユッタラ ムコウ  
イッテ ハヤト〔た〕ガ ダレカニ  
ハナヲ モラッチャッタノ。ソシタラ;  
〔語順〕 (赤-m 男5:10-1)

＜したら他(そしたらの略)＞

○クマガ ネズミア オイカケテラネ  
ネズミハ ドウロア ワタッテネ タ  
ラネ タンブカーガ ポカーンテ キ  
テネ クマト ブツカッタノ。〔間接  
詞的〕(赤-c 男6:3-24)

●～「クマー」ッテ ナイタノ。シタラ  
シマウマガ キテネ カケッコ ショ  
ウカ～(赤-i 女5:3-14)  
・投詞的〕(自-1 女3:3-5)

## 5 だから

### 1 発話のはじ め

#### 1.1 間接詞的

どうしたの？ ○ダカラネ ダカラネ  
ダカラ ダカラネ ダカラ アシ  
オリノ ホウテ 「オトウサンナン  
カ アンナ コト シナイヨネ」  
ダッテ。(自-g 女5:11-6)

### 1.3 その他

#### 2 発話中

#### 2.1 文頭

#### 2.1-1 間接詞 的

○～ヨンジュウニゴウカンノ コガ (ト  
バイ) スルカッテ キタノネ。ダ  
カラ ソレテ ダマッテ カズマサク  
ンテ イウ コラ ヨビニ イッタ  
ネー。〔訂正〕(赤-w 男6:3-10)

○コレハ タイヨウニ バッカシ ア  
タッテル シオレチャウデショウ。  
ダカラ ミズヲ スコシ ヤンナ  
キヤー ダメ。(赤-w 男6:3-30)  
○ウサギハ イネムリシテンノ。ダカラ  
カメノ ホウガ イットウニ ナッタ

○ライオンガ タベヨウト シタノ。  
ダカラネ シマハ ニゲチャッテ  
ライオンガ オイカケチャッタノ。  
(はつきりしない)(赤-n 男5:2-8)

○ミズヲ オハナニ カレテルカラ  
カケテンノ。ダカラネ ハナガ チヤ  
ント ウエニ ナッテンノ。(神-寺男  
4:4-18)

ノ。(赤-<sub>b</sub>男6:5-18)

2.2 文中  
て, だから  
場合

2.2.2 一応正  
しく使用

●アサン ナッテ アタシ イチバン  
ハヤク オキテネ ダカラ オカアサ  
ンハ ヨル ミルクネ アツタカイ  
トコ(ロ)へ オイトクノ。〔意味不明〕  
(赤-<sub>E</sub>女5:8-35)

○オテンキガ アルカラ ハナ モウ  
オレナイデ アタシイ ハナトト  
リカエテ ダカラ ココニ オイテ  
アンノ。〔意味不明〕(赤-<sub>k</sub>女5:3-16)

○誤用である。

から, だから  
の場合

○～ゼンゼン トレナカッタカラ ダカラ  
ラ ミツケヨウト オモッテ イナク  
ナッチャッタカラ オサンボカラ カ  
エッテ キタンダヨ。ホイクエンニ;  
〔意味不明〕(自-<sub>k</sub>男5:8-12)

○「から」だけで  
十分なのに「だ  
から」を口ぐせ  
的に入れる。年  
少にめだつ。

○ナニカガ ツカマッタ トキ ツカ  
マッタテ イウデショウ。ダカラ;  
〔はつきりしない〕(赤-<sub>x</sub>女6:2-15)

○「から」だけで  
十分なのに「だ  
から」を口ぐせ  
的に入れる。年  
少にめだつ。

2.3 文末

6 だつて  
1 発話のはじ  
め

どういうとこいいの? ○ダッテネー  
アンマリ オコラナイ トコ。(赤-m  
男5:10-2)  
どうしてやなの? ○ダッテサ スフル  
ンダモン。(赤-<sub>v</sub>男6:1-3)

○「どうして」の  
質問に対して,  
答の文頭につく  
口ぐせ的用法。  
間投詞的と名づ

アリハハのお話聞かせてくれる?  
ダッテ ワカンナク ナッチャッタ。  
(赤-<sub>u</sub>男5:6-8)

よくおぼえていたわね。○ダッテ ボク  
ズーット マエニ ガラガラドンヨ  
ンダカラ オボエタノ。(神-三男4:0-  
46)

2 発話中	クンダモン。(自-0 男5:4-3)	ヤツチュケルンダモン。(小-金男4:1-6)	けてよいか疑問 だが。
2.1 文頭	○ソレモ〔遊星仮面のこと〕シラナイ。 ダッテネ テレビダカラ ワカンナイ ノ。(自-b 男6:0-19)	⑥デモ カタツムリハ ヘイキダヨ。ネ ラレルヨ。ダッテサ アタマヤナンカ ヒッコンデサ アレ ネラレルジャナ イ。(小-海男4:3-17)	どうして？ ○ドウシシモ。然 ダッテ ウルトラセブンノ ホウガ ツヨイモ ン。(神-宮男3:8-6)
2.1-2 一応正しく使用	○オカアサンや オトウサン タタカッテタノ。ダケド モウ オカ アサンや オトウサン モドッテ キ タカラ コンドデ オフリニ ナツ チャウノ。(赤-r 女5:10-7)	⑥キット ソウダヨ。ソウダヨ。ダッテ カオガサ ライオンノ カオジヤ ナ インダモン。(赤-d 男4:2-12)	○質問とか前文に つながっている という意識が効 見にあるのだろう うか。むしろ、 「その他」の項 に入れるべき か。
7 だけど	1 発話のはじめ	1.1 問授詞的 なんでつなひきおもしろい？ ○ダケド ボク ヤダナ ツナヒキ。(赤-v 男6: 1-3)	三匹の山羊のがらがらの電話でき る？ やってみて。○ダケド ゴホン ナクッチャダメ。(神-場男3:10-16)
1 発話のはじめ	1.1 問授詞的 なんでつなひきおもしろい？ ○ダケド ボク ヤダナ ツナヒキ。(赤-v 男6: 1-3)	○テ アレネ ダケドネ ボク サイ ショハネ ボクネ フレネ アノ ヒ トダト オモッチャッタ。(神-三男4: 0-25)	○マダ アルノ。[いちご] /そう/ダケ ド- タベナイノ。(神-寺男4:4-7)
2 発話中	2.1 文頭	○オカアサンや オトウサン イママテ タタカッテタノ。ダケド モウ オカ アサンや オトウサン モドッテ キ タカラ コンドデ オフリニ ナツ チャウノ。(赤-r 女5:10-7)	○シンデラモ 「イキタイナー」ッテ。 「ダケド アタシハ オカアサンカラ イッパイ オシゴトガ イツケラレ テンデスマノ」ッテ ュッテ オシゴ トヲ ヤッテラ～(赤-p 女5:2-12)
2.2 文中	2.1-2 一応正しく使用	○チャウタケド チカイケド ダケド コウ エン イク トキハ ハイル トキハ ダイジョウアタケド オフロヘ イッ	○チョット チカイケド ダケド コウ エン イク トキハ ハイル トキハ ダイジョウアタケド オフロヘ イッ

テ ガッコウノ トコ トオルト マ  
ルプロ イッタラ カエル トキガ  
トオインダモン。〔「けど」文末とも。  
意味はつきりしない〕(神-三男4:0  
-31)

❷ ソシタラネ アナボコニ ハイツ  
チャッタ。フカイヨ, タケロ。〔語順〕  
(神-渡男4:6-7)

〈けど(だけど)の略〉

おとうさんの仕事知ってる? ○ウン。  
シッテル。／どういう仕事してるの?  
／オシゴト?／ん?／ドウ ヤツテ  
エイコラ シテル。／ん?／ケドネ,  
シラナイ。(神-場男3:10-4)  
❷ オヨガナカッタ。ミタダケ。／良かつ  
たね/ケド ウミン トコニ ポート  
デ ワタッテ ミタノ。(赤-e 男4:1  
-2)

8 でも  
1 発話のは  
じめ

1.1 間接詞的  
的

2 発話中  
2.1 文頭  
2.1-1 間接詞  
的

幼稚園のお休みの日どつか行く? ○テ  
モネー イッコダケ イッタ コト  
アル。〔口ぐせ〕(小-神女4:1-6)  
❷ イナカ。／そう。／テモ サ カボチャ  
オイシイカラ カボチャ ツクッテ  
クレタノ。(神-桑女4:10-26)  
(小-神女4:1-12)

2.1-2 正しく 使用	いつもにかいてるの？ ○イツモ ヤッテ ナイカラナー。テモネー ロ ケットトカ ジドウシャ。(赤-s 男6: 6-7)	○ソレガ コワイノヨ。グルグル マ ワッテ メガ マワルノ。デモ アン マリ コワク ナカッタヨ。(赤-f 女 4:10-9)	／いいお母さんじやない。／●ウン。テ モ オコンダヨ。(赤-a 女3:10-11) ／こわくなかった？／●コワクナイ。テ モ ノンナカッタヨ。(赤-b 男4:0-8)
	楽しかった？ ○ウン。テモ ントキ コロンジャッタ。(赤-t 男 6:0-8)	●イツモ。／そう。／デモネ イモノハ ミナイ。(小-対女4:7 -18)	
	○ネナカッタラ ゴールニ ツイチャ ウ。テモネ ネチャッタカラ カメク ンガ イツツウニ ナッチャッタ。(赤 -u 男6:5-18)	●～トベナクナッチャッタノ。テモ カタツムリハ ヘイキダヨ。ネラレル ヨ。(小-海男4:3-17)	

## 9 そうすると

### 1 発話のは

#### 1.3 その他

### 2 発話中

#### 2.1 文頭

2.1-1 間投詞 的	○～オイテ オクノ。ソシテネ ソウス ルト ユウガタノ クジン ナッテ ミルト～「[そして] でよい」(自-s 男 5:9-7)
----------------	---

2.1-2 一応正 しく 使用	○～イチバン マエガ コロブデシヨ。 ソウスット ダンダンニ コロンテ イクデシヨ。(赤-t 男6:0-8)
--------------------	--

6-7)	（テープ）裏返しにしてまた入れるのよ。 ○ソウスルト ドウ スンノ〔なんの〕? (小-佐男4:3-18)
------	--

○イチバン (コレ)。(ソウスルト) コレ ナニカ トラエタカラ (キテ) オッ カケテンノ。〔意味不明〕〔間投詞的〕 (赤-d 男5:4-13)
--

2.1-3 他の意味のところ

に使用

2.1-3-1 「それから」の意

2.1-3-2 「そして」の意  
2.1-3-2 「それから」の意

2.2 文中  
て、そうする  
との場合

2.2-2 一応正しく使用

10 その他

じや

10 その他

○～ズット マックグ イッチャウノネ。  
ソウスルトネ コッチへ マガルノ。  
ヒダリニ；(小-弘女5:1-7)

○～ツクッテ オクノ。カゴノ ワナヲ；  
ソウスットネ クダモンモ オイトイ  
テネ ソウスルトネ タベヨウト シ  
テ ハイツラ パッテ ツカマエル  
ノ。(自-s 男5:9-9)  
○ダンダンニ コロンデ イクテショ。ソ  
ウスルト コロンジャウノ。ミンナ；  
(赤-t 男6:0-8)

○クダモンモ オイトイテ ソウスルト  
ネ タベヨウト シテ ハイツラ  
パッテ ツカマエルノ。(自-s 男5:9  
-9)

○ソコヲネ ワタツテ ソウスルト ポ  
クンチヘ チュクノ。(小-永男4:4-6)

○コレデ イイノ？/そ。/ジャネ  
シマウマノ トコ イッタノ。ミツケ  
タラ；(赤-r 女5:10-10)  
/田舎でいいし/○ウーン ジヤー  
イナカノネ。(自-k 男5:8-4)

○話題の転換  
○[間接説明・口ぐせ] (小-原女  
3:7-26)  
○～ウチ シツテル？/知らない。/  
ジャ コンド ウチニ クル トキニ  
ハ オシエテ アゲル。(小-神女4:1  
-4)  
死なないよ。勉強しないだって。○ジャ

ナニガ シム[死]ノ? (小-佐 男4:3)

-7)

それに 〜交通事故なんて見たことある? / ○ハタグミニ イッテ ソイテ オニギリ タベテ アト ギュウニユウ タベテ ソレニ オセんベエ コイダケタベテ, (自-k 男4:8-1)  
イッチャリネー タクシニ アツカッタリネー ソレニネー スピードイハンドタリ。 (赤-o 女6:1-25)  
/ それから? / ○ソレニ ドナルドダック。 (自-t 女6:4-12)

それと

●ハッタダッテ ダレカニ ャッタ コトアルンダカラ。 ソレニネ イロノツイテル バッタミタイナ カタノボク ミツケタンダカラナー。 (赤-d 男4:2-14)

○累加の意

○ハイク タイソウトネ ナガクツラハイタ ネコトネ..... カケッコデシヨ。 ソレトネー ハトポッポタイソウトネ..... (赤-r 女4:10-3)

○累加の意

●オハナ カレチャッタノ。 ソンダカラ ミズニ[を] ャッタノ。  
ミジュ カケヨウト モッタノ。(自-z 男5:8-15)

○ソイデネ ソレダカラネ モウネ ユカチャシチ イカナイノ。 (自-o 女6:1-6)

○～オテテテ ャッタノ。 ソイダカラネ  
アーカイヤッテ ャッテンノ。 [意味不明] (小-矢女4:0-15)

○条件、展開

●オジイサンモ ユッタノ。 ソンデモ

イクッタラ オシイサント オバアサンハ「ソンナラ イッテラッシャイッ」 チェッテ～ (自-u 女6:5-19) たのしいことは。 ○アノ ナイケドネ。 ソイデモネー ボールナンカ アソブノガ タノシイ。 (赤-a 男5:11-12) [問投詞的]

●ナンダカ チンナイケド ソレデモ  
ガマンシテモ ナンダカ ケンカシタ

それでも

イノ。〔間投詞的〕（自-y男6:0-15）

○ソントモ イクッテッタラ オジイサ  
ント オバアサンハ「ソンナラ イッ  
テラッシャイッ」チュッテ オバアサ  
ンハ キミダンゴラ ツクッテ オジ  
イサン モモタロウノ ハタヲ ツ  
クッタノ。（自-u女6:5-19）

（それ）だった  
ら  
○ウサギサンネ カメヨリ ハヤイカラ  
ジマンシテネ ダッタラネ カメクン  
ガネ ムコウノ ヤママデ キヨウソ  
ウシテ ミヨウツテ ュッテ～（赤-u  
男6:5-17）

○～コンドハ コッチイ マガッチャヘ  
バ イノネ。ソウスレバ ツクノ。  
(赤-a男5:11-14)

そういうば

それとも

ところが

じやなくて

○「ソンナラ オマエヲ タベチャウゾ」  
〔物語〕（神-高男4:4-25）

○条件、展開  
ゴー ヨンサン エイ イチ ゼ  
ロ。（神-井男5:0-15）

○条件、展開

○仮定、展開  
●アー ソウイエバサー オオモリノ  
オバーチャンチ カラーダヨ。（赤-a  
女3:10-16）

○条件、展開  
どっち好き？ アタックナンバーワン。  
／どんなお話？／ソレトモネー シ  
ラナイケド。〔言いさし〕（赤-t女4:4  
-6）

○条件、逆接

●～ハネナガラ ニケタノ。トコロガネ  
イシニ アツカッテネ カメノ ホウガ  
イチバン ハヤクテネ ウサギハネ  
タオレチャッタノ。（神-規男4:6-20）

○反対  
○マッハゴートネ マグマタイシ。  
ジャナクテネ ロボタントネ オオカ

ミショウネントネ アト シラナイ。

(小-神女4:1-9)

どうして(か)  
っていうと

○理由、説明

○～ボク ニトウ。／遅いね。／ン ドウ  
シテカッテ イウト サイシ・ヨ ハヤ  
クタッテ アレ ヤスンジャッタカ  
ラ。〔意味不明〕(赤-d男5:4-3)

○センセイニ ナリタイ。／どして?／  
ドシテッテ イウトネー ナンデモ  
デキルカラ。(赤-r女4:10-5)  
●ドシ ドシテカトイウトネ ソノ  
ショウジョフレンド トイウ オモシ  
ロイ コワイケド オモシロイネ  
レヲネ ミルタンビニ カイニ イク  
ノ。(赤-q女5:2-18)

それでもって ●～イツノマニカ タマッチャッタノ。  
ソレデモッテ ホイデ ハジメ ジュ  
ウエン ダッタンダヨー。〔話が變つて  
いく、おかしい〕(自-y男6:0-11)

誤用

○～アールニ トビコンデルカラ ミニ  
イッタンダヨネ。ソシテモ プールガ  
ナイ。イクラ サガシテモ;〔そし  
たら、それでも〕(自-b男6:0-25)

○～ネッコロガッテ シンダ マネッテ  
ヤッテ ソシテモネ ミンナ クビヲ  
フッテ、ムコウニ イッタラ～〔そし  
たら、それでも?〕(自-t男6:2-22)

○オトウチャン イッテカラ。フジサ  
ン: ソシテカラネ オカアチャン  
コンド イッタノ。〔それから〕(自-e  
女5:7-7)

○条件、展開

○コレハネアタマトネ ウン ブ(ツ)  
トネ ( ) トッテッタラネ ソシタ  
ラバネ イタイッテ。(小-藤女3:10  
-11)〔そしたら〕

●～コッチノ ホウ イクノネ。ソウシ  
テカラネ ズーツ イッチャッテネ  
〔そして、それから〕(小-弘女5:1-7)

それたべるの? そして? ○ソシテック  
ラネー ネムク ナッタラ ネテ ソ  
イテ オカサンガ カエッテ キタ  
ラ イツモ オフロ イクノ。〔それか  
ら、そして〕(自-1 男6:4-11)  
～ソイテ カタツケテネ ソウシテカ  
ラネ バイバイシテ～〔そして〕(自-1  
男5:7-1)

## おわりに

### —まとめと将来への考察—

幼児の話しことばの文構造の研究は、現代語を研究するものにとって、興味深い研究対象ではあったが、なかなか荷の重い仕事でもあった。十分に調査研究がなされたとはいえない。問題を残したままの段階でまとめたような状態である。しかし、この調査からでもわかったことは多い。本文で述べてきたわけだが、ここに箇条書きにして気づいたことを要約する。

①3歳から6歳の幼児は、年齢を問わず、わりによくしゃべり、不整文もあるとはいえ、いろいろの構文を使用している。

②とはいっても、このような調査では、上位の幼児の用例が取られるくらいがあるので、全体からいうと、単文では五つ以上の文節からなる文、複文では主語五つ以上からなる構文は十分に使えないといえそうである。年少、年中は全体の幼児からいうと単純な文構造の文で話しているのである。

③具体的な用例はそれぞれの使用例をみていただくことにして、構文の上では、年少と年長の間に一段のめざましい違いがあり、年中が、その橋渡しの役目をしているといえる。したがって年少では使用できない構文が年中でよく使用されているというような場合もみられる。特に複文のうち、接続助詞を二つ以上もつ形式で主語四つからなる文までについては、年少の使用数が少なく、年中はよく使用している。また、連体修飾語の節をもつ構文は年少にはほとんどなく、これは年中でも少ない。年長にならないと使えないのである。複文構造では特に年少において前後の関係をはっきり理由づけて話せず、「から」よりむしろ「て」を用いて並列的に述べる傾向がみられる。「から」をもつ文は「から」文末の省略文あるいは補足文ともいえる文に多い。

④文末形式では、使用的まちがいも少しあるがほとんどの年少児が簡単な形式は用いている。使役の助動詞については逆にほとんどの幼児が使えない。推定の「らしい」もむずかしいようである。

⑤接続詞については、「それで」「そして」を間投詞的に愛用している。接続助詞「て」と結びついた「て、それで」「て、そして」などの言い方を好む。文を連接して話す時、幼児はまだ簡潔な要領のよい複文構造の話し方ができないからだろう。「～て～て」で連接する複文構造で話す傾向もあるが、これらとともに、文意識の未発達のためと思われる。

⑥個人別文節数を調べたが、長く話すことと、きちんとした構文を話すこととの相関はどうであろうか。数字であらわせないが、少ししか話せない幼児は問題外にして、きちんとした構文で話している幼児は中以上の長さの話をしているようである。

用例によく登場してくる幼児は、文節数の多いほうに属する幼児であることはもちろんであるが、整わない話し方として用例にあがる幼児と、整った話し方をして登場する二種の幼児群がある。年長でみると自s男と自j女は前者の例で、赤w男と赤o女は後者の例である。年少では神三男が前者で、小佐男が後者といえる。しかしこれとて厳密な結果ではない。このような面からの資料の用い方もあるのである。

次に思いつくままに調査の反省も含めて今後の研究課題について述べる。

(1)用例をあげるときに、必要に応じて主語の欠けたものはかぎかっこで補い、補語については一部を補った。格助詞、副助詞の欠けているものは内容の理解できるものは補わなかった。接続助詞の「て」の意味が「ので」となるところは、幼児が「ので」をうまく使用できないので補ったところもある。(「ので」の使用数は少ない)これらについては問題もあるが、構文の分析をする場合、幼児の深層に入って分析したほうが、わかりやすいと思ったからである。深層に入ったつもりが、そうなっていないことを恐れる。

(2)数をあげたことについて——この調査は数を調べるのが目的でなく、幼児の文の構造とその発達をみることをめざしており、もともと時間制限をせずに話題をいくつか決め、幼児に自由に話させたものである。しかし、どのくらいの数が使えるものかを知りたくなり、調査者の心覚えにメモしておいたものをそのまま原稿にのせた。そのような数字である。

(3)どのような方法論で分析調査をやるかということは何よりも大切なことで、ここでは調査者の文法観が問われるだろう。その点反省することが多いが、今後すぐれた現代語文法が確立された時点で、そのような観点から調査してみたいと思う。今見えなかった幼児の文構造の特色もそこでは見えてくるかもしれない。

しかし、そのような本質論にさかのばらないでも、この幼児の話すことばの資料を使ってさまざまな研究をすることができる。たとえば次のようである。

話題として、幼児の家族について「おうちにだれとだれがいますか」という質問をした。その答の構文はさまざまであった。この一問答からも文の構造の発達が見られるのである。

この質問に対する答は大体「A ト B ト C」という並立構文が多い。その他、「A ト B ト ソレダケ」の構文。これらは年齢を問わざる。そのほかの構文をあげて、年齢的発達を見ると、数字を入れたり、文末に動詞を入れる構文を使っている。4歳以前に比べると表現に発達が見られるのである。語彙の発達とも密接に関連している。

○コドモガ オネエサンガネ サンニンデネ ヨウチエンガ ヒトリデネ オジイチャンガネ  
シンジャッテネ ショウ (この中は聞きとれなかった) ガネ イテネ オトウサンモ イテ  
オカアサンモ (イル)。 (小少-相男 4:4)

年中になると自分も家族のメンバーになる。「あたし」「ぼく」が言える。年齢でいうと5歳前後からである。たとえば、

○ノリコトネ ママト オトウサント ボク。(赤中-s 男 5:6)

○イモウトトネ オカアサント オトウサント アタシシカ イナイ。(赤中-q 女 5:2)

次のような構文も出てくる。

○カゾクデ? / そう [質問者の返答] / パパト ママト オニイチャン イマス。(赤中-p 女 5:2)

「家族」などということばや「います」といねい語を使う幼児もでてきている。年長には次のような構文もある。

○イマハネ オトウサン シッチョウ シテルノ。 イマハネ オカアサント オネエサント  
ネ ボク。(赤長-c 男 6:3)

「今はね」と限定して答えているところなど、なかなか正確である。こんなふうに問への反応の発達を見ることによって、幼児の言語の発達の様相もみることができるのである。その他質問者の質問に二つのことがらがあった場合、はじめに反応するのではなく終わりの部分に反応するとか、どのような質問に対してはどのような反応がかえってくるかとか、という伝達の問題もある。文構造の発達研究についても調査し残したことは多い。本文でそれぞれ述べた。今後の課題にしたい。<sup>4</sup>

# 付 錄

## 付1 幼児の話す長さ

問答形式によって、話題をきめて幼児と話した場合、幼児はどれくらいの話をするものか調べてみた。

調べかたにいろいろの方法があるが、ここではまず次のようなものの平均数をみた。幼児はこれまでと同様、年中、年長同一幼児、年少は神谷、小川の幼児である。(1)文節数、(2)文数、(3)発話数、(4)一文中の文節数、(5)一発話中の文節数、(6)アノネ、ウーントネ数、(7)アノネ…を一文節として数えた場合の全文節に対する割合。次表がそれである。

種々の方法でみた幼児の話す長さ

年齢		(1)文節数	(2)文数	(3)発話数	(4)一文中の文節数	(5)一発話中の文節数	(6)アノネの数	(7)アノネの割合
年長	男	400.55	91.64	66.14	4.37	6.06	49.91	12.46%
	女	378.69	82.38	57.75	4.60	6.56	32.69	8.63%
	計	391.34	87.74	62.61	4.46	6.25	42.66	10.90%
年中	男	221.05	66.36	45.27	3.33	4.88	29.45	13.33%
	女	236.94	60.31	43.94	3.93	5.39	28.19	11.90%
	計	227.74	63.82	44.71	3.57	5.09	28.92	12.70%
年少	男	335.18	112.14	72.32	2.99	4.63	46.27	13.81%
	女	266.77	94.54	64.15	2.82	4.16	28.00	10.50%
	計	309.77	105.60	69.29	2.93	4.47	39.49	12.75%

年中と年長は同一幼児なので比較できる。平均的にみると、文節数も文数も発話数とともに年齢があがるにしたがって多くなっているのがわかる。年少児が年中児より数が多くなっているのは、たまたま調査時に先生から聞いていた物語を長く話していたことと、一人の幼児が特別におしゃべりで、年長児よりも多く（採集例の中でトップ）話していたことなどの影響である。

一文中の文節数をみると、年少児は、話した文数も文節数も年長児より多いにもかかわらず少なくなっている。短かい文をたくさん話していることがわかって面白い。

「アノネ」「ウーントネ」の数を調べたり、文節中の割合をみたのは、次のような理由による。

①これら間投詞を幼児が非常によく使う。②これら間投詞があることによって幼児の切れない長い文も理解できるとか、文が飛躍しても理解できるなどのこともある。これら間投詞は別に研究してもよい問題である。③しかし、この調査では、用例として幼児の話しことばを使用する場合、紙面には煩雑ということなどもあって、必要な場合以外は省略した。

そこで、なんらかの形で、このような形式のあることを残すために、調査してみたわけだが、全文節に対する割合は約一割ということになる。年齢を問わず女児より男児にいくらが多い。

次に、最高、最低の文節数と発話数その他をみると次表のようになる。

### 最高、最低文節数他

	年 長		年 中		年 少	
	男	女	男	女	男	女
文 節 数	780～159	724～141	605～56	550～112	1,496～34	647～10
文 数	141～57	138～33	169～32	94～37	430～24	321～9
発 話 数	92～38	80～32	70～29	76～30	142～20	185～10
アノネ…数	98～10	108～5	130～1	86～4	174～0	65～1

文節数では年齢を問わず男児が最高文節数で話している。年長児は最高 780、最低 141 文節を話し、年中児は最高 605、最低 56、年少児は最高 1,496、最低 10 という数字が出ている。最高はともかく、最低数では、年少児から年中、年長へと話す数がふえていることがわかる。その他については表をみていただきたい。ここにあげた数は、なんらかの話をした幼児のもので、全くしゃべらない幼児が一クラスに一、二名はいるのである。

なお、個人別文節数については第 1 部で述べておいた。

この調査では、話題をきめて幼児に答えてもらったが、これら話題についての幼児の反応を文節数で調べてみた。以下の表のようである。

### 話題別にみた文節数（平均）

話題 年齢と 性別	①親の 仕事	②生活 報告	③テレ ビ	④お話	⑤道順	⑥ライ オン	⑦かめ	⑧花	⑨熊
年長	13.08	67.08	65.03	47.32	17.52	25.34	29.87	16.05	15.53
年中	8.71	38.16	25.42	26.18	11.95	20.18	22.18	12.89	15.26
年少	10.25	45.71	28.11	8.40	9.51	11.71	13.14	9.74	10.74
男	13.14	53.45	42.20	24.68	13.41	21.06	21.33	12.67	13.21
女	7.07	46.02	36.35	33.29	12.62	16.66	22.89	13.44	14.98
全体	10.67	50.44	39.83	27.81	13.09	19.28	21.96	12.98	13.93

九つの話題について平均文節数をみたことになるが、幼児が一番長く話してくれた話題は、②の生活報告と③のテレビで、ついで④のお話という順である。⑤は道順、⑥以下は絵みての話である。年齢別にみても、生活報告、テレビ、ついで物語の順で、性別からみても同じである。生活報告とテレビとお話の差は、年長にいくほど話す長さが接近している。年少はテレビとお話を話す長さが、生活報告よりうんと短かく、年中は、テレビとお話は短かくなっているが、年少がお話がうんと短かいのに比べて、テレビより少し長く話している。（年中の女児にお話を長く話した幼児がいたので平均に響いているのかもしれない。）

もう一つ興味のあることは、男児はテレビでみた漫画などを長く話し、女児は聞いたり読んだりした物語を長く話していることである。また、年少では、物語を話すよりも、テレビで視聴した話をするほうが長かったということである。その他、①親の仕事については、父親の仕事を知っている幼児は少なかったが、それでも長く話したほうは男児で、女児が短かいのが年齢を問わず

めだっていた。⑤道順もむずかしい。この報告書では用例としては、接続詞のところで主として用いた。絵をみての話では⑦⑥⑨⑧の順序で文節数は短くなっている。これら話は、理解して話すというのでなく、絵があるから、描かれているままを順々に話せばよいというような傾向がみられた。深く追求しなかったが、絵を用いての調査は今後の課題にしたい。

次に話題別の最高、最低文節数をみると、その話題について全くしゃべらなかった幼児のあることがわかる。

話題別最高、最低文節数

話題 年齢と性別	①親の仕事	②生活報告	③テレビ	④お話	⑤道順	⑥ライオン	⑦かめ	⑧花	⑨熊
年長	0~71	11~241	6~261	0~238	0~78	11~57	9~142	9~35	7~37
年中	0~99	0~164	0~118	0~173	0~62	0~56	3~52	0~26	0~48
年少	1~61	1~126	2~158	2~68	1~63	1~43	2~35	3~23	5~47
男	1~99	0~241	0~190	0~161	0~78	0~57	2~68	0~32	0~48
女	0~25	1~170	2~261	0~238	0~62	0~53	2~142	0~35	0~47
全体	0~99	0~241	0~261	0~238	0~78	0~57	2~142	0~35	0~48

## 付2 補足文の構造の分析

### 2.1 補足文の構造

文の中では、述部が最後にきている構造が普通であるが、話すことばのため、(1)文の成分の欠けているものを追加補充した構文と、(2)内容の追加や成分の訂正補充をした構文、その他に大きく分けられる文の構造がある。補足した成分をもつ文というわけで、ここでは補足文と名づけた。<sup>(注1)</sup>この補足文をなお細分化して、幼児にはどのような構造が多いか以下にみていくことにする。用例に使った幼児は、これまでと同様に年長、年中は同一幼児、年少は神谷、小川の幼児である。なお、補助資料の用例も◎であげておいた。章末には使用例をあげる。

#### 2.1-1 文の成分の欠けているものの追加補充

これはいわゆる倒置といわれる形式のものを多く含んでいる。この中を13に細分化して用例をあげる。

##### 1.1 主語の補充

##### 1.2 補語の補充

文の成分のところで述べた（第2部第2章）補語<sub>1</sub>、補語<sub>2</sub>がこの中に入る。

（注1） 国立国語研究所報告18『話すことばの文型(1)』(70~80ペ)によると、宮地裕氏は倒置の表現として扱っている。そして、倒置の表現は、間に無理がなく、後置成分の可逆性のものに限定している。ついでにいうと似た形態をとっても不可逆性のものは、その後置成分を単独の省略文または独立の一文と認めるとして、倒置文では扱っていないのである。また別のところで「文+省略の不完全文」を名づけて補充の表現というほうがよいかと思うが、名称のことはしばらくおくと述べている。そして、大人の話すことばでは、概括的に言えば、後置部分は“単純な連用修飾格に立つ成分一つのものが多い”といってよいと述べ、数と用例をあげている。数をあげておく。

	例数	I 1成分後置 240例	
		(1) 主格後置	89
		(2) 用修格後置	143
		(うち)副詞	(52)
		数詞	(4)
		その他	(87)
		(3) 体修格後置	6
		(4) 独立格後置	2
		(うち)接続詞	(2)
全293例	II 2成分後置		28
	III ★印		25
	(くりかえし的表現のもの)		

(☆) ここに述べてある間にについてであるが、幼児の資料は質問者(筆者)が幼児に話しよい場をつくってやるために「そう」とか「うん」とかで合づちをうった。(紙面では然で代表してある。)そのため、不必要に合づちが多い。そこで、この種の合づちは全部取ることにした。そのため、間が引用例には見られない。もっと厳密に補足文の研究をする場合は、録音文字化の段階で、間かどうかの区別をすべきであろう。

### 1.3 場所の補充

補語<sub>3</sub>に相当するものの補充である。

### 1.4 連用修飾語の補充

この中には、節の補充とか、単位文の補充がある。

### 1.5 時の補充

### 1.6 理由の補充

### 1.7 連体修飾語の補充

### 1.8 接続詞の補充

### 1.9 独立語の補充

### 1.10 題目語の補充

### 1.11 成分の一部の追加補充

### 1.12 これらの成分の重なっている補充

### 1.13 文中に挿入しての成分補充

「て+それで」「から+それから」他で連接している文の「て」と「それで」の中間に前文の補足として追加されるもの。主語、補語、連用修飾語、理由の成分補充がある。

## 2.1-2 内容の追加や成分の訂正補充

### 2.1 文や文中に内容を追加補充

これは、一応文が完成したのち、文の内容の不十分さや、内容を豊かにするために追加補充するもので、以下の二種類の形式がある。

#### 2.1-1 内容の追加補充

この中には、節を含む文の追加もある。

#### 2.1-2 文中に挿入しての内容の追加補充

### 2.2 前に話した成分の訂正補充

前に話したことばの不十分さを訂正して、正確なことばで伝えようとするのだと、ただ訂正という場合もある。前のことばが形式としてあらわれているもので、それにも傍線をつけた。成分に分けてどのことばの訂正が多いかみた。

#### 2.2-1 主語の訂正補充

#### 2.2-2 補語の訂正補充

#### 2.2-3 場所（補語<sub>3</sub>）の訂正補充

#### 2.2-4 連用修飾語の訂正補充

#### 2.2-5 時の訂正補充

#### 2.2-6 理由の訂正補充

#### 2.2-7 連体修飾語の訂正補充

### 2.3 文末部分の訂正補充

この中には訂正のみでなく、内容の補充も入っている。位置が文末の場合である。

### 2.4 成分および内容など二重の追加補充

成分と内容の補充だったり、補足文をまた補足するというものだったりする。

### 2.1-3 くりかえしての追加

これは、文の中で大事だと思われるところをもう一度くりかえして話しているようにもとれるが、それほど深い意味でなく、反復に過ぎないもののようにもある。数は多くない。

### 2.1-4 意味不明のもの

## 2.2 まとめ

幼児の補足文がどのような割合を示しているか数字をあげてみると別表のようである。(数字については前に述べた参考程度とみていただきたい)

1の文の成分の欠けているものの追加補充が年齢に関係なく多い。特に年少に多い。中でも主語、補語の補充が多いのは、大切な成分で、それを補わないと意味がとれないと自覚しているのだろうか。年少児には主語補充が多い。但し、話しことばなので、いつも倒置的な文で話す幼児も(大人にもある)いるわけで、話しぐせということもあるので、そのように言ってしまってよいか疑問がのくる。年長児は理由の補充が多く、年少児は場所の補充とか連用修飾語の補充が多くなっているのがめだっている。連用修飾語補充は年中も多い。連用修飾語補充が節をなしたり、つまり、連用修飾部になっているのは全体に少ない。時の補充は年齢を問わず少ないが、年長の例は用例をみるとわかるように、「ヒチジハン」などと数字をくわしくあげている。(語彙の発達ともみられる)成分の一部の追加補充は、姓名のうち姓を追加したり、並列してあげなければならないいうちの一方をのちに追加するもので例は少ない。補助資料にあった。文中に挿入しての成分補充は、年少に見られなかった。

2のうち、内容の追加補充をみると、全体には1のよう多くないが、年長、年中が多く、年少は少ない。2.1の内容の追加は、前文の内容の不十分さを補充したりするもので、相当高いレベルの知能が要求されるからだろう。年少にはなかった。文中挿入の内容追加補充の例は年長のみに二例みられた。

「前に話した成分の訂正補充」はただの訂正もあるが、そればかりでなく正確な内容に訂正するための補充もあるので年少は少ない。成分を細分化してみるとどうであろうか。時、理由の補充は年中、年少ともない。連体修飾語、連用修飾語の補充は年長でも補助資料にみられたに過ぎない。訂正されることばの中には、「これ」とか「ここ」とかの指示代名詞のものがめだつ。

文末部分の訂正補充も、年少に少ない。成分および内容などの二重追加補充は、正確に表現しようとする意図のあらわれで、高度のレベルに属している。そのため全体に使用数も少ないし、年少では特に少なく、使っている幼児も限られている。

3のくりかえしの補充は、強調の意味もあるかもしれないが、あまり好ましい現象ではない。

4意味不明のもの——この中には録音不明瞭で意味不明のものは入っていない。意味のとれないものののみである。

全体の文(きめのあらいものであるが調査した文数付1にあげたもの)に対して補足文がどのくらいの割合であるかを参考のためあげておいた。補足文がめだつのに比して、3~5%という割で少ないことがわかる。

幼児の補足文には成分追加の補足文、いわゆる倒置文が多く、内容追加、訂正補充の補足文は

非常に少ないこと、年少でそれが特に顕著であることがわかった。また、文の成分の面からみると、1、2に関係なく、時の補充、理由の補充、挿入的補充が全体に少なく、特に年少では少ないこともめだつ現象であった。これは第2部の文構造の分析のところでも述べたことで、幼児の文構造の特色と言える。この種の語彙の発達も関係しているだろう。

前にも述べたが補足文が話しぐせの幼児がいることもみられた。補助資料から年少児の一例をあげてみる。1の主語補充(8)、補語補充(4)、場所補充(1)、時の補充(1)、理由の補充(1)、連用修飾語補充(2)、成分の重なっている補充(1)、2の内容追加(2)、訂正補充(1)、計21回にもなっている。

幼児の補足文の形式の割合

補足文の形式	年 齢	年 長	年 中	年 少
	割 合	%	%	%
1 文の成分の欠けているものの追加補充	65.7	55.8	82.4	
1.1 主語の補充	8.4	12.5	15.2	
1.2 補語(補語 <sub>1,2</sub> )の補充	14.5	2.9	13.6	
1.3 場所(補語 <sub>3</sub> )の補充	7.2	8.7	16.8	
1.4 連用修飾語の補充	7.7	11.5	17.6	
1.5 時の補充	3.9	1.9	3.2	
1.6 理由の補充	15.5	7.7	7.2	
1.7 連体修飾語の補充	0.7	4.8	3.2	
1.8 接続詞の補充	1.3	0	2.4	
1.9 独立語の補充	0	0	0.8	
1.10 題目語の補充	0.7	1.0	0	
1.11 成分の一部の追加補充	0.7	0	0	
1.12 これらの成分の重なっている補充	1.9	2.9	2.4	
1.13 文中に挿入しての成分補充	3.2	1.9	0	
2 内容の追加や成分の訂正補充	25.2	25.0	7.2	
2.1 文や文中に内容を追加補充	6.5	4.8	0	
2.1-1 内容の追加補充	5.2	4.8	0	
2.1-2 文中に挿入しての内容の追加補充	1.3	0	0	
2.2 前に話した成分の訂正補充	9.0	10.6	4.0	
2.2-1 主語の訂正補充	1.3	2.9	0.8	
2.2-2 補語の訂正補充	3.2	4.8	3.2	
2.2-3 場所(補語 <sub>3</sub> )の訂正補充	1.9	2.9	0	
2.2-4 連用修飾語の訂正補充	0	0	0	
2.2-5 時の訂正補充	0.7	0	0	
2.2-6 理由の訂正補充	1.9	0	0	
2.2-7 連体修飾語の訂正補充	0	0	0	
2.3 文末部分の訂正補充	8.4	7.7	1.6	
2.4 成分および内容など二重の追加補充	1.3	1.9	1.6	
3 くりかえしての追加	5.8	11.5	5.6	
4 意味不明のもの	3.2	7.7	4.8	
使用した全体の文数に対する割合	4.7	4.3	3.4	

## 幼児の補足文の使用例

分類	年齢	年 長	年 中	年 少	備 考
<b>1 文の成分の欠けているものの追加補充</b>					
1.1 主語の補充	○ソイデ ウントネ ネチャッタノ。ウサ ギガ；(自-k 男5:8-23)	○ソイデ ネ (逃) ギテ ユクノ。シマウ マガ；(自-k 男4:8-16)	○ソイデ ネズミ タベンノ。クマサンガ； ○ヒョウノネ キモノ キテタノ。タ- (ざ ん) ジャナクテネ アノ ワルイ シト ガ；(赤-u 男6:5-9)	○オハシヤ コウイウ オシャジャナシカ モツ ホウ。コッチハ；(袖-三 男4:0 -28)	(小-新男3: 10-10)
	○チットモ コワクナイ。アタシハ；(自 -g 女5:11-13)				
1.2 補語(補語1,2)の補充	●コノゴロネ ヨマナイデ ミルダケニ スンノ。ゴホン；(赤-o 男6:2-17)	○シラナイヨ。ソレモ；(赤-j 女4:7-6)	○ウシャギガ カエイ カユイッテ カイ テル。ホッペ；(神-坂女4:0-8)		
	○カタズケデルヨ。ゴハントカ ソウイウ モノ；(自-v 男5:7-12)	○ウマガ ケットバシタノ。ウシロノ アシデ；(自-b 男5:1-10)	○イク トキナンカ シューッテ ハ ヤインダ。チヨウトッキユウヨリ；(神 -三男4:0-26)		
	●ソウジキナンテネ ピストルミタイニ シチャウンダヨ。メダルデ；(自-e 男6: 1-12)	●ゴハントベタノ。オトウチャント； (神-山男4:9-2)	○シラナイ。ソレモ；(小-原女3:7-28)		
			○ガッコウガ オヤスマ トキネ バッタ トリニ イッタノ。サブチャント；(神 -場男3:10-5)		
1.3 場所(補語3)の補充	○~カラ オキテ ミタラ カメサンガ ノボッチャッタノ。テッペンマデ；(赤 -m 男5:10-22)	○ママネ オシゴト シテルノ。オウチデ； (自-r 女4:8-2)	○オトコノ コガネ マタ イタノ。ビヨ ウインニ；(神-佐女3:7-16)		
	○ソイデ デチャッター。タタミノ ウエ ニ (自-m 男6:4-5)	○~ドアネ ジュミガ クワエテ イッ チャッタノ。アナノ ナカニ；(自-j 女 4:7-17)	○ソイデ タバコヤサンガ アルデショ ソノ アガッタ トチュウニ；(神-三男 4:0-30)		
1.4 連用修飾語の補充	○ソウスレバ イルヨ。イッハイ；(自-r 男5:9-6)	○モウ イナノ。サンニンシカ。(自-r 女4:8-2)	○ソコニ オモチヤバコガ アンノ。ヒト ツ；(神-三男4:0-10)		
	○ケドネ ニチヨウビダケ トキドキネ	○ソイデネ コビトネ ウチマテ キ	○~ソイデ ウチデ ネテル。ズーット；		

<p>ガラスヲネ マドノ ガラスヲ フク トキ アル。オニイサント イッショニ; (赤-k 女6:2-6)</p> <p>○～テレビノ アル ハンタイガワノ レ コードガ アル ホウニ イッテ アソ ンデンノ。ナンカ シテ; (赤-a 男5:11 -18)</p> <p>○～テネ オバケガネー イタズラスル ノ。オナカニ ジー カイタリ シテ; (赤-a 男5:11-11)</p>	<p>チャッタノ。ナガサレテ; (赤-n 男5:2 -7)</p> <p>○ソイデ トビダシタノ。マタ; (赤-t 男 5:1-10)</p> <p>○～カツチャンダノ ダレカ クンダヨ。 アト チュイテ; (自-p 男4:7-8)</p> <p>●アソブノ。ナンカ シテ; (赤-n 男5:0 -3)</p>	<p>(小-神女4:1-2)</p> <p>●～ドッカデネ ハナビガ キコエタノ。 パチバチッテ; (赤-b 男4:0-4)</p> <p>○センセイハ アノ ミニ キタノ? ワ ルイコガ ドコニ イルカッテ; (神-三 男4:0-15)</p> <p>○～テ ヤルトサ テーモ ナンニモ コロガッテサ シンジャウンダモン。チ ガ テテ; (神-宮男3:8-9)</p>
		<p>1.5 時の補充</p>
		<p>○ソンデネ 「レイ」 トカ イウノ。ハジ メ; (自-u 女6:5-13)</p> <p>○ソイデネ アサモ オハヨウコドモシヨ ウツテ ノガ アルノ。ヒチジハシカラ ネ; (赤-f 女5:9-10)</p>
		<p>○イッパイ イッタンダヨ。ヤサンデタ トキ; (自-s 男4:10-9)</p> <p>●～ロンバーレーム ミナイデシヨ。コノ ゴロ; (小-久女4:7-16)</p> <p>●ハシダト チュウシャジョウ イッタ。ヨ ル三; (赤-q 男4:1-3)</p>
		<p>○モーンシショートカ ソウイウノ ミ ル。ウタガ アルカラ; (赤-k 女6:2 -21)</p> <p>○～ポン カオウト オモツタシダヨネ。 テツジンノ ホント スーパージェッ ター ホン ウツテカラ; (自-b 男6: 0-15)</p>
		<p>○モウ ワスレチャッタナ。キノウ ャッ タ (ケド); (赤-m 男4:10-7)</p> <p>○ヒトリ ネラ (エ) ンノ。イツッダカラ; (自-s 男4:10-18)</p> <p>●ドンナ コトカ ワカンナイ。テレビガ [を] キカナイト; (小-成男4:3-17)</p> <p>○ウンドウカイ テナカッタヨ。オヤスミ シテ; (赤-a 男5:11-4)</p> <p>○カメサンガ カッタノ。ウサギサン ネムクナッテ ネタカラ; (自-p 男5: 6-13)</p>
		<p>○ジャイアントロボッテ シー (ひ) ニハ ヨワイ。テチュダカラ; (神-古男4:5 -13)</p> <p>○テレビ ミナイ。ツマシナイカラ; (神 -宮男3:8-7)</p> <p>○～トコロニ ヤツチャ ダメナノ。ツバ ンジャウカラ; (神-折女4:3-14)</p>

1.6 理由の補  
充

<p>1.7 連体修飾語の補充</p> <p>○オニイチャンニ カンサツガ アルカラ。ホンノ; [はつきりしない] (赤-m男5:10-11)</p> <p>●レコードガ アルシサ。ハビーノ; (赤-i男6:2-11)</p>	<p>○ウンテンシュニ ナリタイヨ。デンシャ</p> <p>ノ。ヨウチエンノ; (赤-a男4:11-6)</p> <p>○オソト デタ。ノブオチャンノ ソバノ; (赤-a男4:11-3)</p> <p>○ウチノ オニイチャン。チユ (ツ) キノ; (神-寺男4:4-4)</p>	<p>○マリノ ウチハネ スグネ トナリナ</p> <p>ノ。ヨウチエンノ; (神-渡女3:10-7)</p> <p>○ソイカラ アカチャンモ インノ。オトコノ コノ; (小-加男4:1-1)</p> <p>○ウチノ オニイチャン。チユ (ツ) キノ; (神-寺男4:4-4)</p>	
<p>1.8 接続詞の補充</p>	<p>○～ユツラムコウ イッテネ ハヤト</p> <p>ガネ ダレカニ ハナヲ モラッチャッ</p> <p>タノ。ソシタラ; (赤-m男5:10-16)</p>	<p>●ジドウシャニ ブツカッタノ。ソイデ</p> <p>(神-松女4:8-24)</p>	<p>○チヨウチヨガ トンデ キチャッテネ</p> <p>ミンナ コワシチャッタノ。ソシテ; (小-長男3:5-12)</p>
<p>1.9 独立語の補充</p>	<p>○～カメサンガ ハヤクッテネ ウサギサ</p> <p>ンガ オソイノ。ココガ; (自-n男6:5-18)</p>	<p>○～シマウマガ アシテネ ウシロアシテ</p> <p>ケッテネ コロンシャッタノ。コレ;</p>	<p>○ソレデ (オワッ) タジョ。(ホラ); (小-金男4:1-5)</p>
<p>1.10 題目語の補充</p>	<p>○～カメサンガ ハヤクッテネ ウサギサ</p> <p>ンガ オソイノ。ココガ; (自-n男6:5-18)</p>	<p>○～シマウマガ アシテネ ウシロアシテ</p> <p>ケッテネ コロンシャッタノ。コレ;</p>	<p>○ソレデ (オワッ) タジョ。(ホラ); (小-金男4:1-5)</p>
<p>1.11 成分の一部の追加</p>	<p>○～ジャナイ ケンチヤン。カシマ; (自-a男5:8-12)</p> <p>●オカサンハネ センタクト ホン</p> <p>ヨンダリ シテル。クツアラッタリ; (赤-p男5:11-4)</p> <p>●オバアチャン マダネ シンデナイケ</p> <p>ド。ト イナカノ オジイチヤンハ; (自-p女6:1-12)</p>	<p>○カメモ スキナンダヨ。オサカナモ; (赤-q男4:1-3)</p> <p>●サンダーべードガ モラエルンダッテ。</p> <p>カッテ; (赤-d男4:2-10)</p>	<p>○カメモ スキナンダヨ。オサカナモ; (赤-q男4:1-3)</p> <p>●サンダーべードガ モラエルンダッテ。</p> <p>カッテ; (赤-d男4:2-10)</p>
<p>1.12</p>	<p>これら</p>	<p>成分の重</p>	<p>なっている</p>
<p>補充</p>	<p>○ミル トキダッテ アルヨ。ヨル</p> <p>ニュースバッカリダカラ; (自-p男5:6-10)</p> <p>●ウサギ ネムッテル トキ カメガ</p> <p>イッチャッタ。チカラモチダカラ。カメ</p>	<p>○フタツ シカ ナイ。タツタノ, ポクシ</p> <p>チハナ; (自-c男4:7-7)</p> <p>○アソンデンノ。ヒトリデ, オモチャデ;</p>	<p>○ヨル ヤッテンノ。マダ カイシャガ</p> <p>(は); (意味はつきりしない) (小-福男4:2-2)</p> <p>●ヤツ [(ツ)(ケ)ルノ。カイジュウヲ</p> <p>バンテ; (赤-r男3:8-6)</p>

1.13 文中に挿入しての成分補充	(赤-1 男6:3-16) チャンハ; (赤-1 男6:3-16)	ヒトリデ, キノウ; (小-山中女5:0-20)	シテ クレナカツタカナ。オハナシハ ナンニモ; (赤-d 男4:2-113)
		○ソソデ タカラモノヲ モラッテ、オ ニタチニ、ソンデヘ (自-e 女6:5-21) ○オカアチャンダケ イッタノ。オトウ チヤン イッテカラネ、フジサン、ソシ テカラネ (自-e 女5:7-7)	○～オソルニ オカシ ャッテ ソレデ ツキノワグマニモ ャッテ、オセンベ エヌ、ソレカラ コンダハ～。 (赤-f 女 4:10-8)
2.1-1 内容の追加補充	(自-p 男5:6-9) ○ソノ ハナシハネ オボエルヨ。アタ シナシデモ; (自-g 女5:11-14) [1.12 とも]	○～ドッチャガ ハヤイカ ャッタラ、コノ ヤママデネ、カメガ ノロイカラネ ノノロ イッテ～。 (赤-n 男5:2-10)	○オトコダケドネ ハナガネ ウエニ シノ。 [火のこと]ビジンナノ; (自-d 女 4:11-3)
		○プラモモデルモ チュクッテ クレル。コ ンナ オッキイノ; (自-b 男6:0-5) ○オハナシナンカ シテ クレナカッタ。 ホンキリ; (自-p 男5:6-9)	○ママダケ ツレテッテ クレナイノ。 ツカイッキリ; (自-p 男4:7-7) ○カラダガネ マールクッテネ テツジン ガネ ショウタロウガネ イウトネ ンノ。キカイ アルト; (自-o 男4:9-7)
2.1-2 文中に挿入しての内容の追加補充	(赤-f 女5:9-9) ○スボーツカーネ カッテ モラッテネ、 オモチヤノダ, ト レーシングカー ～ (自-a 男5:8-7)	○オバキュウニハネ オウチニ ショウ チャント イウノガイテネー, オトコ ノコデ, ソイカラ～ (赤-f 女5:9-9)	○オバキュウニハネ オウチニ ショウ チャント イウノガイテネー, オトコ ノコデ, ソイカラ～ (赤-f 女5:9-9)
		○スボーツカーネ カッテ モラッテネ、 オモチヤノダ, ト レーシングカー ～ (自-a 男5:8-7)	○スボーツカーネ カッテ モラッテネ、 オモチヤノダ, ト レーシングカー ～ (自-a 男5:8-7)

## 2 内容の追加や成分の訂正補充

### 2.1 文や文中に内容を追加補充

2.2 前に話した成分の訂正補充

2.2-1 主語の訂正補充	○～オカアサン マモルノ オカアサント パパガ イルシ。マモルノ パパパ；(自-a 男5:8-10)	○エガ デタ。カミ；(赤-i 女5:3-4)	○コレ ヒカレチャッタ。ネズミガ；(小-原女3:7-12)	○割正のみでなくわしく説明もある。
		○アタラシイ ノリモノガ テキタノ。タコ；(赤-f 女4:10-8)	○～ナニ カイジュウダッテ デテ クルヨ。ウルトラマンダッテ ヴルトラシエブンダッテ；(神-高男4:4-17)	
2.2-2 補語の訂正補充	○～カクレテネ ワナヲ ツクッテ オクノ。カゴノ ワナヲ；(赤-p 男5:11-3)	○シトガ ノッカッテタ。オッキイ シト；	○コレ ヒカレチャッタ。ネズミガ；(小-原女3:7-12)	
		○ソンダカラネ オンマ イタネ。アカチャン ワマモ；(小-端男4:2-6)	○～ナニ カイジュウダッテ デテ クルヨ。ウルトラマンダッテ ヴルトラシエブンダッテ；(神-高男4:4-17)	
2.2-3 場所(補語3)の訂正補充	○～ウント ウエマテ イッタノ。ヤマノ チョウジヨウ；(自-o 男6:3-12)	○カイシャ、イカナイデネ キカイヲ ヤッテンノ。オッキイ キカイ；(自-s 男4:10-14)	○ニヨウビハネ ヒル オトモダチト アソブノ。ヒロチャント；(小-矢女4:0-4)	
		○ココニネ ボク イルノ。ヒヤクナナ；(赤-w 男6:3-27)	○マンガトカ ソウイウノガ ダイスキティ。ウタトカ；(赤-p 女5:2-6)	○アメ フッタ トキネ ナンカ キティッタノ。カッハキテ；(神-三男4:0-5)
2.2-4 連用修飾語の訂正補充	○モウ ココマデシカ ハインナノ。ハシブンシカ；(赤-D 男5:11-5)	○～ロマンスカー ノッテ キュウコウ レッシャ ノッテ ズット ヨコハマ イッチャッタノ。イナカニ；(自-s 男4:10-10)	○ミチ アルイチャッタノ。コッチノ ミチ；(自-d 男3:10-13)	
		○スコシ ヴツル。ヤット；(赤-v 男6:5-8)	○タイフウ キタ トキネ トナリノネ シタノネ トコデ ネチャッタノ。マエノ ヘヤ；(自-c 男4:7-11)	○オトウチャンハ カイシャヘ イッテ オシゴト シテント。アーブーテ イッテ；(小-加男4:1-2)

●ゾウサンネ ハナデ コウ ャッテネ  
タベテンノ。オクチニ イレテ; (赤-b  
男4:0-8)

2.2-5 時の訂  
正補充

○ハババガネ オンセンへ イッテネ テ  
オソク カエッテ キタノ。ヨル; (赤  
-x 女6:2-6)

●～イツモ イツモ ヨルニ ナルト アノ  
オクスリ ヌルノ。ヨルト アサ; (自  
-p 女6:1-5)

2.2-6 理由の  
訂正補充

○ソシテモ ブールガ ナイノ。イクラ  
サガシテモ; (自-b 男6:0-25)

●ミズ マコウト シタラ カレチャッタ  
ノ。ミズ マイタラ; (自-x 男6:1-14)

○オカシーカラ。ビッコヲ ヒイテルカラ;  
(自-t 男6:2-25)

2.2-7 連体修  
飾語の訂正  
補充

●ツナヒキハ ムコウノ イチクミノ ホ  
ウガ カッタノ。アカグミノ; (赤-i 男  
6:2-4)

2.3 文末部分  
の訂正補充

○～チッチャイ オトコノ コガネ ミズ  
ヲ ヤッタノ。ヤッタノ; (赤-o 女6:  
1-29)

○～ナカマノ トコニ キタカラ アト  
イッタソタノカ。ソウダナ イッチャ  
ッタソタ; (赤-m 男5:10-21)

○カメハ「ココロ ココマテ アノネ コ  
ラレナイデショ」ソテ ユツタンダッテ。  
オモッタノ; (自-d 女5:11-27)

○～オトナノ コノクライナンダヨ。クビ

○～ニケテテネ カメガ ウエニ ノツ  
カッテ ナンカ ャッテンノ。タッテン  
ノ; (赤-s 男5:6-15)

○マッスグニ タッタンダヨ。タッタノ;  
(自-j 女4:7-22)

●トビダスト ケガスルノ。シンジャウノ;  
(赤-v 女4:0-8)

○カケアチシテンノ一。カナ; (神-永 男4:  
1-15)

ノ トコマテ ナンダヨ; (自-k 男5:8  
-18)

2.4 成分および内容など  
二重の追加  
補充

- オトウサンダッテ キヨウ ユッタヨ。 ダメッテ, マンガ ミンノッテ; (自-p 男5:6-3)
- ～サルニ アッタンダッケ。イヌダ, イヌニ アッタノ; (自-u 女6:5-19)
- ソレデ フンスイノ ナカハ スゴーイ ノ。キカイデ, パイアブガ イーッパイ トオッテ; (赤-f 女4:10-8)
- ソレデネ バビーノ ナカマハネ ～ス トロングガ イルノ。オッキイノ, カラダガ オッキイノ; (赤-f 女4:10-7)

3 くりかえしての追加

○～ウサギガネ ネチャッタラネ サキニ カメガ イッテネ, イットウ ナッチャ ッタノ。カメガ; (自-1 男6:0-19)

○ライオング イタノネ。ライオンガ; (赤-n 男6:2-11)

○チャシバラゴッコ オジイチャント バッカリ マイニチ シテンノ。チャン バラゴッコ; (自-t 男5:3-9)

○オミズ ヤッタラ マタ ノビチャッタ ノ。マタネ; (赤-t 男5:1-14)

○ジドウシャガ [に] ネ シカレテンノ。コレ, ネズミモ; (小-矢女40-13)

○ムカチ コウ ャッテサ コウ ャッテルノデサ ャッテンジャナイ。ボールデ, ソレデ; (神-秋男3:11-11)

4 意味不明のもの

○ミズ カケタカラ。イシ イジッテ; (赤-m 男4:10-10)

○ジユウ ナッタラ モウ コッチ マケ チャウノ。ソノ カッタ ホウ; (自-u 女6:5-5)

○ガッコウガ アルヨ。ボクンチ; (小-佐男4:3-15)

○ソコノネ ハイッテル トコハネ コウ ピニールデ コウ カゴガ ハイッテン ノ。ソン ナカ; (神-三男4:0-20)

昭和 48 年 3 月

国 立 国 語 研 究 所

東京都北区西が丘 3 丁目 9 番 14 号  
電 話 東京 (900) 3111 (代表)

U D C 809.56-56-053.4

N D C 815.9

本 書 の 市 販 品 発 行 所  
(〒162) 東京都新宿区納戸町 40 (03) 260-5281  
株式会社 秀英出版

## 国立国語研究所刊行書一覧

### 国立国語研究所報告

1	八丈島の言語調査	秀英出版刊	品切れ
2	言語生活の実態 —白河市および付近の農村における—	〃	〃
3	現代語の助詞・助動詞 —用法と実例—	〃	700円
4	婦人雑誌の用語 —現代語の語彙調査—	〃	500円
5	地域社会の言語生活 —鶴岡における実態調査—	〃	600円
6	少年と新聞 —小学生・中学生の新聞への接近と理解—	〃	180円
7	入門期の言語能力	〃	200円
8	談話語の実態	〃	品切れ
9	読みの実験的研究 —音読にあらわれた読みあやまりの分析—	〃	〃
10	低学年の読み書き能力	〃	〃
11	敬語と敬語意識	〃	〃
12	総合雑誌の用語(前編) —現代語の語彙調査—	〃	〃
13	総合雑誌の用語(後編) —現代語の語彙調査—	〃	〃
14	中学生の読み書き能力	〃	400円
15	明治初期の新聞の用語	〃	品切れ
16	日本方言の記述的研究	明治書院刊	〃
17	高学年の読み書き能力	秀英出版刊	〃
18	話しことばの文型(1) —対談資料による研究—	〃	800円
19	総合雑誌の用字	〃	品切れ
20	同音語の研究	〃	550円
21	現代雑誌九十種の用語用字(1) —総記および語彙表—	〃	1,000円
22	現代雑誌九十種の用語用字(2) —漢字表—	〃	1,000円
23	話しことばの文型(2) —独語資料による研究—	〃	品切れ
24	横組の字形に関する研究	〃	350円
25	現代雑誌九十種の用語用字(3) —一分析—	〃	1,000円
26	小学生的言語能力の発達	明治図書刊	2,100円
27	共通語化の過程 —北海道における親子三代のことば—	秀英出版刊	品切れ
28	類義語の研究	〃	750円
29	戦後の国民各層の文字生活	〃	400円
30-1	日本言語地図(1)	大蔵省印刷局刊	品切れ
30-2	日本言語地図(2)	〃	〃
30-3	日本言語地図(3)	〃	〃
30-4	日本言語地図(4)	〃	8,000円

30-5	日本 言 語 地 図	(5)	大蔵省印刷局刊	9,000円
31	電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究	秀英出版刊	450円	
32	社会構造と言語の関係についての基礎的研究(1) —親族語彙と社会構造—	"	250円	
33	家庭における子どものコミュニケーション意識	"	350円	
34	電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究(II) —新聞の用語用字調査の処理組織—	"	450円	
35	社会構造と言語の関係についての基礎的研究(2) —マキ・マケと親旅呼称—	"	450円	
36	中 学 生 の 漢 字 習 得 に 関 す る 研 究	"	5,000円	
37	電 子 計 算 機 に よ る 新 聞 の 語 彙 調 査	"	1,300円	
38	電 子 計 算 機 に よ る 新 聞 の 語 彙 調 査(II)	"	2,800円	
39	電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究(III)	"	700円	
40	送 り が な 意 識 の 調 査	"	1,500円	
41	待 遇 表 現 の 実 態 —松江24時間調査資料から—	"	900円	
42	電 子 計 算 機 に よ る 新 聞 の 語 彙 調 査(III)	"	1,200円	
43	動 詞 の 意 味 ・ 用 法 の 記 述 的 研 究	"	5,000円	
44	形 容 詞 の 意 呆 ・ 用 法 の 記 述 的 研 究	"	3,000円	
45	幼 児 の 読 み 書 き 能 力	東京書籍刊	4,500円	
46	電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究(IV)	秀英出版刊	700円	
47	社会構造と言語の関係についての基礎的研究(3)	"	600円	
48	電 子 計 算 機 に よ る 新 聞 の 語 彙 調 査(IV)	"	3,000円	
49	電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究(V)	"	700円	
50	幼 児 の 文 構 造 の 発 達 —3~6才児の場合—	"	1,000円	

#### 国立国語研究所資料集

1	国 語 関 係 刊 行 書 目 (昭和17~24年)	秀英出版刊	45円
2	語 彙 調 査	"	品切れ
	—現代新聞用語の一例—		
3	送 り 仮 名 法 資 料 集	"	"
4	明 治 以 降 国 語 学 関 係 刊 行 書 目	秀英出版刊	300円
5	沖 繩 語 辞 典	大蔵省印刷局刊	品切れ
6	分 類 語 彙 表	秀英出版刊	1,400円
7	動 詞 ・ 形 容 詞 問 題 語 用 例 集	"	1,700円
8	現 代 新 聞 の 漢 字 調 査 (中間報告)	"	500円

#### 国立国語研究所論集

1	こ と ば の 研 究	秀英出版刊	品切れ
2	こ と ば の 研 究 第 2 集	"	750円
3	こ と ば の 研 究 第 3 集	"	800円

#### 国立国語研究所年報 秀英出版刊

1	昭 和 24 年 度	品切れ	5	昭 和 28 年 度	240円
2	昭 和 25 年 度	"	6	昭 和 29 年 度	200円
3	昭 和 26 年 度	160円	7	昭 和 30 年 度	品切れ
4	昭 和 27 年 度	品切れ	8	昭 和 31 年 度	220円

9	昭和 32 年度	200円	17	昭和 40 年度	250円
10	昭和 33 年度	品切れ	18	昭和 41 年度	300円
11	昭和 34 年度	品切れ	19	昭和 42 年度	300円
12	昭和 35 年度	350円	20	昭和 43 年度	350円
13	昭和 36 年度	160円	21	昭和 44 年度	400円
14	昭和 37 年度	220円	22	昭和 45 年度	400円
15	昭和 38 年度	250円	23	昭和 46 年度	450円
16	昭和 39 年度	品切れ			

国語年鑑 秀英出版刊

昭和 29 年版	品切れ	昭和 39 年版	980円
昭和 30 年版	"	昭和 40 年版	1,100円
昭和 31 年版	"	昭和 41 年版	1,100円
昭和 32 年版	"	昭和 42 年版	1,100円
昭和 33 年版	"	昭和 43 年版	品切れ
昭和 34 年版	"	昭和 44 年版	1,500円
昭和 35 年版	550円	昭和 45 年版	1,500円
昭和 36 年版	800円	昭和 46 年版	2,000円
昭和 37 年版	品切れ	昭和 47 年版	2,200円
昭和 38 年版	品切れ		

高校生と新聞	国立国語研究所 日本新聞協会	共編	秀英出版刊	280円
青年とマス・コミュニケーション	日本新聞協会 国立国語研究所	共著	金沢書店刊	品切れ

# THE DEVELOPMENT OF SYNTACTIC STRUCTURES IN CHILDREN'S SPEECH FROM 3 TO 6

## CONTENTS

### Preface

### Part One

1. Outline of Research
2. On The Nature of Children's Speech

### Part Two

1. Methods of Analysis of Sentence Structure
2. Structures and Uses of Children's Simple Sentences
3. Structures and Uses of Children's Complex Sentences
4. Structures and Uses of Adjectives and Adjectival Phrases and Clauses
5. Structures and Uses of Sentence-ending-forms
6. Uses of Conjunctions

### Appendix

1. Length of Children's Utterances
2. Structural Analysis of Additional Sentences

THE NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE

3-9-14 NISIGAOKA, KITA-KU, TOKYO

1973